

**令和元年度
小金井市みどりの実態調査
報 告 書**

**令和 2 年 3 月
小 金 井 市**

目次

序章 調査概要	i
1. 調査目的	i
2. 調査対象範囲	i
3. 調査期間	i
4. 調査項目・調査概要	ii
5. 用語の定義について	ii
第1章 基礎調査	1
1. 市の概況整理	1
（1）小金井市の位置・地勢	1
（2）自然条件	1
1）地形・水系	1
2）特徴的な景観・みどり	2
（3）社会条件	5
1）人口	5
2）土地利用	9
3）用途地域	10
4）不動産状況	11
5）防災	13
（4）人文条件	15
1）開発発展の歴史	15
2）玉川上水ほか文化財	16
3）近年の開発状況	17
（5）交通条件	18
1）道路	18
2）鉄道・バス	19
2. 緑被現況調査	21
（1）調査方法	21
（2）調査結果	25
1）本市全域の集計結果	25
2）地区別の集計結果	26
3）緑被地の経年変化の把握	34
4）地域別の緑被地の経年変化	39
5）みどり率の算出と近隣市との比較	40
3. 緑地現況調査	41
（1）調査方法	41
（2）調査結果	45
1）集計結果	45
2）緑地の経年変化の把握	49
3）近隣市との比較	52
4. 緑化状況調査	53

(1) 調査方法	53
(2) 調査結果	54
1) 公共用地における緑化の状況	54
2) 公共用地以外の用地における緑化の状況	54
3) 生け垣助成申請実績	56
5. 緑視現況調査	59
(1) 調査方法	59
(2) 調査地点	59
(3) 解析方法	62
(4) 調査結果	63
6. 保存樹木調査	67
(1) 調査方法	67
(2) 調査結果	67
1) 保存樹木	67
2) 保存生け垣	69
7. 生産緑地調査	71
(1) 調査方法	71
(2) 調査結果	71
1) 本市域全域の集計結果	71
2) 生産緑地地区の経年変化	71
8. 公園等整備状況調査	75
(1) 調査方法	75
(2) 調査結果	76
1) 公園利用圏の充足率	76
2) 公園利用圏に含まれないエリアの状況	78
3) 公園利用圏に含まれないエリアの評価	78
第2章 市民意識調査	83
1. 既往調査の整理	83
(1) 意見整理の対象	83
(2) 意見整理の結果	84
(3) 既往調査結果から把握されるみどり等に関わる市民意識	92
2. 市民アンケート調査の実施	93
(1) 実施要領	93
1) 調査の目的	93
2) 実施方法	93
3) 回収状況	93
(2) 調査結果の概要および考察	93
1) 回答者属性	93
2) 市民意見の傾向	94
(3) 集計結果	98
(4) 調査票	155

序章 調査概要

1. 調査目的

このみどりの実態調査（以下「本調査」とします）は、本市の緑地の整備と保全、緑化推進を図る目的で平成22年度に作成した「小金井市緑の基本計画」（以下「現行計画」とします）を改定するための基礎資料を作成するために実施するものです。

最新の衛星写真を使用した緑被の抽出や既存資料の整理による公園・みどり等の整備状況や農地の現状を把握するほか、市民の皆様へのアンケート調査を実施することにより、本市のみどりに関するご意見や普段感じていること等について把握し、現行計画の改定に当たり考慮すべき現状や目標、方針及び施策の検討資料とすることを目的とします。

2. 調査対象範囲

調査対象範囲は、小金井市全域とします。

現行計画では町丁目単位及び町丁目を一定のまとまりでくくった「地域」という単位で様々な調査及び分析を行っています。本調査においても引き続き、調査及び分析の単位として町丁目及び「地域」の単位を使用します。

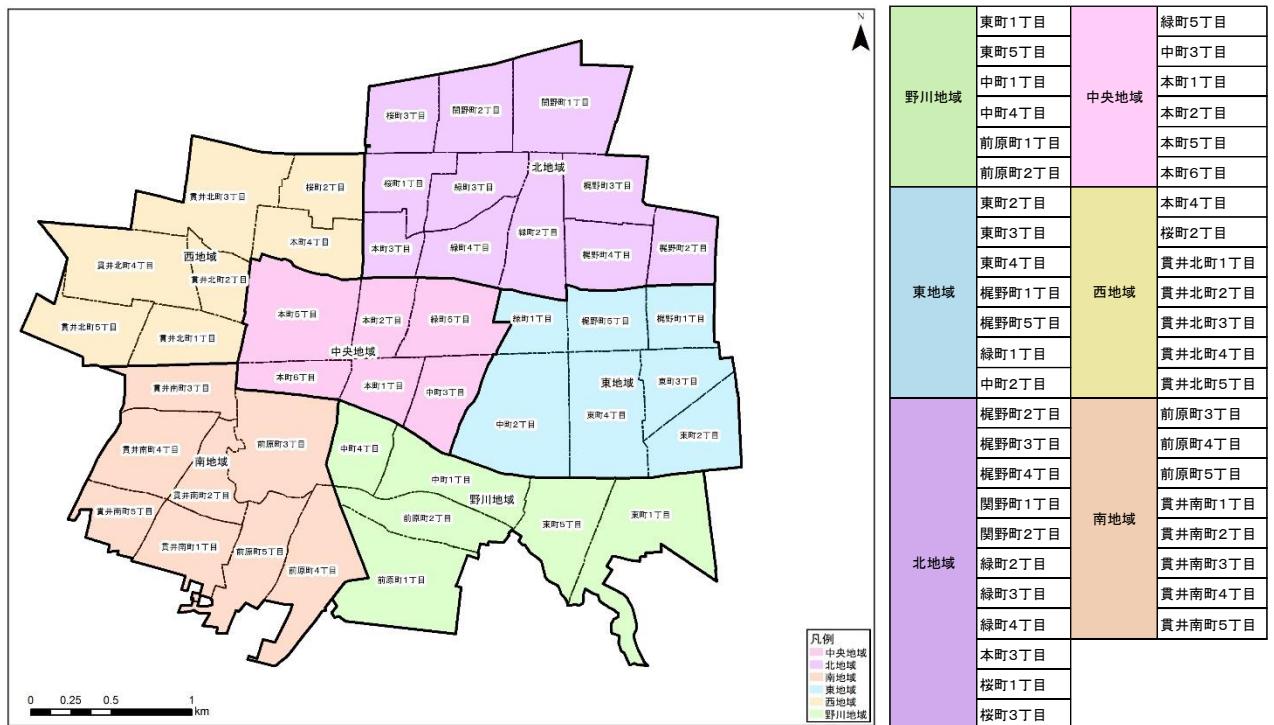


図1 地域区分図

3. 調査期間

令和元年7月19日～令和2年3月末日

4. 調査項目・調査概要

調査の項目及び概要は以下に示すとおりです。

① 基礎調査

- ・市の概況整理：人口動態及び土地利用等の基礎的情報について調査・整理
- ・緑被現況調査：緑被面積及び緑被率について調査・整理
- ・緑地現況調査：都市公園及び生産緑地地区等の各種制度に基づく緑地について調査・整理
- ・緑化現況調査：公共施設及び民有地等における緑化の状況について調査・整理
- ・緑視現況調査：特定の地点の視野に対して緑が占める割合（緑視率）について調査・整理
- ・保存樹木調査：保存樹木及び保存樹木の地域別の指定状況について調査・整理
- ・生産緑地調査：生産緑地地区の面積の経年変化について調査・整理
- ・都市公園整備状況調査：都市公園の配置及び未整備箇所の現況について調査・整理

② 市民意識調査

- ・市民アンケート調査：市民の皆様のみどりに対する意識・意向の実態について調査・整理

5. 用語の定義

- ・緑被地：樹木・樹林地、草地、農地などで被われた土地のこと。今回の調査では、衛星写真からみどりで被われている土地を緑被地として抽出し、右表に示す5つに区分しました（図2）。

表1 緑被地の区分

緑被地の区分	
樹木・樹林地（竹林含む）	
農地	農地（樹木畑）
	農地（その他）
草地	草地（管理）
	草地（雑草地）

- ・緑被率：市域や地域等一定の範囲の中に緑被地が占める割合のこと。
- ・緑地：公園・緑地等の都市施設、制度上や社会通念上改変を受けにくい土地（風致地区、生産緑地地区、社寺境内地、大学等）（図3）のこと。
- ・公園等：小金井市が設置管理する都市公園法に基づく都市公園及び「小金井市宅地開発等の手引」に基づき民間事業者により設置される児童遊園、子供広場、その他の緑地のこと（都立公園は含まない）。
- ・公園・緑地等：「公園等」に東京都その他の主体が設置管理する都市計画法に定める都市施設としての公園・緑地を加えたものこと。
- ・公園・みどり等：「公園・緑地等」に制度上や社会通念上改変を受けにくいみどりを加えたものこと。

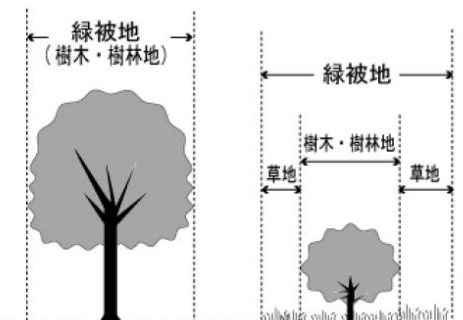


図2 緑被地の概念

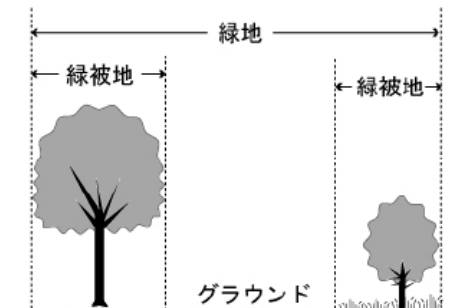


図3 緑地の概念図

2) 特徴的な景観・みどり

① 国分寺崖線・野川

本市のみどりは、国分寺崖線沿いに続く樹林地及び湧水に特徴づけられます。崖線南側には、斜面からの湧水が流入する野川が流れ、貴重な水辺の自然環境を形成しています。

国分寺崖線のみどりは、都市における特に良好な自然環境として都市緑地法（昭和48年法律第72号）に基づく特別緑地保全地区に指定されているほか、東京都における自然の保護と回復に関する条例（平成12年東京都条例第216号）に基づく国分寺崖線緑地保全地域及び小金井市緑地保全及び緑化推進条例（昭和58年条例第13号）に基づく環境保全緑地等の各種制度の適用により保全されています。これらはみどりの帯として、多摩地域の重要な景観であるとともに、動植物の生育、生息環境としても重要な役割を担っています。



図1-1.3 滄浪泉園（特別緑地保全地区）



図1-1.4 野川（櫻橋より）



図1-1.5 野川公園より国分寺崖線方向を望む

② 玉川上水・小金井桜

玉川上水は、承応2年（1653年）に江戸の飲料水とするため、多摩川の羽村取水堰から四谷大木戸までの約43kmを露天で開削した水路です。その後、元文2年（1737年）に、地域の活性化を期待して、小金井橋を中心に多くのヤマザクラが植えられたことが、小金井桜のはじまりです。

玉川上水は、江戸時代に整備された後、地域の発展に大きな役割を果たしましたが、昭和40年に淀橋浄水場（玉川上水より引水）が廃止されると、中下流部は上水路としての役割を終え、水路の荒廃が著しく進みました。昭和61年には都の清流復活事業によって水流が復活し、身近な水とみどりの空間として多くの人々に親しまれています。

小金井桜は、大正13年に「小金井（サクラ）」として国の名勝に指定され、江戸時代から今日まで280年以上に渡って地域の人々によって大切に植え継がれてきましたが、生育環境の悪化等による衰退も見られ、平成22年3月に市は「玉川上水・小金井桜整備活用計画」を策定し、小金井（サクラ）の復活を目指して各種整備・管理が行われています。



図1-1.6 明治時代の玉川上水（小金井橋を望む）

※出典）名勝小金井桜絵巻（平成10年、小金井市教育委員会）



図1-1.7 現在の玉川上水（小金井橋を望む）

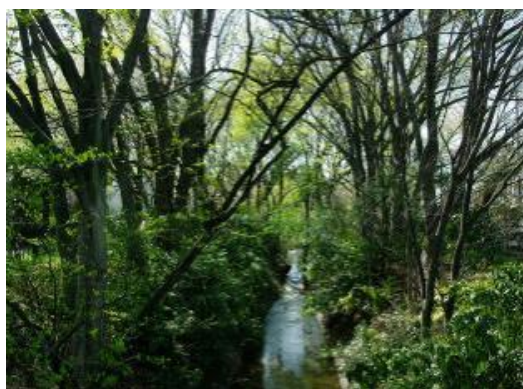


図1-1.8 整備前の玉川上水の様子



図1-1.9 整備後の玉川上水の様子

出典）名勝小金井（サクラ）復活プロジェクト：小金井市HP

(<https://www.city.koganei.lg.jp/kankobunka/bunkazai/sakuraayumi/meishoukoganeihukkat.html>)

③ 公園・緑地等

市内には、3つの大規模な都立公園（小金井公園、武蔵野公園、野川公園）があり、これらは小金井市民にとって憩いの場であるとともに、広く都民が訪れる貴重なみどりといえます。

小金井公園は、昭和30年代後半より桜まつり（かつて玉川上水で開催）の会場となるなど、花見の名所として多くの都民・市民に親しまれるほか、ドッグラン、バーベキュー場、弓道場、野球場、テニスコート及びソリゲレンデ等が整備され、多種多様な利用がなされています。

武蔵野公園及び野川公園は、隣接する野川の自然と相まって水辺の環境を提供しています。武蔵野公園には、野球場及びバーベキュー場等の施設、公園や街路に樹木を供給する苗圃も整備されています。また、園内の野川第1調整池、第2調整池等では、環境省や東京都により自然再生事業が行われています。野川公園は、大芝生や自然観察園等、豊かな自然環境を生かした空間が広がっています。



図1-1.10 都立小金井公園
（たてもの園前広場）



図1-1.11 都立武蔵野公園
（くじら山周辺はらっぱ）

本市の市域に占める都市公園面積の割合は7.0%であり、近隣市（府中市、調布市、武蔵野市、三鷹市、小平市、国分寺市）と比較しても高水準にあります。

市立公園の中には、下村湖人の小説「次郎物語」に出てくる友愛塾のモデルとして知られる浴恩館がある浴恩館公園、かつての都苗圃跡地に整備され貴重な樹木が残る梶野公園、グラウンドやテニスコートを複数面持つ上水公園、国分寺崖線から湧き出す泉の涵養池としても機能する三楽公園等、特徴的な成り立ちや機能を有する公園があります。



図1-1.12 浴恩館公園



図1-1.13 梶野公園

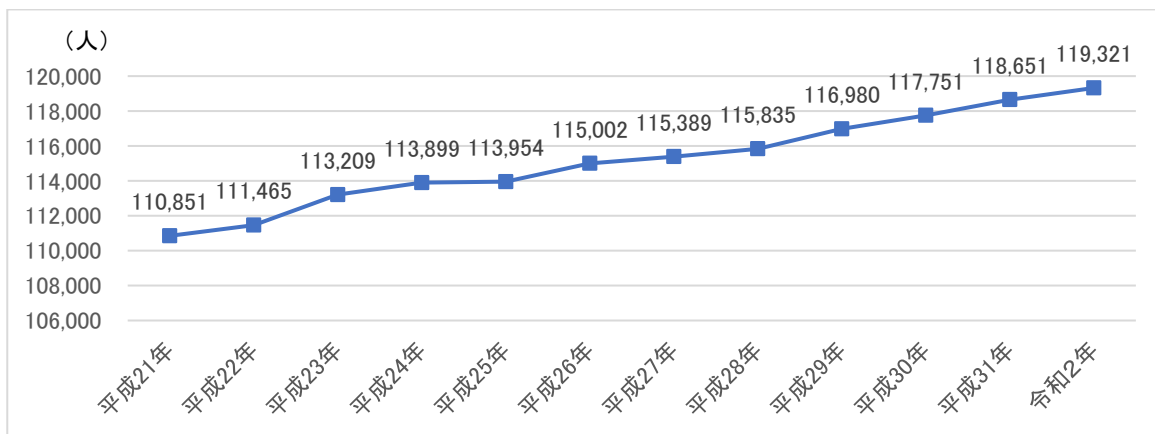
(3) 社会条件

1) 人口

① 経年変化

平成21年から令和2年の本市における人口推移を図1-1.14に示します。人口は、現行計画策定（平成23年）以後も増加傾向にあり、令和2年1月現在、119.3万人（外国人含まず）です。多摩26市における平成22年から平成27年の5年間の人口増加率と比較（表1-1.1）すると、本市の人口増加率は3位となっています。

町別の人口推移（図1-1.15）では、東町、緑町、梶野町及び貫井北町において近年の増加傾向が見られます。



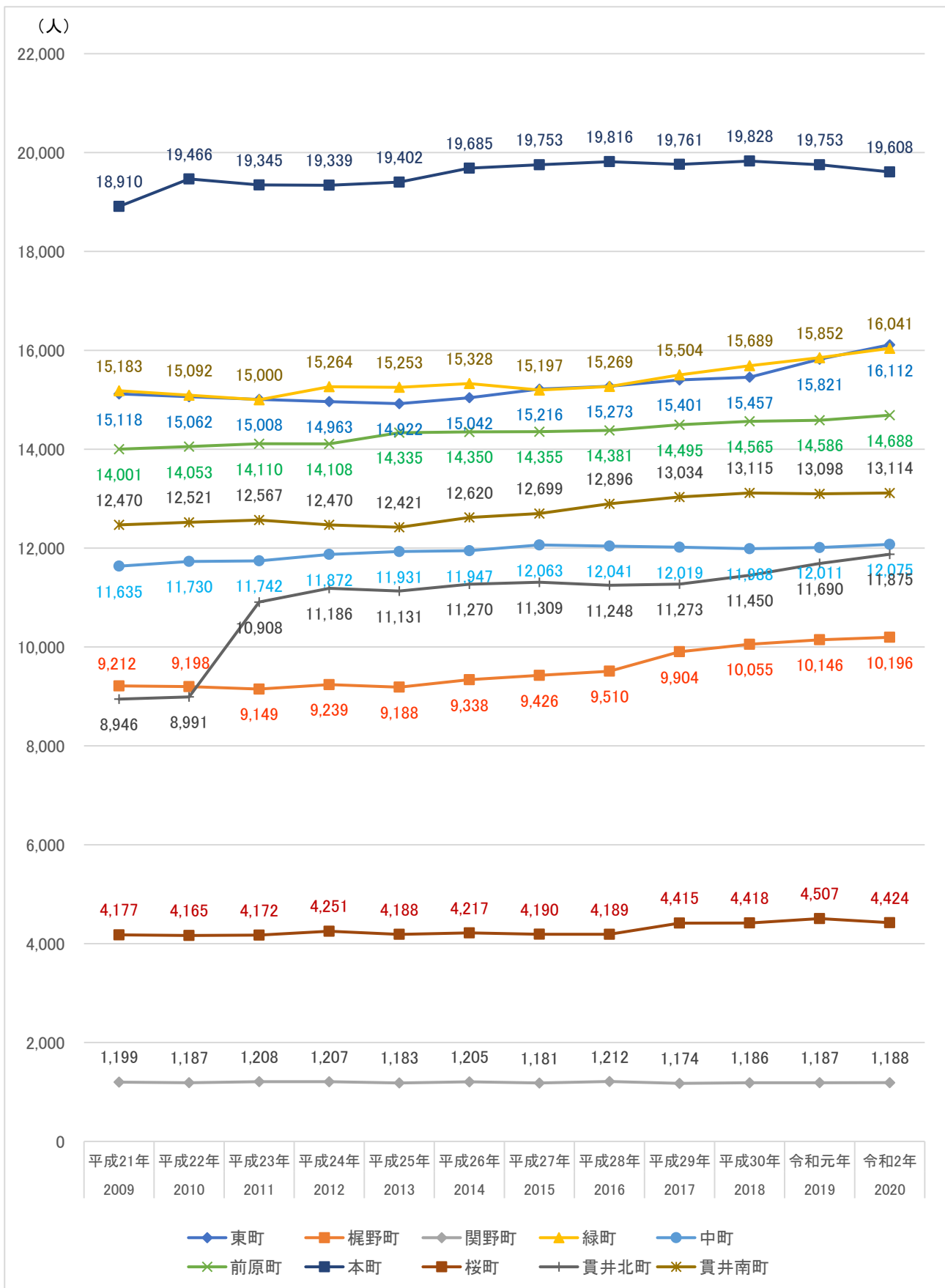
資料) 小金井市住民基本台帳 (各年1月1日) (外国人含まず)

図1-1.14 小金井市の人口推移 (平成21年～令和2年)

表1-1.1 多摩26市の人口増減率 (平成17～27年) (外国人含まず)

順位	市名	平成17年	平成22年		順位	市名	平成27年	
		実数(人)	実数(人)	対平成17年増減率(%)			実数(人)	対平成22年増減率(%)
1	稲城市	74,786	82,029	9.68	1	稲城市	85,479	4.21
2	武蔵村山市	66,226	70,075	5.81	2	武蔵野市	139,658	3.56
3	府中市	233,178	244,834	5.00	3	小金井市	115,389	3.52
4	調布市	208,170	216,739	4.12	4	東大和市	85,088	3.01
5	東村山市	144,381	150,026	3.91	5	日野市	178,414	2.44
6	三鷹市	170,327	176,986	3.91	6	狛江市	78,078	2.39
7	町田市	402,075	417,358	3.80	7	府中市	250,274	2.22
8	国分寺市	112,321	116,317	3.56	8	西東京市	195,028	1.88
9	西東京市	185,140	191,421	3.39	9	調布市	220,558	1.76
10	立川市	168,828	174,458	3.33	10	小平市	182,835	1.73
11	八王子市	534,978	551,901	3.16	11	武蔵村山市	70,933	1.22
12	東大和市	80,120	82,605	3.10	12	三鷹市	179,134	1.21
13	日野市	169,178	174,169	2.95	13	国分寺市	117,648	1.14
14	多摩市	141,940	145,682	2.64	14	町田市	421,746	1.05
15	昭島市	108,746	111,025	2.10	15	清瀬市	73,297	0.77
16	武蔵野市	132,179	134,862	2.03	16	立川市	175,792	0.76
17	小平市	176,486	179,717	1.83	17	国立市	73,244	0.40
18	小金井市	109,480	111,465	1.81	18	八王子市	553,097	0.22
19	あきる野市	79,996	81,143	1.43	19	東久留米市	114,794	-0.01
20	羽村市	55,213	55,934	1.31	20	あきる野市	81,047	-0.12
21	国立市	72,101	72,955	1.18	21	多摩市	145,439	-0.17
22	清瀬市	72,135	72,734	0.83	22	昭島市	110,535	-0.44
23	狛江市	75,644	76,255	0.81	23	東村山市	149,157	-0.58
24	東久留米市	114,539	114,807	0.23	24	羽村市	55,429	-0.90
25	青梅市	139,521	138,162	-0.97	25	青梅市	135,598	-1.86
26	福生市	59,473	58,122	-2.27	26	福生市	55,841	-3.92
市部合計		3,887,161	4,001,781	2.95	市部合計		4,043,532	1.04

出典: 住民基本台帳による東京都の世帯と人口 (各年1月1日現在)

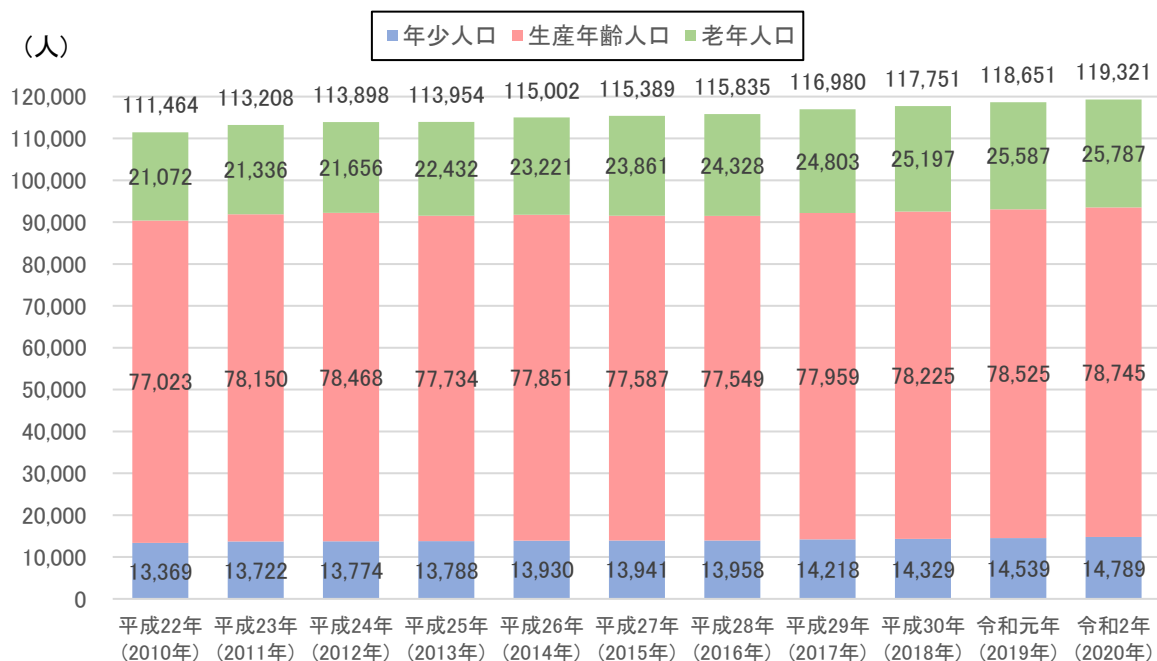


資料) 小金井市住民基本台帳 (各年1月1日) (外国人含まず)

図1-1.15 小金井市の町別人口推移 (平成21年~令和2年)

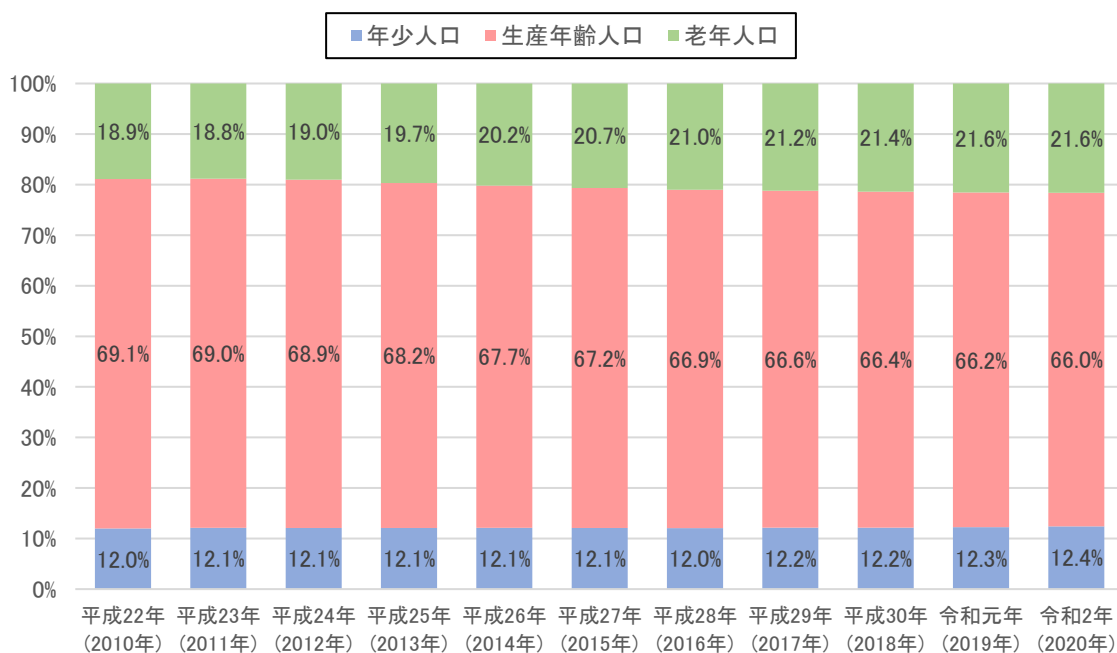
② 年齢構成

年齢3区別の人口推移を図1-1.16から図1-1.17に示します。人口全体は増加傾向が見られますが、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）はあまり伸びておらず、老年人口（65歳以上）が増えています。高齢化率は、平成7年には10%台でしたが、平成26年には20%を超えています。



資料) 小金井市住民基本台帳(各年1月1日) (外国人含まず)

図1-1.16 年齢3区別の人口推移 (平成22年～令和2年)

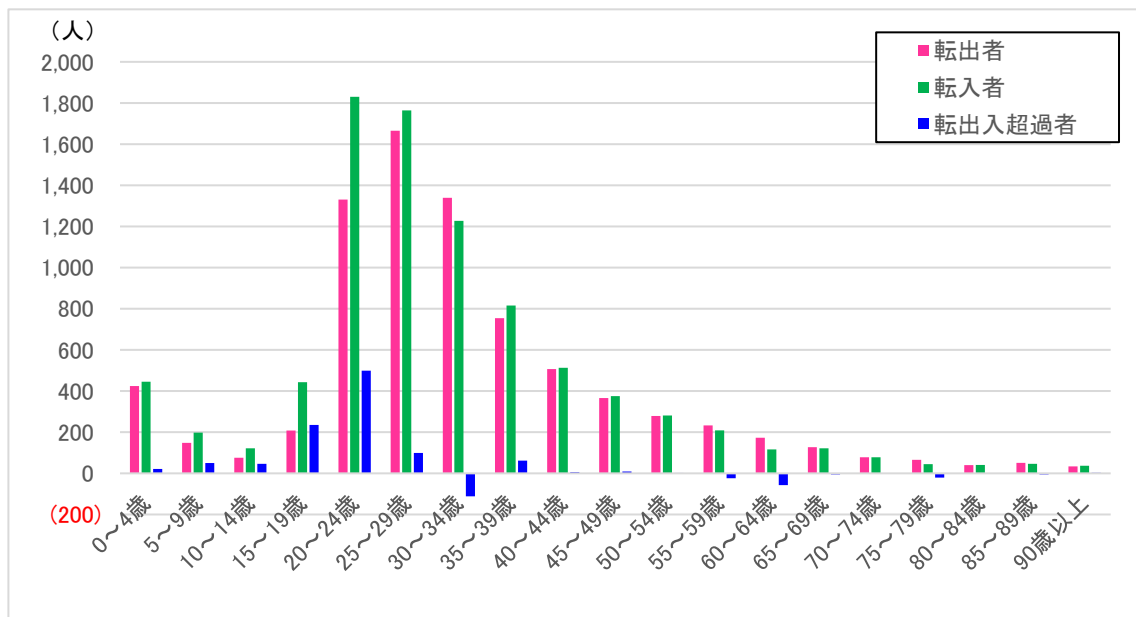


資料) 小金井市住民基本台帳(各年1月1日) (外国人含まず)

図1-1.17 年齢3区別の人口構成割合の推移 (平成22年～令和2年)

③ 転入・転出数

平成30年の転入・転出状況を見ると、0～4歳から25～29歳まで転入超過となっており、特に20～24歳の転入が多くなっています。30～34歳は転入が多い一方、転出も多く、転出超過となっています。

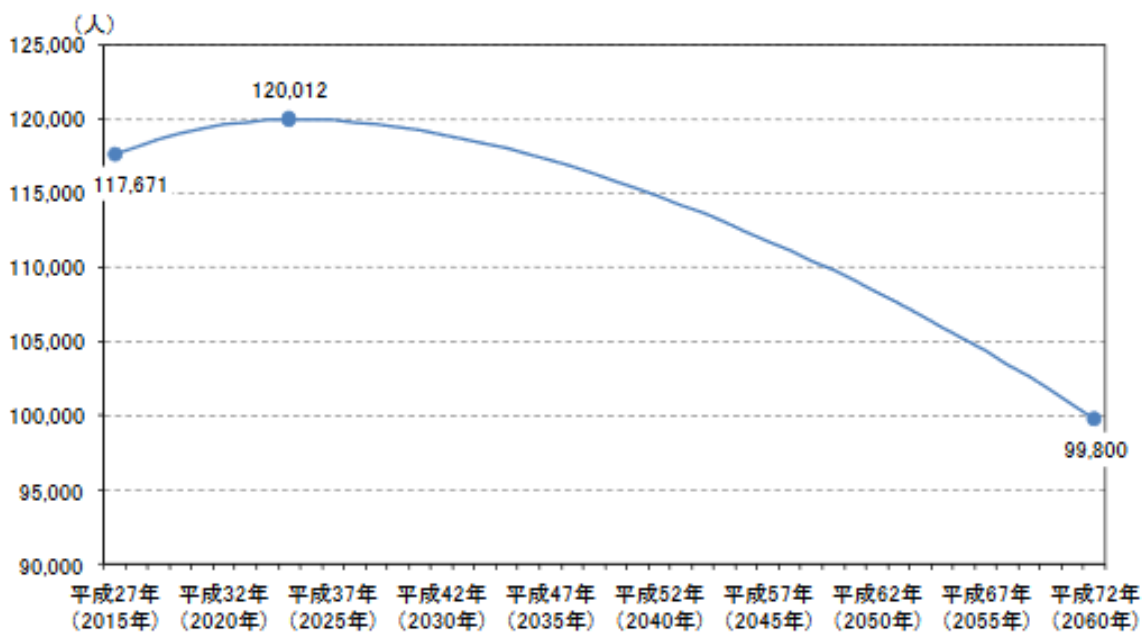


資料) 住民基本台帳人口移動報告 (2018 (平成30) 年, 総務省統計局)

図1-1.18 5階級別の転出者数・転入者数 (平成30年)

④ 人口推計

小金井市人口ビジョンによると、本市の人口は平成35年(2023年)の120,012人をピークに減少に転じるとされています。平成72年(2060年)の推計人口は99,800人となり、平成27年(2015年)に比べて約1.8万人減少する見込みです。

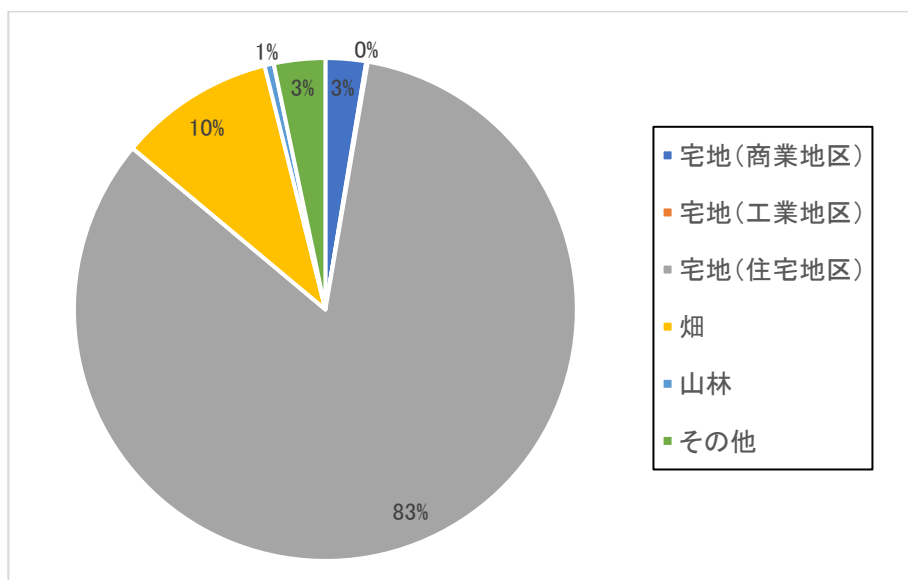


出典) 小金井市人口ビジョン (2016 (平成28) 年, 小金井市)

図1-1.19 住民基本台帳に基づく人口推計

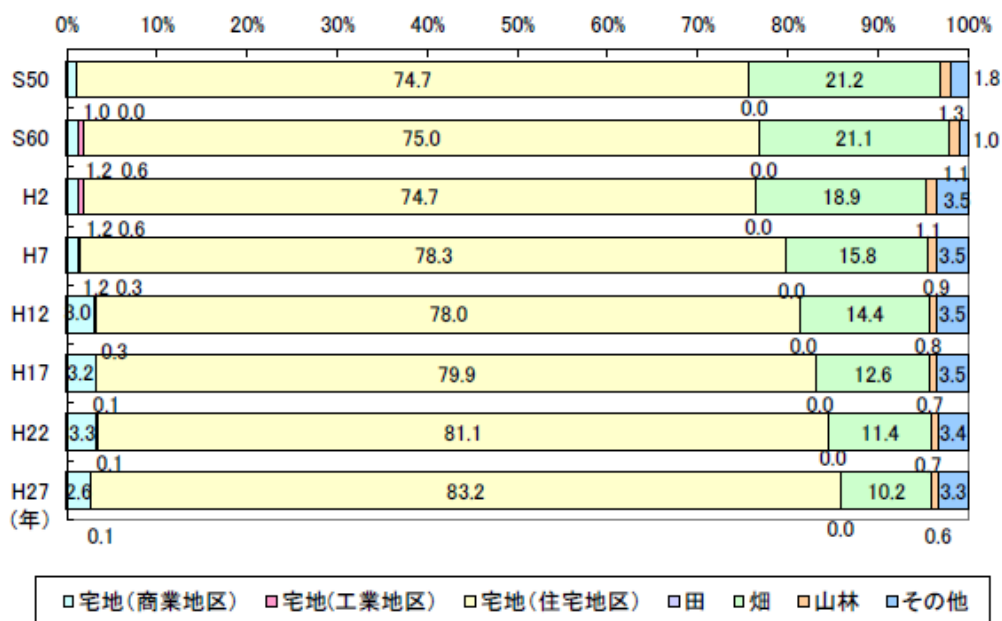
2) 土地利用

平成30年の本市における地目別の土地面積割合を図1-1.20に示します。市域の80%以上が宅地(住宅地区)であり、住宅都市としての性格が強い都市であることを示しています。また、市内の宅地は長期にわたって増加傾向にある一方で、昭和50年以降、畑の面積は減少が続いています。



資料) 多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2018(平成30)年版

図1-1.20 平成30年の地目別土地面積割合(小金井市)



注1)各年10月1日現在

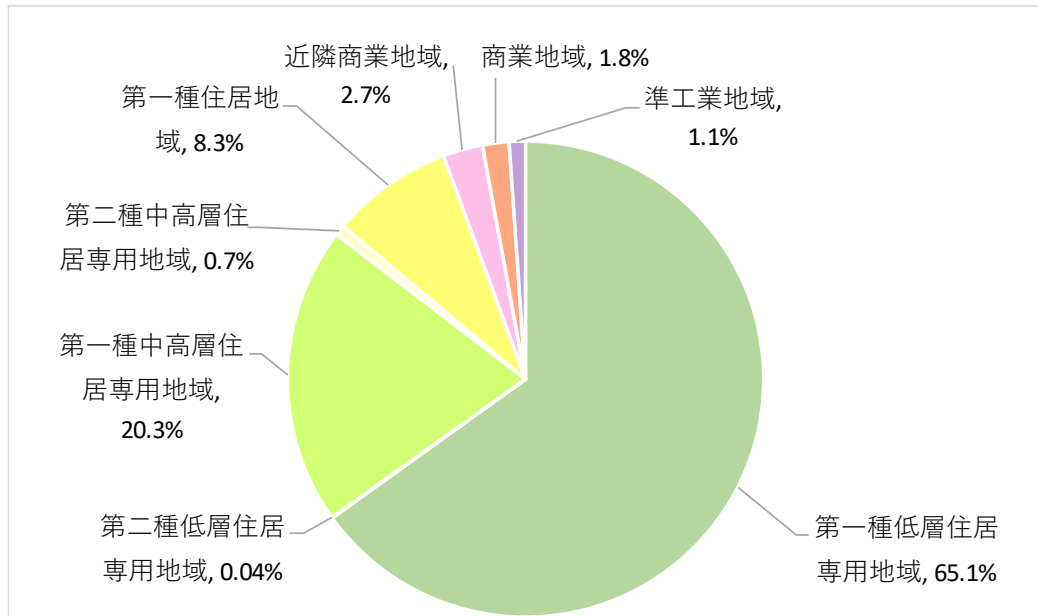
注2)昭和50年以降は、市内に「田」は地図としてなくなっている。

(資料:「東京都統計年鑑」)

図1-1.21 地目別土地面積の推移

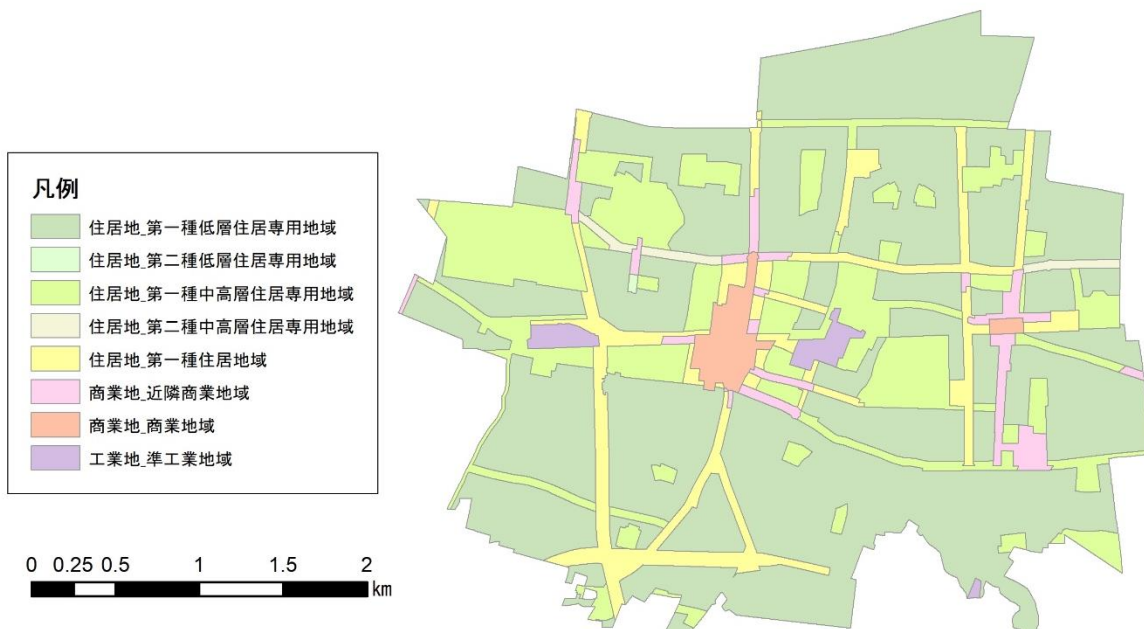
3) 用途地域

住居系の用途地域が全体の9割以上を占め、そのうち低層住居専用地域が最も多く約6割を占めています。



資料) こがねいデータブック2018

図1-1.22 用途地域の割合 (平成30年9月時点)



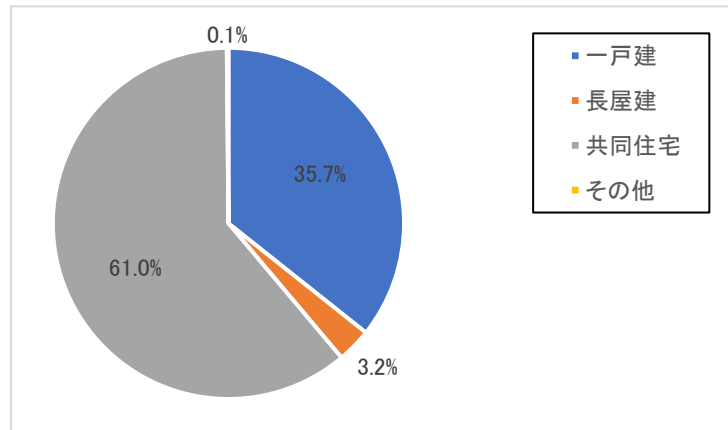
資料) 小金井市都市計画図 (平成28年) より作成

図1-1.22(2) 用途地域図

4) 不動産状況

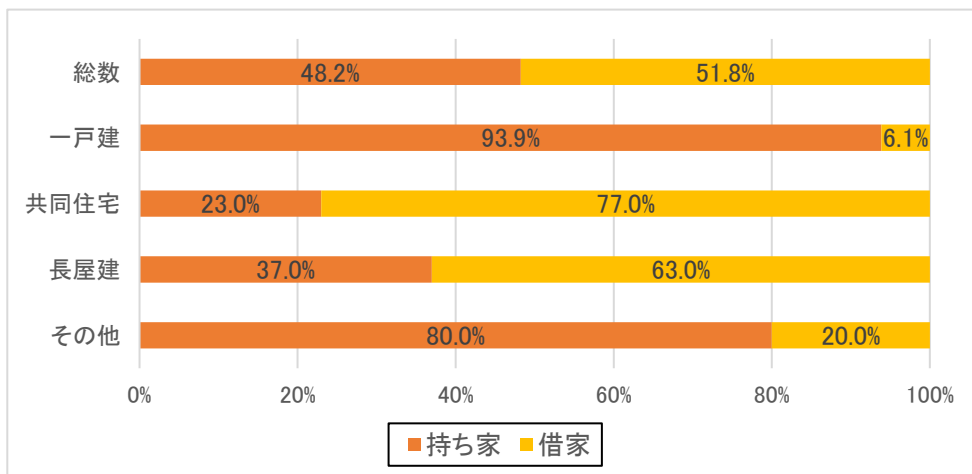
平成30年の住宅土地統計調査によると、本市における不動産の建物形態は、共同住宅が最も多く全体の6割以上に上ります。次いで一戸建てが約3割となっています。

住宅の所有形態は持ち家と借家がほぼ5割ずつとなっています。ただし住宅の形態別にみると、一戸建ては持ち家が9割以上、共同住宅は借家が約8割と傾向に大きな違いが見られます。



資料) 平成30年住宅土地統計調査 (総務省統計局)

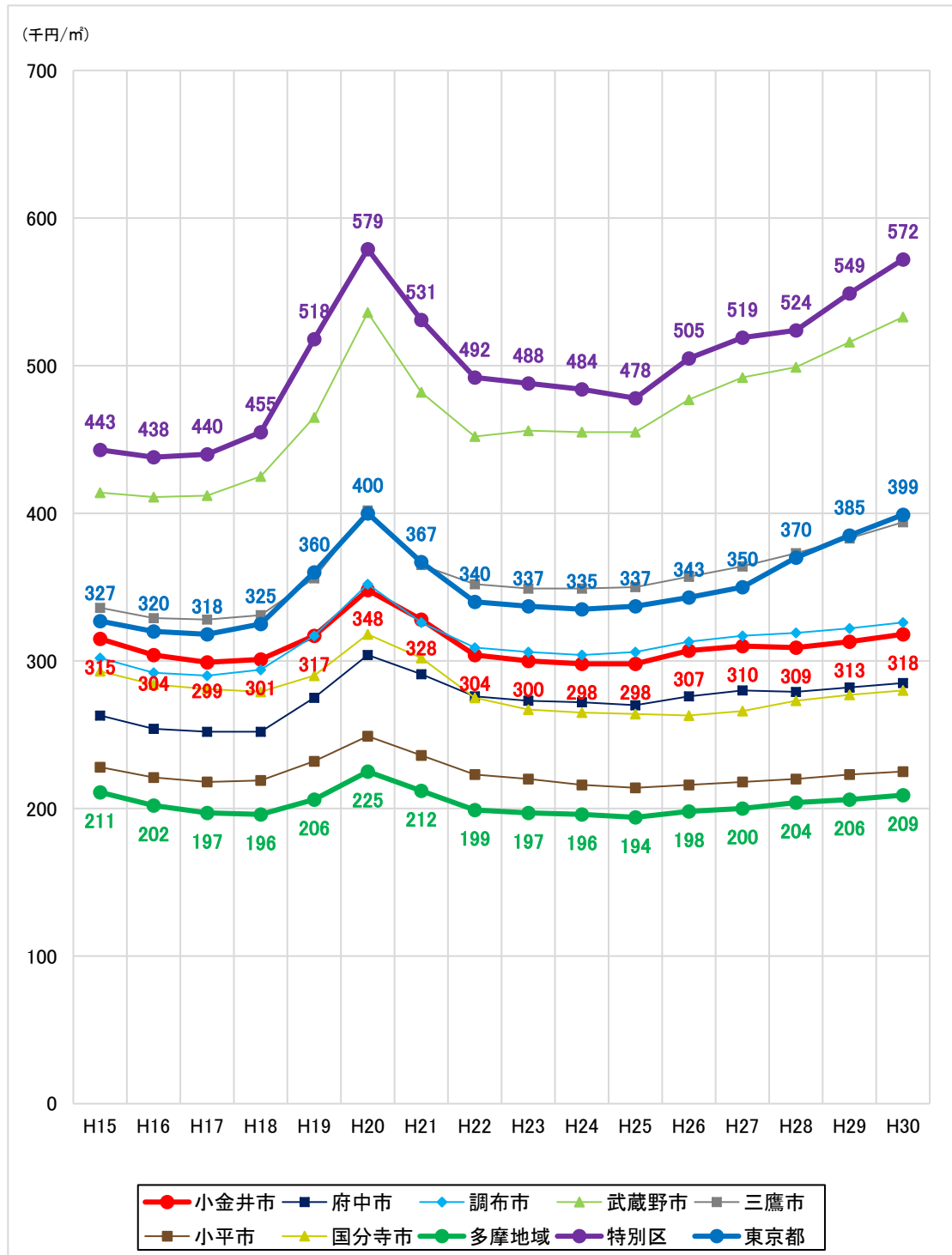
図1-1.23 不動産の建物形態の内訳 (平成30年)



資料) 平成30年住宅土地統計調査 (総務省統計局)

図1-1.24 不動産の形態別所有状況 (平成30年)

本市の住宅地の公示価格の平均価格の推移は、平成20年以降下落傾向にありましたが、平成24年以降、わずかに上昇傾向にあります。東京都平均や特別区平均、武蔵野市、三鷹市に比べると低い水準ですが、近隣市の府中市や調布市、国分寺市と同水準で、多摩地域平均よりは高い水準で推移しています。

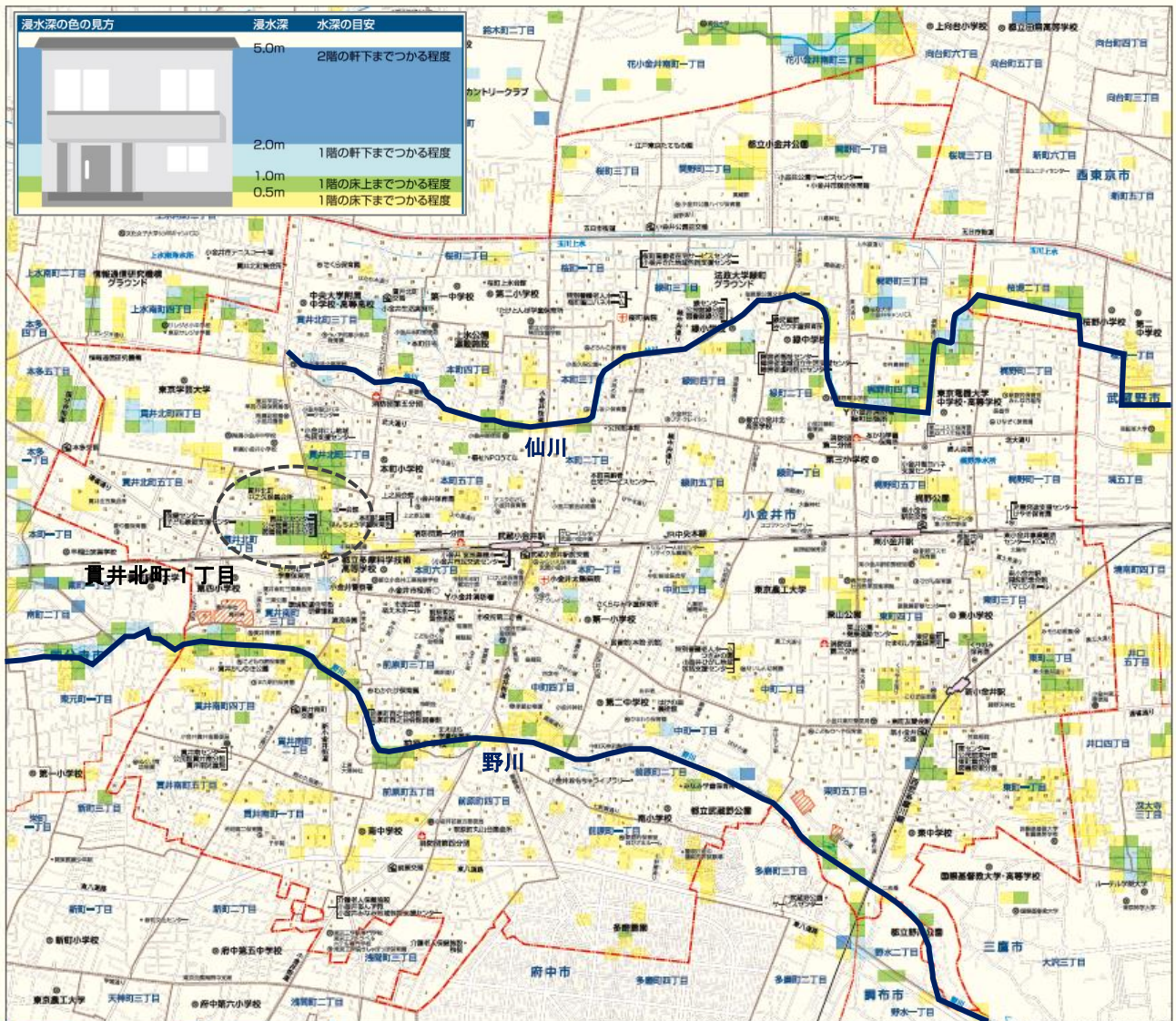


資料) 多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2018 (平成30) 年版
 図1-1.25 公示価格の平均価格の推移 (住宅地)

5) 防災

浸水予想区域図によれば、市内には1.0m以下の浸水が予想される区域が点在していますが、1.0m以上の浸水が見込まれる区域はごくわずかです。

主に、野川周辺及び仙川周辺、貫井北町1丁目付近の一部において、浸水区域が比較的集中しているほか、予想浸水深1.0m以上の区域も見られます。



※「野川、仙川、谷沢川及び丸子川流域浸水予想区域図」「石神井川及び白子川流域浸水予想区域図」(都市型水害対策連絡会作成)を使用し、平成12年9月に発生した東海豪雨(総雨量589mm、時間最大雨量114mm)規模の非常に激甚な大雨が降った場合に、浸水が予想される区域と想定される浸水を表したもの。

出典) 小金井市浸水予想区域図に一部追記

図1-1.26 小金井市浸水予想区域図

(4) 人文条件

1) 開発発展の歴史

本市の開発発展の歴史を表1-1.2に示します。小金井の地名の起源は、「黄金に値する豊富な水が湧く」ところから、黄金井が転じて、小金井になったとする説があるとおり、豊富な水資源は古くから人々の生活の基盤となってきました。

近現代では、昭和30年代から昭和40年代半ばの高度経済成長期を契機に各種開発が進行し、街並みが形成されてきました。平成に入ってからにはJR中央線沿いを中心とした各種大規模開発事業により、まちづくりが進められています。

表1-1.2 本市の開発発展の歴史

年代		開発発展のようす
原始	後期旧石器時代	・小金井（主に国分寺崖線や野川縁辺）に人々が住み始める
	縄文時代前期～中期	・中期には、湧水に近い段丘縁辺に定住集落（むら）が出現
	縄文時代後期～弥生時代	・気候変動に伴う生活環境の悪化等により、集落が消失する
古代	古墳時代～平安時代	・引き続き、集落の形成は見られない
中世	鎌倉時代	・武蔵野台地各地に鎌倉街道が開かれる ・国分寺崖線と野川にはさまれた谷戸周辺に小さな村落が発生
近世	江戸時代前期～中期	・玉川上水の完成、武蔵野段丘面の開発が進む（1654年） ・武蔵野新田の開発が行われる（1654年） ・玉川上水に小金井桜が植えられる（1737年） ※詳細は(2)2参照 ・幕府へ献上と新田村民の食料として、栗林の整備が進む（1736～1740年）
近現代	明治	・小金井村が誕生（1889年） ・徐々に水田が畑に置き換わる
	大正	・大量の栗が収穫され都内の市場まで売りに出していた ・養蚕が盛んになる ・武蔵小金井駅開設（1926年） ・鉄道の発達により駅前を中心に街並みが発展する
	昭和初期	・製糸工場、製鉄所等、工場の新設が目立つようになる ・酪農、養豚、養鶏等が最盛期を迎える ・町制施行（1937年）
	昭和中期(戦後)～後期	・都立小金井公園開園（1954年） ・市制施行（1958年） ・高度経済成長に伴い、人口が急激に増加し、農地の宅地化、商業の発展が進む ・水田、畜産場（酪農・養豚）が消失する ・地価の高騰等により、工場は転出傾向となる ・都立野川公園開園（1979年）
	平成～令和	・JR中央線沿いを中心に各種大規模開発事業が始まり、まちなりのリニューアルが進む ※詳細は(4)3参照 ・市制60周年（2018年）

出典) 小金井市の歴史散歩(平成17年, 小金井市教育委員会)、
写真で見るわたしたちのまち小金井(昭和64年, 小金井市誌編纂委員会)

2) 玉川上水ほか文化財

前出の表1-1.2に示すとおり、本市には後期旧石器時代の約3万5千年前から人々が住み始め、多数の文化財が残されています。本市においては国及び東京都の指定文化財等が9件、本市指定の文化財が32件あります（令和2年3月31日時点）。

このうち、みどりに関わるものとしては、国指定文化財の「玉川上水」、「小金井（サクラ）」が挙げられます。（玉川上水及び小金井（サクラ）に関する詳細は、(2)2)参照）。

表1-1.3 本市内国指定・都指定文化財等一覧

区分	種別	名称	所在
国指定	史跡	玉川上水	羽村市～渋谷区
	名勝	小金井(サクラ)	小平市～武蔵野市
	重要文化財	土製耳飾調布市下布田遺跡出土	桜町3-7-1
	記録選択	江戸の糸あやつり人形	貫井北町3-18-2
東京都指定	旧跡	金井原古戦場	前原町一帯
	無形文化財	糸あやつり	貫井北町3-18-2
	有形文化財	旧自証院霊屋	桜町3-7-1
	有形文化財	茂呂遺跡出土石器「ローム層標本」	桜町3-7-1
	有形文化財	旧前川家住宅主屋	桜町3-7-1

出典) 小金井の指定文化財

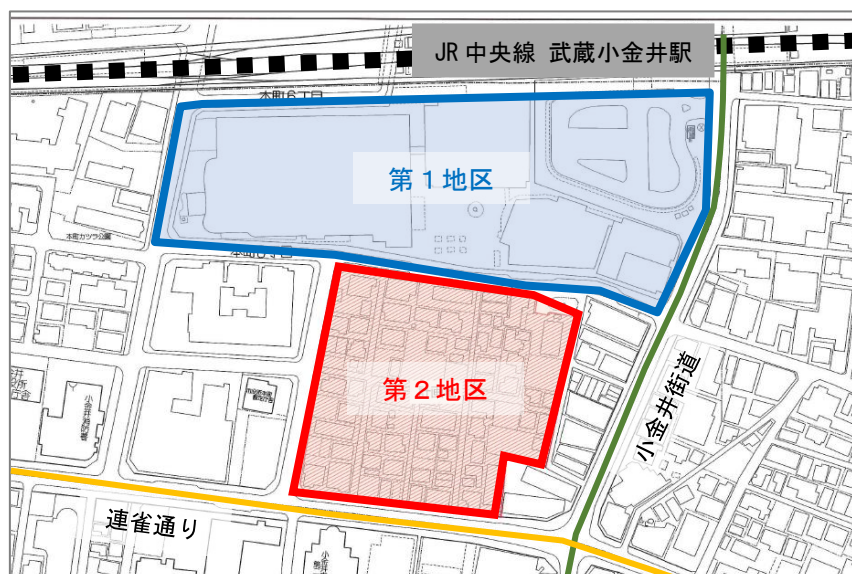
3) 近年の開発状況

本市では、武蔵小金井駅南口地区市街地再開発事業及び東小金井北口土地区画整理事業が進められています。

武蔵小金井駅南口第1地区第一種市街地再開発事業の施工面積は約3.4ha、事業施行期間は平成17年1月から平成24年3月で、JR中央線連続立体交差事業とあわせて、交通広場等の都市基盤の整備と大規模店舗、住宅・専門店、公益・商業業務施設等が整備されました。

武蔵小金井駅南口第2地区第一種市街地再開発事業の施工面積は約1.8ha、事業施行期間は平成27年8月から令和2年5月(予定)で、住宅・商業施設の整備が進められています。

東小金井駅北口土地区画整理事業の施工面積は11.0ha、事業施行期間は平成12年2月1日から令和9年3月31日で、現在公園や道路の整備が進められています。



※市街地再開発事業説明会資料等を元に作成(区域線は概略)

図1-1.28 武蔵小金井南口地区市街地再開発事業位置図



出典) 東小金井駅北口土地区画整理事業の概要: 小金井市HP

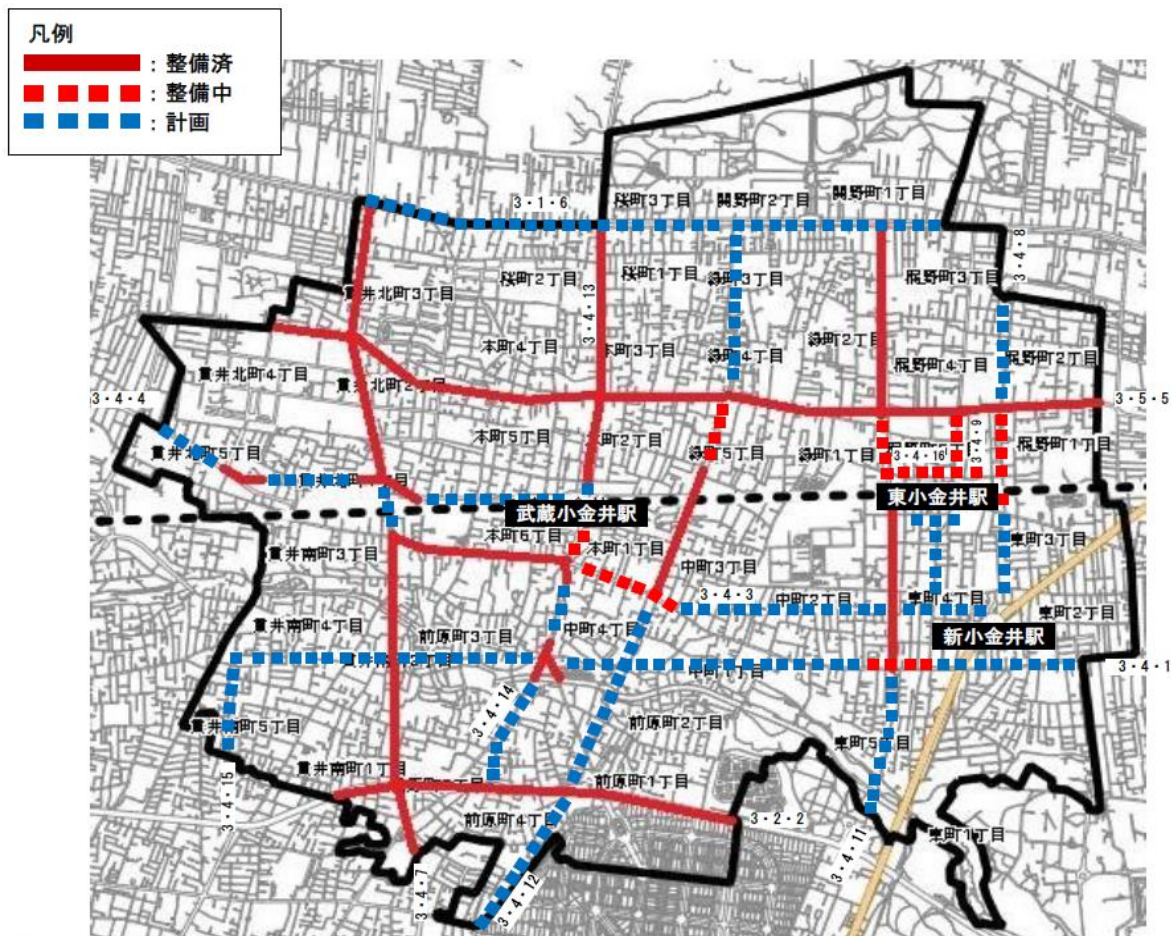
(<https://www.city.koganei.lg.jp/smph/shisei/seisakuikaku/machitoshi/eki/higashikoganeikita/D0607010201410150952.html>)

図1-1.29 東小金井北口土地区画整理事業設計図

(5) 交通条件

1) 道路

平成30年3月時点の都市計画道路の整備率は約5割で、市内の北部及び南部に未整備の路線が多く残っています。



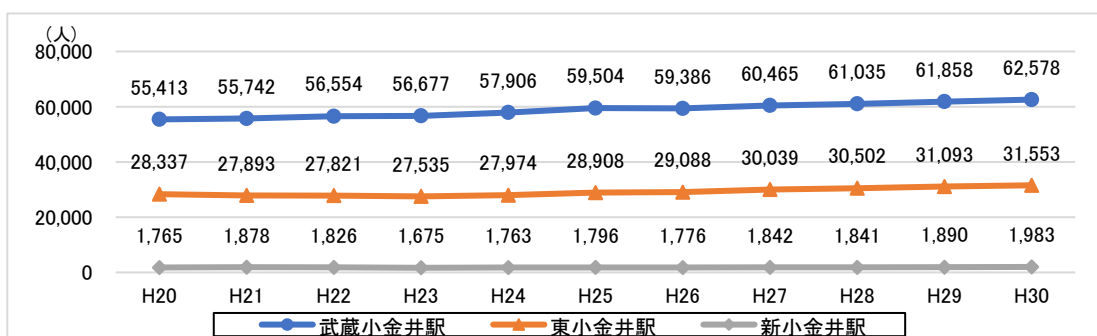
出典) こがねいデータブック2018

図1-1.30 都市計画道路の位置と整備状況(平成30年3月時点)

2) 鉄道・バス

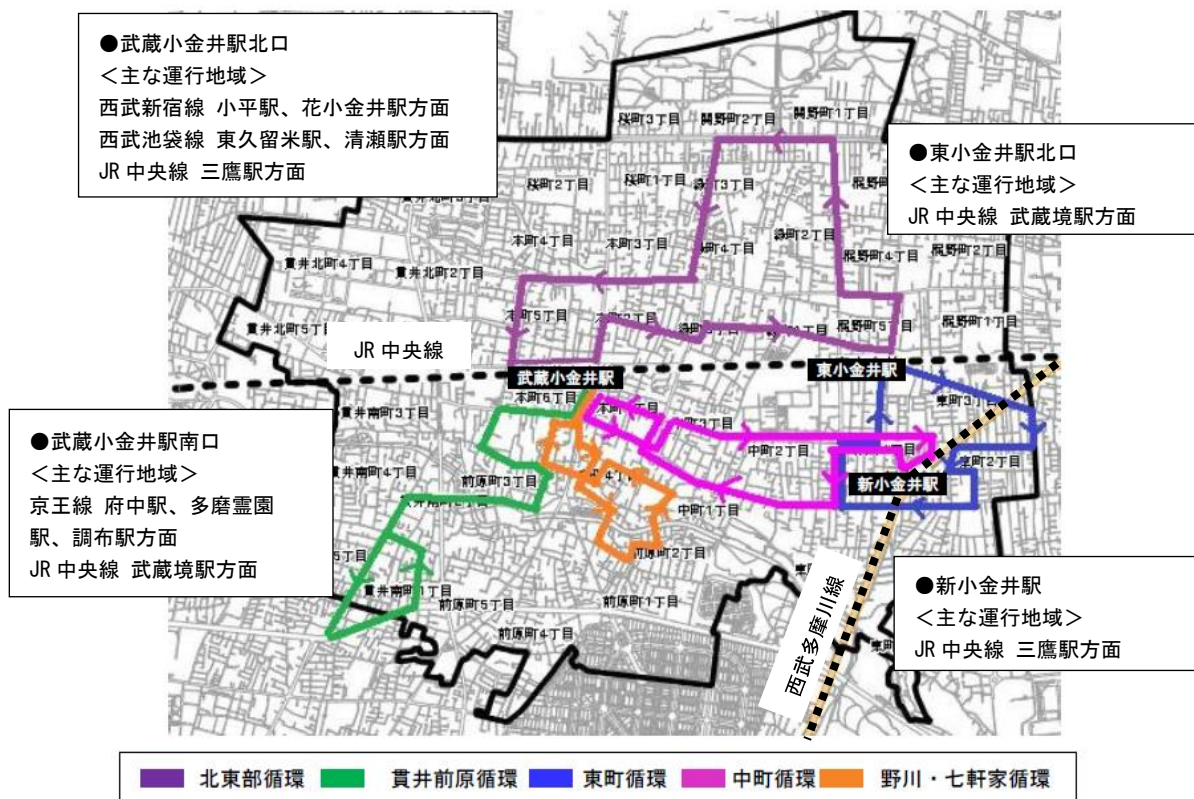
市内には、JR中央線武蔵小金井駅、東小金井駅及び西武多摩川線新小金井駅の3つの駅があります。各駅の乗客数をみると、武蔵小金井駅は近年増加傾向、東小金井駅は微増傾向、新小金井駅は増減を繰り返しながら、長期的には微増となっています。市内で最も多い武蔵小金井駅の乗降客数は一日平均約6万2千人を超えており、JR東日本管内1,655駅(平成31年4月1日現在)中74位(中央線沿線で前後の順位は67位武蔵境駅、92位国立駅、95位高円寺駅となっている)で、乗降客数は比較的多い駅と言えます。

バス路線は図1-1.32のとおりで、市内に小金井市コミュニティバス(CoCoバス)が運行しているほか、各鉄道駅から近隣市に向けて各種バス路線が運行されています。武蔵小金井駅は多数のバス路線が発着し、本市と近隣市をつなぐバスのターミナルとしても、重要な役割を担っています。



資料) 東日本旅客鉄道(株)、西武鉄道(株)

図1-1.31 市内3駅の1日平均乗客数の推移



※口囲みは各駅から市外への主な運行地域(各バス停情報を元に作成)

ココバスルート出典) こがねいデータブック2018

図1-1.32 本市内の鉄道・バス路線の整備状況

2. 緑被現況調査

(1) 調査方法

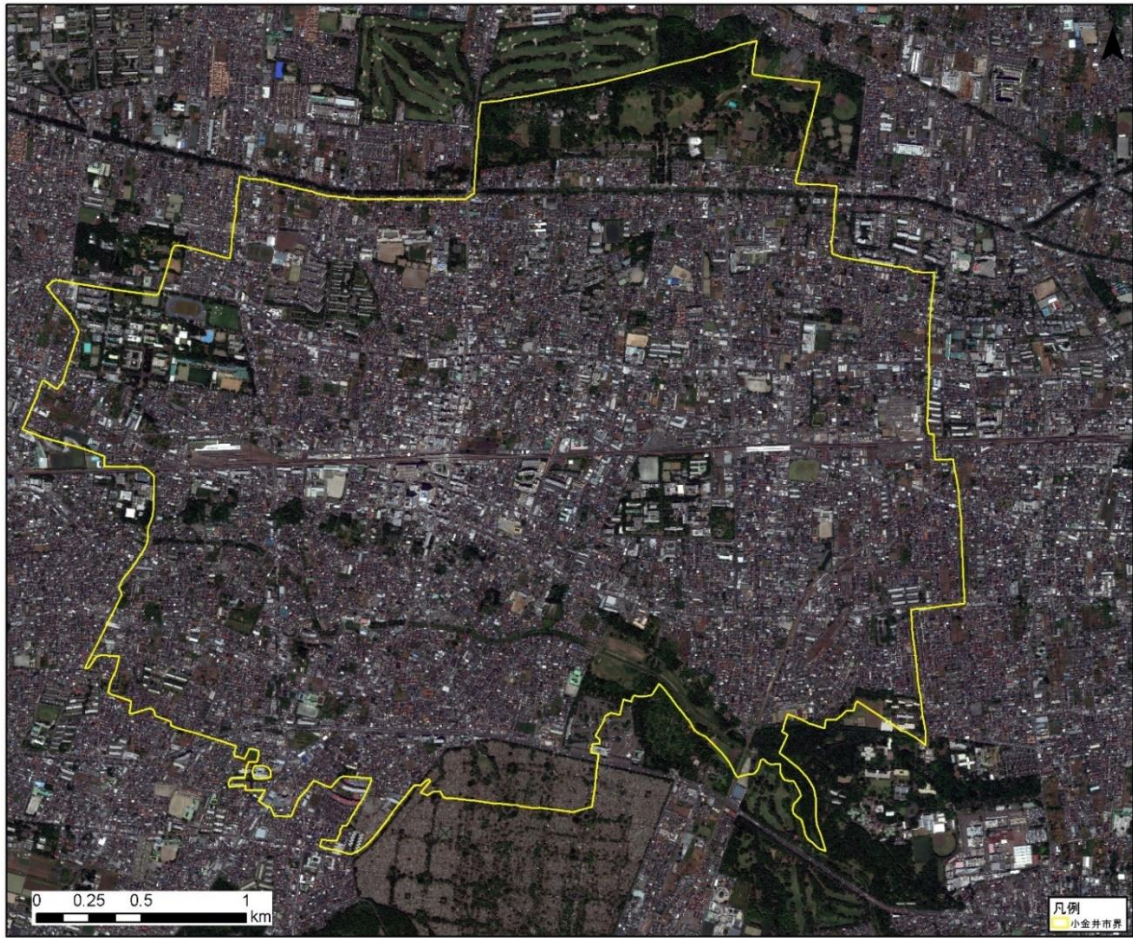
衛星写真を使用し、緑被地及び裸地等の図化及び面積の集計を行いました。衛星写真は、樹冠や草地の状況を十分に把握できる時期に撮影されたものを使用しました。

【使用した衛星写真の諸元】

- 撮影年月日：令和元年5月25日
- 雲量：0%
- 地上分解能：30cm
- 衛星名：WorldView-3

【作業方法】

- 緑被最小抽出単位：10m²
 - 作業スケール：1:500～1,000程度(※)
- ※最小抽出単位10m²の場合、概ね図上で3mm×3mm以上のものを抽出



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図1-2.1 衛星写真（令和元年5月25日撮影）



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図1-2.2 緑被現況図作成イメージ

表1-2.1に示す緑被地・裸地等の分布について図化を行いました。

なお、緑被地等の区分や定義については、平成10年度及び平成21年度調査結果との経年比較が可能なように、これまでの考え方を踏襲することとしました。作成した緑被地・裸地等の分布図を次頁図1-2.3に示します。

表1-2.1 凡例の種類と定義

緑被地	定義
樹木・樹林地 (竹林含む)	単独の樹木や群の樹林
草地	
管理されている草地	整備・管理されている草地・芝生地（公園・緑地等、大学、グラウンド、河川敷、寺社仏閣及び個人庭等）
雑草地	「その他の裸地」に植生がある場合（「管理されている草地」を除く）
農地	
樹木畑	苗圃、果樹園（地面が露出している部分も含めて一体として樹木畑とする）
畑	農地のうち樹木畑ではないもの

裸地等	定義
管理されている裸地	整備・管理されている裸地（公園・緑地等、大学、グラウンド、河川敷、寺社仏閣、個人庭等）
その他の裸地	空地、管理主体が不明確な裸地等
人工芝のグラウンド等	テニスコートや運動場の人工芝
駐車場（裸地）	舗装されていない駐車場（宅地に付帯するものは把握しない。概ね300 m ² 以上を目安）
駐車場（舗装）	舗装されている駐車場（宅地に付帯するものは把握しない。概ね300 m ² 以上を目安）
水面	池・河川等

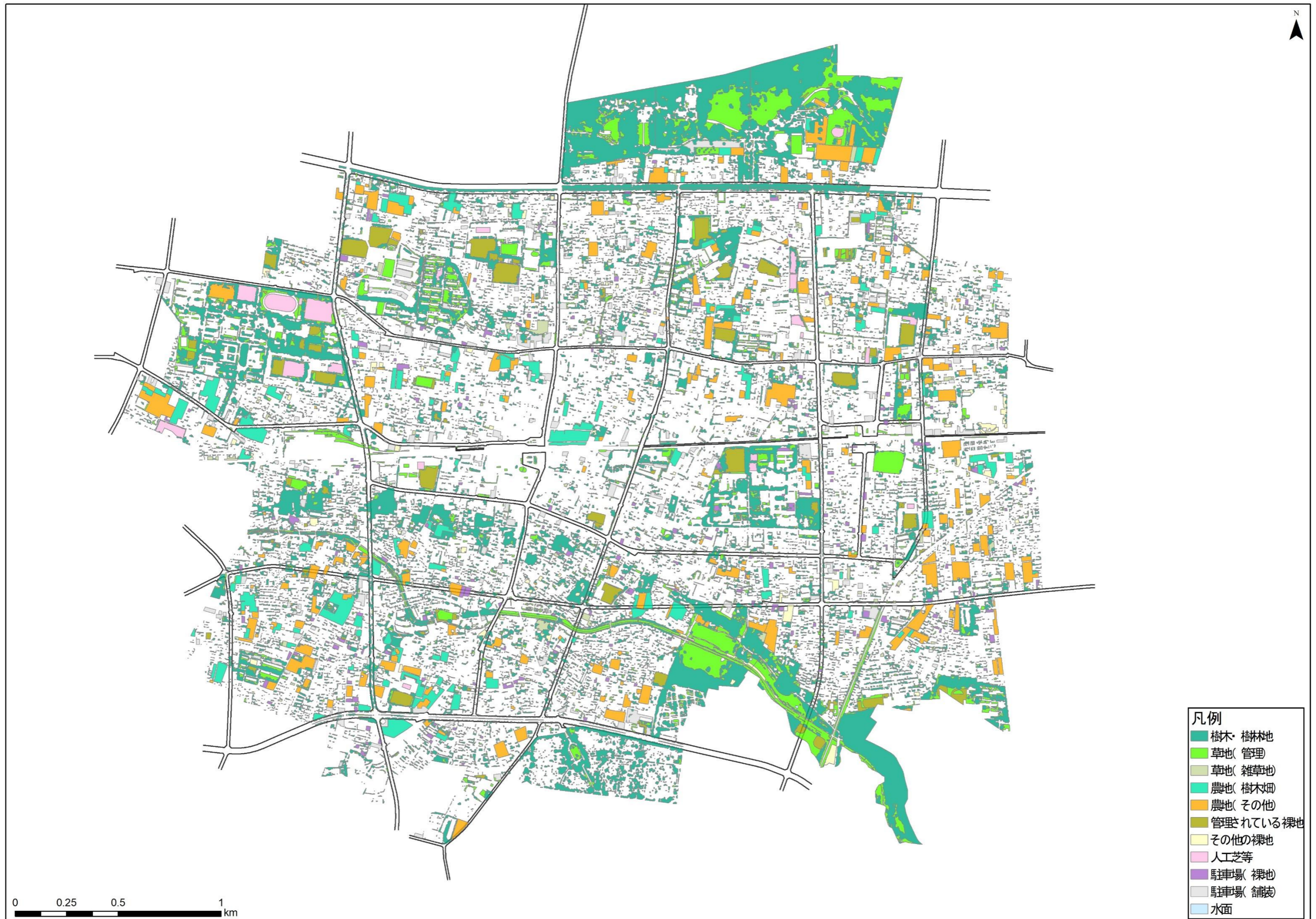


図1-2.3 緑被地・裸地等の分布図

(2) 調査結果

1) 本市全域の集計結果

本市における緑被地は340.79ha、緑被地が市域に占める割合(緑被率)は、30.2%でした。緑被地のうち、最も多くの割合を占めているのが樹木・樹林地であり、207.05ha、市域の18.3%、次いで、農地が68.07ha、草地在65.66haであり、それぞれ市域の約6%を占めています。

表1-2.2 緑被地・裸地等の面積及び割合

緑被地	面積(ha)	市域に占める割合(%)
緑被地[a]	340.79	30.2%
樹木・樹林地(竹林含む)	207.05	18.3%
草地	65.66	5.8%
管理されている草地	60.06	5.3%
雑草地	5.61	0.5%
農地	68.07	6.0%
樹木畑	26.24	2.3%
畑	41.83	3.7%
裸地等	面積(ha)	市域に占める割合(%)
裸地等[b]	55.68	4.9%
管理されている裸地	18.47	1.6%
うち公園・緑地等内に分布するもの	2.88	0.3%
その他の裸地	5.65	0.5%
人工芝のグラウンド等	6.80	0.6%
駐車場(裸地)	6.97	0.6%
駐車場(舗装)	17.77	1.6%
水面[c]	0.41	0.0%
その他	面積(ha)	市域に占める割合(%)
その他(建物・道路等) ([d]-([a]+[b]+[c]))	733.13	64.9%
合計[d]	1,130.00	100%

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

※その他(建物・道路等)は、小金井市緑の環境実態調査(平成22年3月)では、「市街地・その他」と表記していた

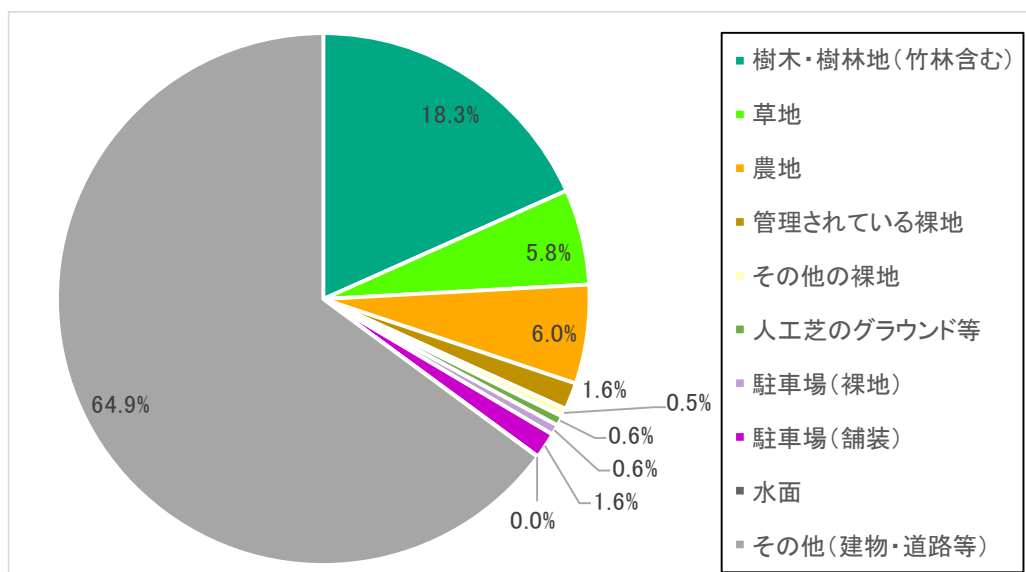


図1-2.4 緑被地・裸地等の割合

2) 地区別の集計結果

< 6地域区分 >

地域別の特性を把握するため、地域別に緑被面積及び緑被率の集計を行いました。

6地域のうち、最も緑被率が高いのは、小金井公園や玉川上水等まとまった公園・みどり等を有する北地域であり、緑被面積は99.36ha、緑被率は39.9%でした。最も緑被率が低かったのは、中央地域であり、緑被面積は18.50ha、緑被率は14.0%でした。

表1-2.3 6地域別の緑被面積及び緑被率

分類	野川地域	東地域	北地域	中央地域	西地域	南地域	合計
面積(ha)[a]	182.94	177.87	249.10	132.11	181.08	205.03	1,130.00
緑被地 [b]							
樹木・樹林地	46.98	22.39	63.59	10.18	31.55	32.34	207.05
草地(管理)	16.93	6.78	19.12	2.04	9.81	5.38	60.06
草地(雑草地)	0.91	0.92	1.48	0.63	1.23	0.44	5.61
農地(樹木畑)	1.48	2.76	3.51	3.83	6.10	8.56	26.24
農地(その他)	6.13	8.65	11.65	1.82	5.60	7.98	41.83
緑被面積計 [b]	72.43	41.51	99.36	18.50	54.30	54.69	340.79
緑被率(%) [b]/[a]	39.6%	23.3%	39.9%	14.0%	30.0%	26.7%	30.2%
裸地等							
管理されている裸地	2.56	2.73	3.85	1.46	6.39	1.49	18.47
その他の裸地	2.06	1.32	0.60	0.25	0.75	0.68	5.65
人工芝等	0.00	0.31	1.43	0.12	4.87	0.08	6.80
駐車場(裸地)	1.27	1.83	0.69	0.40	0.86	1.93	6.97
駐車場(舗装)	1.62	2.19	4.05	2.94	4.00	2.98	17.77
裸地等計 [c]	7.51	8.38	10.62	5.16	16.86	7.15	55.68
水面 [d]	0.24	0.02	0.00	0.00	0.00	0.15	0.41
その他(建物・道路等) [a]-([b]+[c]+[d])	102.76	127.96	139.12	108.45	109.92	143.04	733.13

※数値の端数処理(小数第3位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

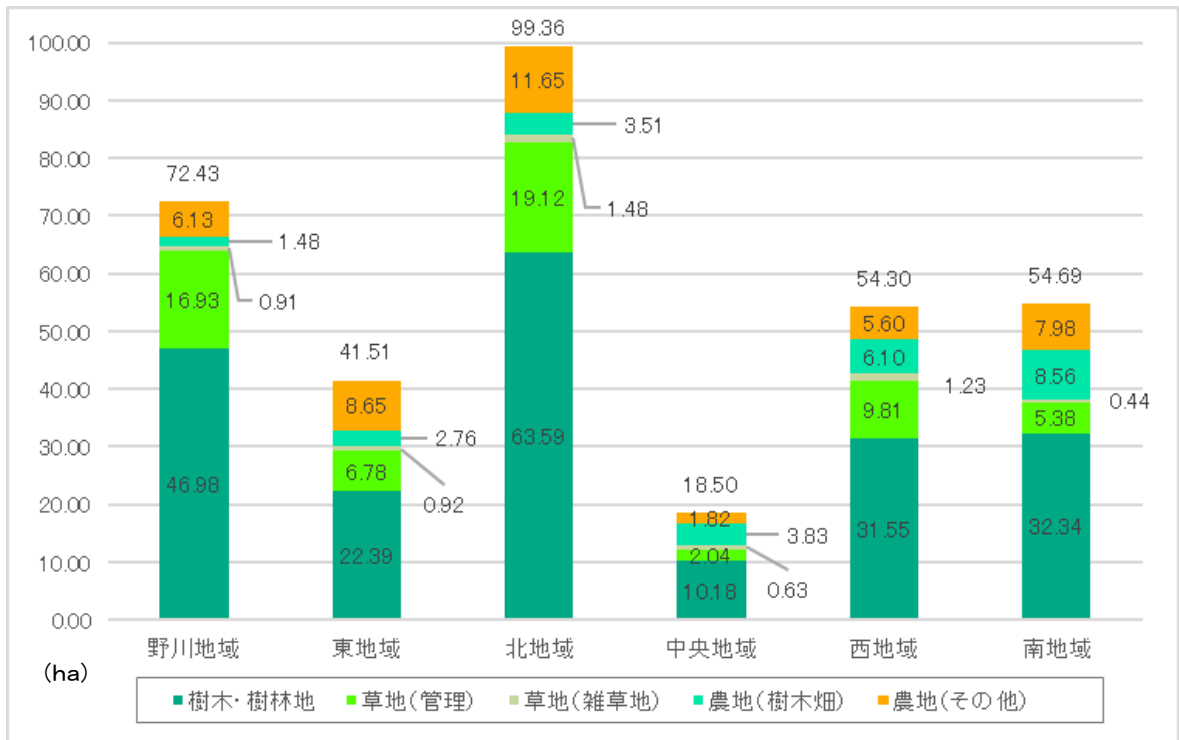


図 1-2.5 6 地域別の緑被面積

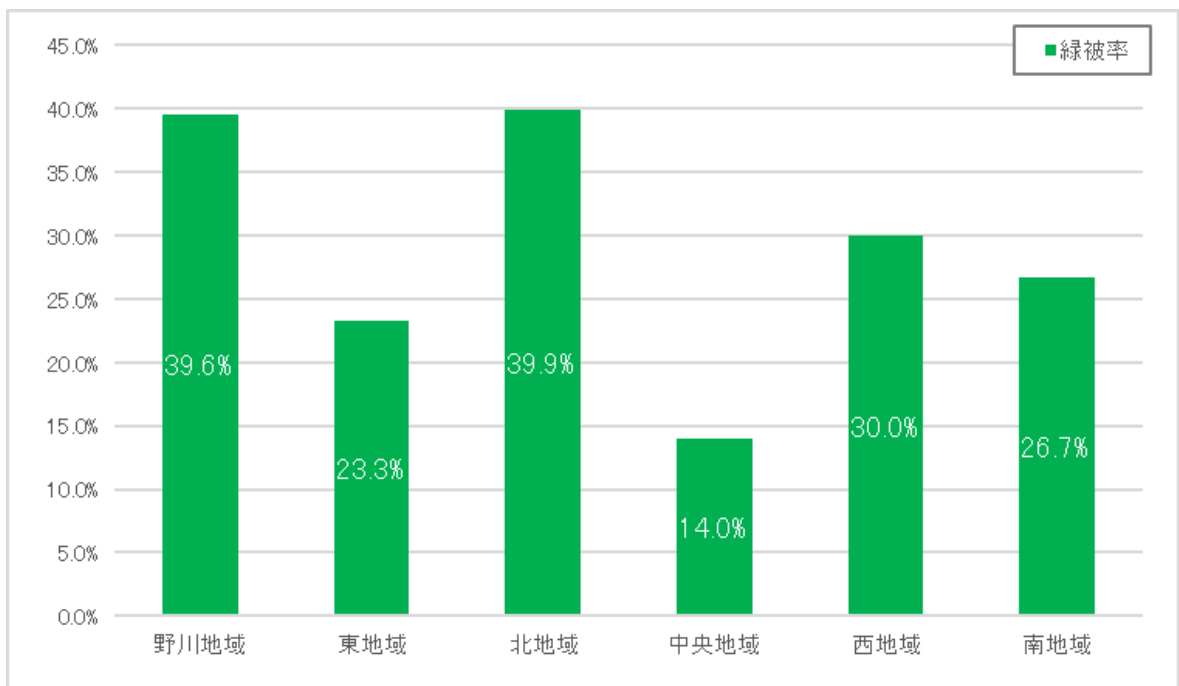


図 1-2.6 6 地域別の緑被率

<町丁目別>

町丁目別に集計を行った結果、緑被率50%以上が3地区、40%以上が5地区、30%以上が6地区、20%以上が17地区、10%以上が12地区、10%未満が2地区（計45地区）となりました。都立公園、多磨霊園及び国分寺崖線等まとまった公園・みどり等に近接する地区は、緑被率が40%から50%、あるいは50%以上となっている地区も見られる一方で、武蔵小金井駅及び東小金井駅の周辺地区は、緑被率が20%未満となっている地区が見られます。

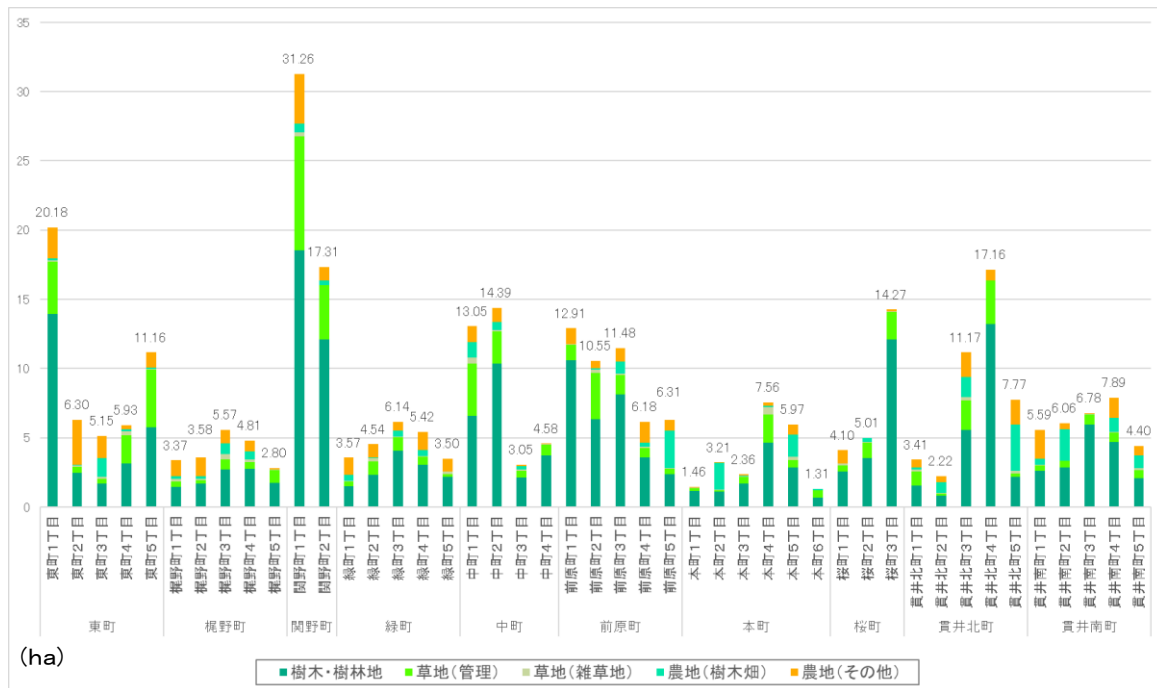


図1-2.7 町丁目別の緑被面積

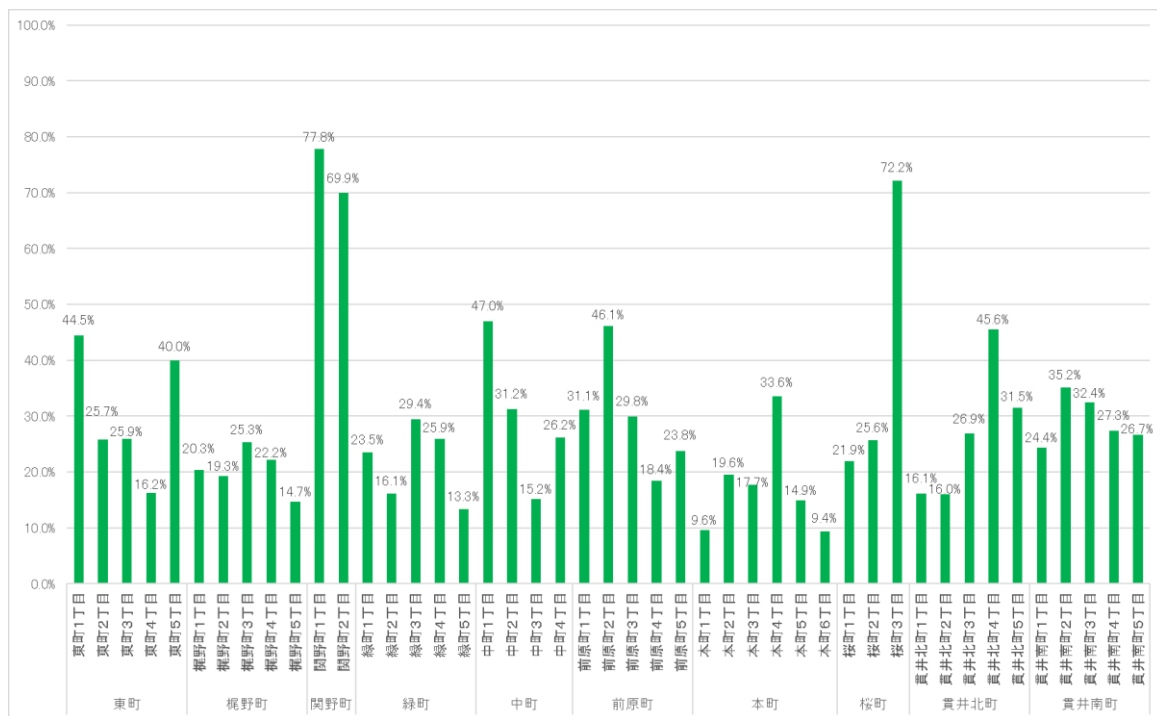


図1-2.8 町丁目別の緑被率

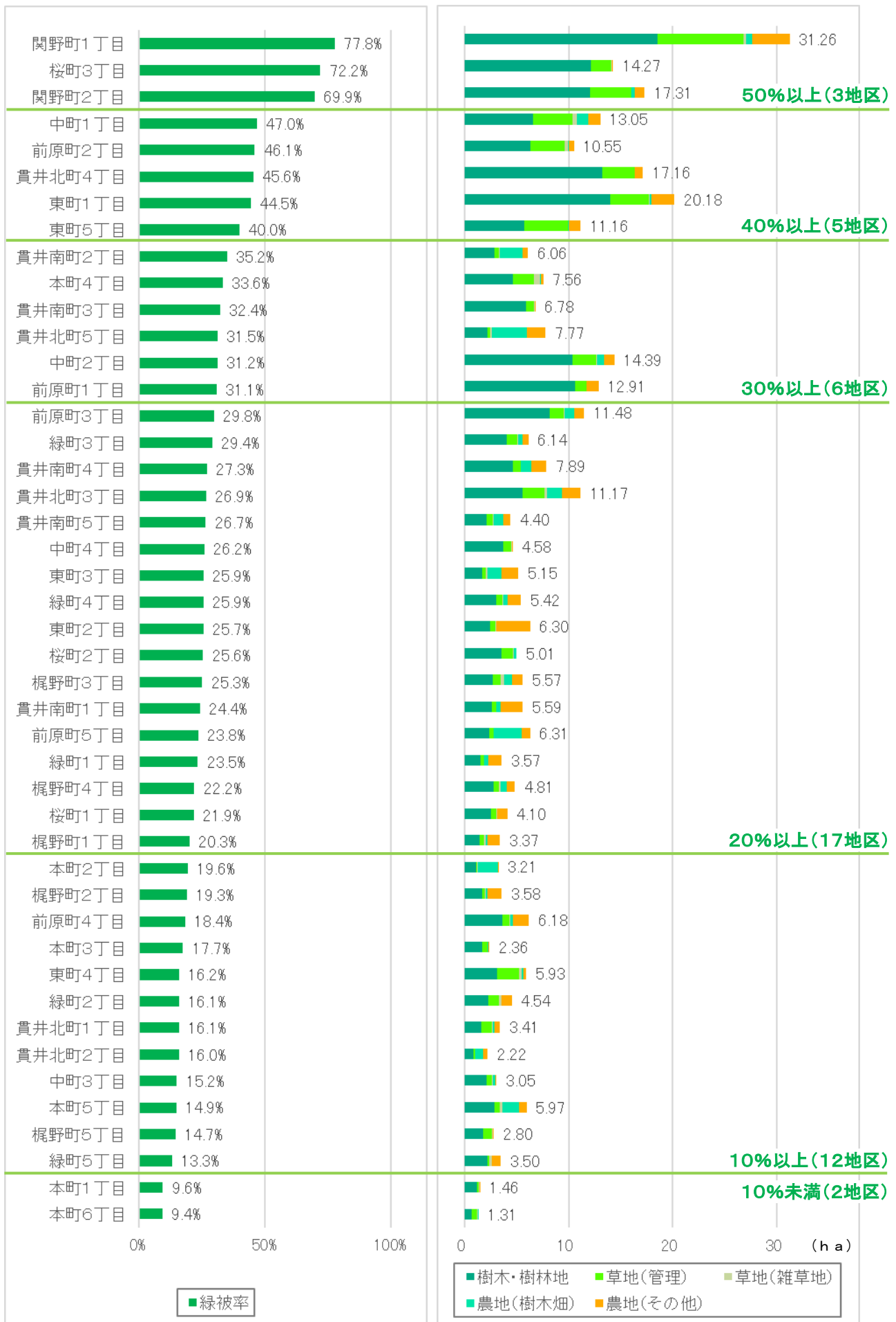


図1-2.9 町丁目別の緑被率・緑被面積（緑被率の高い順）

表1-2.4 町丁目別緑被面積(緑被率 : 上位3地区 : 下位3地区)

町丁目名	面積 (ha)	樹木・樹林地 (ha)	草地 (管理) (ha)	草地 (雑草地) (ha)	農地 (樹木畑) (ha)	農地 (その他) (ha)	緑被 面積計(ha)	緑被率 (%)
東町1丁目	45.40	13.96	3.78	0.07	0.17	2.20	20.18	44.5%
東町2丁目	24.49	2.45	0.46	0.10	0.03	3.26	6.30	25.7%
東町3丁目	19.88	1.71	0.34	0.15	1.36	1.59	5.15	25.9%
東町4丁目	36.59	3.16	2.04	0.28	0.16	0.29	5.93	16.2%
東町5丁目	27.89	5.76	4.18	0.01	0.10	1.11	11.16	40.0%
東町 計	154.25	27.04	10.8	0.61	1.82	8.45	48.72	31.6%
梶野町1丁目	16.57	1.45	0.40	0.21	0.15	1.16	3.37	20.3%
梶野町2丁目	18.55	1.71	0.21	0.13	0.18	1.36	3.58	19.3%
梶野町3丁目	22.01	2.71	0.74	0.37	0.77	0.97	5.57	25.3%
梶野町4丁目	21.68	2.75	0.52	0.15	0.62	0.76	4.81	22.2%
梶野町5丁目	19.08	1.76	0.89	0.05	0.00	0.10	2.80	14.7%
梶野町 計	97.89	10.38	2.76	0.91	1.72	4.35	20.12	20.6%
関野町1丁目	40.19	18.55	8.23	0.27	0.62	3.60	31.26	77.8%
関野町2丁目	24.77	12.08	3.93	0.02	0.33	0.96	17.31	69.9%
関野町 計	64.96	30.63	12.16	0.29	0.95	4.56	48.58	74.8%
緑町1丁目	15.19	1.52	0.30	0.05	0.45	1.25	3.57	23.5%
緑町2丁目	28.17	2.31	1.00	0.21	0.05	0.96	4.54	16.1%
緑町3丁目	20.91	4.09	0.97	0.05	0.42	0.61	6.14	29.4%
緑町4丁目	20.98	3.06	0.59	0.03	0.46	1.28	5.42	25.9%
緑町5丁目	26.39	2.17	0.22	0.20	0.00	0.91	3.50	13.3%
緑町 計	111.64	13.15	3.08	0.54	1.38	5.01	23.18	20.8%
中町1丁目	27.77	6.58	3.78	0.44	1.13	1.12	13.05	47.0%
中町2丁目	46.07	10.34	2.33	0.09	0.61	1.01	14.39	31.2%
中町3丁目	20.09	2.14	0.46	0.10	0.27	0.08	3.05	15.2%
中町4丁目	17.48	3.75	0.76	0.06	0.00	0.01	4.58	26.2%
中町 計	111.41	22.81	7.33	0.69	2.01	2.22	35.07	31.5%
前原町1丁目	41.53	10.59	1.11	0.05	0.00	1.16	12.91	31.1%
前原町2丁目	22.86	6.35	3.31	0.28	0.08	0.53	10.55	46.1%
前原町3丁目	38.48	8.15	1.41	0.06	0.89	0.98	11.48	29.8%
前原町4丁目	33.55	3.60	0.68	0.08	0.30	1.51	6.18	18.4%
前原町5丁目	26.52	2.40	0.37	0.02	2.71	0.80	6.31	23.8%
前原町 計	162.94	31.09	6.88	0.49	3.98	4.98	47.43	29.1%
本町1丁目	15.27	1.18	0.19	0.04	0.00	0.05	1.46	9.6%
本町2丁目	16.42	1.14	0.08	0.06	1.90	0.04	3.21	19.6%
本町3丁目	13.33	1.68	0.49	0.07	0.06	0.06	2.36	17.7%
本町4丁目	22.52	4.66	2.00	0.57	0.09	0.24	7.56	33.6%
本町5丁目	39.94	2.85	0.55	0.22	1.59	0.75	5.97	14.9%
本町6丁目	14.00	0.69	0.53	0.01	0.07	0.00	1.31	9.4%
本町 計	121.48	12.2	3.84	0.97	3.71	1.14	21.86	18.0%
桜町1丁目	18.73	2.56	0.45	0.13	0.00	0.96	4.10	21.9%
桜町2丁目	19.56	3.52	1.13	0.04	0.32	0.00	5.01	25.6%
桜町3丁目	19.77	12.10	1.99	0.04	0.00	0.13	14.27	72.2%
桜町 計	58.06	18.18	3.57	0.21	0.32	1.09	23.38	40.3%
貫井北町1丁目	21.25	1.57	1.02	0.12	0.15	0.56	3.41	16.1%
貫井北町2丁目	13.89	0.83	0.16	0.05	0.77	0.42	2.22	16.0%
貫井北町3丁目	41.49	5.56	2.14	0.26	1.44	1.77	11.17	26.9%
貫井北町4丁目	37.66	13.22	3.13	0.00	0.00	0.80	17.16	45.6%
貫井北町5丁目	24.70	2.19	0.25	0.20	3.33	1.80	7.77	31.5%
貫井北町 計	138.99	23.37	6.7	0.63	5.69	5.35	41.73	30.0%
貫井南町1丁目	22.92	2.62	0.40	0.03	0.44	2.10	5.59	24.4%
貫井南町2丁目	17.25	2.84	0.50	0.02	2.26	0.45	6.06	35.2%
貫井南町3丁目	20.92	5.94	0.76	0.05	0.00	0.03	6.78	32.4%
貫井南町4丁目	28.88	4.68	0.69	0.04	1.04	1.43	7.89	27.3%
貫井南町5丁目	16.50	2.11	0.57	0.13	0.92	0.67	4.40	26.7%
貫井南町 計	106.47	18.19	2.92	0.27	4.66	4.68	30.72	28.9%

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

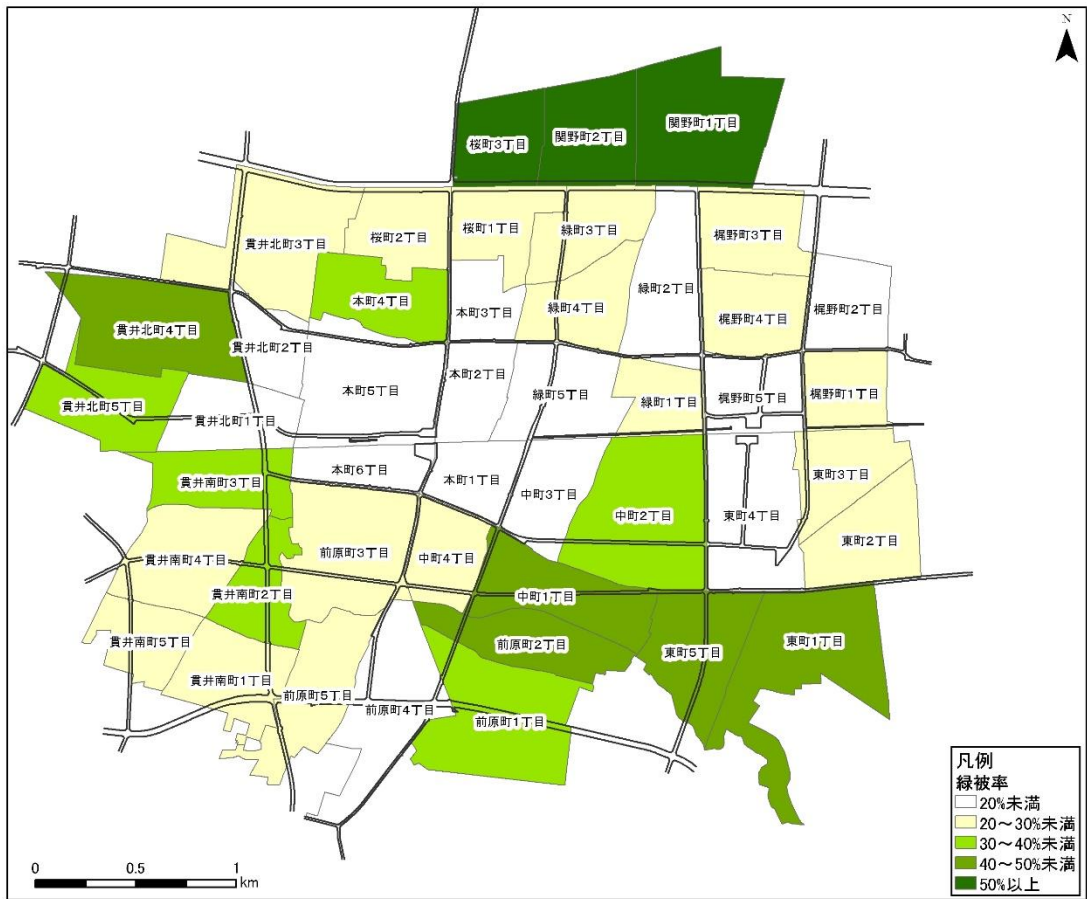


図1-2.10 町丁目別の緑被率

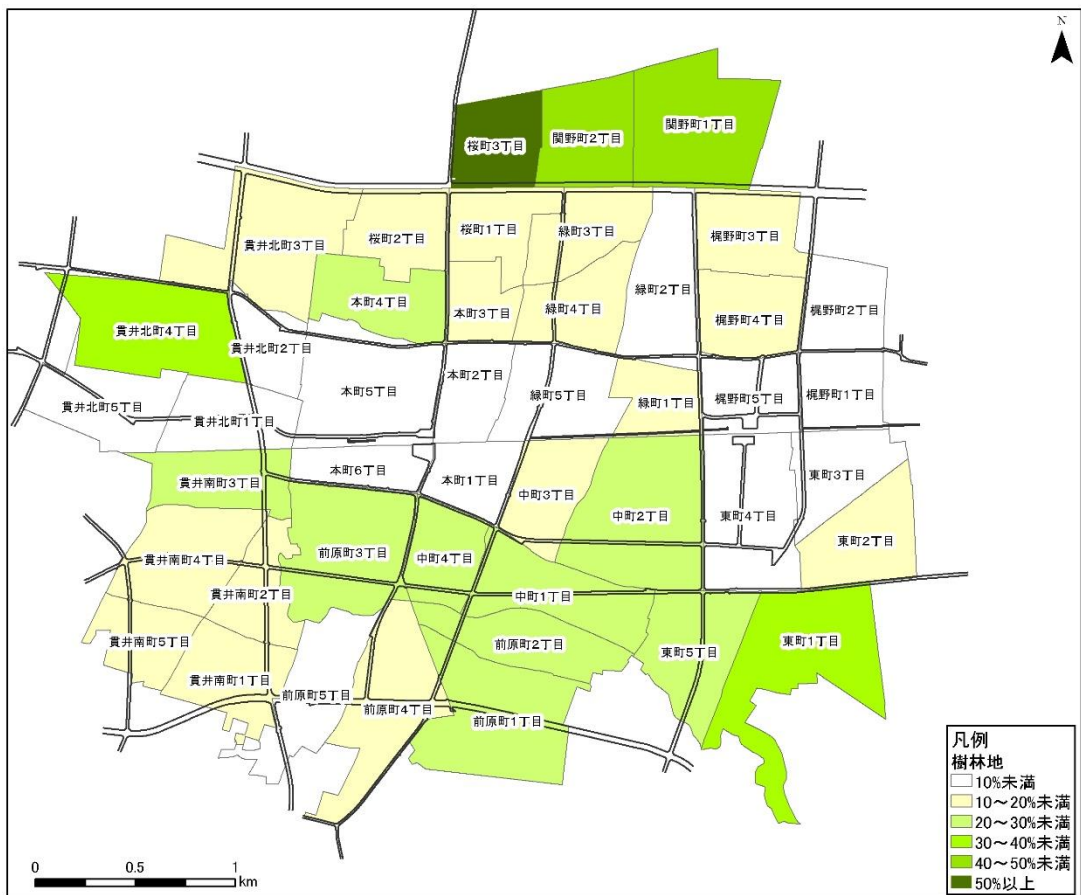


図1-2.11 町丁目別の緑被率（樹木・樹林地）

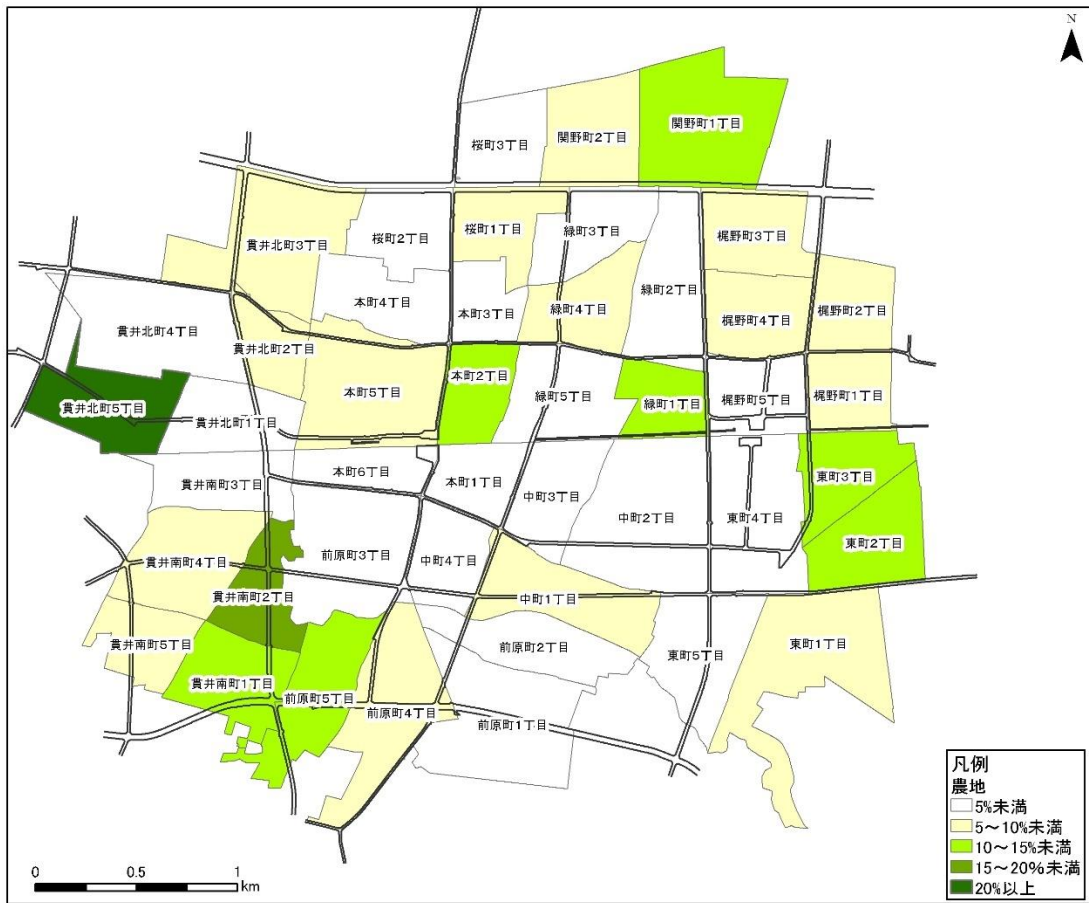


図 1-2.12 町丁目別の緑被率（農地）

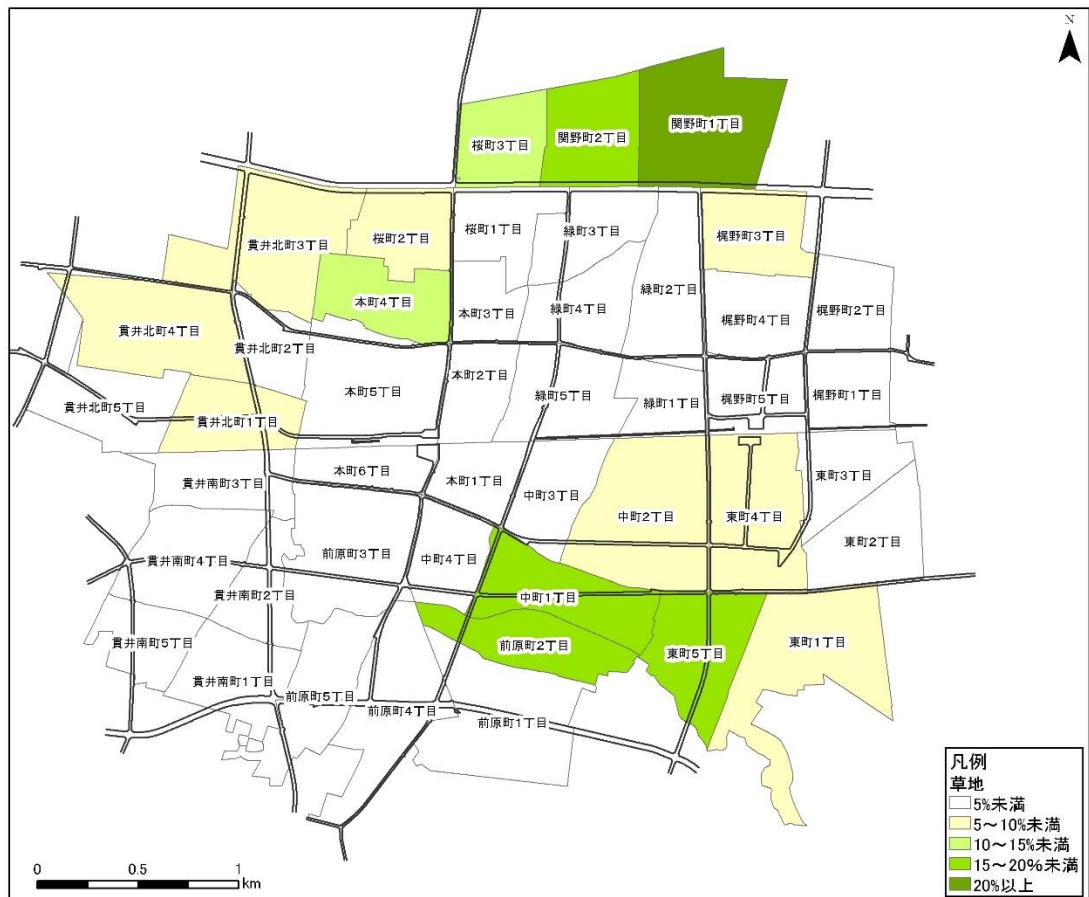


図 1-2.13 町丁目別の緑被率（草地）



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図 1-2. 14 特に緑被率の高い地区（関野町 1 丁目、2 丁目、桜町 3 丁目等）



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図 1-2. 15 特に緑被率の低い地区（本町 1 丁目、6 丁目等）

3) 緑被地の経年変化の把握

これまで本市においては、平成10年度及び平成21年度に緑被現況調査を実施しています。これらデータとの比較を行い、緑被地の増減箇所の把握及びその面積の集計を行いました。

緑被地全体としては、平成21年度より40.53ha減少し、緑被率としては3.5ポイント減少しました。内訳をみると、樹木・樹林地は21.71ha（1.8ポイント）、農地は15.86ha（1.4ポイント）減少しました。

表1-2.5 緑被地の増減（平成21-令和元年度）

凡例	【参考】 平成10年度 (ha)(*1)	[a] 平成21年度(*2)		[b] 令和元年度		[b]-[a] 増減(平成21- 令和元年度)	
		緑被 面積(ha)	緑被率 (%)	緑被 面積(ha)	緑被率 (%)	緑被 面積(ha)	緑被率 (%)
樹木・樹林地	171.16	228.76(*3)	20.1%	207.05	18.3%	△21.71	△1.8%
草地	52.75	68.62	6.1%	65.66	5.8%	△2.96	△0.3%
草地(管理)		57.77	5.1%	60.06	5.3%	2.29	0.2%
草地(雑草地)		10.85	1.0%	5.61	0.5%	△5.24	△0.5%
農地	110.78	83.93(*3)	7.4%	68.07	6.0%	△15.86	△1.4%
農地(樹木畑)		30.86(*3)	2.7%	26.24	2.3%	△4.62	△0.4%
農地(その他)		53.07	4.7%	41.83	3.7%	△11.24	△1.0%
合計	334.69	381.32	33.7%	340.79	30.2%	△40.53	△3.5%

*1:平成10年度については、緑被の抽出精度が50m²であり、平成21年度及び令和元年度と抽出精度が異なる

*2:緑被の抽出精度を10m²とした値を採用しているため、現行計画の値とは一致しない(小金井市緑の環境実態調査報告書(H22,小金井市)p.14参照)

*3:平成21年度緑被調査結果に一部に誤りがあったため、樹木・樹林地△0.49ha、農地(樹木畑)+0.49haとしている

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

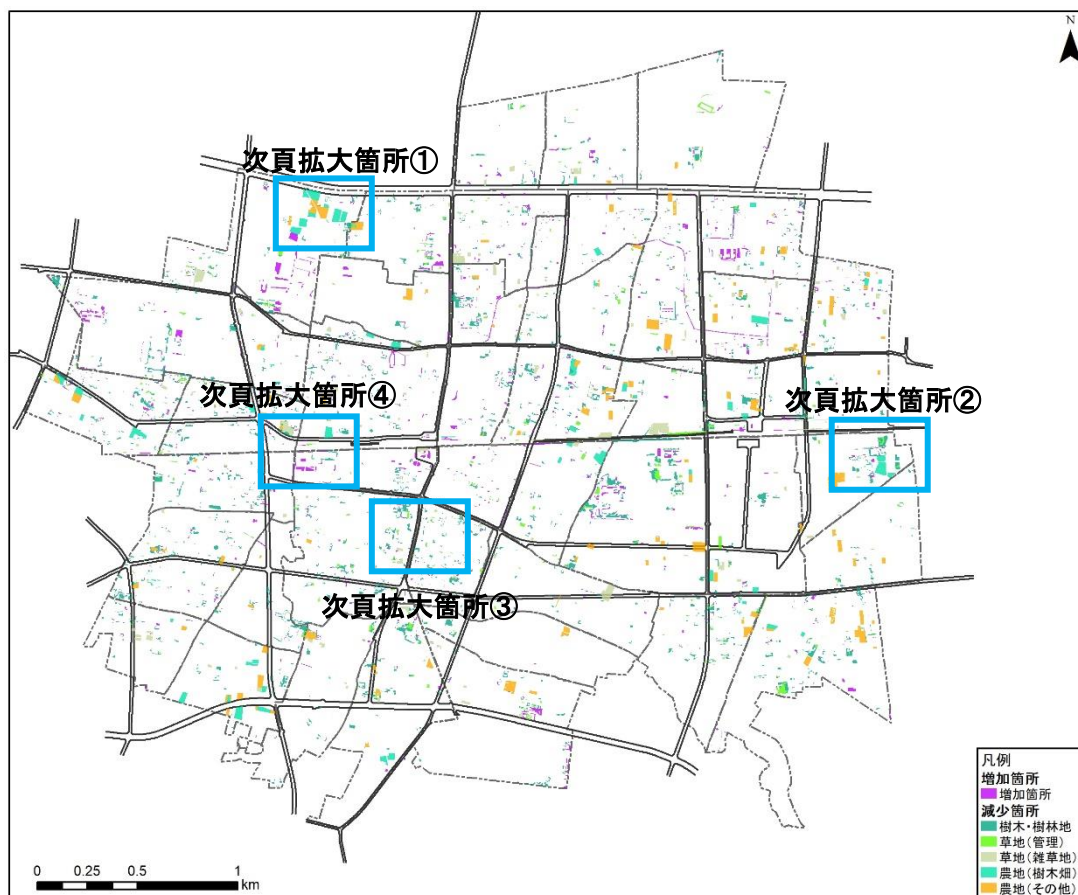


図1-2.16 緑被地の増減箇所図

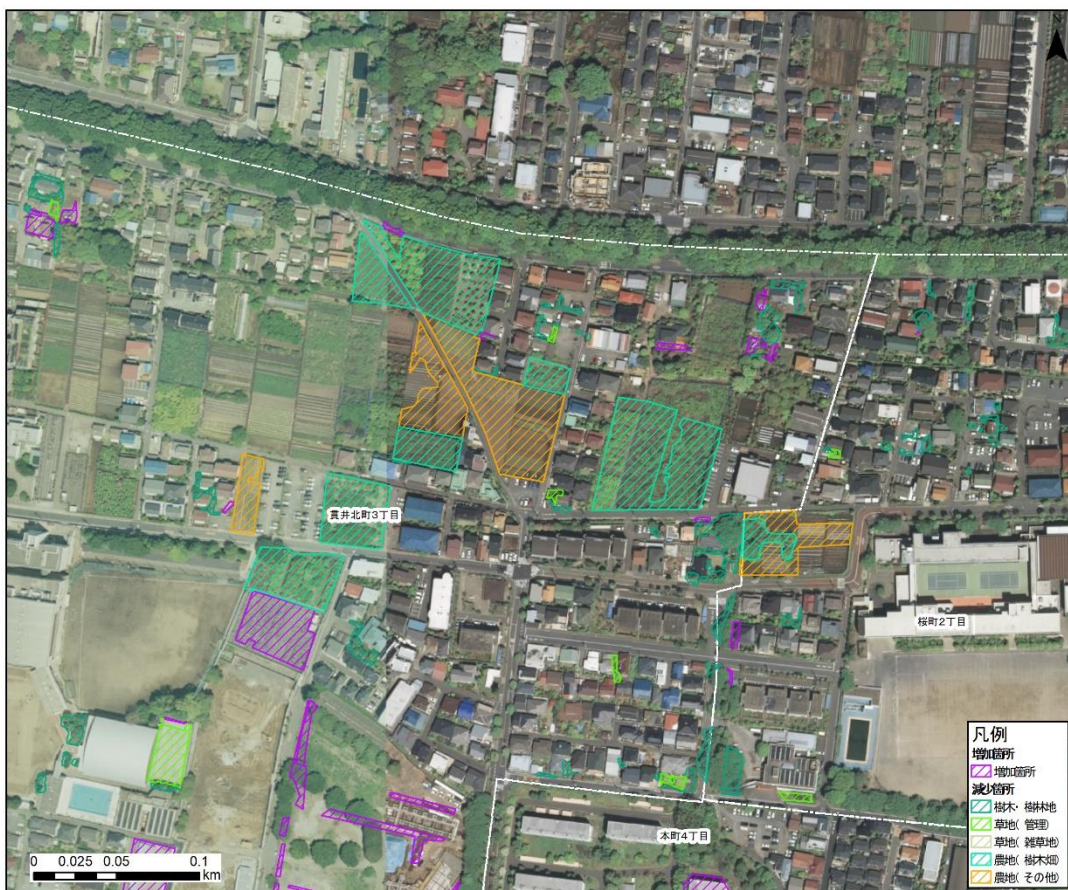


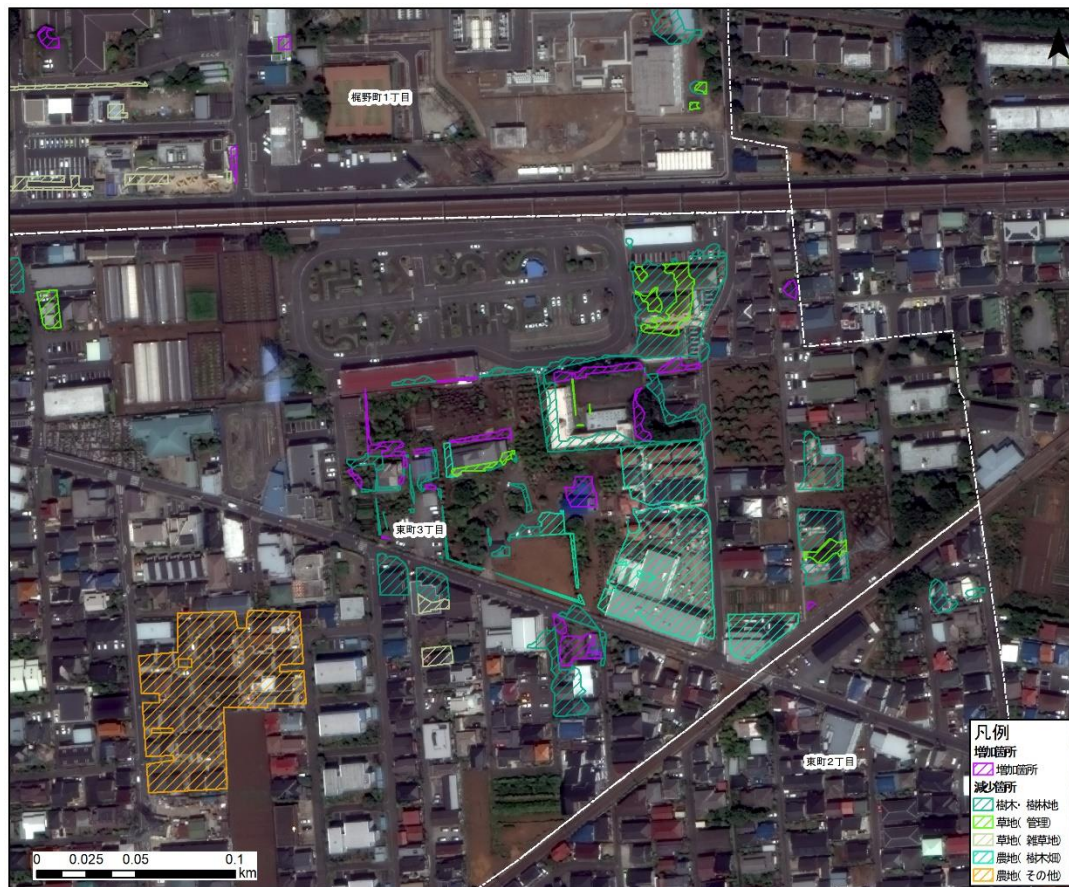
図1-2.17 減少箇所① 拡大図(農地⇒宅地)平成20~21年撮影(出典:地理院タイル)



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.
 図1-2.18 減少箇所① 拡大図(農地⇒宅地)令和元年撮影



図1-2.19 減少箇所② 拡大図（樹林地⇒宅地）平成20～21年撮影（出典：地理院タイル）



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.
 図1-2.20 減少箇所② 拡大図（樹林地⇒宅地）令和元年撮影



図 1-2. 2 1 減少箇所③ 拡大図 (国分寺崖線周辺) 平成 20~21 年撮影 (出典: 地理院タイル)



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図 1-2. 2 2 減少箇所③ 拡大図 (国分寺崖線周辺) 令和元年



図 1-2. 23 増加箇所④ 拡大図 (都立高校敷地内) 平成20~21年撮影 (出典: 地理院タイル)



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図 1-2. 24 増加箇所④ 拡大図 (都立高校敷地内) 令和元年

4) 地域別の緑被地の経年変化

地域別にみると、全ての地域で緑被地が減少しています。特に緑被率の減少が大きいのは、東地域と西地域で、それぞれ平成21年度に比べて東地域は4.5ポイント、西地域は4.2ポイント緑被率が減少しています。

表1-2.6 緑被地の増減（平成21年度～令和元年度）（地域別）

項目/地域	野川地域	東地域	北地域	中央地域	西地域	南地域	合計
地域面積(ha) [a]	182.94	177.87	249.10	132.11	181.08	205.03	1,130.0
平成10年度【参考】 緑被地面積(ha) (*1)	58.45	48.03	101.53	20.40	51.62	54.66	334.69
平成21年度 緑被地面積 (ha) [b]	79.00	49.48	106.33	22.29	61.83	62.39	381.32
令和元年度 緑被地面積 (ha) [c]	72.43	41.51	99.36	18.50	54.30	54.69	340.79
[c]-[b] 平成21年度～令和元年度 緑被地増減面積(ha)	△6.57	△7.97	△6.97	△3.79	△7.53	△7.70	△40.53
[c]/[a]-[b]/[a] 平成21年度～令和元年度 緑被率減少ポイント(%)	△3.6%	△4.5%	△2.8%	△2.9%	△4.2%	△3.8%	△3.6%

*1:平成10年度については、緑被の抽出精度が50m²であり、平成21年度及び令和元年度と抽出精度が異なる
※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

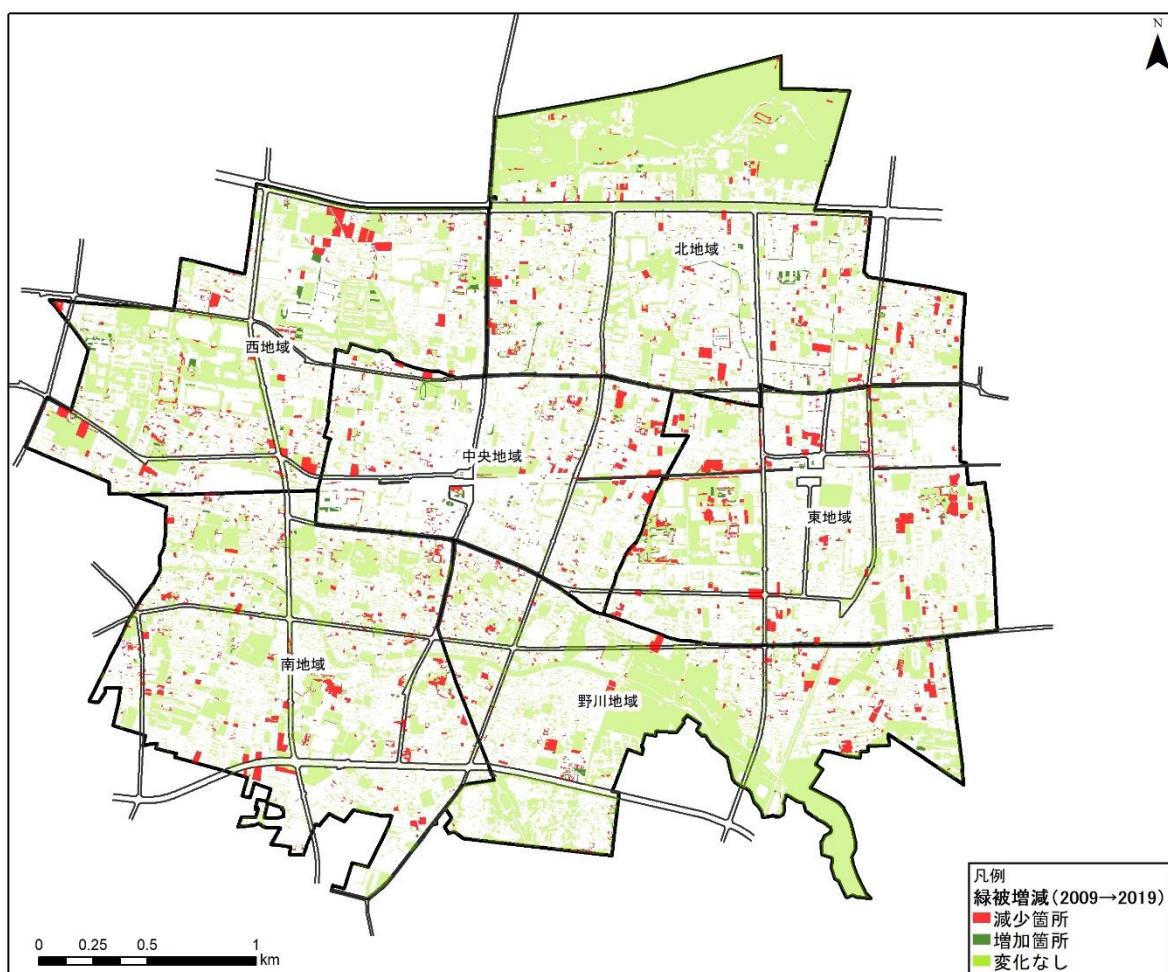
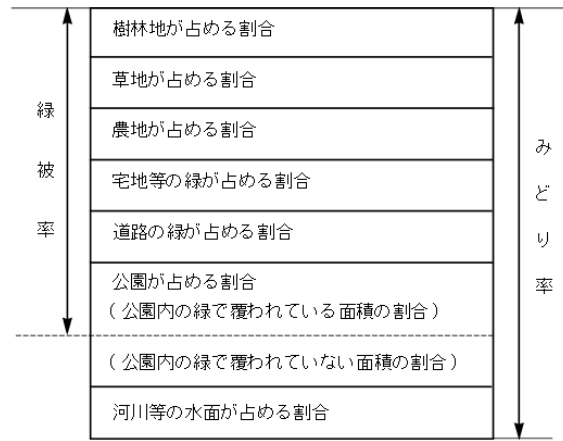


図1-2.25 緑被地別の増減箇所（地域別）

5) みどり率の算出と近隣市との比較

みどり率は、「緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合」によって算出されています。

本市においては、「緑被地（340.79ha）+管理されている裸地のうち、公園・緑地等（都市公園、児童遊園、子供広場、その他緑地）内に分布するもの（2.88ha）+水面（0.41ha）」の計344.08haが本市の面積（1,130ha）に占める割合がみどり率となり、 $344.08\text{ha} / 1,130\text{ha} = 30.4\%$ でした。



出典：緑の東京計画（平成12年, 東京都）

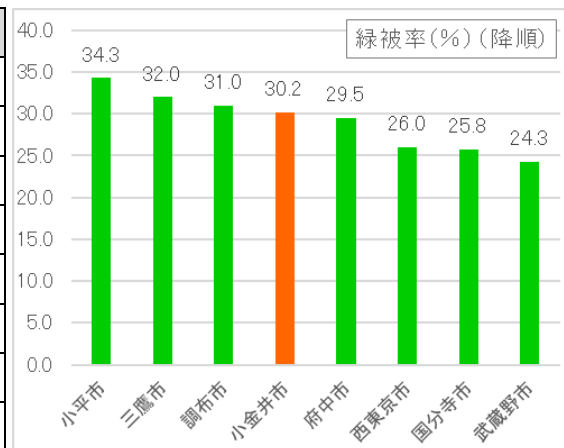
図1-2.26 緑被率とみどり率の関係

【参考】近隣市及び東京都の緑被率・みどり率

近隣市と比較すると、本市は4位に位置します。また、東京都全体でみると、本市のみどり率は区部よりは高い水準にあります。多摩部よりは低い水準となっています。

※調査年や調査方法が市町村毎に異なるため、参考情報として取り扱う

	市町村	緑被率(%)	みどり率(%)	調査年次
1	小平市	34.3	—	平成18年
2	三鷹市	32.0	—	平成24年
3	調布市	31.0	35.5	平成28年
4	小金井市	30.2	30.4	令和元年
5	府中市	29.5	39.0	平成28年
6	西東京市	26.0	—	平成20年
7	国分寺市	25.8	—	平成21年
8	武蔵野市	24.3	26.3	平成28年



資料)1:小平市みどりの基本計画2010,2:三鷹市緑と水の基本計画2022,3:調布市緑化基本調査報告書,4:本調査に基づく,5:府中市緑の基本計画(案),6:西東京市みどりの基本計画,7:国分寺市緑の基本計画,8:武蔵市自然環境等実態調査報告書

表 平成30年「みどり率」の調査結果

エリア		みどり率(用途別)				みどり率合計
区分	調査年	公園・緑地	農用地	水面・河川・水路	樹林・原野・草地	
都全域	平成25年参考値	3.8%	3.7%	2.6%	42.9%	53.0%
	平成30年	3.9%	3.4%	2.6%	42.6%	52.5%
	平成25年-平成30年変化	0.1	-0.3	0	-0.3	-0.5
区部	平成25年参考値	5.6%	1.0%	4.5%	13.3%	24.5%
	平成30年	5.7%	0.9%	4.5%	13.0%	24.2%
	平成25年-平成30年変化	0.1	-0.1	0	-0.3	-0.3
多摩部	平成25年参考値	2.8%	5.1%	1.5%	59.0%	68.4%
	平成30年	2.9%	4.7%	1.5%	58.7%	67.8%
	平成25年-平成30年変化	0.1	-0.4	0	-0.3	-0.6

出典)平成30年「みどり率」の調査結果について(平成30年,東京都環境局)

3. 緑地現況調査

(1) 調査方法

表1-3.1に示す、公園・緑地等や緑地保全地区（都市計画法）、生産緑地地区（都市計画法・生産緑地法）及び環境保全緑地（小金井市緑地保全及び緑化推進条例）等、制度上担保されている緑地、寺社境内地や公共施設内の緑地等、一般に安定しているとされる緑地（公園・みどり等）について、各種資料を収集し、図化及び面積の集計を行いました。なお、図化の対象とした公園・みどり等は経年比較が可能なように平成21年度に把握しているものを踏襲しました。

表1-3.1 調査対象とした公園・みどり等の図化の方法

調査対象とした公園・みどり等	図化に当たり使用した資料及び方法
街区公園	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
近隣公園	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
風致公園	都立公園ガイド2019～2020(東京都建設局)に準拠
広域公園	都立公園ガイド2019～2020(東京都建設局)に準拠
都市公園	※地区公園、総合公園、運動公園、動植物公園、歴史公園は該当なし
児童遊園	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
子供広場	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
その他の緑地	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
公園・緑地等	※都市計画緑地、都市計画広場は該当なし
都市計画墓園	平成28年度小金井市都市計画図データを使用
遊歩道・緑道	小金井の坂と遊歩道マップ第3版に準拠
街路樹	小金井の坂と遊歩道マップ第3版及び市提供資料をもとに、衛星写真を用いて現況を確認し、補正
市民農園	小金井市ホームページをもとに、位置及び名称を確認し、区域については、衛星写真を用いて作成
公立小中高等学校	平成29年度東京都土地利用現況調査(都市計画基礎調査)の「教育施設」データを使用
公共施設	公立小中学校を除く公共施設。平成29年度東京都土地利用現況調査(都市計画基礎調査)の「官公庁施設」に「教育文化施設」に含まれる「集会所」を追加
公共施設の緑地	
公園・緑地等 及び 公共施設の緑地	
私立小中高等学校・大学	平成29年度東京都土地利用現況調査(都市計画基礎調査)の「教育施設」データを使用
寺社境内地	平成29年度東京都土地利用現況調査(都市計画基礎調査)の「宗教施設」データを使用(広く公開性のある神社仏閣のみを抽出対象とした)
グラウンド	平成21年度のデータをもとに現況の変化の有無を確認
民間施設の緑地	
施設緑地	
特別緑地保全地区(都市緑地法)	平成28年度小金井市都市計画データを使用
生産緑地地区(都市計画法・生産緑地法)	平成28年度小金井市都市計画データに平成29年度から30年度の変更を反映
風致地区(都市計画法)	平成28年度小金井市都市計画データを使用
河川区域(河川法)	平成21年度データを使用
史跡、名勝(文化財保護法)	史跡玉川上水保存管理計画(平成19年、東京都)に準拠
法によるもの	
保全地域(東京都条例)	東京都ホームページに準拠
環境緑地(小金井市条例)	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
公共緑地(小金井市条例)	市提供資料に準拠(平成31年3月時点)
条例によるもの	
地域制緑地	

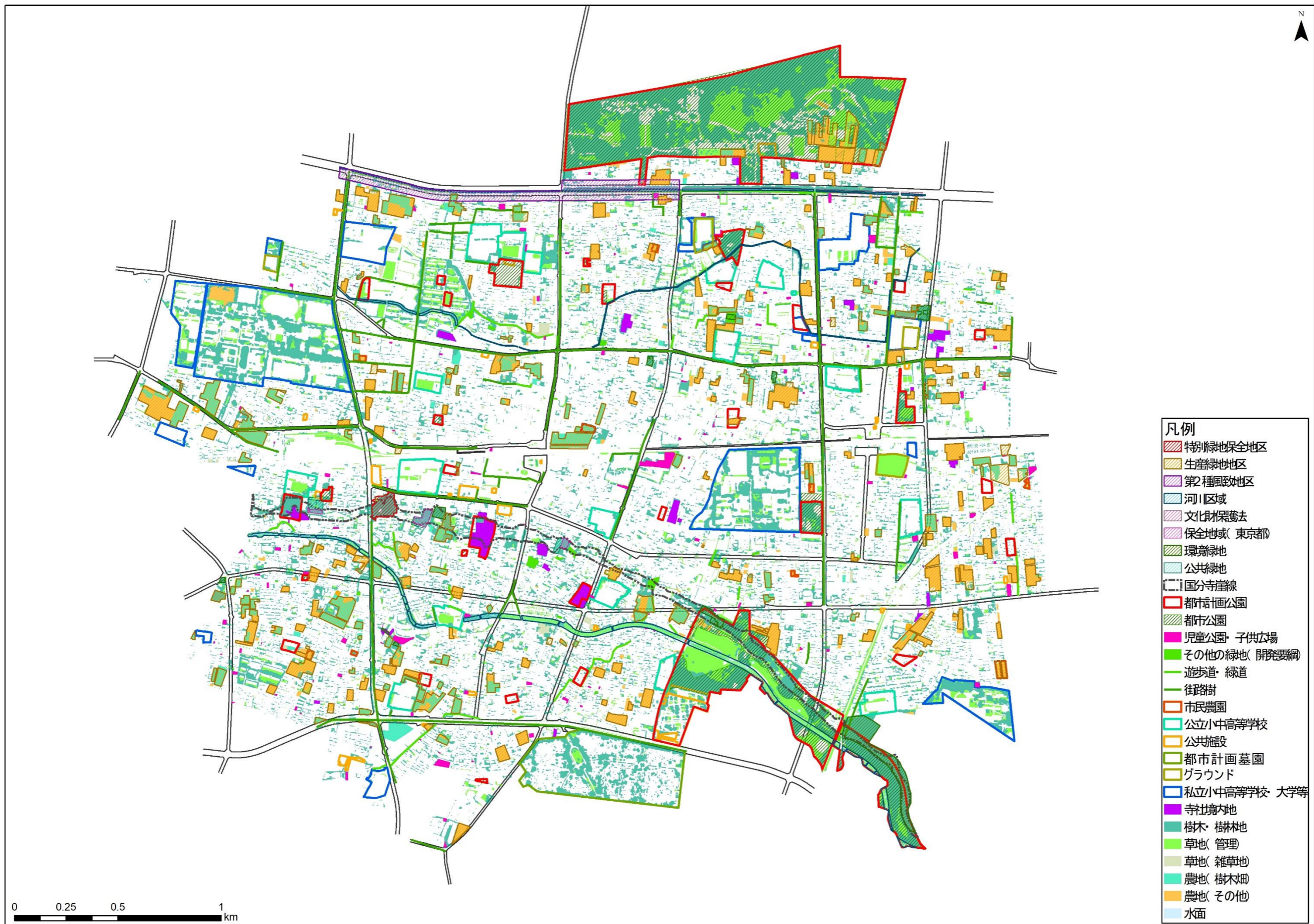


図1-3.1 公園・みどり等の分布図

(2) 調査結果

1) 集計結果

<施設緑地>

施設緑地は都市公園のほか、公共施設の敷地内の緑地及び民間施設緑地（私有地で公園・緑地等に準じる機能を持つ施設や社会通念上安定している緑地）により構成されており、227.25ha、市域の20.1%を占めています。

(公園・緑地等)

本市における、現在供用されている都市公園（都立公園含む）は14箇所、計79.62haであり、市域の7.0%を占めています。

条例により定められる児童遊園、子供広場、その他の緑地を含めると219箇所、計85.73haとなり、市域の7.6%を占めています。

(公共施設の緑地)

都市計画墓園、市民農園、公立小中高等学校及び公共施設を含めると、計57.28haであり、市域の5.1%を占めています。

(民間施設の緑地)

民間が保有しており、社会通念上安定した緑地（一般に大規模な改変が起こる可能性が少ない）として、私立小中高等学校及び大学、寺社境内地、学校に附帯しているグラウンド等を含めると、計84.24haであり、市域の7.5%を占めています。

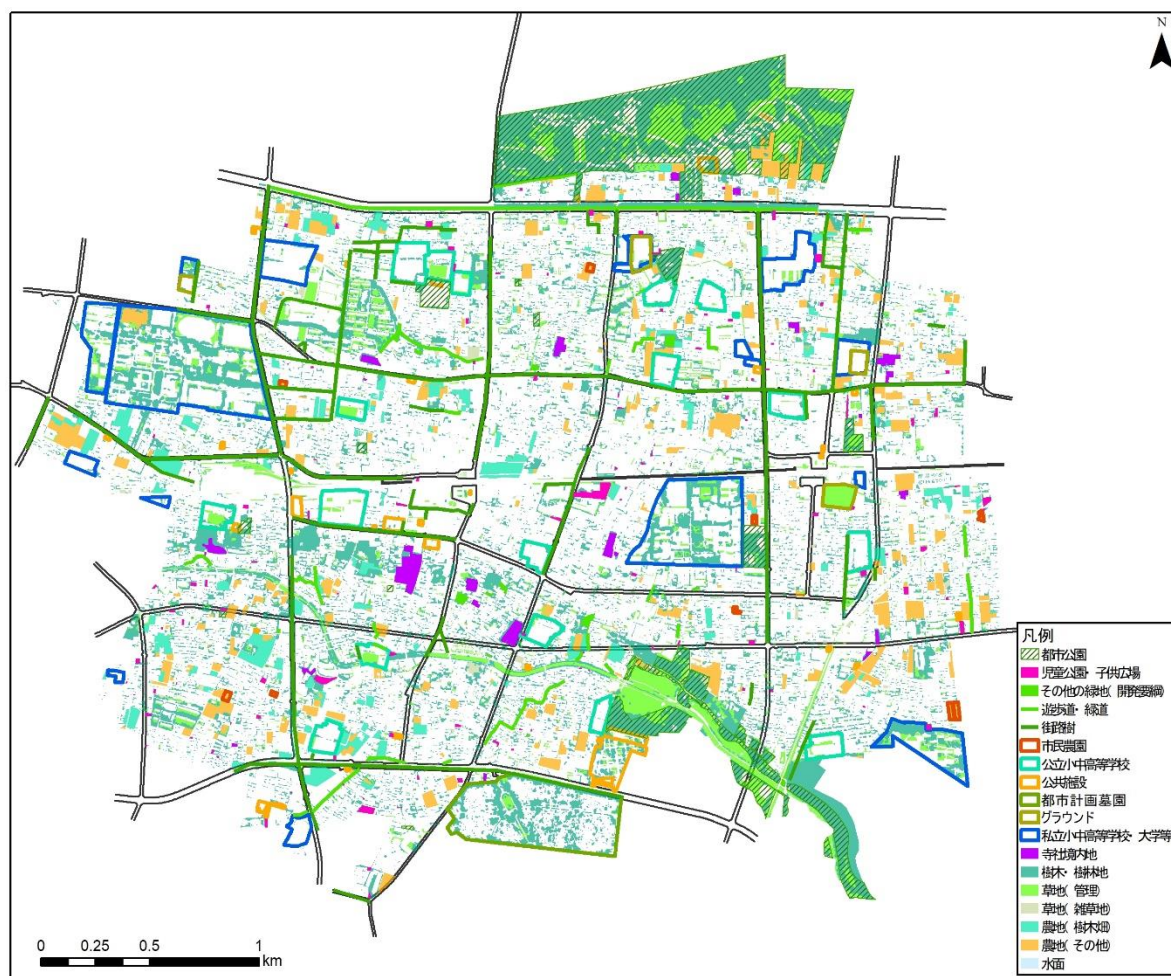


図1-3.2 施設緑地の分布状況

＜地域制緑地＞

地域制緑地は法や条例等により開発や緑地に対する行為が制限される緑地であり、89.84 ha、市域の8.0%を占めています。

■法によるもの

（特別緑地保全地区（都市緑地法））

緑地保全地区は、都市における良好な自然的環境となる緑地において、現状凍結的に保全する地区であり、本市においては、特に厳正な保全対象となる特別緑地保全地区として、滄浪泉園1箇所のみ指定されています。面積は1.29 ha、市域の0.1%を占めています。

（生産緑地地区（都市計画法・生産緑地法））

生産緑地地区は、都市計画上、農林漁業との調和を図ることを主目的とした地域地区の一つです。指定後30年間は営農を継続すること等、土地用途に規制が設けられます。本市における地域制緑地のうち、占める面積が最も大きいのは生産緑地地区であり、面積としては、60.89 ha、市域の5.4%を占めています。

（風致地区（都市計画法））

風致地区は、都市計画上、都市の風致を維持するために定められる地域地区の一つであり、地区内は、木竹の伐採等の行為には許可が必要となります。本市においては北部の玉川上水周辺において10.54 haが指定され、市域の0.9%を占めています。

（河川区域（河川法））

河川区域は、河川法上、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持されるよう河川区域内における一定の行為を規制することで、公共用物である河川を保全し、適正に管理する区域であり、当該区域内においては、木竹の伐採等の行為には許可が必要となります。本市においては野川及び仙川に合計8.36 haが指定され、市域の0.7%を占めています。

（史跡、名勝（文化財保護法））

史跡、名勝は、文化財保護法上、我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いものや芸術上又は観賞上価値の高いものとされており、改変行為については許可が必要となります。本市においては「玉川上水」が史跡に指定（名勝「小金井（サクラ）」を含む）されており、面積は計2.30 ha、市域の0.2%を占めています。

■ 条例によるもの

(国分寺崖線緑地保全地域 (東京都条例「東京における自然の保護と回復に関する条例」))

保全地域は、東京都の条例に基づき、良好な自然の生態系を保護するため指定される地域であり、地域の機能や目的に応じて、5つのタイプに分類・指定されます。地域内においては、宅地造成や木竹の伐採等の改変行為が規制されています。本市においては、5つのタイプのうち緑地保全地域として、「国分寺崖線緑地保全地域」1.31haが指定され、市域の0.1%を占めています。

(環境保全緑地 (小金井市条例「小金井市緑地保全及び緑化推進条例」))

環境保全緑地は、本市の条例に基づき、市民の健康で快適な生活環境を確保するために指定される緑地であり、環境緑地と公共緑地の2種類があります。環境緑地は、現状のまま保全されることが確約される樹木の集団、公共緑地は、公共の用に供されることが確約される土地とされています。現在、環境緑地は9件、4.78ha (市域の0.4%)、公共緑地は4件、0.37ha (市域の0.0% (0.03%)) があります。

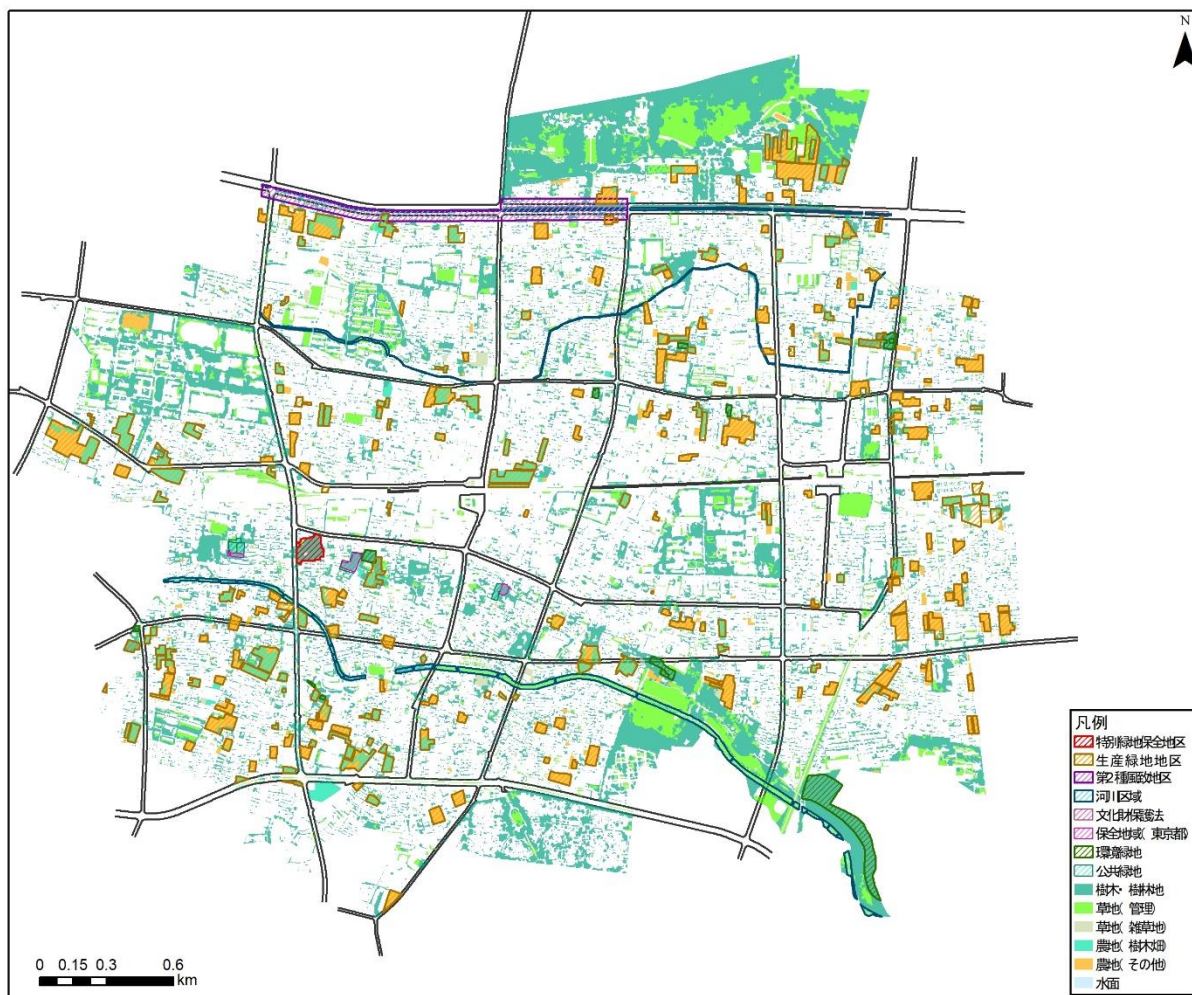


図1-3.3 地域制緑地の分布状況

表 1-3.2 調査対象とした公園・みどり等別の箇所数・面積（延長）

調査対象とした公園・みどり等	箇所	面積(ha) 延長(km)	市域に占める 割合(%)	備考
街区公園	7	1.13	0.1%	供用面積(*1)
近隣公園	4	5.65	0.5%	供用面積(*1)
風致公園	1	11.98	1.1%	供用面積(*1)
広域公園	2	60.86	5.4%	供用面積(*1)
都市公園 計	14	79.62	7.0%	供用面積(*1)
児童遊園	85	2.96	0.3%	供用面積(*1)
子供広場	46	1.28	0.1%	供用面積(*1)
その他の緑地	74	1.87	0.2%	供用面積(*1)
公園・緑地等 計	219	85.73	7.6%	供用面積(*1)
都市計画墓園	1	22.40	2.0%	供用面積(*2)
遊歩道・緑道(単位:km)	17	4.02	—	GIS 面測値
街路樹(単位:km)	—	22.07	—	GIS 面測値
市民農園	8	0.89	0.1%	供用面積(*2)
公立小中高等学校	17	26.93	2.4%	GIS 面測値
公共施設	28	7.06	0.6%	GIS 面測値
公共施設の緑地 計	—	57.28	5.1%	遊歩道・緑道、街路樹除く
公園・緑地等 及び 公共施設の緑地 計	—	143.01	12.7%	GIS 面測値を含む
私立小中高等学校・大学	16	74.38	6.6%	GIS 面測値
寺社境内地	21	5.78	0.5%	GIS 面測値
グラウンド	4	4.08	0.4%	GIS 面測値
民間施設の緑地 計	41	84.24	7.5%	GIS 面測値
施設緑地 合計	—	227.25	20.1%	GIS 面測値を含む
特別緑地保全地区(都市緑地法)	1	1.29	0.1%	公表面積(*2)
生産緑地地区(生産緑地法)	208	60.89	5.4%	決定面積(*2)
風致地区(都市計画法)	1	10.54	0.9%	GIS 面測値
河川区域(河川法)	2	8.36	0.7%	GIS 面測値
史跡、名勝(文化財保護法)	1	2.30	0.2%	公表面積(*2)
法によるもの計	213	83.38	7.4%	重複あり
保全地域(東京都条例)	3	1.31	0.1%	公表面積(*2)
環境緑地(小金井市条例)	9	4.78	0.4%	公表面積(*2)
公共緑地(小金井市条例)	4	0.37	0.0% (0.03%)	公表面積(*2)
条例によるもの計	16	6.46	0.6%	公表面積
地域制緑地 合計	229	89.84	8.0%	重複あり

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

*1:公園調書(H31,東京都)を元に集計

*2:小金井市提供資料による

2) 公園・緑地等の経年変化の把握

平成10年度、平成21年度にそれぞれ作成された緑地分布図との比較を行い、公園・緑地等の増減箇所を把握するとともに、面積の集計を行いました。

<施設緑地>

(公園・緑地等)

都市公園法及び条例により定められる公園・緑地等は、平成21年度以降、箇所、面積ともに増加傾向にあります。都市公園は2箇所(面積3.11ha)、児童遊園は11箇所(面積0.30ha)、子供広場は1箇所(面積0.004ha)、その他の緑地は8箇所(面積0.51ha)、とそれぞれ増加しています。

表1-3.3 公園・緑地等の箇所の経年変化

公園・緑地等	[a]	[b]	[c]	[c]-[b]
	平成10年度 (箇所)	平成21年度 (箇所)	平成30年度 (箇所)	平成21-30年度 経年変化(箇所)
都市公園	9	12	14	2
児童遊園	54	74	85	11
子供広場	43	45	46	1
その他の緑地	57	66	74	8
合計	163	197	219	22

※平成10年度、21年度時点の箇所数についても公園調書(H31,東京都)を用いて再集計を実施

表1-3.4 公園・緑地等の面積の経年変化

公園・緑地等	[d]	[e]	[f]	[f]-[e]
	平成10年度 (ha)	平成21年度 (ha)	平成30年度 (ha)	平成21-30年度 経年変化(ha)
都市公園	73.24	76.51	79.62	3.11
児童遊園	1.96	2.66	2.96	0.30
子供広場	1.26	1.28	1.28	0.00(0.004)
その他の緑地	1.21	1.36	1.87	0.51
合計	77.67	81.81	85.73	3.92

※平成10年度、21年度時点の面積についても公園調書(H31,東京都)を用いて再集計を実施

※数値の端数処理(小数第3位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

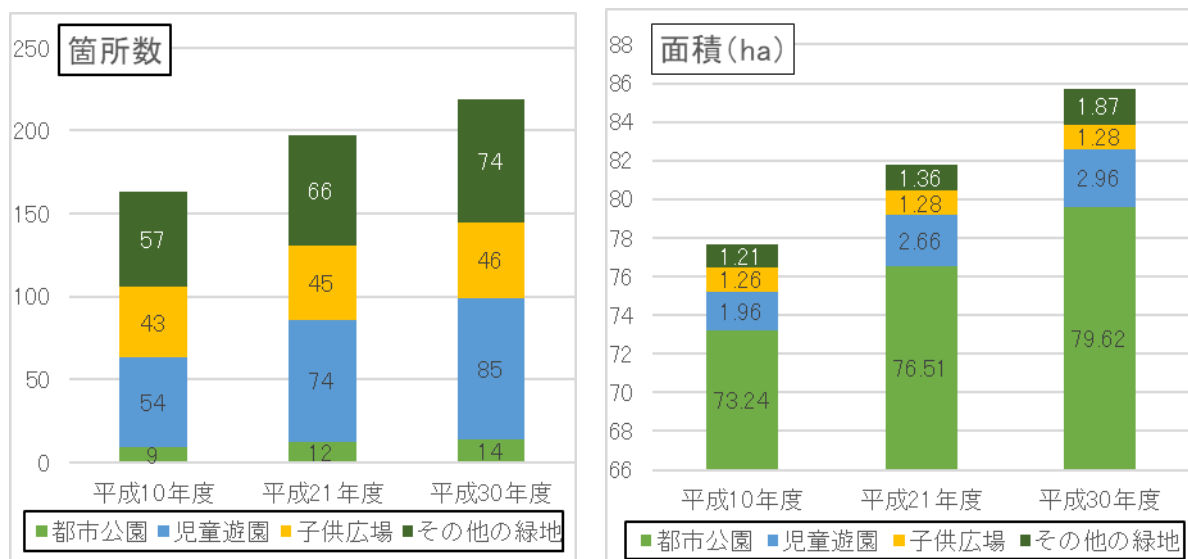


図1-3.4 公園・緑地等の箇所・面積の経年変化(左図:箇所 右図:面積)

<地域制緑地>

(生産緑地地区)

生産緑地地区は、箇所・面積ともに減少傾向にあり、平成10年度と比べると21.14ha、平成21年度と比べると9.37ha減少しています。

表1-3.5 生産緑地地区の箇所・面積の経年変化

	[a] 平成10年度	[b] 平成21年度	[c] 平成30年度	[c]-[a] 平成10-30年度 経年変化	[c]-[b] 平成21-30年度 経年変化
箇所	256	232	208	△48	△24
面積(ha)	82.03	70.26	60.89	△21.14	△9.37

※数値の端数処理(小数第3位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

(環境保全緑地(環境緑地・公共緑地))

環境保全緑地は、箇所・面積ともに減少傾向にあり、平成10年度と比べると、環境緑地は0.83ha、公共緑地は0.71ha減少しています。平成21年度と比べると、環境緑地は0.47ha、公共緑地は0.44ha減少しています。

表1-3.6 環境保全緑地の箇所・面積の経年変化

種別	[a] 平成10年度		[b] 平成21年度		[c] 平成30年度		[c]-[a] 平成10-30年度 経年変化	[c]-[b] 平成21-30年度 経年変化
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	面積(ha)	面積(ha)
環境緑地	14	5.61	12	5.25	9	4.78	△0.83	△0.47
公共緑地	9	1.08	5	0.81*	4	0.37	△0.71	△0.44

※数値の端数処理(小数第3位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

*:小金井市提供資料に基づき再集計を実施

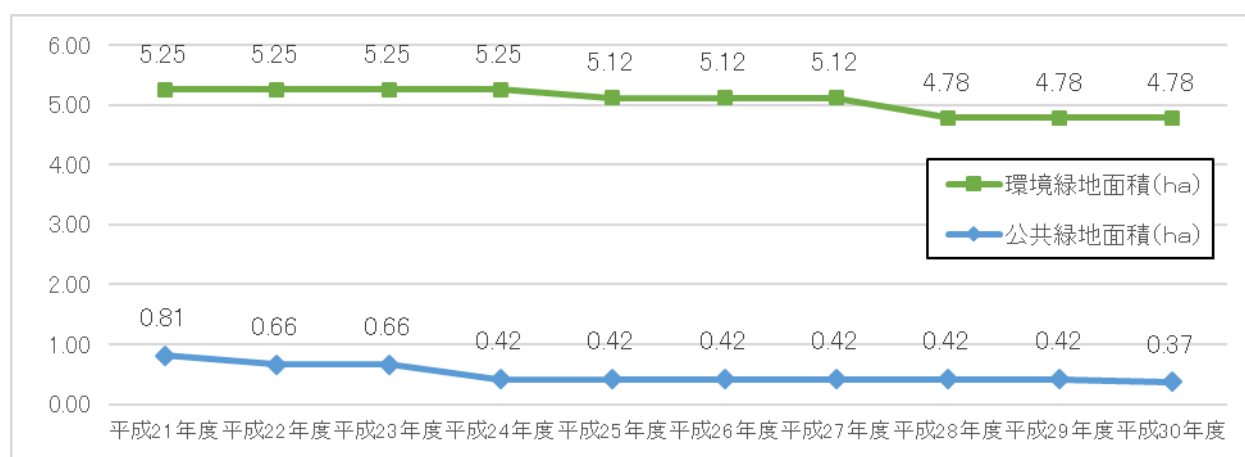


図1-3.5 環境保全緑地の箇所・面積の経年変化

表 1-3.7 調査対象とした公園・みどり等の経年変化（平成10-30年度）

調査対象とした公園・みどり等	平成10年度		平成21年度		平成30年度	
	箇所	面積(ha) 延長(km)	箇所	面積(ha) 延長(km)	箇所	面積(ha) 延長(km)
街区公園(*1)	3	0.64	6	1.05	7	1.13
近隣公園(*1)	3	4.69	3	4.69	4	5.65
風致公園(*1)	1	9.33	1	10.31	1	11.98
広域公園(*1)	2	58.58	2	60.46	2	60.86
都市公園 計(*1)	9	73.24	12	76.51	14	79.62
児童遊園(*1)	54	1.96	74	2.66	85	2.96
子供広場(*1)	43	1.26	45	1.28	46	1.28
その他の緑地(*1)	57	1.21	66	1.36	74	1.87
公園・緑地等(都立公園含む) 計	163	77.67	197	81.81	219	85.73
都市計画墓園	1	22.40	1	22.40	1	22.40
遊歩道・緑道(単位:km)	—	—	15	—	17	4.02
街路樹(単位:km)	—	—	—	16.70	—	22.07
市民農園	9	0.92	12	1.05	8	0.89
公立小中高等学校(*4)	14	20.72	14	20.71	17	26.93
公共施設	—	—	—	—	28	7.06
公共施設の緑地 計	—	44.04	—	44.16	—	57.28
公園・緑地等 及び 公共施設の緑地 計	—	121.71	—	125.97	—	143.01
私立小中高等学校・大学	4(*3)	58.10	4(*3)	58.27	16	74.38
寺社境内地	9	5.84	9	5.82	21	5.78
グラウンド	3	4.95	4	6.83	4	4.08
民間施設の緑地 計	16	68.89	17	70.92	41	84.24
施設緑地 合計	—	190.60	—	196.89	—	227.25
特別緑地保全地区(都市緑地法)	1	1.20	1	1.20	1	1.29
生産緑地地区(生産緑地法)	256	82.03	232	70.26	208	60.89
風致地区(都市計画法)	1	10.54	1	10.54	1	10.54
河川区域(河川法)	2	12.60	2	8.36	2	8.36
史跡、名勝(文化財保護法)	1	2.30	1	2.30	1	2.30
法によるもの計	261	108.67	237	92.66	213	83.38
保全地域(東京都条例)	2	0.53	3	1.31	3	1.31
環境緑地(小金井市条例)(*2)	14	5.61	12	5.25	9	4.78
公共緑地(小金井市条例)(*2)	9	1.08	5	0.81	4	0.37
条例によるもの計	25	7.22	20	7.37	16	6.46
地域制緑地 合計	286	115.89	257	100.03	229	89.84

※数値の端数処理(小数第3位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

*1:平成10年度、21年度時点の面積についても公園調書(H31,東京都)を用いて再集計を実施

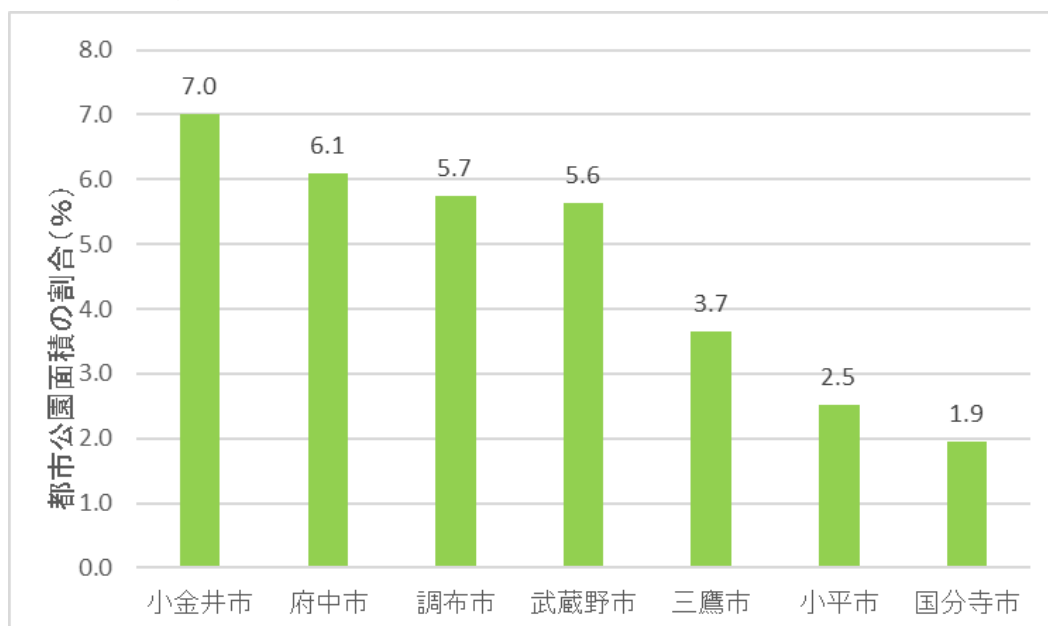
*2:小金井市提供資料に基づき再集計を実施

*3:平成10年度及び平成21年度については大学のみ集計

*4:平成10年度及び平成21年度については公立小中学校のみ集計

3) 近隣市との比較

本市及び近隣市の市域に占める都市公園面積（都立公園含む）の割合を図1-3.6に示します。本市は市域に占める都市公園面積の割合が7.0%と高い水準にあります。



資料)平成30年度公園調書(平成31年4月,東京都)

図1-3.6 本市及び近隣市の市域に占める都市公園面積の割合の比較

4. 緑化状況調査

(1) 調査方法

緑化状況を土地利用別に把握するため、平成29年度東京都土地利用現況調査により把握されている公共用地、商業用地、工業用地及び農業用地等に関するデータ（図1-4.1参照）と緑被現況調査により作成した緑被分布図を重合し、用地別の緑被面積や緑被率の算出を行いました。各用地に具体的に含まれる施設は参考（p.55）に示すとおりです。

また、民有地緑化の助成制度の一つである生け垣造成奨励金交付制度について、申請件数及び奨励金により整備された生け垣の総延長を整理し、その経年変化を把握しました。

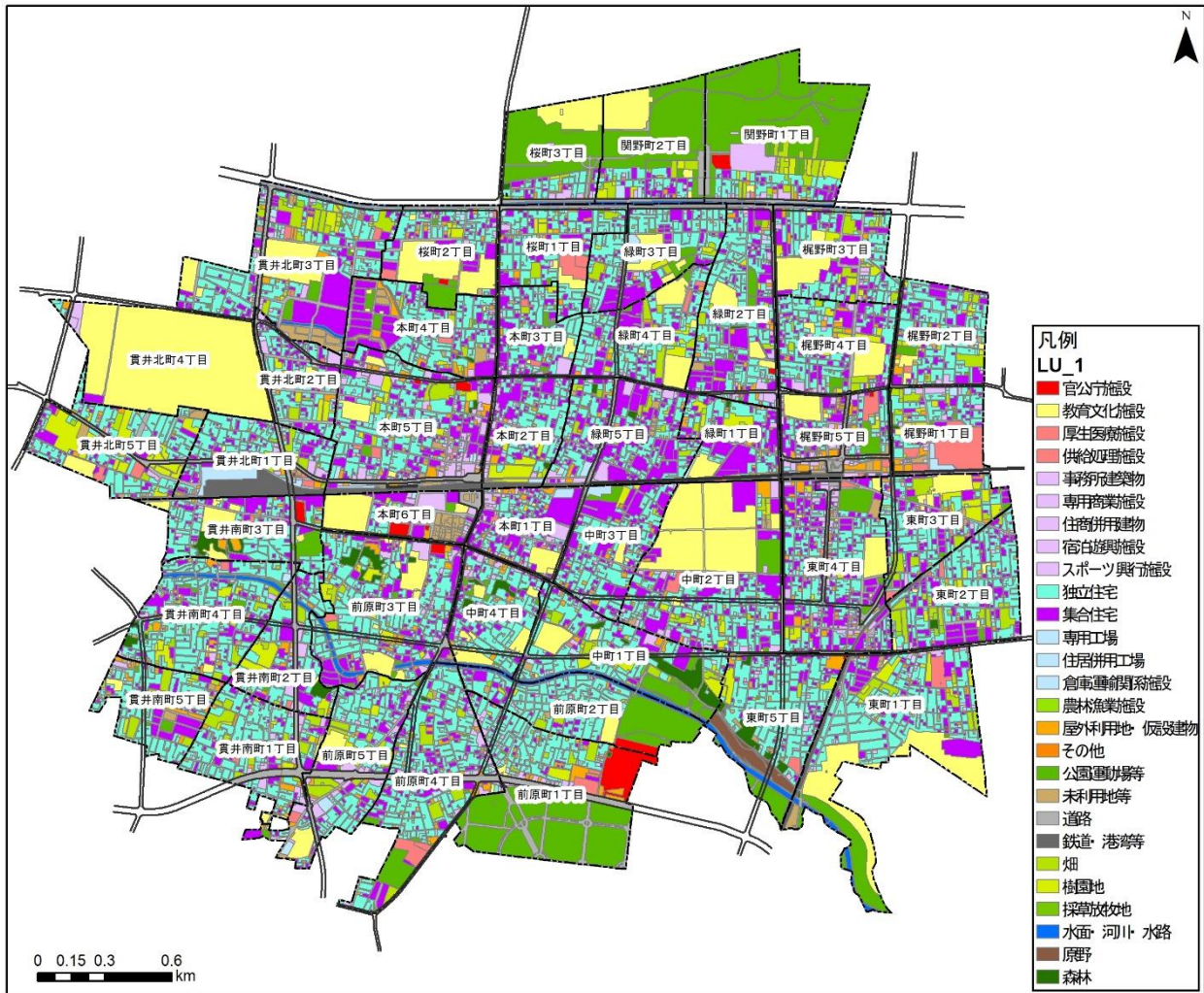


図1-4.1 土地利用現況図

(2) 調査結果

1) 公共用地における緑化の状況

公共用地における緑化状況を表1-4.1に示します。公共用地における緑被面積は55.90ha、緑被率は37.4%となっています。官公庁施設については、緑被面積が2.54ha、緑被率は37.8%、寺社仏閣のみどり等を含む教育文化施設については緑被面積が50.43ha、緑被率は39.8%となっています。

表1-4.1 公共用地における緑被面積

種別	樹木・樹林地	草地(管理)	草地(雑草地)	農地(その他)	農地(樹木畑)	敷地面積	緑被面積	緑被率
官公庁施設	2.11	0.42	0.00	0.00	0.00	6.72	2.54	37.8%
教育文化施設	39.97	9.38	0.13	0.92	0.03	126.61	50.43	39.8%
厚生医療施設	1.69	0.49	0.05	0.02	0.00	10.77	2.25	20.9%
供給処理施設	0.32	0.36	0.00	0.00	0.00	5.58	0.68	12.3%
合計	44.09	10.66	0.18	0.94	0.04	149.67	55.90	37.4%

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある
 ※平成29年度の土地利用現況図と令和元年度の緑被分布図を重合しているため、緑被地の種別と用地の種別が整合しない場合がある

2) 公共用地以外の用地における緑化の状況

公共用地以外の用地における緑化状況を表1-4.2に示します。全体の緑被面積は92.04ha、緑被率は16.3%です。スポーツ・興行施設、農林漁業施設を除き、20%以下となっています。

表1-4.2 公共用地以外の用地における緑被面積

種別	樹木・樹林地	草地(管理)	草地(雑草地)	農地(その他)	農地(樹木畑)	敷地面積	緑被面積	緑被率	
商業用地	事務所建築物	0.53	0.09	0.01	0.01	0.01	7.78	0.64	8.3%
	専用商業施設	0.48	0.17	0.03	0.04	0.02	15.59	0.74	4.8%
	住商併用建物	1.61	0.25	0.06	0.10	0.04	23.37	2.05	8.8%
	宿泊・遊興施設	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.72	0.01	1.2%
	スポーツ・興行施設	0.73	0.63	0.12	0.00	0.00	3.32	1.49	44.7%
住宅用地	独立住宅	48.45	6.18	1.48	2.20	1.39	331.56	59.71	18.0%
	集合住宅	16.30	6.73	0.87	0.51	0.50	169.96	24.92	14.7%
工業用地	専用工場	0.36	0.10	0.02	0.00	0.00	3.50	0.49	14.0%
	住居併用工場	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.83	0.04	5.4%
	倉庫運輸関係施設	0.28	0.50	0.04	0.02	0.01	6.00	0.86	14.3%
農業用地	農林漁業施設	0.71	0.05	0.01	0.12	0.20	2.16	1.09	50.7%
合計	69.50	14.73	2.64	3.01	2.17	564.78	92.04	16.3%	

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある
 ※平成29年度の土地利用現況図と令和元年度の緑被分布図を重合しているため、緑被地の種別と用地の種別が整合しない場合がある

【参考】平成29年度東京都土地利用現況調査により把握されている土地利用と分類

2-2 土地建物用途分類

公 共 用 地	官 公 庁 施 設	官公署及び出先機関、警察署及び派出所、消防署、郵便局、税務署、裁判所、大使館	
	教 育 文 化 施 設	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専修学校、各種専門学校、研修所、研究所、美術館、博物館、図書館、公会堂、寺社、教会、町内会館、自動車教習所	
	厚 生 医 療 施 設	病院、診療所、保健所、保育所、託児所、高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設	
	供 給 処 理 施 設	上水道施設、電力供給施設（発電所、変電所）、都市ガス供給施設、卸売市場、ごみ焼却施設、廃棄物処理施設、下水道施設、と畜場、火葬場	
商 業 用 地	事 務 所 建 築 物	事務所、営業店舗（銀行、証券会社等）、新聞社、放送局、NTT、計算センター、医師会館	
	専 用 商 業 施 設	専用商業施設（住宅を含まないもの）、デパート、スーパーマーケット、小売店舗、卸売店舗、ガソリンスタンド、飲食店、公衆浴場、サウナ	
	住 商 併 用 施 設	住居併用店舗、事務所（物販・飲食・美容理容等の店舗、間屋、税理・会計・司法・不動産・給排水・塗装・建築などの事務所）、住居併用作業所付店舗（豆腐・菓子・パン等の自家用製造販売）	
	宿 泊 ・ 遊 興 施 設	ホテル、旅館、ユースホステル、バンケットを主とする会館、バー、キャバレー、ナイトクラブ、料亭、待合、ソープランド、モーテル、パチンコ店、麻雀屋、ビリヤード、ゲームセンター、カラオケボックス、ダンス教習所	
	ス ポ ー ツ ・ 興 行 施 設	（屋内又は観覧席を有するもの）体育館、競技場、野球場、水泳場、スケート場、ボウリング場、競馬競輪場等、劇場、演芸場、映画館、オーデトリウムを主体とする会館（民間主体のもの）	
住 宅 用 地	独 立 住 宅	専用户建住宅、住宅を主とする塾、教室、医院等の併用建築物	
	集 合 住 宅	公団・公社・公営住宅、アパート、マンション、独身寮、寄宿舎、家族寮、長屋、テラスハウス、タウンハウス	
工 業 用 地	専 用 工 場	右記の専用工場、専用作業所	工場、作業所、生コン工場、精米工場、自動車修理工場、洗濯作業を伴うクリーニング店
	住 居 併 用 工 場	右記の併用工場、作業所併用住宅	
	倉 庫 ・ 運 輸 関 係 施 設	自動車車庫、駐輪場（ただし事務所・住宅に付属する車庫は含まない。）、パーキングビル、バスターミナル、トラックターミナル（上屋又は事務所を伴うもの）、バス・タクシー・トラック車庫、倉庫、屋根付き資材置場、流通センター、配送所	
農 業 用 地	農 林 漁 業 施 設	温室、サイロ、畜舎、養魚場、その他農林漁業施設	
	屋 外 利 用 地、仮 設 建 物	（屋外利用又は仮設利用のもの）材料置場、屋外駐車場、屋外展示場、飯場、プレハブ住宅展示場、中古車センター	
	公 園 ・ 運 動 場 等	（屋外利用を主とするもの）公園緑地、運動場、野球場、遊園地、ゴルフ場、ゴルフ練習場、釣り堀、バッティングセンター、ローラースケート場、テニスコート、屋外プール、馬術練習場、フィールドアスレチック、墓地	
	未 利 用 地 等	宅地で建物を伴わないもの、建築中で用途不明のもの、区画整理中の宅地、取壊し跡地、廃屋埋立地	
	道 路	街路、歩行者道路、自転車道路、農道、林道、団地内通路	
	鉄 道 ・ 港 湾 等	鉄道、軌道、モノレール、空港、港湾	
農 用 地	農 地	田	水稻、い草、蓮などかんがい施設を有し、たん水を必要とする作物を栽培する耕地
		畑	野菜、穀物、生花、苗木など草本性作物を栽培する畑
		樹 園 地	果樹園、茶、桑など木本性植物を集团的に栽培する畑
	採 草 放 牧 地	牧場、牧草地など人手の入った草地	
	水 面 ・ 河 川 ・ 水 路	河川、運河、湖沼、遊水池、海	
林 野	森 林	樹林、竹林、はい松地、しの地、山地、竹木が集团的に生育する土地	
	原 野	野草地など小かん木類の生育する自然のままの土地、荒地、裸地	
	そ の 他	自衛隊基地、在日米軍基地、火薬庫、採石場、ごみ捨場など	

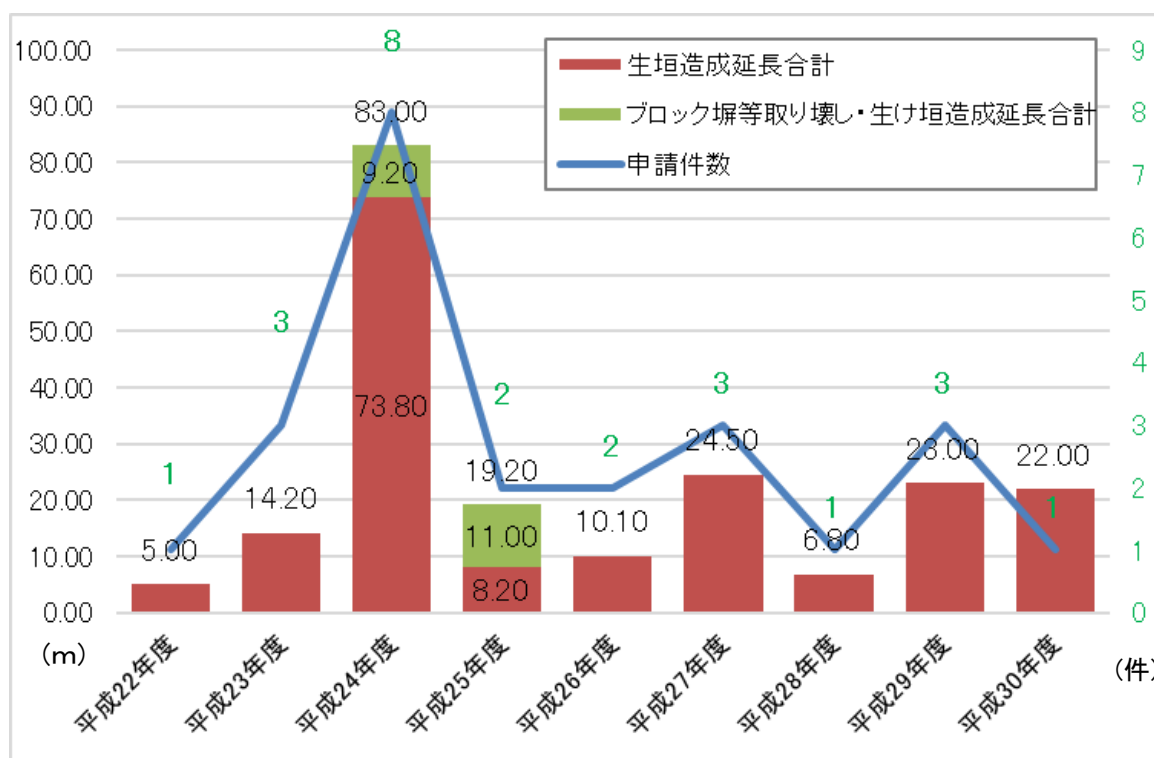
出典）東京の土地利用 平成29年多摩 島しょ地域 I. 概観・調査方法

3) 生け垣造成奨励金交付申請実績

平成22年度から30年度における生け垣造成奨励金交付申請数は計24件、総延長は207.80mでした。経年変化でみると、申請件数は、毎年変動はありますが、平成22年度は1件、平成25年度以降は1件から3件となっています。町別にみると、最も申請件数の多い町は東町で12件、92.90m、最も少ない町は桜町で2件、25.80mでした。

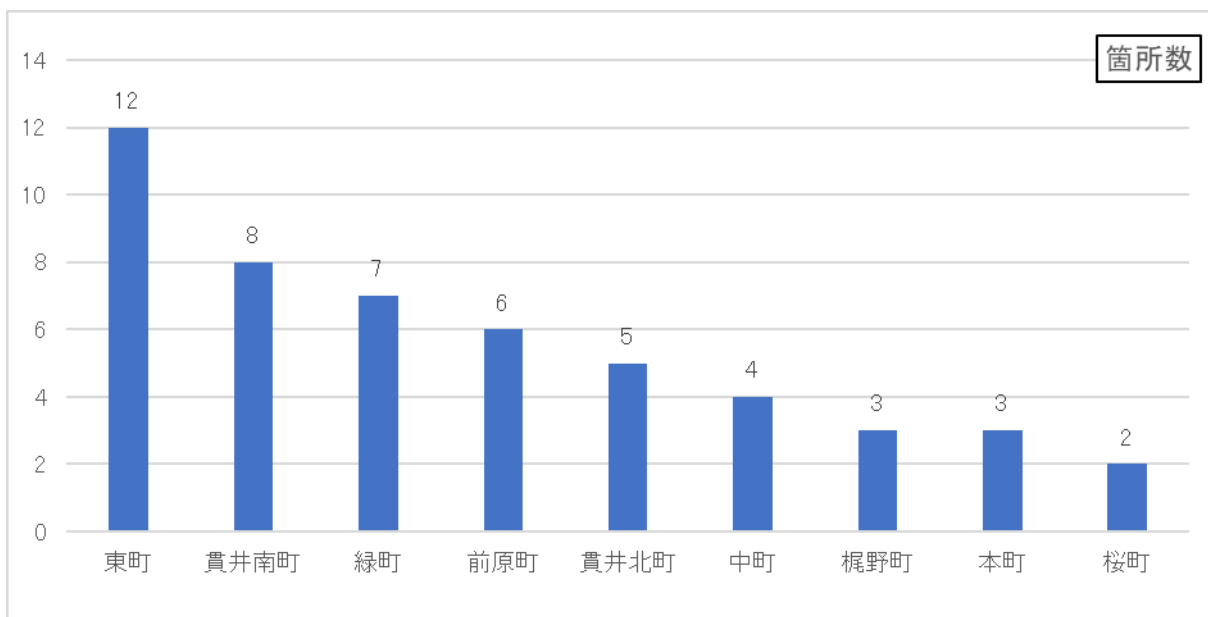
表2-4.3 生け垣造成奨励金交付申請件数・延長の経年推移

申請年度	申請件数	生け垣造成延長合計(m)	ブロック塀等取り壊し・生け垣造成延長合計(m)	合計(m)
平成22年度	1	5.00		5.00
平成23年度	3	14.20		14.20
平成24年度	8	73.80	9.20	83.00
平成25年度	2	8.20	11.00	19.20
平成26年度	2	10.10		10.10
平成27年度	3	24.50		24.50
平成28年度	1	6.80		6.80
平成29年度	3	23.00		23.00
平成30年度	1	22.00		22.00
総計	24	187.60	20.20	207.80



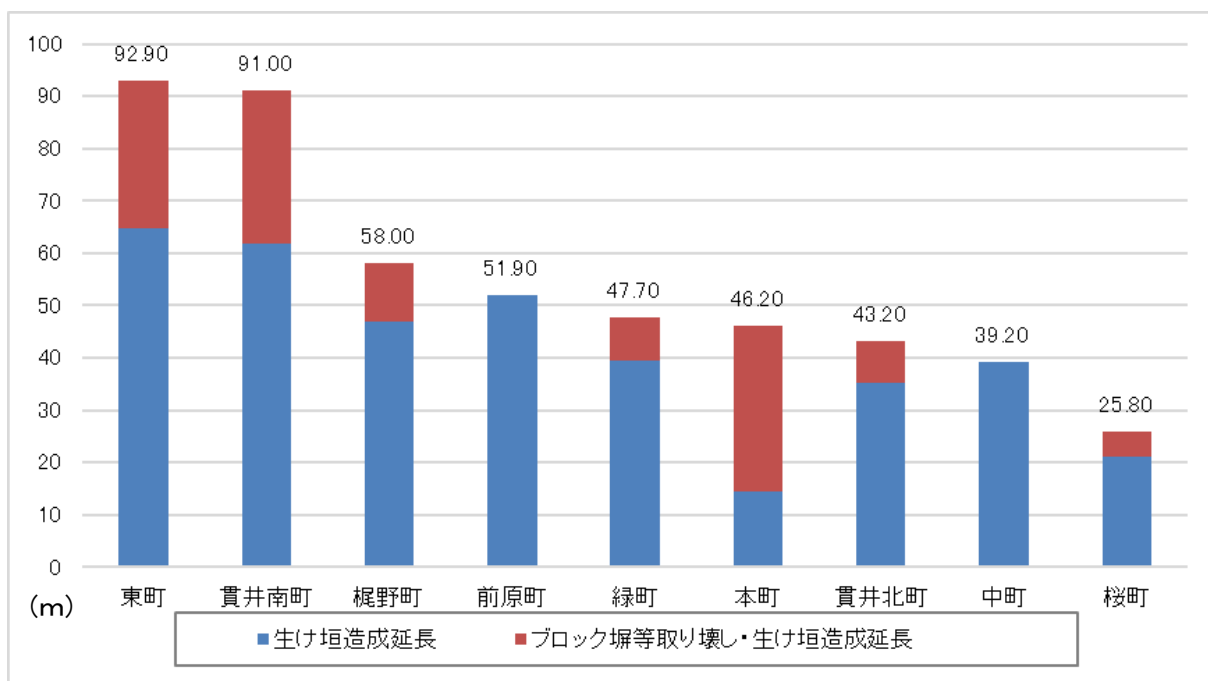
資料) 小金井市環境政策課資料

図1-4.2 生け垣造成奨励金交付申請件数・延長の経年推移



資料) 小金井市環境政策課資料

図1-4.3 町別生け垣造成奨励金交付申請実績(箇所数)(平成15年~平成30年累計)



資料) 小金井市環境政策課資料

図1-4.4 町別生け垣造成奨励金交付申請実績(延長m)(平成15年~平成30年累計)

5. 緑視現況調査

(1) 調査方法

緑視率とは、人の視界にみどりが占める割合であり、都市におけるみどりの量を把握する一つの指標として使用されています。

本調査では、平成21年度に実施された調査手法と同様に、対象とする道路の高さ1.5mに据えたカメラで沿道の進行方向を撮影しました。過年度調査で使用したカメラの仕様が不明であったため、人間の視野に近いとされる広角の焦点距離24mm（35mmフィルム換算）のコンパクトデジタルカメラを使用し、過年度調査で撮影された写真をもとに撮影範囲を調整しました。撮影は葉が確認できる夏季とし、雨天を避け、令和元年8月7日に実施しました。

(2) 調査地点

経年変化を把握するため過年度調査と同じ28地点を基本としつつ、新規2地点を合わせた計30地点を調査地点として選定しました。

新規の2地点については、「はけの道」周辺で宅地化によるみどりの減少がみられるため、今後の開発に伴うみどりの増減についてモニタリングを行うことを目的に追加しました。具体的には「はけの道」の中でも立ち止まり人目に触れることが多い、主要な坂「白伝坊の坂」、「観音坂」と交差する場所に設定しました。

■ 過年度調査地点（平成21年度）の設置の考え方

- ・都市構造区分や充足度合い等の比較となる路線を28区間設定し、区間内の1地点で緑視率を調査した。
- ・都市構造区分は用途地域の区分を参考とした。また平成21年度調査における緑被分布図及び緑被率、平成10年度の緑被分布及び緑被率を参考に調査地点を選定した。

（出典：小金井市緑の環境実態調査報告書 平成22年3月 小金井市）

■（新規）調査地点29（市道21号線・白伝坊の坂下）

特徴：生け垣のある家と無い家が混在する住宅地

目的：ブロック塀の撤去等による生け垣増加・減少の可能性や新規生け垣の整備の可能性等モニタリングを行うため

■（新規）調査地点30（市道21号線・観音坂下）

特徴：新築住宅や従来からある住宅および生産緑地が混在する住宅地

目的：新築住宅の緑化可能性や、生産緑地のみどりの維持・消失についてモニタリングを行うため

※公園・緑地等の公的に担保されたみどりは消失する恐れが少ないため、可能な限り避けるように撮影地点を選定した。

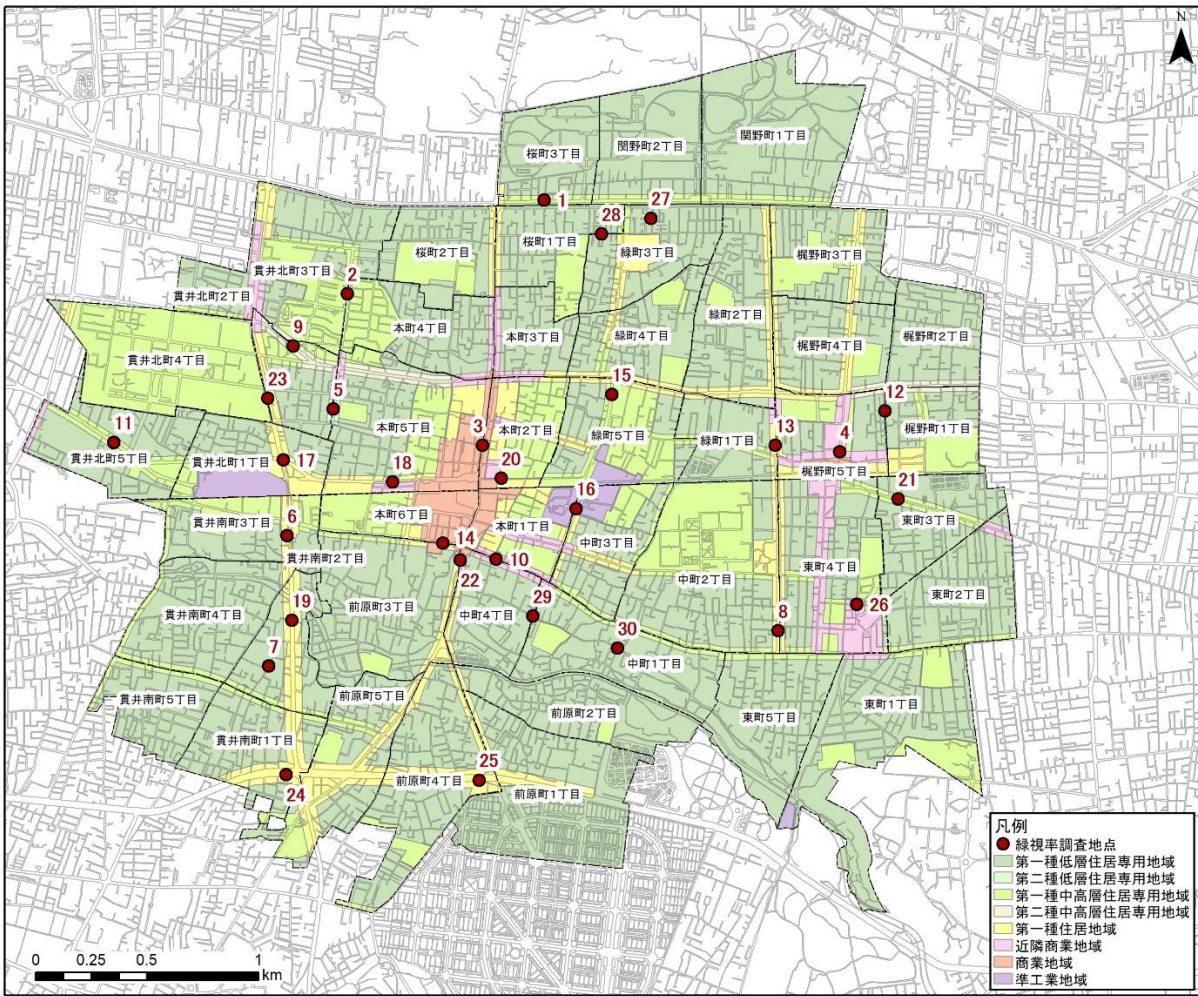


図 1-5.1 調査地点位置図

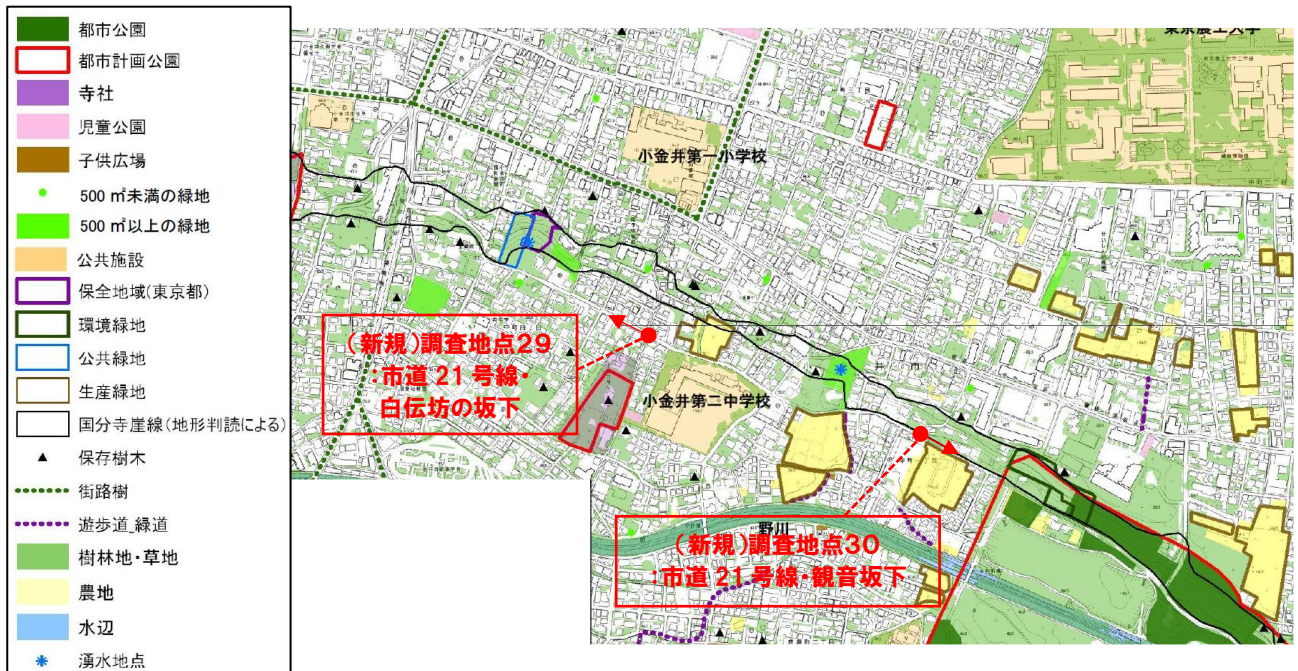


図 1-5.2 新規調査地点

表 1-5.1 調査地点一覧

調査地点	用途地域	場所
1	第一種中高層住居専用地域	桜町3丁目 五日市街道
2	第一種中高層住居専用地域	本町4丁目 ナンジャモンジャ通り
3	商業地域	本町5丁目 小金井街道
4	近隣商業地域	梶野町5丁目 梶野通り
5	第二種低層住居専用地域	本町5丁目 ナンジャモンジャ通り
6	第一種住居地域	貫井南町3丁目 新小金井街道（滄浪泉園緑地西側側道）
7	第一種低層住居専用地域	貫井南町2丁目 市道126号線（池の上通り東側）
8	第一種住居地域	中町2丁目 東大通り
9	第二種中高層住居専用地域	貫井北町2丁目 北大通り
10	近隣商業地域	本町1丁目 連雀通り
11	第一種中高層住居専用地域	貫井北町5丁目 連雀通り
12	第一種低層住居専用地域等	梶野町1丁目 都市計画道路小金井3・4・8号線
13	第一種住居地域	梶野町5丁目 東大通り
14	商業地域	本町6丁目 連雀通り
15	第一種中高層住居専用地域	緑町5丁目 緑中央通り
16	準工業地域	中町3丁目 緑中央通り
17	第一種住居地域	貫井北町1丁目 行幸通り
18	第一種住居地域	本町5丁目 行幸通り
19	第一種住居地域	貫井南町2丁目 新小金井街道
20	第一種住居地域	本町2丁目 市道411号線（武蔵小金井駅北口東側）
21	第一種中高層住居専用地域	東町3丁目 富士見通り
22	近隣商業地域	中町4丁目 小金井街道
23	第一種住居地域	貫井北町2丁目 新小金井街道
24	第一種住居地域	貫井南1丁目 東八道路
25	第一種住居地域	前原町4丁目 東八道路
26	近隣商業地域	東町4丁目 市道75号線（プラザ新小金井西側）
27	第一種低層住居専用地域	緑町3丁目 市道729号線（みどり公園東側）
28	第一種低層住居専用地域	桜町1丁目 緑桜通り
29	第一種低層住居専用地域	中町1丁目 市道21号線・白伝坊の坂下
30	第一種低層住居専用地域	中町1丁目 市道21号線・観音坂下

(3) 解析方法

Adobe Photoshop CC 2014を使用し、みどりの範囲を、過年度と同様に幹、枝を含む樹木や草花とし、着色しました。車や人、電柱やフェンス等の障害物は緑視率の算出範囲から除きましたが、過年度調査の算出範囲に含まれるものや、障害物が一時的なものであり、過年度調査写真と比べて明らかに障害物の背後にみどりがあると判断できるものは、緑視率の算出範囲として着色しました。

その後、Photoshop の解析ツールを活用し、着色部分と写真全体のピクセル数を計測しました。緑視率は以下の計算式により算出しています。

$$\text{緑視率 (\%)} = (\text{緑視率の算出範囲のピクセル数}) / (\text{写真全体のピクセル数}) * 100$$

(4) 調査結果

【過年度調査と同じ28地点】

過年度調査結果と比較する上で、使用カメラの焦点距離の違い等による誤差を踏まえ、5ポイントの緑視率の差はほぼ変わらないものとししました。その結果、過年度調査地点の28地点中、6地点で緑視率が増加、8地点で緑視率が減少、14地点で緑視率はほぼ変わりませんでした。

緑視率が増加した地点のうち、過年度調査との差が10ポイント以上と大きく変化した地点は5、14、17の3地点でした。調査地点5と14は街路樹の樹冠や生け垣が大きく成長し、調査地点17では建物の新設に伴う建物敷地内の緑化等が見られました。

緑視率が減少した地点のうち、過年度調査との差が10ポイント以上と大きく変化した地点は4、6、15、25、27の5地点でした。調査地点4、15、25は区画整理事業や道路の拡張等により植栽帯が消失しており、調査地点6、27は街路樹や民有地の植栽等で高木やまとまったみどりが伐採されていました。

表1-5.2 過年度（平成21年度）調査結果と比較した緑視率の増減

過年度（平成21年度） 調査結果との比較	緑視率が変化した地点 （±5ポイント以上 ±10ポイント未満）	緑視率が大きく変化した地点 （±10ポイント以上）
増加	3地点 （調査地点2、20、24）	3地点 （調査地点5、14、17）
ほぼ変わらない	14地点	
減少	3地点 （調査地点9、12、26）	5地点 （調査地点4、6、15、25、27）

【今年度新規に追加した2地点】

今年度新規に追加した調査地点のうち、29（市道21号線・白伝坊の坂）は14.7%、新規30（市道21号線・観音坂）は16.8%でした。

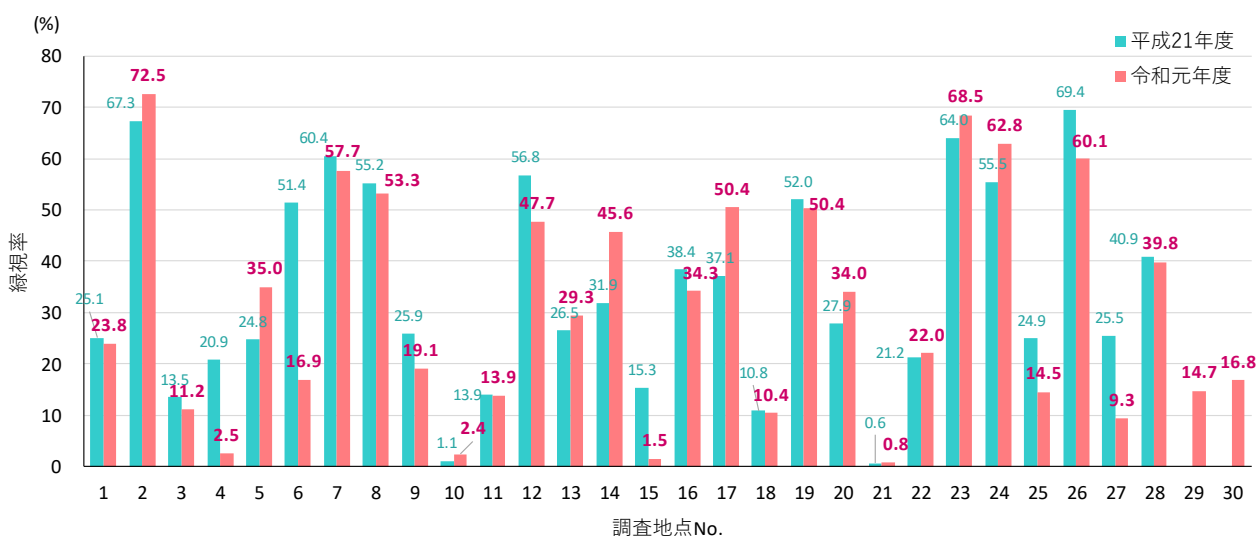


図1-5.3 各調査地点における緑視率（過年度（平成21年度）調査結果との比較）

※グラフ中の数値は平成21年度、令和元年度調査における各調査地点の緑視率を示す（数値は小数第1位まで表示）。

表 1-5.3 各調査地点における緑視率と緑視状況

調査地点	平成 21 年度 緑視率	令和元年度 緑視率 (平成 21 年度比±5 ポイント以上 増加: ▲、減少: ▼)
1 桜町 3 丁目 五日市街道	25.1%	23.8% (-1.3) 【緑視状況】 道路南側の玉川上水沿いに緑地が形成されています。北側は 民有地の植栽が見られます。また、風致地区に指定されています。
2 本町 4 丁目 ナンジャモンジャ通り	67.3%	72.5% (▲5.2) 【緑視状況】 公務員住宅敷地内の植栽、街路樹が見られます。
3 本町 5 丁目 小金井街道	13.5%	11.2% (-2.3) 【緑視状況】 武蔵小金井駅の北側に位置する商業地域です。街路樹は少な く、生け垣がまばらに見られます。
4 梶野町 5 丁目 梶野通り	20.9%	2.5% (▼18.4) 【緑視状況】 土地計画整理事業(東小金井駅北口地区地区計画)内に位置 しており、樹木が伐採されています。
5 本町 5 丁目 ナンジャモンジャ通り	24.8%	35.0% (▲10.2) 【緑視状況】 街路樹、民有地の植栽が見られます。
6 貫井南町 3 丁目 新小金井街道(滄浪泉 園緑地西側)	51.4%	16.9% (▼34.5) 【緑視状況】 特別緑地保全地区に指定されている滄浪泉園領地のポリュー ムのある広葉樹林が見られます。宅地造成に伴い街路樹等の高木が伐採さ れています。
7 貫井南町 2 丁目 市道 126 号線 (池の上通り東側)	60.4%	57.7% (-2.7) 【緑視状況】 まとまった生産緑地が見られます。
8 中町 2 丁目 東大通り	55.2%	53.3% (-1.9) 【緑視状況】 建物の建替えにより、マンションの外構植栽が見られます。 街路樹(高木・低木)が見られます。
9 貫井北町 2 丁目 北大通り	25.9%	19.1% (▼6.8) 【緑視状況】 歩道にある狭い植栽柵に低木が植栽されています。沿道の民 家には、鉢植え等が見られます。 沿道の民家に植栽されていた高木が伐採されています。
10 中町 4 丁目 連雀通り	1.1%	2.4% (+1.3) 【緑視状況】 連雀通り沿い(旧福社会館前)。街路樹はあまり見られません。

※数値の端数処理(小数第2位を四捨五入)している

調査地点	平成21年度 緑視率	令和元年度 緑視率 (平成21年度比±5ポイント以上 増加:▲、減少:▽)
11 貫井北町5丁目 連雀通り	13.9%	13.9% (±0) 【緑視状況】歩道の幅員が広く、街路樹が見られます。沿道の民家には、植栽が見られます。
12 梶野町1丁目 都市計画道路小金井 3・4・8号線	56.8%	47.7% (▽9.1) 【緑視状況】都市計画道路事業が進捗したことに伴い、車道が拡幅され、一部街路樹の高木が伐採されています。
13 梶野町5丁目 東大通り	26.5%	29.3% (+2.8) 【緑視状況】歩道の幅員が狭く、街路樹は見られません。区画整理により、民地の高木が伐採されています。沿道のマンションには、生け垣が見られます。
14 本町6丁目 連雀通り	31.9%	45.6% (▲13.7) 【緑視状況】連雀通り(市役所第二庁舎前)。歩道の幅員が広く街路樹が見られます。また、沿道の駐車場には、植栽が見られます。撮影地点の反対側の歩道沿いで再開発事業が進められています。
15 緑町5丁目 緑中央通り	15.3%	1.5% (▽13.8) 【緑視状況】都市計画道路予定地であったため、車道が拡幅され、道路沿いに連続して植栽されていた高木が伐採されています。
16 本町1丁目 緑中央通り	38.4%	34.3% (-4.1) 【緑視状況】街路樹、マンションの植栽が見られます。
17 貫井北町1丁目 行幸通り	37.1%	50.4% (▲13.3) 【緑視状況】中間処理場敷地内のみどりや街路樹が見られます。小金井市公民館貫井北分館が建設され、壁面緑化等が見られます。
18 本町5丁目 行幸通り	10.8%	10.4% (-0.4) 【緑視状況】街路樹が見られます。(平成21年度に見られたプランターはなくなっています)
19 貫井南町2丁目 新小金井街道	52.0%	50.4% (-1.6) 【緑視状況】街路樹、生産緑地が見られます。街路樹の高木が一部伐採されています。
20 本町2丁目 市道411号線(武蔵 小金井駅北口東側)	27.9%	34.0% (▲6.1) 【緑視状況】武蔵小金井駅の北側、中央線沿いの道路で、生産緑地が存在します。写真左側は、過年度調査時点では裸地であったが、畑として作物が植えられています。

※数値の端数処理(小数第2位を四捨五入)している

調査地点	平成21年度 緑視率	令和元年度 緑視率 (平成21年度比±5ポイント以上 増加:▲、減少:▽)
21 東町3丁目 富士見通り	0.6%	0.8% (+0.2)
	【緑視状況】歩道の幅員が狭く、街路樹が見られません。	
22 中町4丁目 小金井街道	21.2%	22.0% (+0.8)
	【緑視状況】武蔵小金井駅の南側の商業地域です。商業ビルの植栽や郵便局の敷地内の高木が見られます。	
23 貫井北町2丁目 新小金井街道	64.0%	68.5% (+4.5)
	【緑視状況】高木の街路樹、学芸大学のみどりが見られます。	
24 貫井南1丁目 東八道路	55.5%	62.8% (▲7.3)
	【緑視状況】歩道の幅員が広く、街路樹が見られます。また、沿道にはまとまった生産緑地が見られます。	
25 前原町4丁目 東八道路	24.9%	14.5% (▽10.4)
	【緑視状況】歩道が拡幅され、歩道と自転車道が分離されたため、植栽帯がなくなっています。	
26 東町4丁目 市道75号線(プラザ 新小金井西側)	69.4%	60.1% (▽9.3)
	【緑視状況】新小金井駅の北側。団地の外構と街路樹が見られます。街路樹の高木が一部伐採されています。	
27 緑町3丁目 市道729号線(みどり 公園東側)	25.5%	9.3% (▽16.2)
	【緑視状況】みどり公園の北側に位置する住宅街です。生け垣やプランターが見られます。住宅地内の植栽が一部伐採されています。	
28 桜町1丁目 緑桜通り	40.9%	39.8% (-1.1)
	【緑視状況】さくら公園の南側に位置する住宅街です。住宅のボリューム感のある庭木が見られます。	
29 中町1丁目 市道21号線・ 白伝坊の坂下	—	14.7%
	【緑視状況】生け垣のある家と無い家が混在する住宅街です。	
30 中町1丁目 市道21号線・ 観音坂下	—	16.8%
	【緑視状況】新築された家と生産緑地が混在する住宅街です。	

※数値の端数処理(小数第2位を四捨五入)している

6. 保存樹木調査

(1) 調査方法

小金井市緑地保全及び緑化推進条例に基づき指定される保存樹木及び保存生け垣について、平成31年3月現在の指定状況について調査・整理しました。保存樹木及び保存生け垣の指定要件は、条例に基づき以下のとおりとなっています。

- 保存樹木の指定要件（以下のいずれかを満たすもの）
 - 地上1.5メートルの高さにおける幹周が1.5メートル以上であること
 - 高さが10メートル以上であること
- 保存生け垣の指定要件
 - 道路に面し、高さ1m以上、長さ10m以上の景観上一体性をもった生け垣

(2) 調査結果

1) 保存樹木

平成31年3月現在、保存樹木は842本指定されています。町別にみると、最も多いのは中町であり、185本が指定されています。最も少ないのは関野町であり11本となっています。

町丁目別にみると、最も多いのは前原3丁目の169本であり、小金井神社の周辺に集中しています。次に多いのは、貫井南町3丁目の124本であり、貫井神社や真明寺の周辺に多く指定されています。

樹種の構成は多様であり、ケヤキが最も多く、シラカシ、サワラ、イチョウも多く見られます。

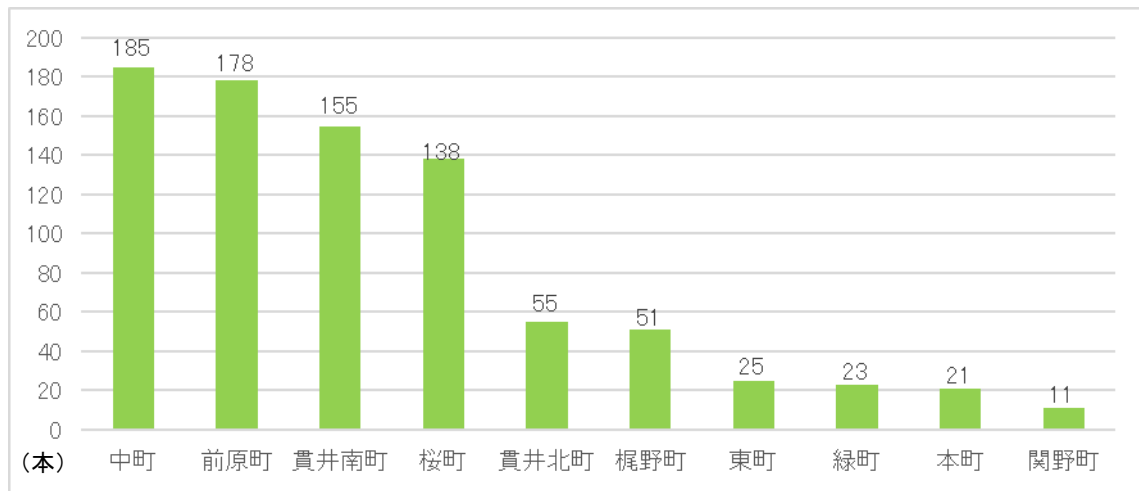


図1-6.1 町別保存樹木の指定本数

表1-6.1 町丁目別の保存樹木指定本数（※記載のない町丁目は保存樹木の指定がない）

町丁目	本数	町丁目	本数	町丁目	本数
前原町1丁目	3	桜町1丁目	5	東町1丁目	12
前原町2丁目	1	桜町2丁目	104	東町5丁目	13
前原町3丁目	169	桜町3丁目	29	本町2丁目	2
前原町4丁目	5	梶野町1丁目	7	本町3丁目	7
中町1丁目	37	梶野町2丁目	4	本町4丁目	5
中町2丁目	47	梶野町3丁目	29	本町5丁目	7
中町3丁目	82	梶野町4丁目	10	関野町1丁目	8
中町4丁目	19	梶野町5丁目	1	関野町2丁目	3
貫井南町2丁目	30	貫井北町1丁目	5	緑町3丁目	21
貫井南町3丁目	124	貫井北町3丁目	28	緑町4丁目	2
貫井南町4丁目	1	貫井北町5丁目	22	合計	842

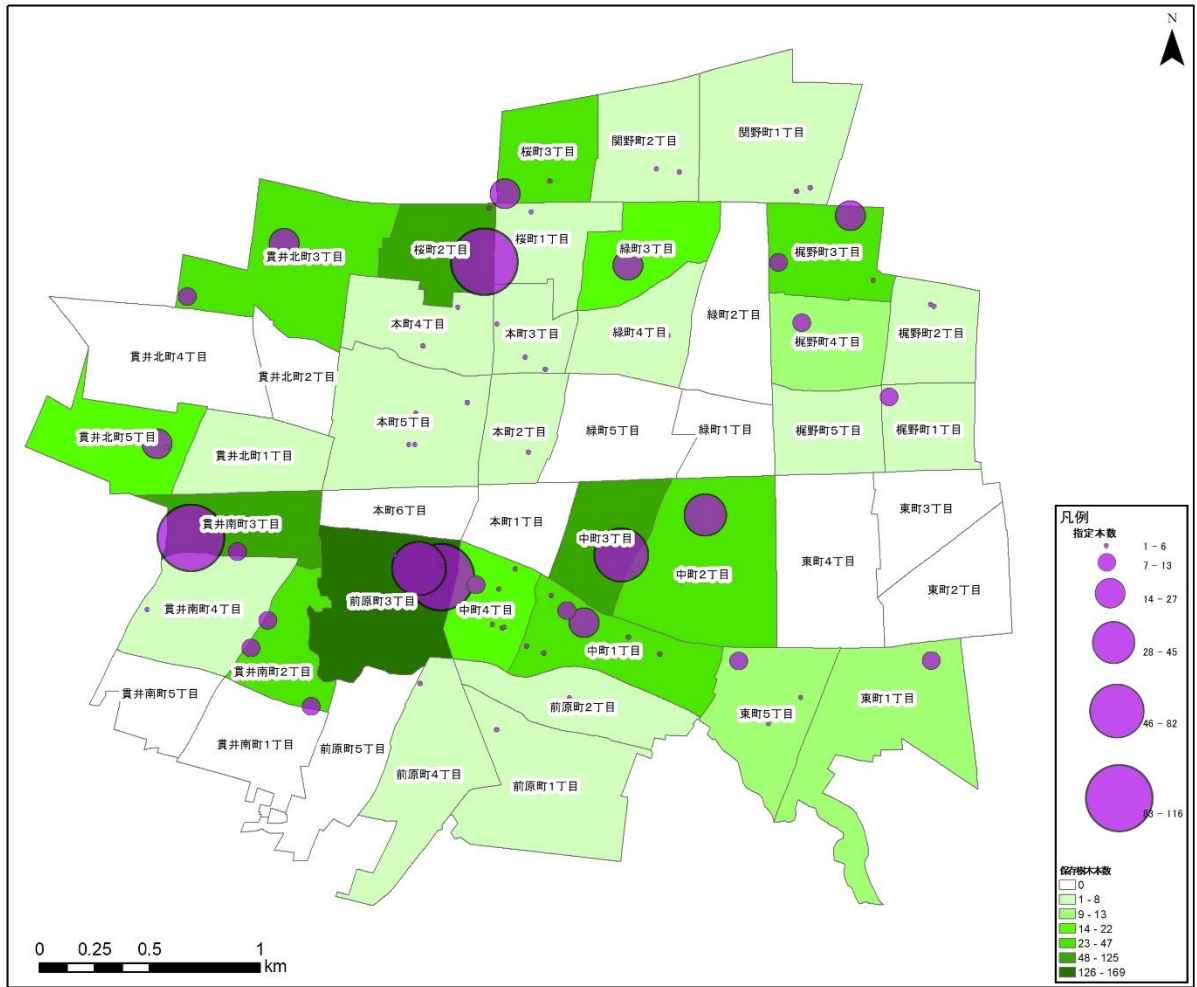
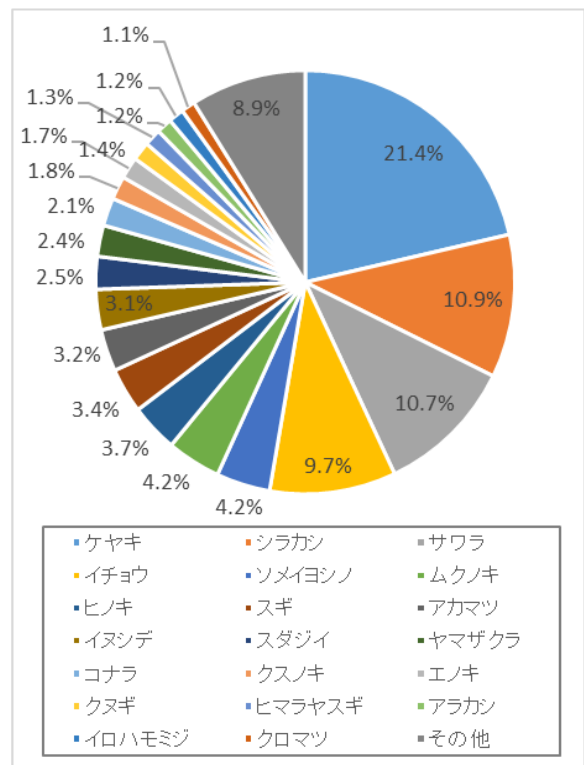


図 1-6. 2 町丁目別の保存樹木指定本数

表 1-6. 2 保存樹木の樹種構成

順位	樹種	本数	割合(%)
1	ケヤキ	180	21.4%
2	シラカシ	92	10.9%
3	サワラ	90	10.7%
4	イチョウ	82	9.7%
5	ソメイヨシノ	35	4.2%
5	ムクノキ	35	4.2%
7	ヒノキ	31	3.7%
8	スギ	29	3.4%
9	アカマツ	27	3.2%
10	イヌシデ	26	3.1%
11	スダジイ	21	2.5%
12	ヤマザクラ	20	2.4%
13	コナラ	18	2.1%
14	クスノキ	15	1.8%
15	エノキ	14	1.7%
16	クヌギ	12	1.4%
17	ヒマラヤスギ	11	1.3%
18	アラカシ	10	1.2%
18	イロハモミジ	10	1.2%
19	クロマツ	9	1.1%
その他		75	8.9%
総計		842	100%



2) 保存生け垣

平成31年3月現在、保存生け垣は152件指定されています。保存生け垣の総延長は、申請延長：3,591.00m、指定延長：3,833.30m、奨励金対象延長：3,569.00m、指定された生け垣の平均延長は25.20mです。地域別にみると、最も総延長が長いのは南地域であり、1,040.90m、最も短いのは中央地域であり、329.60mでした。

表 1-6.3 保存生け垣の総延長・平均

	申請延長	指定延長	奨励金対象延長
総延長(m)	3,591.00	3,833.30	3,569.00
平均(m)	23.60	25.20	23.50

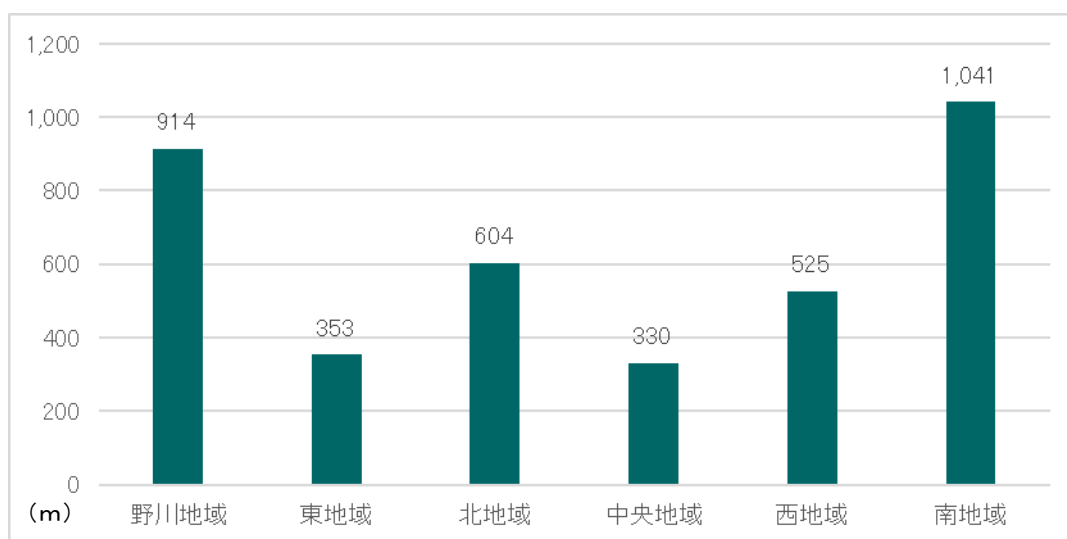
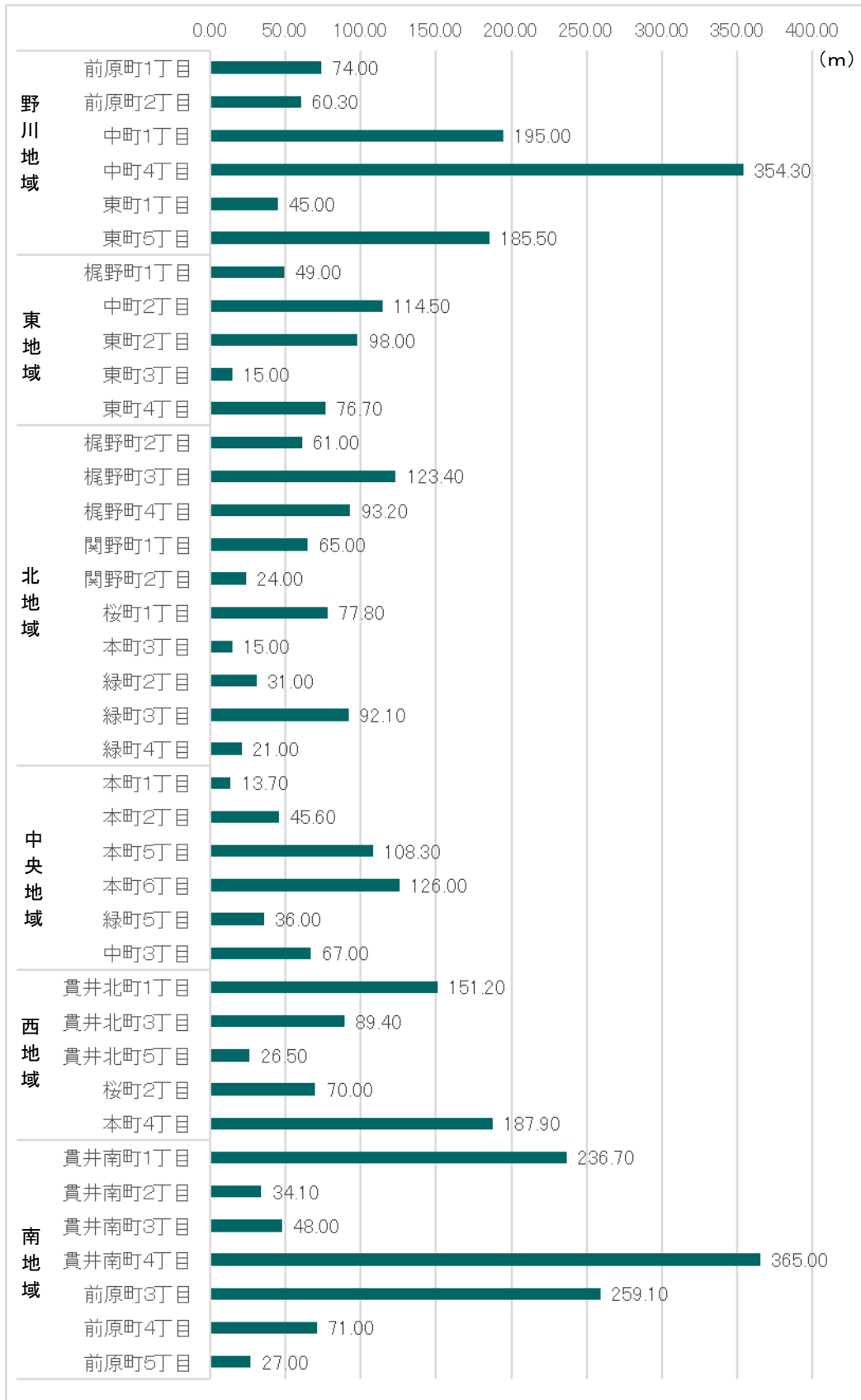


図 1-6.3 保存生け垣の地域別の延長



※記載がない町丁目は指定延長が0mの地区

図1-6.4 保存生け垣の町丁目別の指定延長

7. 生産緑地調査

(1) 調査方法

生産緑地地区の面積の経年変化について、調査・整理を行いました。

(2) 調査結果

1) 本市域全域の集計結果

平成30年度現在、本市で指定されている生産緑地地区は60.89haとなっています。地域別にみると、南地域が最も多く14.62ha、次いで北地域が13.82haでした。最も少ないのは中央地域の4.73haでした。

2) 生産緑地地区の経年変化

本市における生産緑地地区は、徐々に減少しており、平成21年度に比べて、9.37ha減少しています。地域別にみると、全ての地域で減少が見られ、最も減少の大きい南地域では2.16haが減少しています。

表1-7.1 地域別の生産緑地面積

生産緑地面積 (ha)	野川地域	東地域	北地域	中央地域	西地域	南地域	総計
平成21年度	7.64	12.60	14.99	5.99	12.26	16.78	70.26
平成30年度	6.20	10.96	13.82	4.73	10.55	14.62	60.89
面積増減	△1.44	△1.64	△1.17	△1.26	△1.70	△2.16	△9.37

※各年度末時点の数値を掲載

※数値の端数処理(小数第3位を四捨五入)しているため、合計値と一致しない場合がある

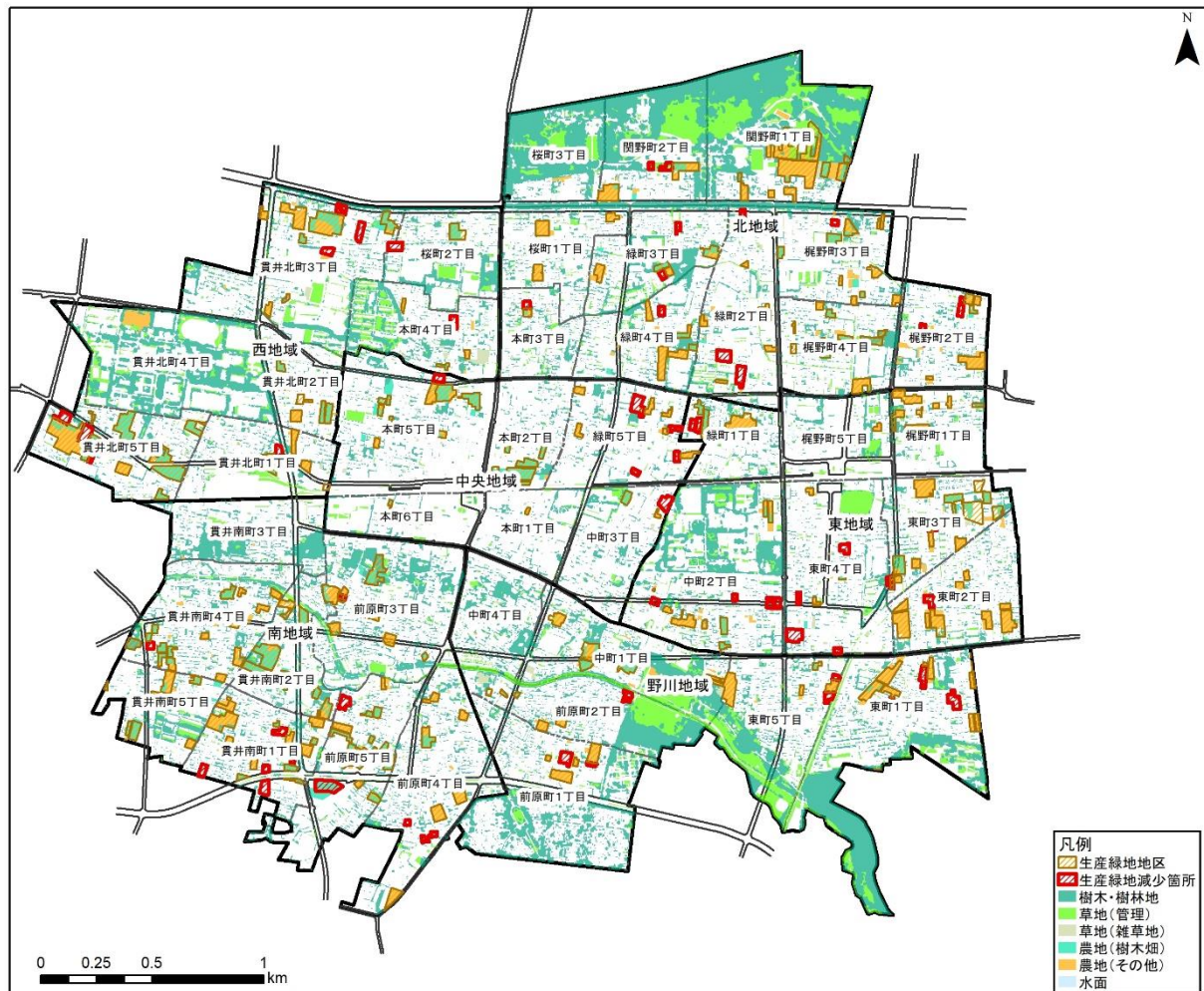


図1-7.1 平成30年度 生産緑地地区 (地域別)

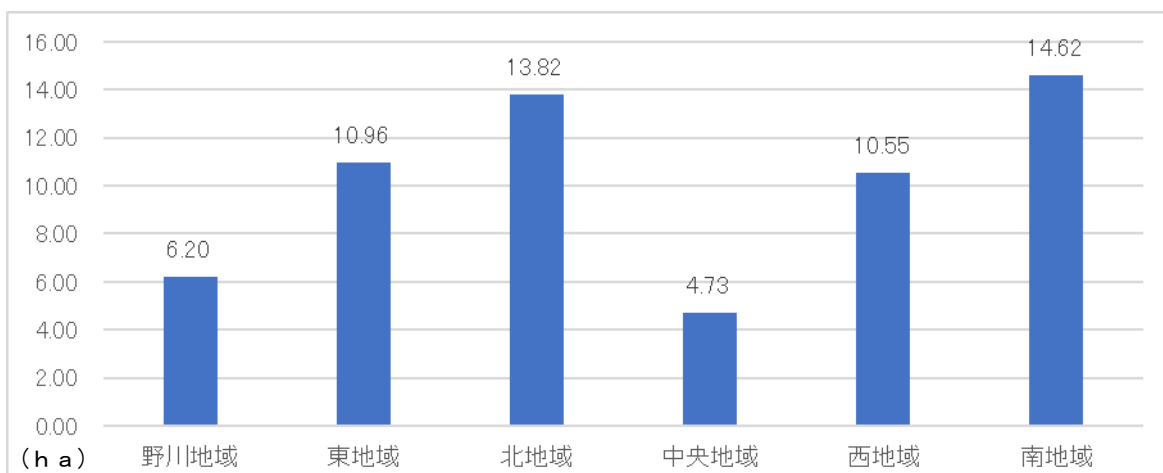


図 1-7.2 平成30年度 生産緑地地区 (地域別)

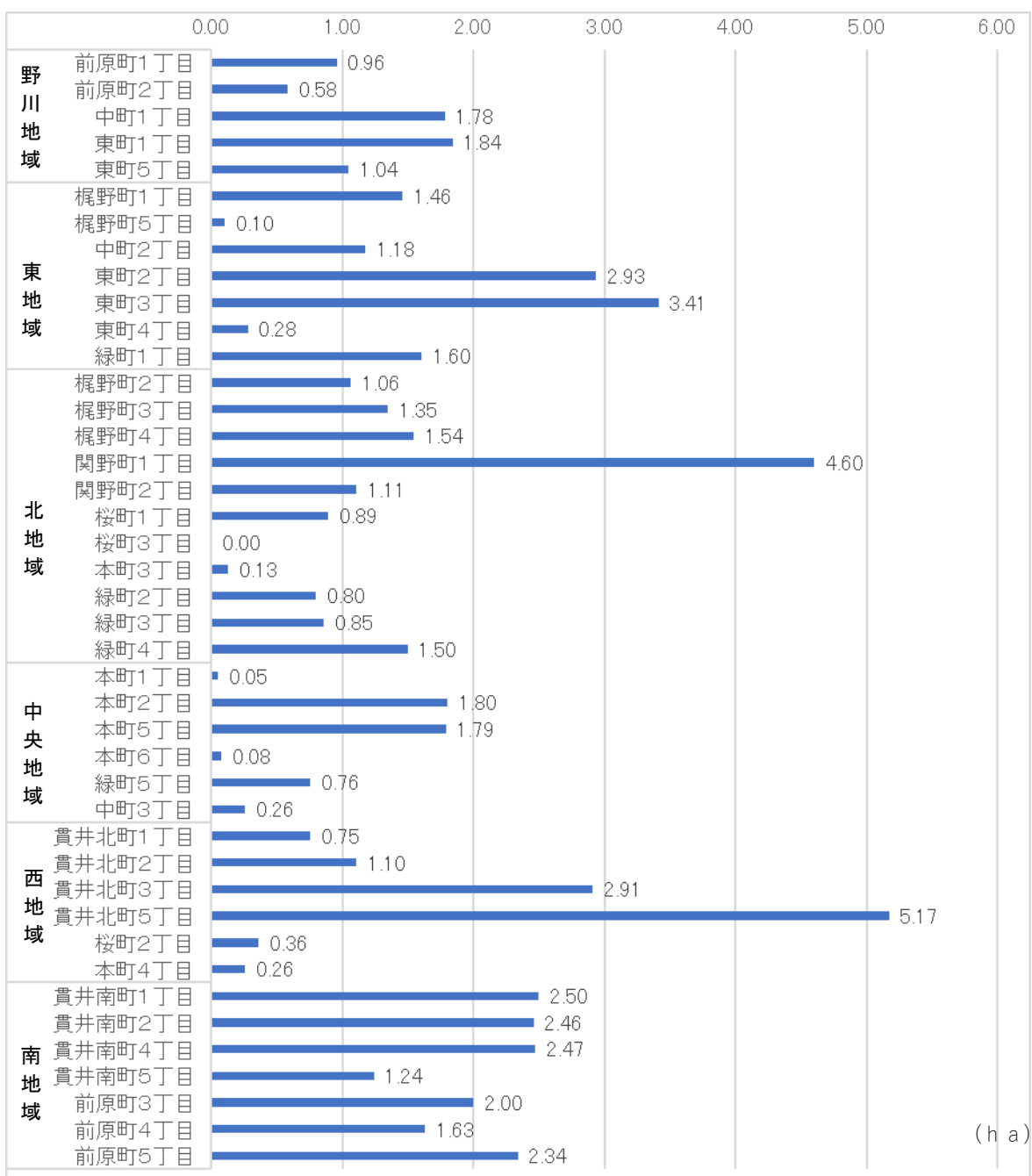
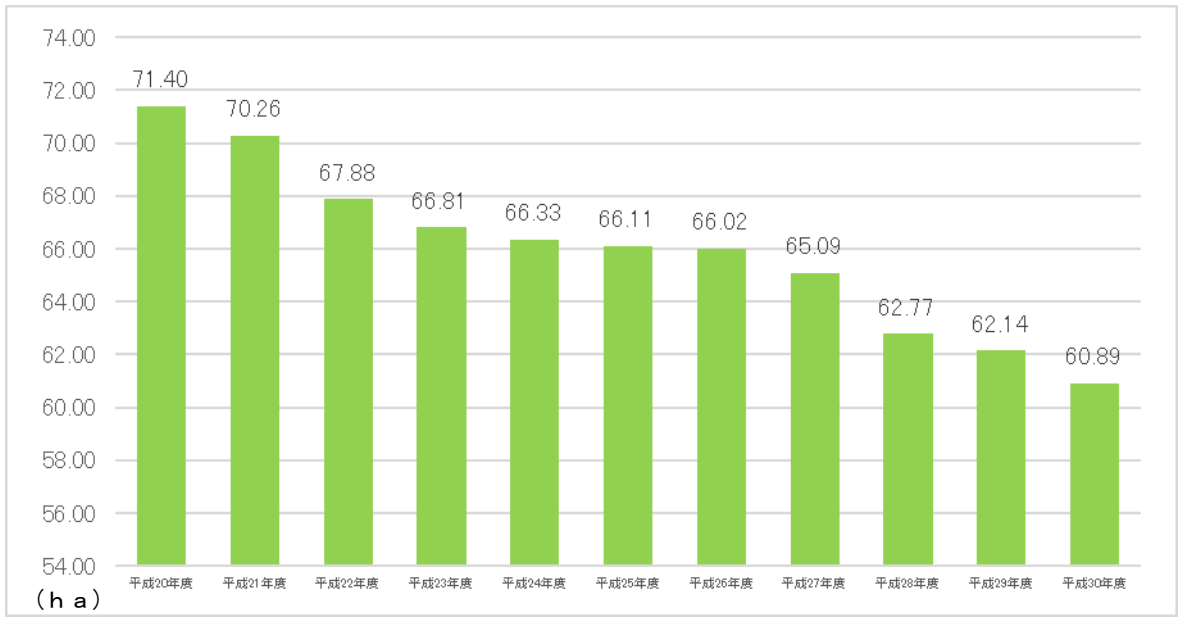


図 1-7.3 平成30年度 生産緑地地区面積 (小地域別)



※各年度末時点の数値を掲載

図1-7.4 平成20年度～平成30年度 生産緑地地区面積の経年変化



図1-7.5 生産緑地地区の典型的な転用例

8. 公園等整備状況調査

(1) 調査方法

小金井市公園等整備基本方針（平成31年3月）（以下、方針という。）において、小規模公園等の密集地帯の改善の必要性が指摘されている一方で、方針に示される「公園利用圏」に含まれないエリア（周辺に公園・みどり等がないエリア）がみられます。

本調査では、公園利用圏について、詳細に把握するとともに、「公園利用圏」に含まれないエリアについて、土地利用及び公園・みどり等の状況を詳細に把握しました。

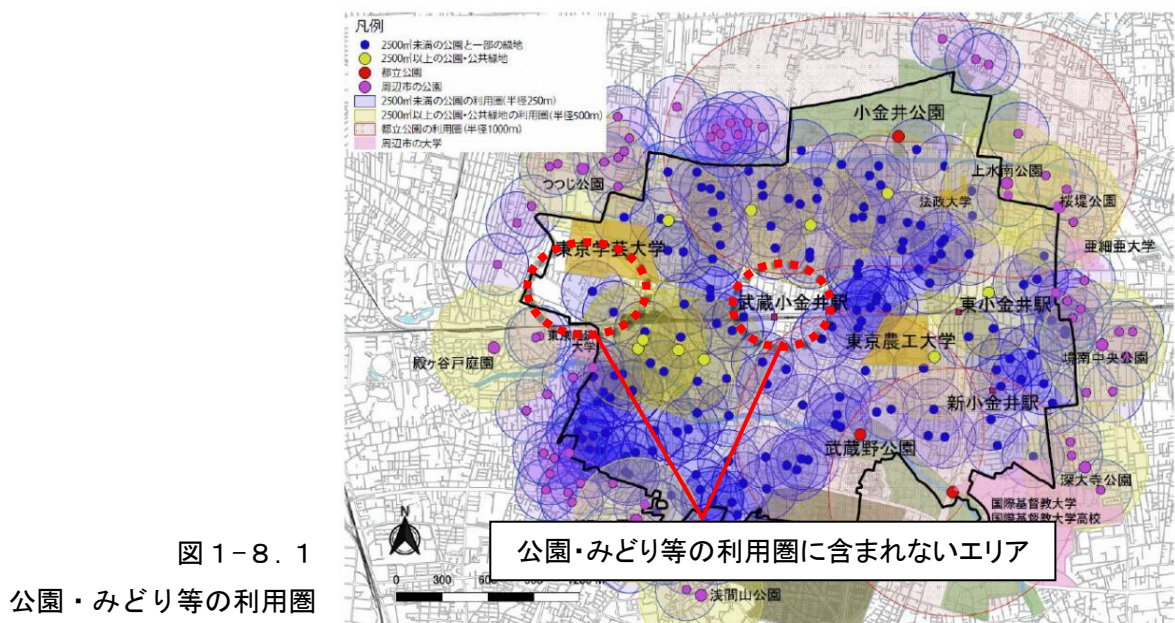
なお、方針では、「公園利用圏」を以下のように定義しています。また、「公園利用圏」の分析を行うにあたり、「8. 公園等整備状況調査」における「公園・みどり等」は、小金井市民が利用する可能性がある（概ねその利用圏が本市域内に掛かる）ものも含むこととします。

公園利用圏：公園を利用すると思われる近隣住民等が住んでいる、あるいは活動している範囲のこと。ここでは2,500㎡未満の公園・緑地について半径250m、2,500㎡以上の公園・公共緑地について半径500m、都立公園について半径1,000mを設定しました。なお、閉鎖管理の公園や暫定緑地については原則とし利用圏を設定していません。市外の公園も、小金井市民が利用する可能性がある（概ねその利用圏が本市域内に掛かる）ものについても考慮しています。

■小金井市公園等整備基本方針の概要

この方針は、本市に相応しい公園等に対する概念の検討や低未利用公園等の課題を整理し、本市における公園等のあり方を構築し、今後の公園整備の方針や効率的な公園等の維持・管理のための適正な配置の方針について定めたものです。

このうち、方針Ⅱ「①公園等の分布・規模を考慮した効果的な公園等の適正配置」では、「市全体と地域ごとの将来の人口・構成分布を考慮し、市が管理する公園等のみならず、都立公園、民間が管理する公園、隣接市の公園、大学及び寺社等のオープンスペースも含めて、総合的に配置を検討します。特に小規模公園等が密集するエリアの解消が必要です。」としています。小規模公園等が密集するエリアが存在する一方で、公園・みどり等の利用圏に含まれないエリアも生じています（図1-8.1内赤点線箇所）。



(2) 調査結果

1) 公園利用圏の充足率

「公園利用圏」に含まれないエリアを詳細に把握するため、町丁目単位での公園利用圏の充足率の集計をしました。なお充足率の集計に当たり、対象とした公園・みどり等は、小金井市公園等整備基本方針と同様とします。図1-8.2に公園利用圏に含まれないエリアを、表1-8.1に町丁目単位で公園利用圏の充足率を集計したものを示しています。

市域全体の充足率は97.7%、町丁目単位の公園利用圏の充足率は45町丁目のうち、38町丁目が充足率100%となっています。一方で、7つの町丁目については、充足率が100%に達しておらず、特に本町2丁目（武蔵小金井駅周辺）や貫井北町5丁目（東京学芸大学周辺）については充足率が5割から6割程度となっています。

以下、武蔵小金井駅周辺を「中央部分」、東京学芸大学周辺を「西部分」と呼称します。

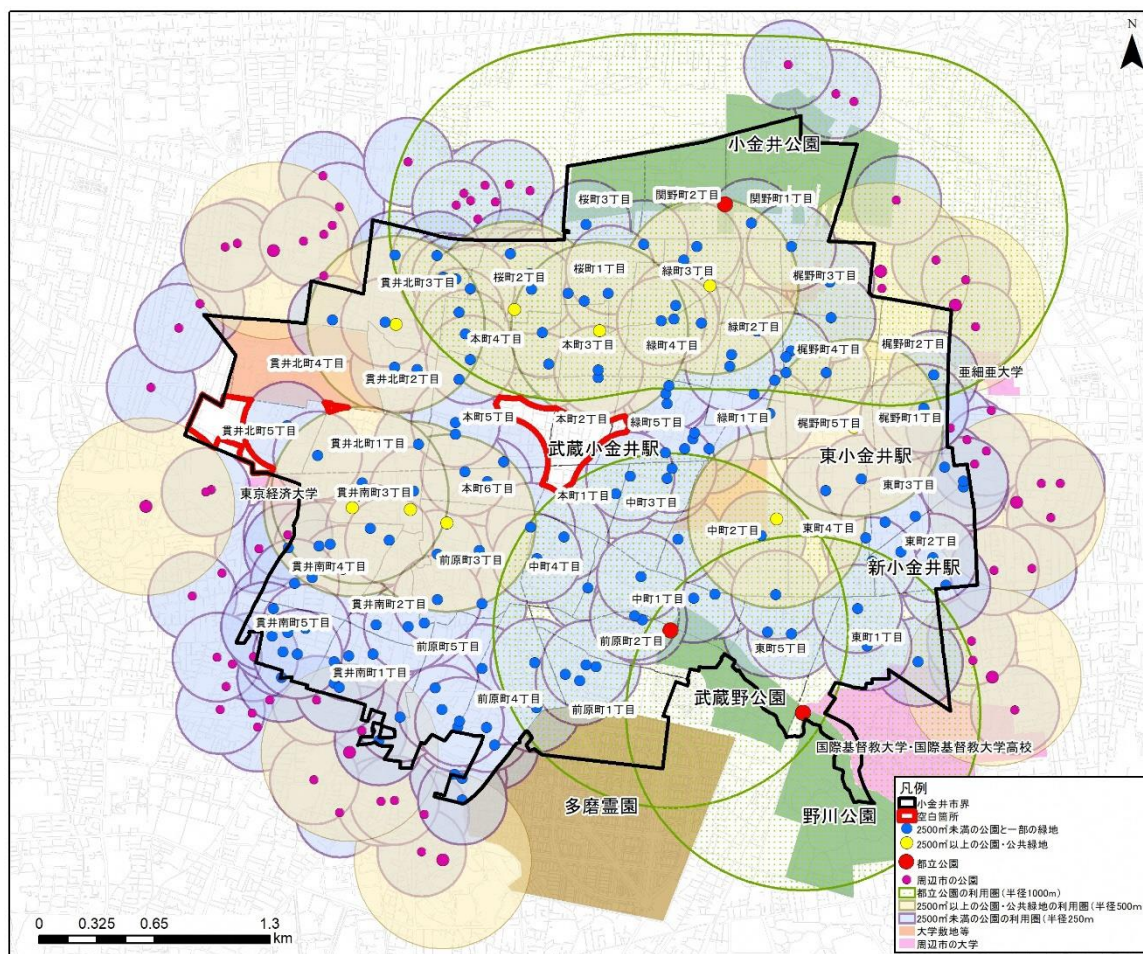


図1-8.2 公園・みどり等の利用圏（公園利用圏に含まれないエリアを明示）

表1-8.1 地域別の公園利用圏の充足率（100%以下： ）

6地域	町丁目	地域面積[a] (単位:ha)	充足面積[b] (単位:ha)	空白面積 (単位:ha)	充足率[b]/[a] (単位:%)
野川地域	東町1丁目	45.40	45.40	0.00	100.0%
	東町5丁目	27.89	27.89	0.00	100.0%
	中町1丁目	27.77	27.77	0.00	100.0%
	中町4丁目	17.48	17.48	0.00	100.0%
	前原町1丁目	41.51	41.51	0.00	100.0%
	前原町2丁目	22.86	22.86	0.00	100.0%
東地域	東町2丁目	24.49	24.49	0.00	100.0%
	東町3丁目	19.88	19.88	0.00	100.0%
	東町4丁目	36.59	36.59	0.00	100.0%
	梶野町1丁目	16.57	16.57	0.00	100.0%
	梶野町5丁目	19.08	19.08	0.00	100.0%
	中町2丁目	46.07	46.07	0.00	100.0%
	緑町1丁目	15.19	15.19	0.00	100.0%
北地域	梶野町2丁目	18.55	18.55	0.00	100.0%
	梶野町3丁目	22.01	22.01	0.00	100.0%
	梶野町4丁目	21.68	21.68	0.00	100.0%
	関野町1丁目	40.19	40.19	0.00	100.0%
	関野町2丁目	24.77	24.77	0.00	100.0%
	緑町2丁目	28.17	28.17	0.00	100.0%
	緑町3丁目	20.91	20.91	0.00	100.0%
	緑町4丁目	20.98	20.98	0.00	100.0%
	本町3丁目	13.33	13.33	0.00	100.0%
	桜町1丁目	18.73	18.73	0.00	100.0%
	桜町3丁目	19.77	19.77	0.00	100.0%
中央地域	緑町5丁目	26.39	25.58	0.81	96.9%
	本町1丁目	15.27	13.23	2.04	86.7%
	本町2丁目	16.42	8.65	7.78	52.6%
	本町5丁目	39.93	35.46	4.47	88.8%
	本町6丁目	14.00	13.85	0.15	98.9%
	中町3丁目	20.09	20.09	0.00	100.0%
南地域	前原町3丁目	38.48	38.48	0.00	100.0%
	前原町4丁目	33.55	33.55	0.00	100.0%
	前原町5丁目	26.52	26.52	0.00	100.0%
	貫井南町1丁目	22.92	22.92	0.00	100.0%
	貫井南町2丁目	17.25	17.25	0.00	100.0%
	貫井南町3丁目	20.92	20.92	0.00	100.0%
	貫井南町4丁目	28.88	28.88	0.00	100.0%
	貫井南町5丁目	16.50	16.50	0.00	100.0%
西地域	本町4丁目	22.52	22.52	0.00	100.0%
	桜町2丁目	19.56	19.56	0.00	100.0%
	貫井北町1丁目	21.25	21.05	0.20	99.1%
	貫井北町2丁目	13.89	13.89	0.00	100.0%
	貫井北町3丁目	41.49	41.49	0.00	100.0%
	貫井北町4丁目	37.66	37.66	0.00	100.0%
	貫井北町5丁目	24.70	16.41	9.22	66.4%
総計		1130.00	1104.33	25.67	97.7%

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値が一致しない場合がある

2) 公園利用圏に含まれないエリアの状況

公園利用圏に含まれないエリアの土地利用や公園・みどり等の状況を把握するとともに、平成29年度東京都土地利用現況調査結果を活用し、当該エリアの土地利用現況について詳細な把握を行いました。

(中央部分：武蔵小金井駅周辺)

当該エリアは、元来、市民生活や交通の拠点となっているとともに、武蔵小金井駅南口地区市街地再開発事業（第1地区、第2地区）等、大規模な開発が進められています。そのような状況から、当該エリアは、小規模な緑被地が残るとともに、箇所中央部や北西部は1haを超える生産緑地が残っているものの、当該エリアを含む本町の緑被率は18.0%で、市内でも特に緑被率が低くなっています。

周辺には6箇所の公園等がありますが、いずれも2,500㎡以下と規模は小さいため、公園・みどり等の利用圏に含まれないエリアが生じています。

土地利用現況を示す表1-8.2及び図1-8.5によると、住宅用地が最も多く、48.3%、次いで道路が16.1%、農用地が12.9%となっています。

(西部分：東京学芸大学周辺)

当該エリアは、周囲に1haを超える生産緑地が複数残存するとともに、構内に豊かなみどりを有する東京学芸大学及び情報通信研究機構に隣接する場所であり、緑被率についても当該エリアを含む貫井北町は、30.0%となっており、市内の他の町に比べ、高い水準にあります。

周辺には2箇所の公園等ありますが、いずれも2,500㎡以下と規模は小さいため、公園・みどり等の利用圏に含まれないエリアが生じています。

土地利用現況を示す表1-8.2及び図1-8.6によると、西部分のうち、西側にある箇所（以下「西部①」という。）については、住宅用地が最も多く、45.2%、次いで農用地が31.0%、道路が11.1%となっています。（図1-8.7）

東側にある箇所（以下「西部②」という。）については、住宅用地が最も多く、54.3%、次いで道路が23.9%、未利用地が20.9%となっています。（図1-8.8）

3) 公園利用圏に含まれないエリアの評価

中央部分及び西部分ともに公園・みどり等の利用圏に含まれないエリアが生じているものの、1haを超える生産緑地が残存しており、みどりの量としては一定確保されていると評価できると考えられます。



図 1-8.3 公園・みどり等の利用圏に含まれないエリア（中央部）

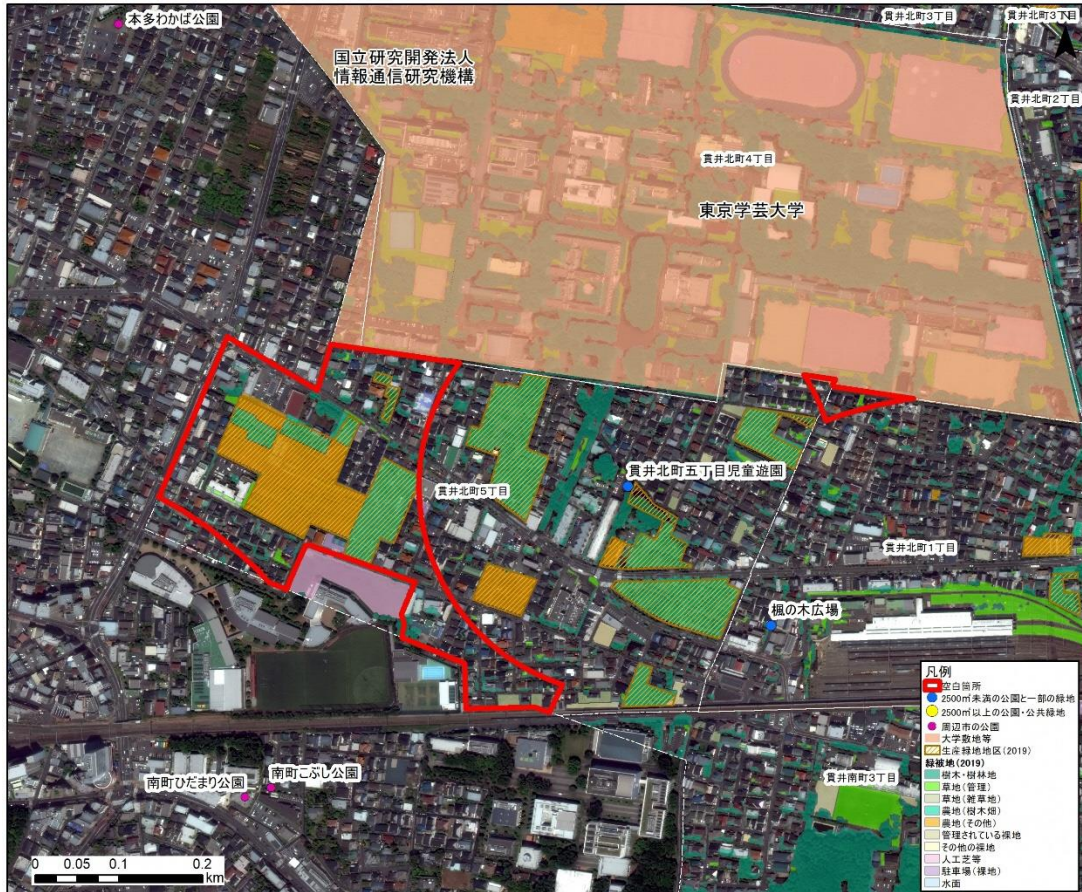


図 1-8.4 公園・みどり等の利用圏に含まれないエリア（西部）

表 1-8. 2 公園・みどり等の利用圏に含まれないエリアの土地利用状況（上位3位： ）

土地利用	中央		西部①		西部②	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
屋外利用地・仮設建物	0.59	3.9%	0.18	2.2%		0.0%
公共用地	0.29	1.9%	0.26	3.1%	0.00	0.9%
供給処理施設	0.02	0.1%	0.01	0.1%		0.0%
教育文化施設	0.12	0.8%		0.0%	0.00	0.9%
厚生医療施設	0.15	1.0%	0.25	3.1%		0.0%
工業用地	0.06	0.4%		0.0%		0.0%
住居併用工場	0.00	0.0%		0.0%		0.0%
倉庫運輸関係施設	0.05	0.4%		0.0%		0.0%
住宅用地	7.37	48.3%	3.73	45.2%	0.14	54.3%
集合住宅	3.32	21.8%	1.17	14.2%		0.0%
独立住宅	4.05	26.5%	2.56	31.0%	0.14	54.3%
商業用地	1.89	12.4%	0.09	1.1%		0.0%
事務所建築物	0.20	1.3%	0.03	0.3%		0.0%
住商併用建物	1.30	8.5%	0.06	0.8%		0.0%
宿泊・遊興施設	0.07	0.5%		0.0%		0.0%
専用商業施設	0.32	2.1%		0.0%		0.0%
森林	0.01	0.0%		0.0%		0.0%
鉄道・港湾等	0.61	4.0%	0.00	0.0%		0.0%
道路	2.46	16.1%	0.92	11.1%	0.06	23.9%
農林漁業施設		0.0%	0.08	1.0%		0.0%
農用地	1.97	12.9%	2.56	31.0%		0.0%
樹園地	1.88	12.4%	2.56	31.0%		0.0%
畑	0.08	0.5%		0.0%		0.0%
未利用地等	0.01	0.1%	0.42	5.1%	0.06	20.9%
総計	15.25	100.0%	8.26	100.0%	0.27	100.0%

※数値の端数処理(面積は小数第3位、割合は小数第2位を四捨五入)しているため、合計値が一致しない場合がある。

※平成29年度の調査結果を使用しているため、現在(令和2年3月現在)の土地利用と整合しない場合がある。

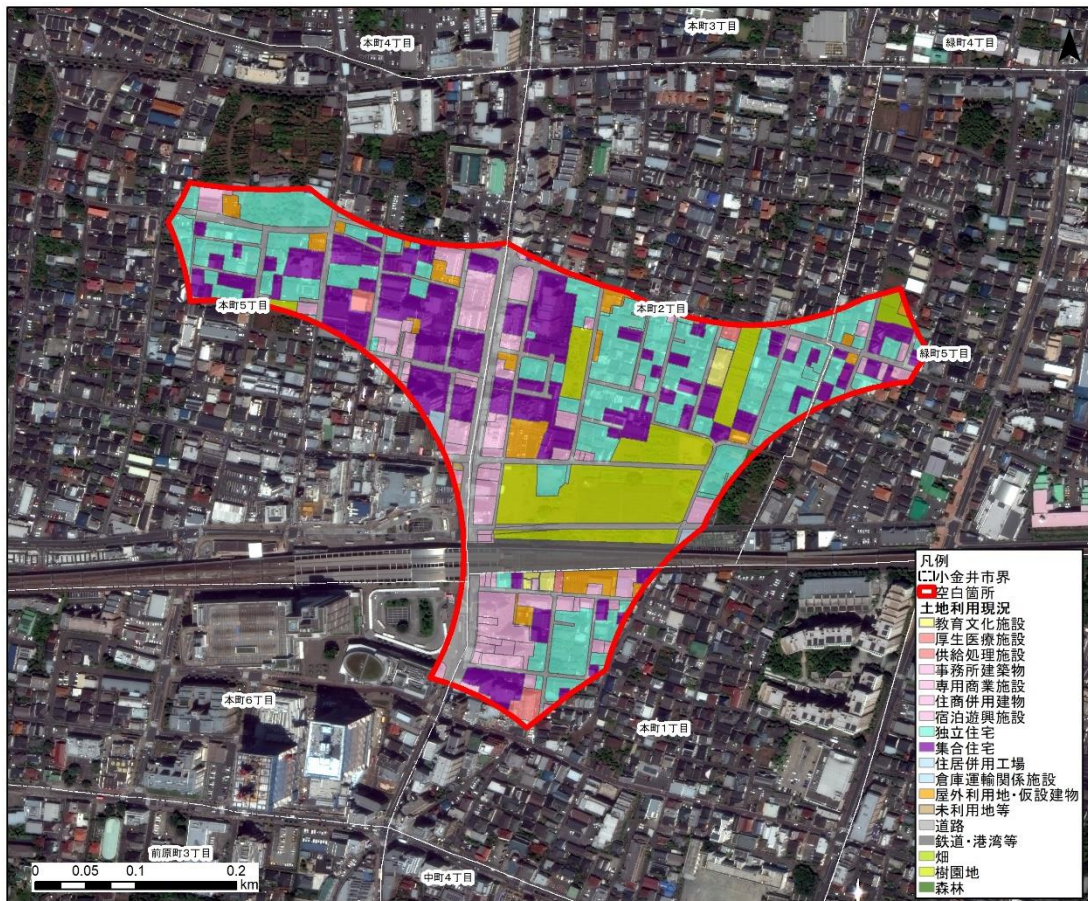


図 1-8. 5 公園・みどり等の利用圏に含まれないエリア（中央部）の土地利用現況

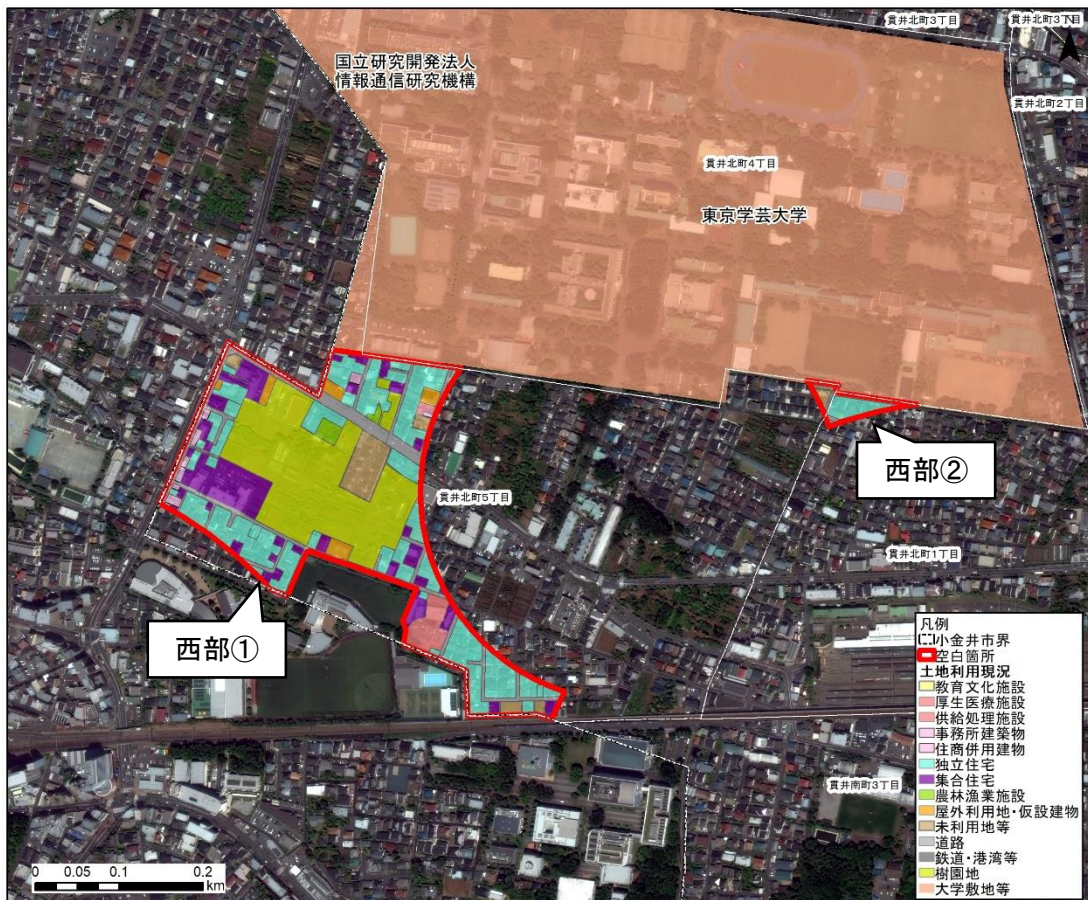


図 1-8. 6 公園・みどり等の利用圏に含まれないエリア（西部）の土地利用現況



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図 1-8.7 西部①の未利用地の現在の状況（未利用地となっている箇所は既に宅地化）



Worldview-3 © 2019 DigitalGlobe, Inc.

図 1-8.8 西部②の未利用地の現在の状況（未利用地となっている箇所は既に宅地化）

第2章 市民意識調査

1. 既往調査の整理

(1) 意見整理の対象

本市において近年（過去5か年程度）実施された市民意識調査より、今後のみどり施策のあり方を検討するに当たって、参考となる意見等を整理しました。意見整理の対象とした調査は、下表のとおりです。

表2-1.1 意見整理の対象とした既往調査一覧

	調査名	実施年度	参考となる意見の カテゴリー		
			みどり	地域 活動	情報 発信
①	平成29年度市長への手紙	平成29年	○	○	○
②	平成30年度小金井市市民意向調査	平成30年	○	○	○
③	学生アンケート	平成30年	○	—	○
④	小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略、進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査	平成27年	○	—	—
⑤	小金井市の環境に関する市民アンケート	令和元年	○	○	○
⑥	小金井市公共施設等に関する市民アンケート調査	平成28年	○	—	—
⑦	小金井市公園等利用実態調査	平成26年	○	—	—
⑧	名勝小金井（サクラ）復活事業に関するアンケート調査	平成29年	○	—	—
⑨	小金井市男女平等に関する市民意識調査	平成27年	○	○	—
⑩	子ども・子育て支援に関するニーズ調査	平成30年	○	○	—
⑪	小金井市保健福祉総合計画策定に関するアンケート調査	平成28年	○	○	—

(2) 意見整理の結果

前ページに示した各既往調査について、実施概要及び結果概要を整理しました。

なお、結果概要は、各調査結果の中からみどりに関わりの深い内容、地域活動や情報発信に関わりの深い内容を抽出しています。

① 平成29年度市長への手紙

- ◆実施背景等：市民の市政に対する意向、意識等を調査するため実施
- ◆実施期間：平成29年9月15日～9月30日
- ◆対象者：18歳以上の2,000人（住民基本台帳に基づき無作為抽出）
- ◆回答者数（回収率）：540人（27.0%）
- ◆主な質問事項：住み心地、定住意向、市政への期待（みどりと水への期待度等）、市報の閲読状況、町会への加入状況
- ◆結果概要：

【住み心地について】

- ・「住みやすい（どちらかといえば住みやすいも含む）」理由として、「環境が良い」、「緑が多い」等を挙げる記述が多数見られます。
- ・一方、「住みにくい（やや住みにくいも含む）」理由（自由記述）としては、税金や利便性を挙げる意見の他、みどりに関するものとして、「公園が少ない」、「緑が多いがその強みを活かしていない」、「園庭のない保育園が増え公園が奪い合いになっている」等の意見が寄せられています。

【市政への満足度、期待】

- ・市政への満足度について、「みどりと水」は29項目中最も満足度が高く、市政に望む項目としては29項目中13位でした。
- ・市政へのご意見（自由記述）では、みどりに関するものとして「緑を大切にしてほしい」、「並木や街路樹を増やしてほしい」、「市民農園を充実させてほしい」等の意見が寄せられています。

【市報の閲読状況】

- ・「ざっと目を通す」が最も多く44.6%、次いで「よく読んでいる」が30.0%でした。

【町会への加入状況】

- ・町会へ「加入している」が57.6%でした。地域別に見ると、「前原町」、「貫井北町」、「貫井南町」は、いずれも加入率が6割を超えています。一方、「東町」、「中町」、「桜町」は、加入率が5割弱と平均より低くなっています。

② 平成30年度小金井市市民意向調査

- ◆実施背景等：「第5次小金井市基本構想・前期基本計画」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成30年7月19日～8月13日
- ◆対象者：市内在住の満18歳以上の男女2,000人（外国人を含む）
- ◆回答者数（回答率）：629人（31.5%）
- ◆主な質問事項：住み心地やイメージ、施策への満足度・重要度、市報の閲読状況、地域活動への参加状況
- ◆結果概要：

【小金井市の良い点・自慢したい点】

- ・「みどりや水辺などの自然」、「静かで落ち着いた住環境」、「多くの大きな公園」が11項目中上位3位を占めています。

【小金井市のアピールできる「もの」や「ところ」】

- ・「多くの大きな公園」、「みどりや水辺などの自然」が11項目中上位2位を占め、その意見数は突出しています。

【30年後の小金井市】

- ・「自然にあふれたまち」が15項目中1位を占め、その意見数は突出しています。

【施策の満足度・重要度】

- ・施策満足度では、「みどりと水」、「住宅・住環境」、「道路・河川」の満足度が高く、中でも「みどりと水」は78.4%が、「満足」又は「やや満足」と回答しています。

【市報の閲読状況】

- ・「ざっと目を通す」が最も多く47.5%、次いで「よく読んでいる」が24.2%でした。
- ・ただし、20代以下の閲読状況は、「ざっと目を通す」と「よく読んでいる」を合わせても35.2%でした。

【町会への加入状況、地域活動への参加状況】

- ・町会へ「加入している」が50.2%でした。
- ・地域活動への参加状況については、「地域で開かれるイベントへの参加」、「町会・自治会」、「PTA・子ども会活動」が13項目中上位3位を占め、「NPO、ボランティア団体のメンバーとしての活動」は8位に留まっています。

③ 学生アンケート

- ◆実施背景等：「小金井市シティプロモーション基本方針」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成30年度
- ◆対象者：小金井市と連携協力関係にある学校（亜細亜大学、総合学院テクノスカレッジ、東京学芸大学、東京農工大学、法政大学、武蔵野大学）の学生 計1,400人
- ◆回答者数（回答率）：850人（60.7%）
- ◆主な質問事項：住みやすさについて、広報について
- ◆結果概要：

【住みやすさについて】

- ・小金井市に住もうと思った理由は、「生活が便利」、「学園都市」、「自然環境が良い」が11項目中上位3位を占めています。
- ・また、小金井市に住んで良かったと思うところは、「生活が便利」、「安全・安心な環境」、「自然環境が良い」が11項目中上位3位を占めています。
- ・他の地域と比べた小金井の良いところ（自由記述）では、「自然環境・住環境に関するもの」が突出して多く、具体的には「自然が豊か」、「緑が多い」、「静か」、「公園がある」等が挙げられています。

【広報について】

- ・小金井市の情報については、「関心がない」が84.4%を占め、ツイッターを使用する人は79.0%に上った一方で、市公式ツイッターは「見たことがない」が96.3%を占めています。

④ 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略、進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査

- ◆実施背景等：「小金井市人口ビジョン」及び「小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成27年7月29日～8月17日
- ◆対象者：市内在住の16歳から39歳2,000人
- ◆回答者数（回答率）：482人（24.1%）
- ◆主な質問事項：転入した理由、学生の進学・就職に対する意識、子どもの数、理想とする子どもの数、出産と就業継続について、住みやすさについて、定住意向について
- ◆結果概要：

【転入した理由】

- ・「通勤・通学に都合がよかったから」、「住宅購入費・賃料が手ごろだったから」、「希望していた広さの住宅があったから」が15項目中上位3位を占め、「みどり・水辺などの自然環境がよいから」は次いで4位でした。

【住みやすさや定住意向】

- ・75.9%が「住みやすい（どちらかと言えばを含む）」と答えています。
- ・将来、小金井市に住み続けたいと思うかどうかについては、「どちらかというに住み続けたい」が最も多く41.7%、次いで「わからない」が22.2%でした。
- ・住み続けたい町のイメージとして、「街が安全・安心である」、「買い物などの日常生活が便利である」、「みどり・水辺などの自然環境が良い」が20項目中上位3位を占めています。

⑤ 小金井市の環境に関する市民アンケート

- ◆実施背景等：「第3次小金井市環境基本計画」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：令和元年9月18日～11月6日
- ◆対象者：18歳以上の小金井市民3,000人（住民基本台帳に基づき無作為抽出）
- ◆回答者数（回答率）：944人（31.5%）
- ◆主な質問事項：身近な環境の満足度、日常生活における環境に関する取組状況、環境活動への参加状況及び市の取組の認知度、環境に関する情報提供、今後重視すべき取組、小金井市の「みらい」の環境
- ◆結果概要：

【身近な環境の満足度】

- ・「緑の豊かさ」、「まちの清潔さ・きれいさ」、「公共の広場や公園の利用しやすさ」が14項目中上位3位を占めています。

【環境関連活動への参加状況及び小金井市の取組の認知度】

- ・環境関連活動への参加経験について、「地域の自然の保全活動」、「環境をテーマとした講座・講演会・勉強会・イベント」に参加経験のある人は、いずれも1割未満です。
- ・市の取組を「知っている」と答えた人は、「クリーン野川作戦」が最も多く56.2%、次いで「こがねい環境フォーラム」が27.0%、「環境講座」が21.4%でしたが、実際に参加経験のある人は、いずれも1割未満です。
- ・また、「小金井市環境賞」を「知っている」人は9.1%、参加経験のある人は、わずか0.2%に留まっています。
- ・活動に参加しない理由は、「時間的余裕がないから」が最も多く46.4%であり、「興味がないから」は12.4%でした。

【環境に関する情報提供】

- ・利用しやすい媒体は「市報こがねい」が最も多く80.9%を占めています。割合は年代によりばらつきがあるものの、1位はいずれも「市報こがねい」でした。
- ・ただし、10代、20代は「市報こがねい」と並んで「ツイッター・フェイスブック等」も上位に挙げられています。

【今後重視すべき取組】

- ・「ごみの適正な処理」が最も多く45.2%に上っています。次いで「小金井らしい景観の保全」が35.2%、「まちの緑の保全・創造」が34.9%となっています。

【小金井市の「みらい」の環境】

- ・将来残したい環境や大切にしていきたい環境では、「名勝小金井（桜）など桜のある風景」が57.9%、「玉川上水や野川、仙川などの水辺空間」が57.0%と上位を占めています。次いで「散策路や公園などの憩いの空間」が43.6%、「きれいな河川や湧水」が43.4%、「静かで落ち着いたまち」が42.4%でした。
- ・自由意見では、みどりに関するものとして、「緑あふれる町であってほしい」、「玉川上水の桜並木の復元に期待している」、「農のあるくらしを楽しめる街」、「街路樹が四季折々に美しいまち」等が寄せられています。

⑥ 小金井市公共施設等に関する市民アンケート調査

- ◆実施背景等：「小金井市公共施設等総合管理計画」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成28年4月15日～4月28日
- ◆対象者：16歳以上の市民2,000人（無作為抽出）
- ◆回答者数（回答率）：578人（28.9%）
- ◆主な質問事項：公共施設の利用状況と施設のあり方について、公共施設の今後の方向性について、インフラ系施設の今後の方向性について
- ◆結果概要：

【公共施設の今後の方向性について】

- ・「公園」は、「増やす」が15.9%、「現状維持」が68.5%、「減らす」及び「移転する、他の施設にまとめる」は計9.3%でした。
- ・「市民農園、高齢者農園」は、「増やす」が14.2%、「現状維持」が54.2%、「減らす」及び「移転する、他の施設にまとめる」は計が24.7%でした。
- ・維持・管理や運営のあり方について、「公園」に対しては「現状規模の維持のために、サービスを落としてお金を節約する」は15.3%、「民間との連携を行う」は45.6%、「現状維持のために利用者の負担を増やす」は20.3%、「お金をかけても質の高い管理を行う」は18.9%でした。
- ・「市民農園、高齢者農園」に対しては「現状規模の維持のために、サービスを落としてお金を節約する」は16.8%、「民間との連携を行う」が32.9%、「現状維持のために利用者の負担を増やす」が33.4%、「お金をかけても質の高い管理を行う」は6.1%でした。
- ・今後、公共施設の見直しを行う場合の優先度（公共施設の数減らしていく必要が出てきた場合でも優先的に維持・拡充していくべき施設）について、「公園」は18項目中上位8位、「農園」は最下位でした。なお、上位は「学校教育系施設（小学校、中学校など）」、「子育て支援施設（保育園、学童保育所）」、「保育福祉施設（高齢者福祉施設、障害者福祉施設、保健センターなど）」となっています。

【インフラ系施設の今後の方向性について】

- ・「公園は小規模かつ利用の少ない公園を統合して、大規模な公園を整備する」との方針に対しては、「実施すべき（どちらかと言えばを含む）」が49.3%、「実施すべきでない（どちらかと言えばを含む）」が48.8%でほぼ同数でした。
- ・自由意見では、「小さな子供が遊べる公園づくり」が複数挙げられたほか、「小さな公園は統合して遊具を充実させるべき」といった意見も見られます。

⑦ 小金井市公園等利用実態調査

- ◆実施背景等：「小金井市公園等整備基本方針」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成26年3月～平成27年2月のうち調査日数合計129日
- ◆回答者数：①一般（高校生以上）2,090人、②小・中学生350人（公園利用者を対象とした対面調査）
- ◆主な質問事項：公園の利用状況、施設整備の必要性、公園の良い点・悪い点
- ◆結果概要：

【公園の利用状況】

- ・公園までの所要時間は、①②いずれも「5分以内」が最も多く、約5割を占めています。
- ・公園の来園理由は、①②いずれも「近いから」が最も多く、4割弱を占めています。
- ・公園の利用目的は、①②いずれも「遊具で遊ぶ」が最上位を占めています。
- ・来園頻度は、一般にのみ質問し、「週に2～3回」が最も多く26.4%、次いで「ほぼ毎日」が17.0%、「週に1回」が17.7%、「月に2～3回」が17.8%でした。

【公園の好きなところ・嫌いなところ】

- ・一般では、「静かで落ち着いている」、「緑や自然が豊富である」、「大きな広場がある」が9項目中上位3位を占めています。
- ・小・中学生は、「走り回れる広場がある」、「ボール遊びができる広場がある」、「好きな遊具がある」が9項目中上位3位を占めています。

⑧ 名勝小金井（サクラ）復活事業に関するアンケート調査

- ◆実施背景等：名勝小金井（サクラ）復活に関する各種事業の今後の事業計画策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成29年3月1日～3月31日
- ◆対象者：①小金井橋から玉川上水下流整備区間の近隣住民（桜町1・3丁目、緑町2・3丁目、関野町1・2丁目、梶野町3丁目）の670戸、②一般市民
- ◆回答者数：367人
- ◆主な質問事項：名勝小金井（サクラ）並木の復活について、ヤマザクラ並木の改善状況について、雑木の伐採量について
- ◆結果概要：

【名勝小金井（サクラ）並木の復活と雑木の伐採量について】

- ・「復活を望む」が71.7%を占め、桜並木に雑木が混在する「現状のままで良い」は22.6%に留まっています。
- ・桜を被圧したり法面を崩壊させたりする恐れのある雑木を伐採したことについて、「上水・桜の保護上適切な伐採である」と「上水・桜の保護上もっと伐採すべき」が計63.2%、「もう少し桜以外の樹木を残すべき」と「伐採は望まない」が計28.1%でした。

⑨ 小金井市男女平等に関する市民意識調査

- ◆実施背景等：「第5次男女共同参画行動計画」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成27年9月25日～10月13日
- ◆対象者：市内在住の18歳以上の男女2,000人（住民基本台帳に基づき無作為抽出）
- ◆回答者数（回答率）：874件、（43.7%）
- ◆主な質問事項：仕事と家庭・育児・介護・地域活動について、子育て・教育について、介護について、人権について、男女共同参画社会の推進について
- ◆結果概要：

【地域活動への参加状況等】

- ・地域活動への参加状況は、「特に参加していない」が49.2%でした。
- ・地域活動への参加に必要なことは、「活動するきっかけや仲間がいること」が55.5%、「健康であること」が54.6%でした。次いで、「さまざまな立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること」が42.3%と比較的高い割合でした。

【子どもを産み育てやすい環境として必要なもの】

- ・「認可保育園など保育施設の拡充」が最も多く76.8%でした。「子供が安心して遊べる公園や広場の充実」が必要とした人は41.6%で、11項目中7位でした。

⑩ 子ども・子育て支援に関するニーズ調査

- ◆実施背景等：「第2期小金井市子ども・子育て支援事業計画」の策定にあたり実施
- ◆実施期間：平成30年11月15日～12月5日
- ◆対象者：①就学前児童の保護者2,000人、②就学児童の保護者1,500人、③中学校・高校年代の保護者1,250人、④中学校・高校年代の青少年1,250人（いずれも住民基本台帳に基づき無作為抽出）
- ◆回答者数（回収率）：2,848人（47.5%）
- ◆主な質問事項：教育・保育事業の利用状況について、子育て環境や子育て支援施策について、地域活動への参加について等
- ◆結果概要：

【子育て支援事業の利用状況について】

- ・就学前児童の保護者、就学児童の保護者では、「市立公園」を「利用したことがある」人は9割を超え、利用率は他の事業と比べても突出して高くなっています。また、中学校・高校年代の青少年も9割以上が「公園・広場」を「利用したことがある」と回答しています。

※中学校・高校年代の保護者には該当設問なし。

- ・就学児童の保護者を対象とした自由記述では、「子ども達が安心してボール遊びなど自由に遊べる場（公園）があったらよいと思う」、中学校・高校年代の青少年からは「色々なスポーツ（球技）ができるようにしてほしい」といった意見が複数寄せられています。

【地域活動への参加について】

- ・「国際交流体験活動」は61.5%、「ボランティア活動」は61.0%が「参加したい」と回答しています。「農林水産業等の体験活動」に「参加したい」との回答は41.9%でした。

※中学校・高校年代の青少年にのみ質問。

⑪ 小金井市保健福祉総合計画策定に関するアンケート調査

◆実施背景等（再掲）：「小金井市保健福祉総合計画」の改定にあたり実施

◆実施期間：平成28年12月8日～12月22日

◆対象者：18歳以上の市民（住民基本台帳に基づき無作為抽出）、市内在住の障害者手帳所持者、障がい者関係団体、自立・要支援認定者、要支援・要介護認定者、各種介護従事者等

※小金井市保健福祉総合計画策定に関するアンケート調査として、計13件の調査が実施されている。各調査の調査人数、回収率等の情報については割愛する。

◆主な質問事項：地域との関わり、日常生活、防災や災害時の対応、福祉の制度・サービス等、保険福祉施策等

◆結果概要：

【気軽に行ける自宅以外の「居場所」】

- ・一般市民を対象とした調査において、約7割が自宅以外の居場所が「ある」と回答しています。
- ・具体的な場所や施設は、「お店やカフェ等の商業施設」が最も多く43.0%、次いで「公園や緑地」が34.0%で8項目中2位でした。
- ・性別で見ると、男性は「公園や緑地」が最も多く45.0%でした。

【地域活動への参加状況】

- ・地域活動やボランティア活動について、いずれの属性でも「取り組んだことはない」が最も多く、その割合は一般市民で49.8%、自立・要支援認定者で46.6%、要支援・要介護者で60.5%と、約半数前後の人が取り組んだことがないことがわかりました。

【地域活動に参加しやすい条件】

- ・一般市民は「気軽に参加できる」、「身近なところで活動できる」、「活動時間や曜日を選べる」が上位3位でした。
- ・自立・要支援認定者、要支援・要介護者は「身近なところや便利なところに活動の幅があること」、「自分にあった時間帯に参加できること」、「身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること」が上位3位でした。
- ・ただし、自立・要支援認定者は9.5%が、要支援・要介護者は19.2%が、「条件によらず参加したくない」と回答しています。

(3) 既往調査結果から把握されるみどり等に関わる市民意識

各既往調査結果から把握される市民意識について、「みどり」、「地域活動」、「情報発信」の観点から整理すると以下のとおりです。なお、文末の数字は、前項の既往調査番号と対応しています。

◆みどりに関する市民意識

全般	<ul style="list-style-type: none">• 住みやすい理由として、「環境が良い」、「緑が多い」等を挙げる声が多く寄せられました (①④)• 小金井の良いところ・自慢できる点として、「みどりや水辺などの自然」、「静かで落ち着いた住環境」、「多くの大きな公園」が上位を占めました (②)• 中でも「名勝小金井（サクラ）など桜のある風景」、「玉川上水や野川、仙川などの水辺空間」への愛着は強く、いずれも半数以上が将来に残したい環境として挙げています (⑤)
公園整備	<ul style="list-style-type: none">• 子育て世代の9割が市立公園を利用しているほか、一般市民の自宅以外の居場所として約3割が「公園や緑地」を挙げるなど、幅広い市民の憩いの場として機能しています (⑩)• 公園に求める機能は、「静かで落ち着いた空間」、「豊富な緑や自然」、「大きな広場」等が上位に挙がり、特別な機能を求める意見は少数でした (⑦⑩)• 公園の拡充を望む意見は少なく、約7割が「現状維持」との意向でした (⑥)
管理	<ul style="list-style-type: none">• 「公園」の維持管理のあり方は、「民間との連携を行う」との回答が最も多く、約5割に上りました (⑥)• 「市民農園、高齢者農園」の維持管理のあり方は、「民間との連携を行う」と「現状維持のために利用者の負担を増やす」がいずれも約3割程度でほぼ同数でした (⑥)

◆地域活動に関する市民意識

参加状況	<ul style="list-style-type: none">• 地域活動への参加状況は、「取り組んだことはない」が約5割を占めました (⑨⑪)• 特にみどり・環境関連のイベント等に絞って見ると、「クリーン野川作戦」や「小金井環境フォーラム」等のイベント参加経験者は1割に未満でした (⑤)• 活動に参加しない理由は「時間的余裕がないから」が約5割を占め、「興味がないから」は約1割に留まりました (⑤)
今後の参加意向	<ul style="list-style-type: none">• 中高生は、約6割が「ボランティア活動」や「国際交流活動」への参加意向を示しましたが、「農林水産業等の体験活動」への参加意向は約4割でした (⑩)• 活動への参加に必要なことは、「活動するきっかけや仲間がいること」、「健康であること」、「気軽に身近なところで参加できること」、「活動時間や曜日を選べること」などが挙げられました (⑪)

◆情報発信に関する市民意識

発信媒体	<ul style="list-style-type: none">• 「市報こがねい」は、全体の約7割が閲読しています (①②)• ただし、年代別に見ると、10代、20代の閲読状況は約3割に留まっています (②)• 若者向けにSNSの活用も考えられますが、行政SNSの閲覧者は少ないのが現状です (③)
------	--

2. 市民アンケート調査の実施

(1) 実施要領

1) 調査の目的

本調査は、「小金井市緑の基本計画」の改定にあたり、市民のみどりに対する意識・意向について実態を把握することを目的として実施しました。

2) 実施方法

【対象者】：18歳以上の小金井市民3,000人（住民基本台帳に基づく無作為抽出）

※上記のうち、外国人80人には日本語のほか、英語、中国語、韓国語の調査票を送付

【調査期間】：令和元年11月15日～11月28日

【調査方法】：郵送による配布・回収

※日本人2,920人には、送付封筒にQRコードを印刷し、Webによる回答にも対応

3) 回収状況

【郵送数】：3,000件

【回収数】：1,028件（郵送：941件、Web：87件）

上記のうち、外国人の回答数は11件（日本語：5件、英語：6件）

【回収率】：34.3%

(2) 調査結果の概要及び考察

1) 回答者属性

性別 「男性」が約4割、「女性」が約6割で、市の実情と比較して女性の回答者が多くなっています。

年齢 「70代」が最も多く約3割、「29歳以下（10代、20代）」が少なく約1割で、本市の人口比と比較して70歳以上の回答者が多く、29歳以下の若者世代の回答者が少なくなっています。

居住地域 各地域1～2割で本市の実情と概ね一致した数値でした。

居住年数 「10年以上」が6割を超えています。一方、「5年未満」は約2割でした。

住居形態 「戸建て」が5割強、「集合住宅」が5割弱で、戸建て住宅に住む人の方がやや多くなっています。

世帯構成 「二世帯（子どもと）同居」、「夫婦のみ」がいずれも約3割でした。

計画の認知度 「知らない」が約6割を占め、「知っているし、読んだことがある」は1割未満でした。

2) 市民意見の傾向

①小金井市のみどりについて

- 小金井市のみどりについて、量及び質ともに高評価です
- 特に「野川のみどり」、「公園のみどり」への愛着が強いとみられます

小金井らしいみどり、将来の小金井に残したいみどり (p. 101～参照)

- 「野川のみどり」、「公園のみどり」、「玉川上水のみどり」は、小金井らしいみどり（現状）としても、将来の小金井に残したいみどり（将来像）としても上位を占めています。
- これらは、市内でも特にまとまったみどりの量があること、また市を代表する観光名所であること等から、市民の愛着が特に強いとみられます。
- 次いで、「国分寺崖線のみどり」、「街路樹など道路のみどり」、「大学など教育施設のみどり」、「寺社や屋敷林のみどり」も、各4割程度と他の項目と比較して高い数値を示しています。
- これらは、みどりの量や知名度で上位のみどりには及ばないものの、街並みを形成するみどりとして、市民の愛着が強いとみられます。
- 年齢、居住年数別では、現状、将来像ともに「10～30代」や「居住年数5年未満」では「公園のみどり」が1位であるのに対し、「40～70代以上」や「居住年数5年以上」では「野川のみどり」が1位であるという傾向の違いが見られ、「野川のみどり」は年齢を重ねたり、長く小金井市に居住したりすることで、愛着が増すと考えられます。

みどりの量の印象、みどりの質の満足度 (p. 106～参照)

- みどりの量の印象、みどりの質の満足度ともに、好印象を示す回答が約7割を占め、悪い印象を示す回答は1割程度にとどまったことから、みどりの現状に対し、一定の評価が得られていると言えます。
- ただし、みどりの量の印象、みどりの質の満足度ともに、居住地域別では「東地域」、「中央地域」で、好印象を示す回答が他地域に比べて少なくなっています。これは、東地域では近年緑被率が大きく減少していること、中央地区では元来緑被率が低いことが関係しているものと見られます。

樹木の管理方法 (p. 108～参照)

- 「枯死木は優先的に伐採・除去することが望ましい」や「越境樹木の剪定を行うことが望ましい」、「密集している樹木は間引きすることが望ましい」については、いずれも「そう思う」が高い割合を占めています。
- 一方で、「多少の不便はあっても、大木は伐採しない方が望ましい」も「そう思う」が高い割合を示しており、生活環境を阻害する樹木については伐採を求める声が多いものの、古木や大木の伐採に対しては慎重な傾向が見られます。
- また、「樹林地更新のために一定年月を経過した樹木は伐採し、新たな樹木を植え、新陳代謝を図ることが望ましい」や「多少の不便はあっても、樹木は極力伐採しない方が望ましい」については回答が分かれており、「どちらとも言えない」の回答も多く、丁寧な議論が必要と考えられます。

②みどりとの関わりについて

- みどりとの関わりは一定程度あるものの、みどりの保全・創出に繋がる取組の実行は限定的です
- 今後の取組としては、半数以上がみどりに関する募金への参加意向を持っています
- 年齢別で見ると、20～50代では市民農園への参加意向も高いです
- 市の各種制度に対しては、半数以上が活用に消極的です

みどりを豊かにするための取組 (p. 112～参照)

- 現在の取組は、全般的にあまり積極的な状況ではありませんが、「自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる」、「市内で生産された野菜等を食べる」については、約半数の人が「現在取り組んでいる」と回答しています。
- 今後の取組意向が比較的高かったものとしては、「みどりの整備や管理に関する募金に協力する」、「ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する」、「公園や道路の清掃に参加する」が挙げられます。
- 一方、「SNS等で市内のみどりの魅力を発信する」、「みどりに関する市民団体等で活動する」、「自宅で壁面緑化や屋上緑化をする」、「公園の管理運営に参加する」は、「取り組んだことはないし、今後も取り組みたいと思わない」との意向が約7割に上っています。
- 年齢別では、「市民農園に参加する」について、「取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい」が「20～50代」では約半数を占めるのに対し、「60代以上」では3割以下に留まり、年齢差が大きくみられます。
- 住居形態別では、住居形態に依存する「自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる」、「塀を生け垣にする」について、戸建て住宅居住者は集合住宅居住者に比べて「現在取り組んでいる」との回答が多くなっています。
- しかし、戸建て住宅居住者であっても「塀を生け垣にする」について、「今後も取り組んでみたいと思わない」が約5割を占め、取組意向は決して高くありません。
- 個人で手軽にできる取組は、すでに多くの人に取り組んでいます。一定程度の労力がかかるもの、団体等の組織に加入して活動するものについては、活動のハードルが高いとみられます。
- 取組意向の低いものほど、みどりの保全・創出に直接的に寄与するものも多く、意識醸成や適切な支援により、より多くの市民の参加を促す必要があります。

市民や民間団体等で緑化をする際に必要な市の取組 (p. 122～参照)

- いずれも「活用している」、「かつて活用したことがある」は1割未満でごくわずかでした。
- 「花壇ボランティア制度」、「環境美化サポーター制度」については、約4割が「活用してみたい」と回答しています。
- 見方を変えるとすべての制度で「活用してみたいと思わない」が半数を超えており、この傾向は住居形態別に見ても変わりませんでした。制度のさらなる広報や魅力づけが求められます。
- 年齢、居住地域、居住年数、居住形態別に見ると、いずれの設問でも年齢「70代以上」、居住年数「30年以上」は、「無効回答・無回答」が多い傾向にあります。自由記述の結果とあわせて見ると、そもそも緑化に関する取組を行うこと自体が困難、といった理由から「無効回答・無回答」が多くなったのではないかと推察されます。

③身近な地域の公園について

- 公園のみどりへの愛着は強いものの、身近な公園の利用頻度は高くありません
- 公園に対して、特別な機能や施設の充実を求める声は少数です
- 活用度の低い公園について、売却には消極的で、何らかの形で市の土地として存続することを希望しています

公園の利用頻度及び利用目的 (p. 126～参照)

- 公園の利用頻度は、「ほとんど利用しない」が最も多く約4割を占め、「週数日～毎日」と高頻度で利用している人は約2割に留まりました。
- 居住地域別では、「野川地域」、「北地域」において、「月に数日以上利用している」人が6割を超え、「ほとんど利用しない」は3割程度でした。これらの地域には都立公園が存在することが関係している可能性があります。
- 一方、その他の地域では公園を利用している人とそうでない人がほぼ半々となっています。
- 小金井らしいみどりとして「公園のみどり」を挙げた人が多いものの、「身近な公園」に限定してみると利用頻度はそれほど高くありません。
- 利用目的は、半数以上が「散策・散歩(犬の散歩を含む)」で、次いで、「ウォーキングや体操、球技等の運動をする」、「花や生き物と触れ合う、鑑賞する」、「子供を遊ばせる」、「地域行事やイベントに参加する」等が挙げられました。

公園でやりたいこと (p. 130～参照)

- 今後、公園でやりたいことについても「散策・散歩(犬の散歩を含む)」が最も多く、現在の公園の利用目的と比較すると、上位の傾向は概ね一致しています。

公園にほしい機能 (p. 133～参照)

- 公園にほしい機能として、「美しい景観、豊かな自然」が最も多く約3割を占めています。
- その他の機能では、「防災機能」が約2割を占めた他は、いずれも1割程度でした。
- 公園に対して、特別な機能や施設を求める声は少数です。

利用されていない公園の今後の方向性 (p. 135～参照)

- 利用されていない公園の今後の方向性として、「推進すべき」との回答が最も多かったのは「防災用地など他の機能に転用する」で約6割を超えています。
- 一方、「推進しない方がいい」との回答が最も多かったのは「近隣住民や民間事業者売却する」でした。
- 「市民が主体となって花壇や植栽の管理をし、公園として維持していく」や「公園の維持管理を民間事業者任せすることで、さらなる魅力向上を目指す」も約4割程度が「推進すべき」と回答していて、今後も市の土地として緑地としての機能を維持してほしいという意向が表れています。
- また、「公園にほしい機能」でも「防災機能」が上位に挙がっていたことから、防災機能の強化を望む意向がうかがえます。

④小金井市のみどりに関する施策について

- ・市のいずれの施策についても、満足度は「どちらとも言えない」との回答が目立ちます
- ・「公園等の質を向上させ、活用する」、「玉川上水の水辺のみどりを守る」、「国分寺崖線のみどりを守る」という施策を重視する意見が多数寄せられています
- ・「新たな公園等をつくり、育てる」という施策を重視する意見は少なく、公園については質を求める意向が見られます

市の施策の満足度 (p. 138～参照)

- ・市の各施策の満足度について、「満足」、「やや満足」、「どちらとも言えない」、「やや不満」、「不満」の5段階で評価を聞いたところ、いずれの施策についても「どちらとも言えない」との回答が目立ち、市の施策の認知度、理解度が低いことがうかがえます。
- ・その中で、相対的に見て満足度の高い施策は、「国分寺崖線のみどりを守る」、「玉川上水のみどりを守る」でした。
- ・「公園等の質を向上させ、活用する」は、約3割が満足している一方で、約2割が不満であると、評価の分かれる結果となっています。
- ・公園については、「小金井らしいみどり」、「将来の小金井に残したいみどり」としても、愛着や期待度が高く、他の要素に比べて市民の評価が厳しくなっている可能性が考えられます。

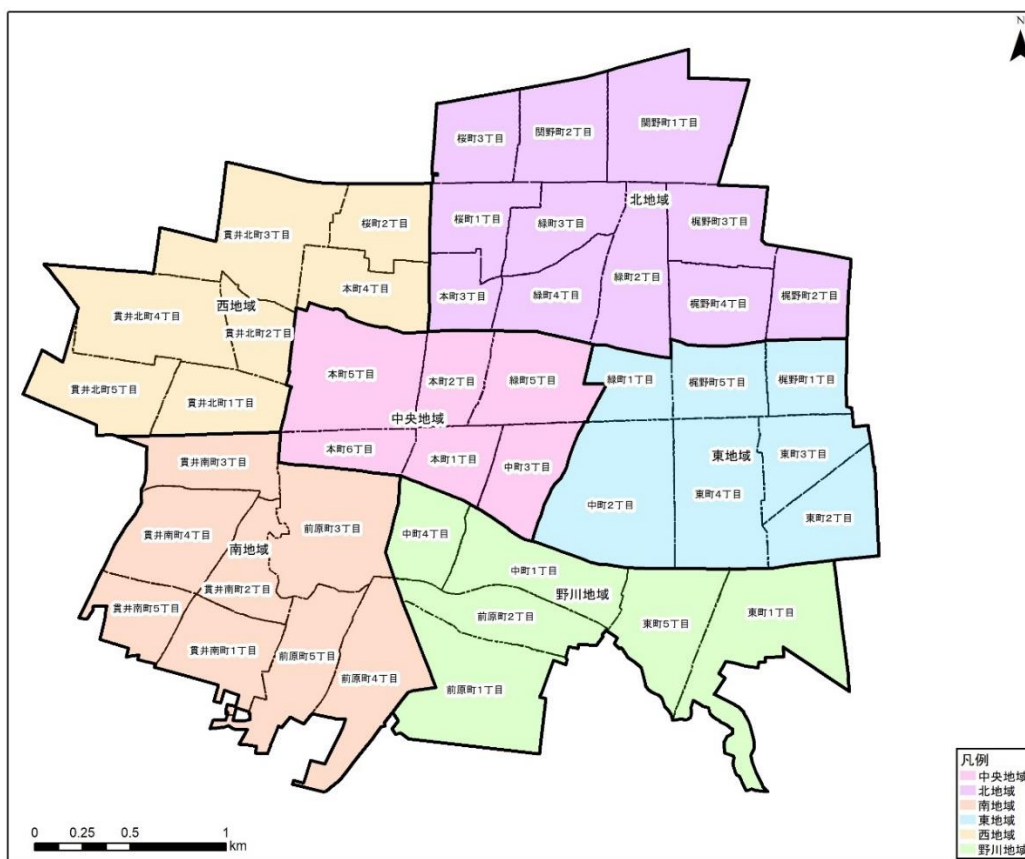
市の施策の重要度 (p. 146～参照)

- ・今後特に重要だと思える施策としては、「公園等の質を向上させ、活用する」が最も多く、約4割を占めています。
- ・次いで、「玉川上水の水辺のみどりを守る」、「国分寺崖線のみどりを守る」が挙げられます。
- ・「公園のみどり」、「玉川上水のみどり」、「国分寺崖線のみどり」は、現在の満足度も比較的高い施策ですが、「小金井らしいみどり」、「将来の小金井に残したいみどり」として愛着、期待度も高く、今後も引き続き重点化してほしいとの意向が表れています。
- ・「公園等の質を向上させ、活用する」との回答が多かった一方で、「新たな公園等をつくり、育てる」は1割以下に留まっており、公園の増設よりも既存公園の質の向上を希望する意向がうかがえます。

(3) 集計結果

集計結果は以下のとおりです。選択問題については、単純集計の他、設問の内容に応じて2～3種のクロス集計を行いました。また、自由記述については、記述内容でカテゴリー分けした上で、意見概要を整理しました。自由記述の原文は、(4)に掲載しました。

なお、居住地域は、町丁目の情報をもとに下図のとおり6つの地域に区分して集計しています。



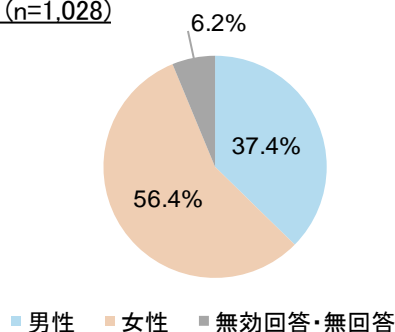
野川地域	東町1丁目	北地域	梶野町2丁目	西地域	本町4丁目
	東町5丁目		梶野町3丁目		桜町2丁目
	中町1丁目		梶野町4丁目		貫井北町1丁目
	中町4丁目		関野町1丁目		貫井北町2丁目
	前原町1丁目		関野町2丁目		貫井北町3丁目
前原町2丁目	緑町2丁目		貫井北町4丁目		
東地域	東町2丁目		緑町3丁目	貫井北町5丁目	
	東町3丁目		緑町4丁目	前原町3丁目	
	東町4丁目		本町3丁目	前原町4丁目	
	梶野町1丁目		桜町1丁目	前原町5丁目	
	梶野町5丁目	桜町3丁目	貫井南町1丁目		
	緑町1丁目	緑町5丁目	貫井南町2丁目		
	中町2丁目	中町3丁目	貫井南町3丁目		
中央地域	本町1丁目	本町1丁目	貫井南町4丁目		
	本町2丁目	本町2丁目	貫井南町5丁目		
	本町5丁目				
	本町6丁目				

図2-1. 1 地域区分図

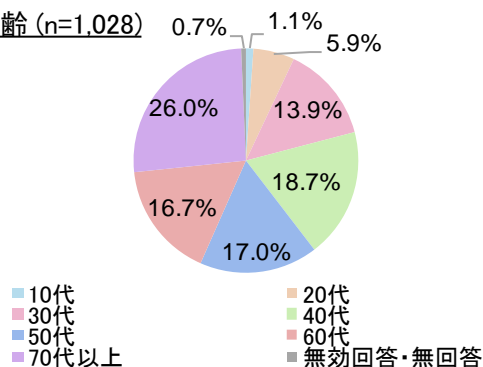
◆ ご自身について

はじめに、あなたご自身についてお聞きします。下表のあてはまる数字に○をつけてください。
(1つ選択)

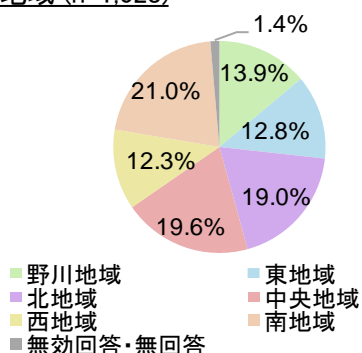
性別 (n=1,028)



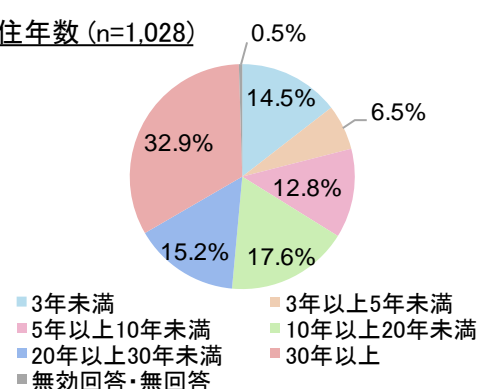
年齢 (n=1,028)



居住地域 (n=1,028)

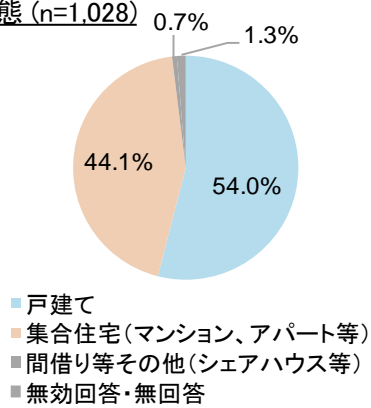


居住年数 (n=1,028)

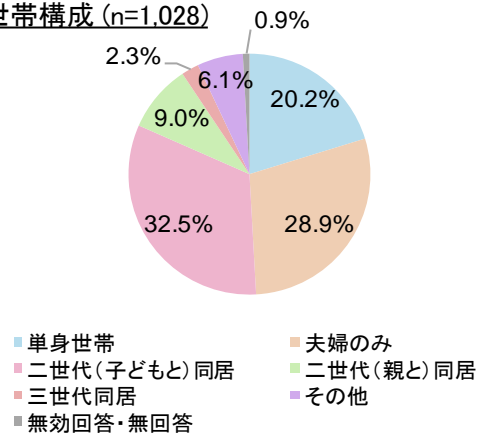


- ・性別は、「男性」が37.4%、「女性」が56.4%であり、女性の回答者が多くなっています。なお、本市の人口比（令和元年9月現在：以下同）は、男性49.4%、女性50.6%で、市の実情と比較して女性の回答者が多いと言えます。
- ・年齢は、「70代以上」が最も多く26.0%、「29歳以下（10代、20代）」が少なく計7.0%でした。なお、本市の人口比は、18～19歳1.9%、20代13.2%、30代14.2%、40代15.3%、50代14.3%、60代10.4%、70代以上16.0%で、市の実情と比較しても70歳以上が多く、29歳以下の若者世代の回答率が低いと言えます。
- ・居住地域は、「南地域」が最も多く21.0%、「西地域」が最も少なく12.3%でした。なお、本市の人口比は、野川地域11.2%、東地域17.7%、北地域18.8%、中央地域18.4%、西地域13.8%、南地域20.2%で、市の実情と概ね一致した回答数となっています。
- ・居住年数は、「30年以上」が最も多く32.9%を占めています。また、「10年以上（10年以上20年未満、20年以上30年未満、30年以上）」は65.7%に上っています。一方、「5年未満（3年未満、3年以上5年未満）」は21.0%でした。

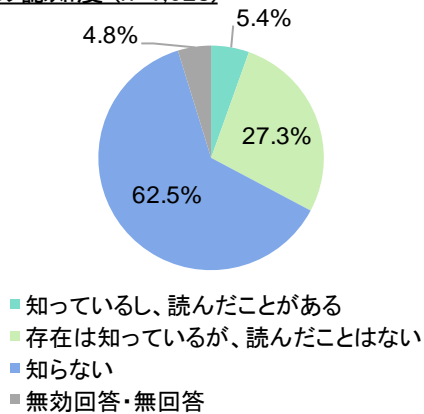
住居形態 (n=1,028)



世帯構成 (n=1,028)



計画の認知度 (n=1,028)



- 住居形態は、「戸建て」が54.0%、「集合住宅」が44.1%で、戸建て住宅に住むの方がやや多くなっています。なお、「間借り等その他」に住む人はほとんどおらず0.7%でした。
- 世帯構成は、「二世帯(子どもと)同居」が最も多く32.5%でした。次いで、「夫婦のみ」が28.9%、「単身世帯」が20.2%でした。
- 計画の認知度は、「知らない」が62.5%を占め、「知っているし、読んだことがある」は5.4%に留まっています。

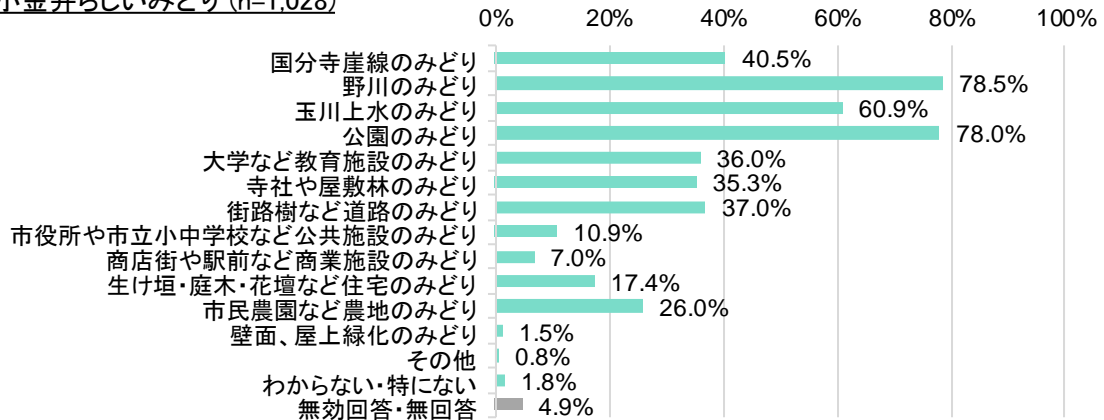
I 小金井市のみどりについて

問1【小金井らしいみどり、将来の小金井に残したいみどり】

小金井市において「小金井らしい」と感じるみどり、「将来の小金井に残したい」と思うみどりをお聞かせください。下表の中からそれぞれあてはまるものを5つまで選び、回答欄に数字をご記入ください。

なお、「将来に残したいみどり」は、現在あるみどりでも、新たに増やしたい・創りたいみどりでもかまいません。

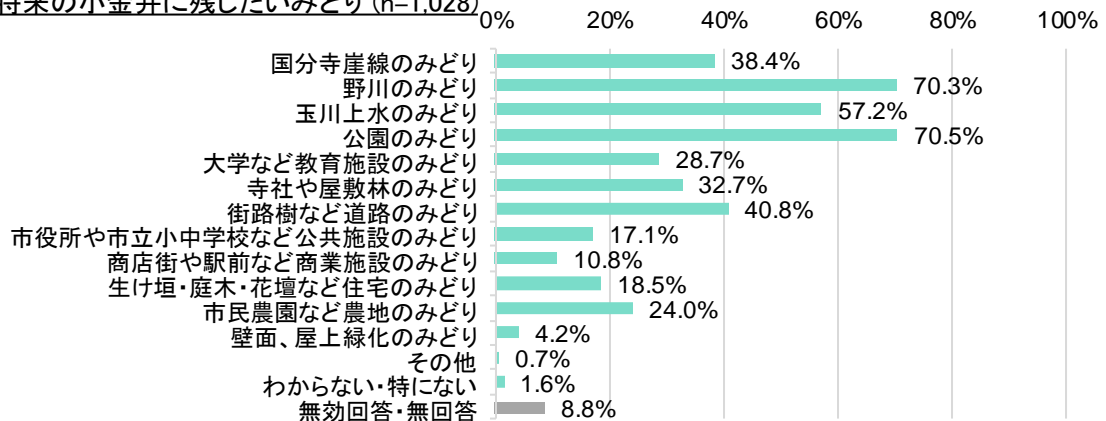
小金井らしいみどり (n=1,028)



小金井らしいみどり その他具体例 (n=15) ※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類	件数
多磨霊園のみどり	2
限定的でなく、全体に多い	1
概念的なもの (四季の草木など)	2
選択肢と重複	7
選択肢を選んだ理由	4
その他	1
計	17

将来の小金井に残したいみどり (n=1,028)



将来に残したいみどり その他具体例 (n=15) ※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類	件数
概念的なもの (子どもに多くのみどりに触れ合っ欲しい、この先も多くの人を癒して欲しいなど)	5
全てのみどり	1
選択肢と重複	6
選択肢を選んだ理由	2
その他	2
計	16

- ・小金井らしいみどり（現状）として、「野川のみどり」が78.5%と最も多く、次いで「公園のみどり」が78.0%、「玉川上水のみどり」が60.9%でした。
- ・「国分寺崖線のみどり」（40.5%）、「街路樹など道路のみどり」（37.0%）、「大学など教育施設のみどり」（36.0%）、「寺社や屋敷林のみどり」（35.3%）は、いずれも半数には届きませんでした。
- ・将来の小金井に残したいみどり（将来像）についても、「公園のみどり」が70.5%、「野川のみどり」が70.3%と、上位かつ7割を超える高い数値を示しています。また、「玉川上水のみどり」も57.2%と半数を超えています。

※赤字は、各属性の1位の回答

小金井らしいみどり×年齢

	全体 (n=1028)	10代 (n=11)	20代 (n=61)	30代 (n=143)	40代 (n=192)	50代 (n=175)	60代 (n=172)	70代以上 (n=267)
国分寺崖線のみどり	40.5%	36.4%	14.8%	25.9%	41.1%	38.9%	51.2%	47.9%
野川のみどり	78.5%	81.8%	63.9%	74.8%	83.9%	80.6%	84.3%	74.9%
玉川上水のみどり	60.9%	54.5%	41.0%	51.0%	63.5%	67.4%	70.3%	58.1%
公園のみどり	78.0%	90.9%	78.7%	86.7%	77.1%	80.6%	79.1%	70.8%
教育施設のみどり	36.0%	63.6%	37.7%	29.4%	39.6%	32.6%	42.4%	33.0%
寺社や屋敷林のみどり	35.3%	27.3%	18.0%	33.6%	35.9%	37.1%	40.1%	36.7%
道路のみどり	37.0%	45.5%	34.4%	39.2%	30.7%	29.7%	39.5%	42.7%
公共施設のみどり	10.9%	9.1%	13.1%	11.9%	14.6%	10.3%	9.3%	8.6%
商業施設のみどり	7.0%	18.2%	11.5%	5.6%	5.7%	6.3%	4.7%	9.4%
住宅のみどり	17.4%	18.2%	18.0%	11.9%	9.4%	17.1%	17.4%	26.6%
農地のみどり	26.0%	18.2%	24.6%	35.7%	35.9%	33.1%	18.6%	15.0%
壁面、屋上緑化のみどり	1.5%	0.0%	4.9%	2.1%	1.6%	1.1%	0.0%	1.5%
その他	0.8%	0.0%	0.0%	0.7%	1.0%	1.1%	1.7%	0.0%
わからない・特にない	1.8%	0.0%	9.8%	2.8%	1.6%	0.6%	1.2%	1.1%
無効回答・無回答	4.9%	0.0%	3.3%	2.1%	2.1%	2.9%	2.3%	11.6%

小金井らしいみどり×居住地域

	全体 (n=1028)	野川地域 (n=143)	東地域 (n=132)	北地域 (n=195)	中央地域 (n=202)	西地域 (n=126)	南地域 (n=216)
国分寺崖線のみどり	40.5%	53.1%	34.1%	30.3%	42.1%	33.3%	48.6%
野川のみどり	78.5%	88.8%	81.8%	65.1%	78.7%	65.9%	89.4%
玉川上水のみどり	60.9%	52.4%	56.8%	76.9%	62.4%	61.1%	53.2%
公園のみどり	78.0%	77.6%	80.3%	86.2%	80.7%	70.6%	72.7%
教育施設のみどり	36.0%	30.1%	37.9%	30.3%	42.6%	47.6%	31.0%
寺社や屋敷林のみどり	35.3%	39.9%	32.6%	27.7%	40.6%	24.6%	44.0%
道路のみどり	37.0%	26.6%	40.2%	41.5%	36.1%	54.0%	27.8%
公共施設のみどり	10.9%	6.3%	10.6%	10.3%	10.9%	11.1%	14.8%
商業施設のみどり	7.0%	6.3%	9.1%	9.2%	5.9%	4.0%	6.5%
住宅のみどり	17.4%	19.6%	15.9%	20.0%	13.9%	17.5%	18.5%
農地のみどり	26.0%	28.0%	33.3%	33.8%	21.8%	19.8%	20.8%
壁面、屋上緑化のみどり	1.5%	1.4%	3.8%	1.5%	0.0%	0.8%	1.9%
その他	0.8%	0.7%	0.0%	1.5%	0.5%	0.8%	0.9%
わからない・特にない	1.8%	2.8%	0.8%	2.1%	2.0%	3.2%	0.9%
無効回答・無回答	4.9%	5.6%	1.5%	3.1%	5.9%	7.1%	4.6%

小金井らしいみどり×居住年数

	全体 (n=1028)	3年未満 (n=149)	3年～5年未満 (n=67)	5年～10年未満 (n=132)	10年～20年未満 (n=181)	20年～30年未満 (n=156)	30年以上 (n=338)
国分寺崖線のみどり	40.5%	18.8%	35.8%	40.2%	47.5%	43.6%	46.4%
野川のみどり	78.5%	59.1%	77.6%	83.3%	87.8%	79.5%	80.5%
玉川上水のみどり	60.9%	48.3%	46.3%	55.3%	71.8%	68.6%	62.4%
公園のみどり	78.0%	80.5%	86.6%	78.0%	81.2%	78.2%	74.0%
教育施設のみどり	36.0%	36.2%	23.9%	40.2%	40.9%	33.3%	35.2%
寺社や屋敷林のみどり	35.3%	26.2%	23.9%	41.7%	39.8%	34.0%	37.6%
道路のみどり	37.0%	37.6%	46.3%	29.5%	32.0%	39.7%	38.8%
公共施設のみどり	10.9%	12.8%	11.9%	8.3%	13.3%	12.2%	8.9%
商業施設のみどり	7.0%	11.4%	4.5%	8.3%	5.0%	5.1%	7.1%
住宅のみどり	17.4%	12.1%	20.9%	12.1%	9.4%	19.9%	24.3%
農地のみどり	26.0%	27.5%	34.3%	34.1%	28.2%	25.6%	19.8%
壁面、屋上緑化のみどり	1.5%	4.7%	0.0%	0.8%	0.6%	0.6%	1.5%
その他	0.8%	0.0%	0.0%	1.5%	2.2%	0.0%	0.6%
わからない・特にない	1.8%	6.0%	6.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.9%
無効回答・無回答	4.9%	3.4%	3.0%	3.8%	1.7%	3.8%	8.0%

※赤字は、各属性の1位の回答

将来の小金井に残したいみどり×年齢

	全体 (n=1028)	10代 (n=11)	20代 (n=61)	30代 (n=143)	40代 (n=192)	50代 (n=175)	60代 (n=172)	70代以上 (n=267)
国分寺崖線のみどり	38.4%	27.3%	16.4%	26.6%	41.1%	34.9%	48.8%	43.8%
野川のみどり	70.3%	81.8%	60.7%	72.7%	80.2%	74.9%	75.6%	57.3%
玉川上水のみどり	57.2%	54.5%	37.7%	45.5%	64.1%	65.1%	66.3%	51.7%
公園のみどり	70.5%	81.8%	77.0%	80.4%	79.2%	72.0%	71.5%	55.4%
教育施設のみどり	28.7%	36.4%	36.1%	28.7%	33.3%	25.1%	29.1%	24.7%
寺社や屋敷林のみどり	32.7%	18.2%	18.0%	34.3%	32.3%	37.1%	39.0%	29.6%
道路のみどり	40.8%	36.4%	37.7%	41.3%	35.4%	39.4%	46.5%	41.6%
公共施設のみどり	17.1%	18.2%	18.0%	21.0%	18.8%	18.3%	13.4%	15.4%
商業施設のみどり	10.8%	18.2%	13.1%	7.7%	9.9%	12.6%	9.9%	12.0%
住宅のみどり	18.5%	18.2%	11.5%	15.4%	9.4%	21.7%	19.8%	25.5%
農地のみどり	24.0%	27.3%	24.6%	34.3%	34.9%	23.4%	21.5%	13.1%
壁面、屋上緑化のみどり	4.2%	9.1%	11.5%	4.9%	1.0%	4.0%	4.1%	4.5%
その他	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%	1.0%	0.6%	1.7%	0.0%
わからない・特にない	1.6%	0.0%	6.6%	1.4%	1.6%	2.3%	0.6%	0.7%
無効回答・無回答	8.8%	0.0%	3.3%	3.5%	3.1%	4.0%	4.7%	22.8%

将来の小金井に残したいみどり×居住地域

	全体 (n=1028)	野川地域 (n=143)	東地域 (n=132)	北地域 (n=195)	中央地域 (n=202)	西地域 (n=126)	南地域 (n=216)
国分寺崖線のみどり	38.4%	51.0%	31.1%	28.7%	39.1%	34.9%	44.4%
野川のみどり	70.3%	82.5%	70.5%	58.5%	71.3%	57.9%	79.6%
玉川上水のみどり	57.2%	46.2%	55.3%	66.7%	63.4%	57.1%	52.3%
公園のみどり	70.5%	69.9%	75.8%	73.3%	76.7%	68.3%	62.5%
教育施設のみどり	28.7%	25.2%	28.0%	25.1%	33.7%	40.5%	22.7%
寺社や屋敷林のみどり	32.7%	35.7%	27.3%	31.8%	31.2%	28.6%	39.4%
道路のみどり	40.8%	32.9%	44.7%	44.6%	44.1%	44.4%	33.3%
公共施設のみどり	17.1%	11.9%	17.4%	16.4%	15.8%	19.8%	21.3%
商業施設のみどり	10.8%	9.1%	7.6%	10.3%	15.3%	11.1%	9.3%
住宅のみどり	18.5%	19.6%	22.7%	20.0%	13.9%	16.7%	19.0%
農地のみどり	24.0%	24.5%	31.1%	24.6%	22.3%	26.2%	20.4%
壁面、屋上緑化のみどり	4.2%	2.1%	6.1%	4.6%	3.0%	7.1%	3.7%
その他	0.7%	0.7%	0.0%	1.5%	0.0%	1.6%	0.5%
わからない・特にない	1.6%	0.7%	0.8%	0.5%	3.0%	3.2%	1.4%
無効回答・無回答	8.8%	8.4%	6.1%	9.7%	6.9%	7.1%	11.6%

将来の小金井に残したいみどり×居住年数

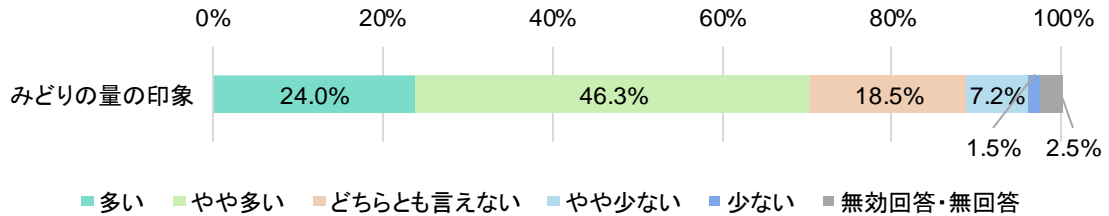
	全体 (n=1028)	3年未満 (n=149)	3年～5年未満 (n=67)	5年～10年未満 (n=132)	10年～20年未満 (n=181)	20年～30年未満 (n=156)	30年以上 (n=338)
国分寺崖線のみどり	38.4%	18.1%	35.8%	37.9%	44.8%	39.7%	44.4%
野川のみどり	70.3%	55.0%	73.1%	75.8%	78.5%	76.9%	67.2%
玉川上水のみどり	57.2%	41.6%	49.3%	56.1%	65.7%	64.1%	58.6%
公園のみどり	70.5%	76.5%	80.6%	72.0%	75.7%	71.8%	62.1%
教育施設のみどり	28.7%	32.2%	26.9%	34.8%	30.9%	21.8%	26.9%
寺社や屋敷林のみどり	32.7%	29.5%	28.4%	34.8%	32.6%	33.3%	34.3%
道路のみどり	40.8%	45.0%	40.3%	37.9%	33.7%	44.9%	41.7%
公共施設のみどり	17.1%	20.8%	16.4%	19.7%	19.3%	13.5%	15.4%
商業施設のみどり	10.8%	10.7%	7.5%	10.6%	11.0%	9.6%	12.1%
住宅のみどり	18.5%	18.1%	11.9%	12.1%	13.8%	15.4%	26.3%
農地のみどり	24.0%	27.5%	37.3%	23.5%	23.2%	25.6%	20.1%
壁面、屋上緑化のみどり	4.2%	9.4%	3.0%	1.5%	3.9%	4.5%	3.3%
その他	0.7%	0.0%	0.0%	2.3%	1.1%	0.0%	0.6%
わからない・特にない	1.6%	4.0%	4.5%	0.0%	0.6%	2.6%	0.6%
無効回答・無回答	8.8%	4.0%	6.0%	9.8%	6.1%	5.8%	13.3%

- 年齢別に見ると「小金井らしいみどり」については、「10～30代」では「公園のみどり」が1位であるのに対し、「40～70代以上」では「野川のみどり」が1位であるという傾向の違いが見られます。
- 居住地域別に見ると、「小金井らしいみどり」、「将来の小金井に残したいみどり」ともに、野川地域を除く全ての地域で「野川のみどり」、「公園のみどり」、「玉川上水のみどり」が上位3位を占めています。一方、野川地域では、「野川のみどり」、「公園のみどり」は他地域と同様ですが、「国分寺崖線のみどり」が上位3位に入っています。
- 居住年数別に見ると「小金井らしいみどり」、「将来の小金井に残したいみどり」ともに、「5年未満」では「公園のみどり」が1位であるのに対し、「5年以上」の人は「野川のみどり」が1位であるという傾向の違いが見られます。
- より詳細に見ると、「小金井らしいみどり」については、「国分寺崖線のみどり」、「玉川上水のみどり」で、居住年数の長い人のほうが、支持する割合が高い傾向が見られます。
- 「国分寺崖線のみどり」は、「3年未満」では2割弱であるのに対し、「3～10年未満」では3割強、「10年以上」では4割前後の人が選択しています。
- 「玉川上水のみどり」は、「3年未満」では4割程度であるのに対し、「3～5年未満」では5割弱、「5年以上」では6～7割の人が選択しています。
- 「将来の小金井に残したいみどり」については、「国分寺崖線のみどり」、「野川のみどり」、「玉川上水のみどり」で、「小金井らしいみどり」と同様の傾向が見られます。

問2【みどりの量の印象】

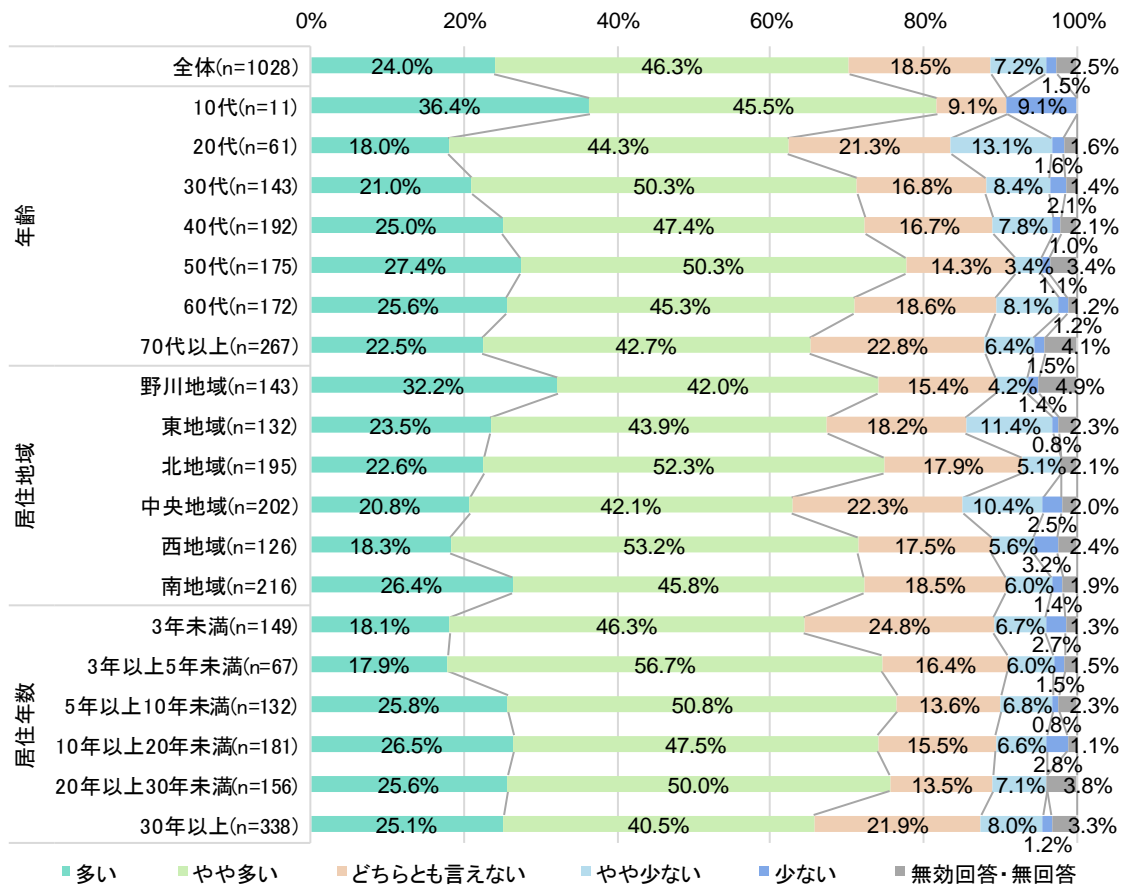
小金井市のみどりの量について、印象をお聞かせください。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

みどりの量の印象 (n=1,028)



- ・みどりの量の印象は、「多い」、「やや多い」が計70.3%を占めています。「やや少ない」、「少ない」は計8.7%であり、多くの市民がみどり豊かなまちとの認識を持っています。

みどりの量の印象×年齢、×居住地域、×居住年数

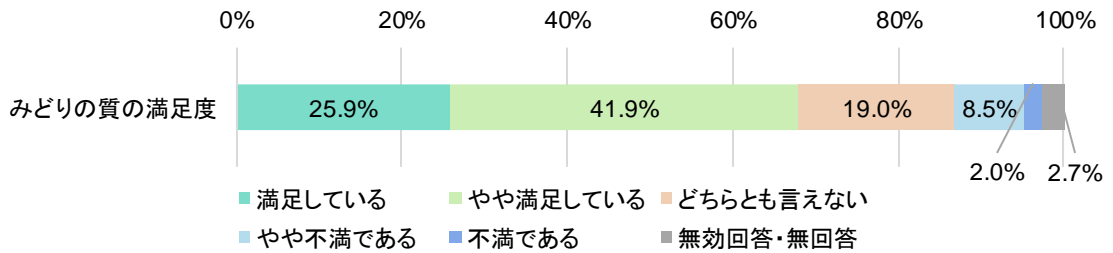


- ・年齢、居住地域、居住年数別に見ても、「多い」、「やや多い」が60%を下回る属性はありませんでした。
- ・ただし、ほとんどの属性で「多い」、「やや多い」が70%を超えている中で、年齢別では「20代」、「70代以上」、居住地域別では「東地域」、「中央地域」、居住年数別では「3年未満」、「30年以上」で70%を下回り、他の属性よりも若干低い値となっています。

問3【みどりの質の満足度】

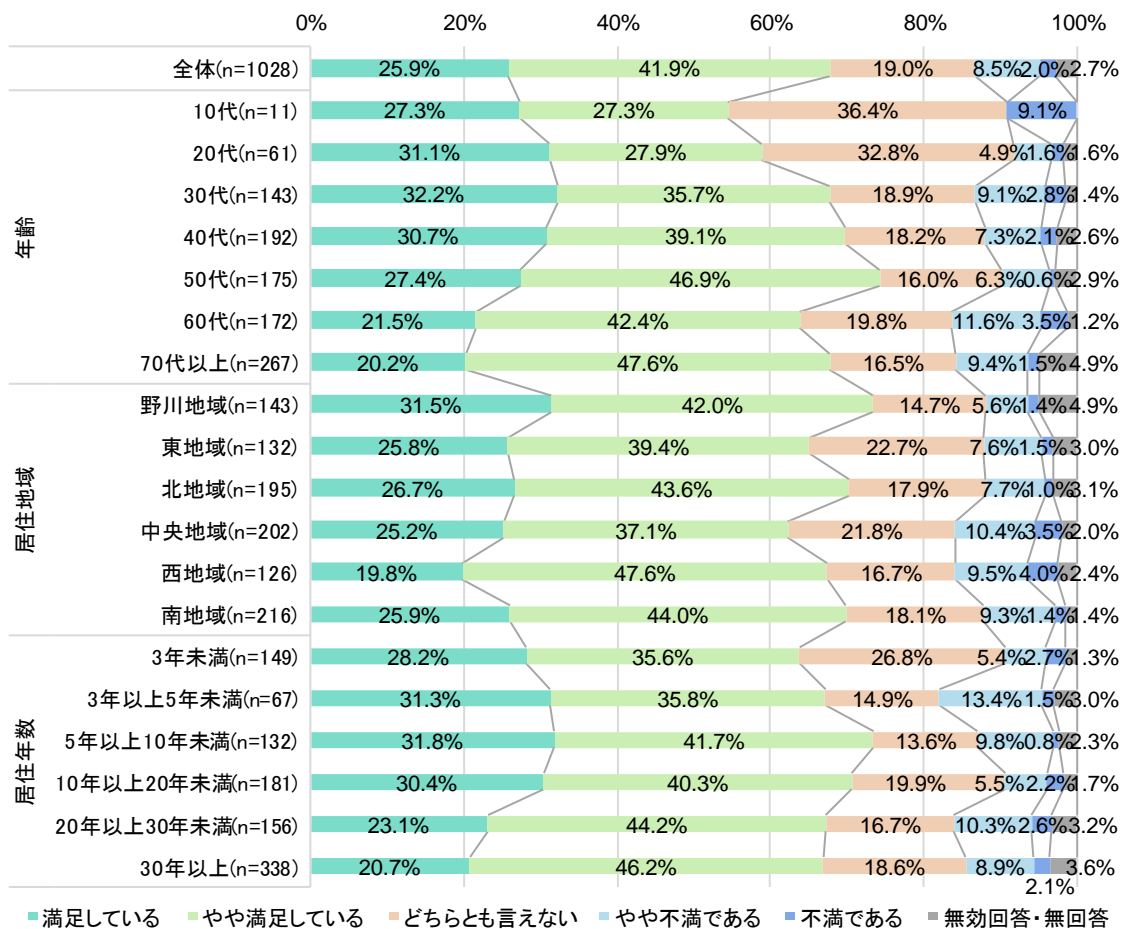
小金井市のみどりの質の満足度をお聞かせください。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

みどりの質の満足度 (n=1,028)



・みどりの質の満足度は、「満足している」「やや満足している」が計67.8%を占めており、問2と同様の傾向が見られました。

みどりの質の満足度×年齢、×居住地域、×居住年数

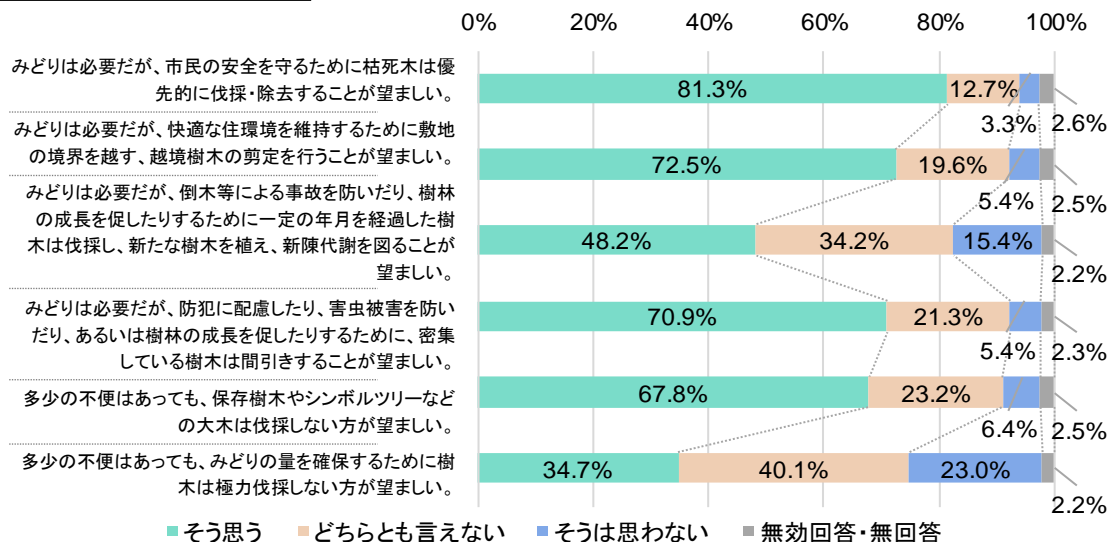


・年齢、居住地域、居住年数別に見ても、「多い」「やや多い」の割合は高いですが、年齢別では「10代」「20代」「60代」、居住地域別では「東地域」「中央地域」、居住年数別では「3年未満」で、他の属性よりも若干低い数値となっています。

問4【樹木の管理方法】

樹木管理のうち伐採や剪定は、立場やお住いの環境等によって様々な意見が交わされます。樹木の管理方法に関するあなたのお考えについて、下表のあてはまる数字に○をつけてください。

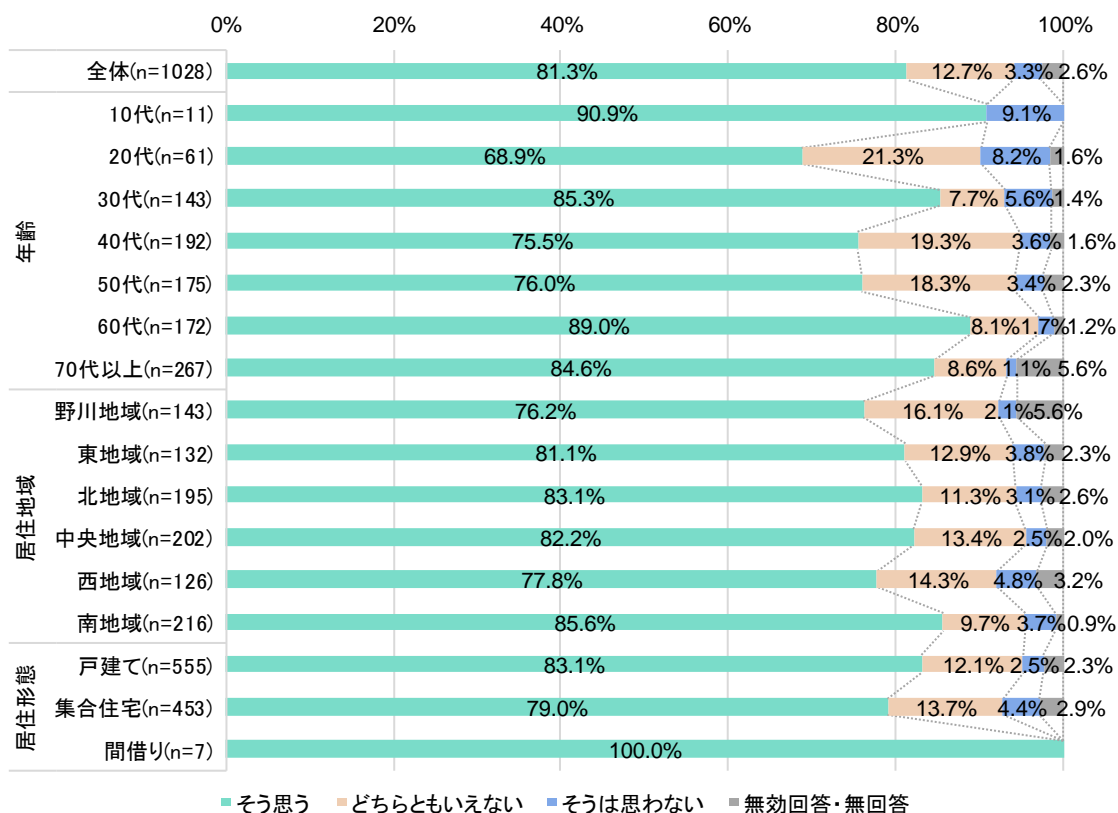
樹木の管理方法 (n=1,028)



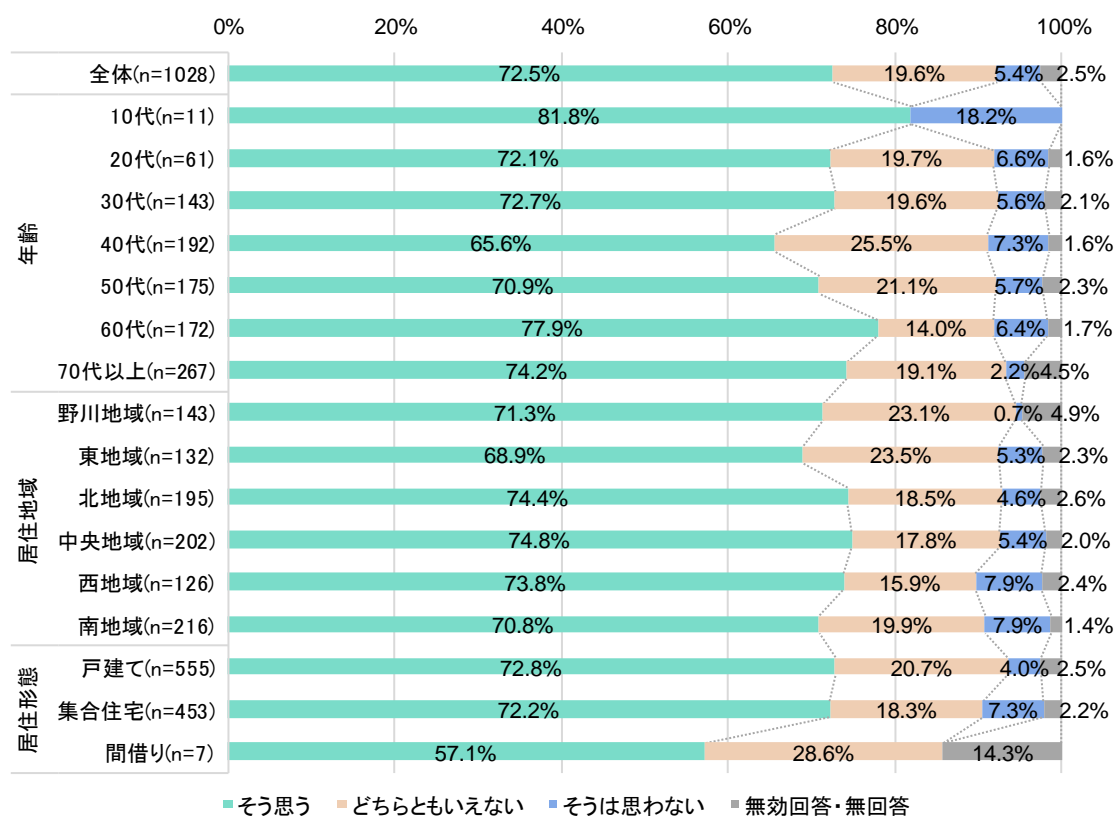
- ・「そう思う」が高い割合を示したのは、「みどりは必要だが、市民の安全を守るために枯死木は優先的に伐採・除去することが望ましい。」(81.3%)や「みどりは必要だが、快適な住環境を維持するために敷地の境界を越す、越境樹木の剪定を行うことが望ましい。」(72.5%)、「みどりは必要だが、防犯に配慮したり、害虫被害を防いだり、あるいは樹林の成長を促したりするために、密集している樹木は間引きすることが望ましい。」(70.9%)、「多少の不便はあっても、保存樹木やシンボルツリーなどの大木は伐採しない方が望ましい。」(67.8%)でした。
- ・「みどりは必要だが、倒木等による事故を防いだり、樹林の成長を促したりするために一定の年月を経過した樹木は伐採し、新たな樹木を植え、新陳代謝を図ることが望ましい。」や、「多少の不便はあっても、みどりの量を確保するために樹木は極力伐採しない方が望ましい。」については、回答が分かれており、「どちらとも言えない」も多くなっています。

樹木の管理方法×年齢、×居住地域、×居住形態

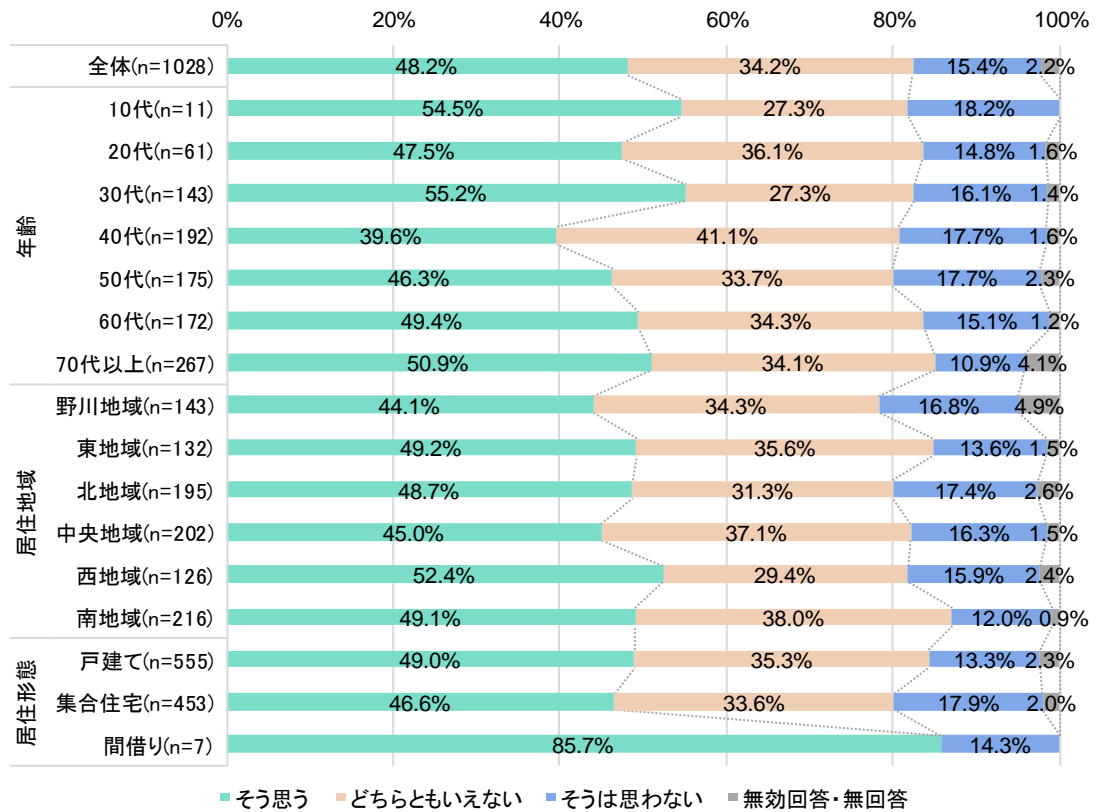
1. 枯死木は優先的に伐採・除去することが望ましい



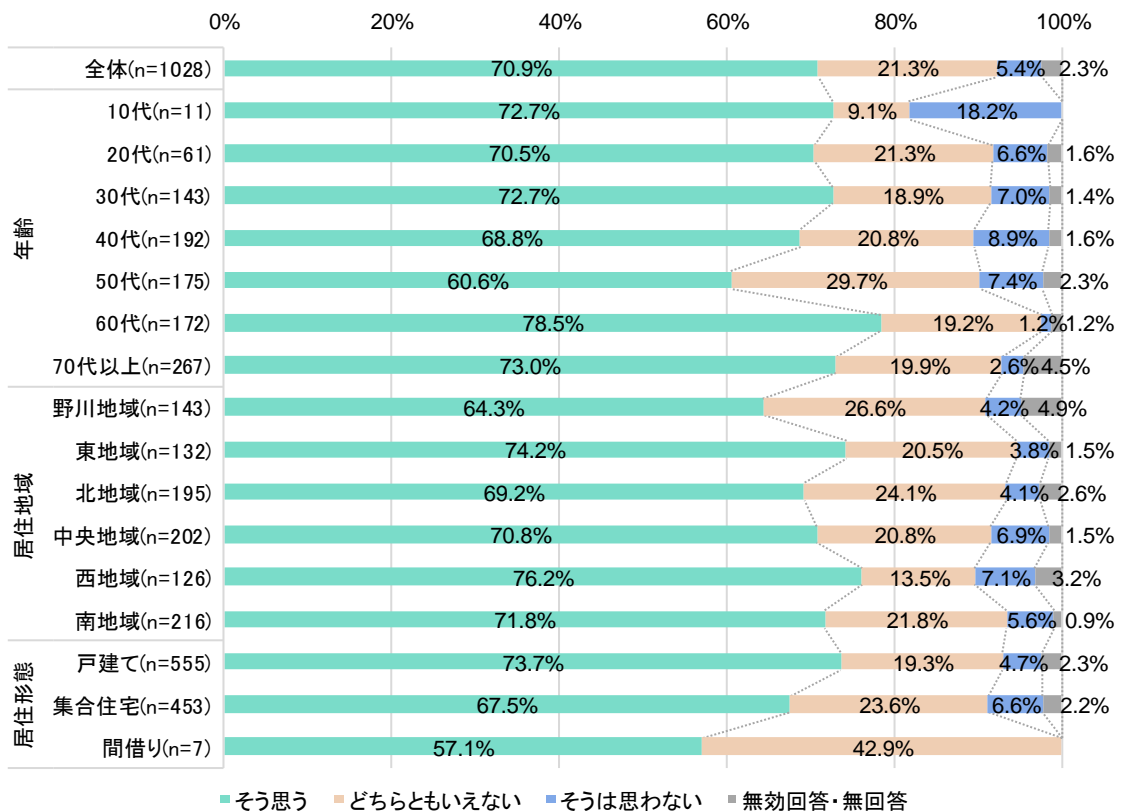
2. 越境樹木は剪定することが望ましい



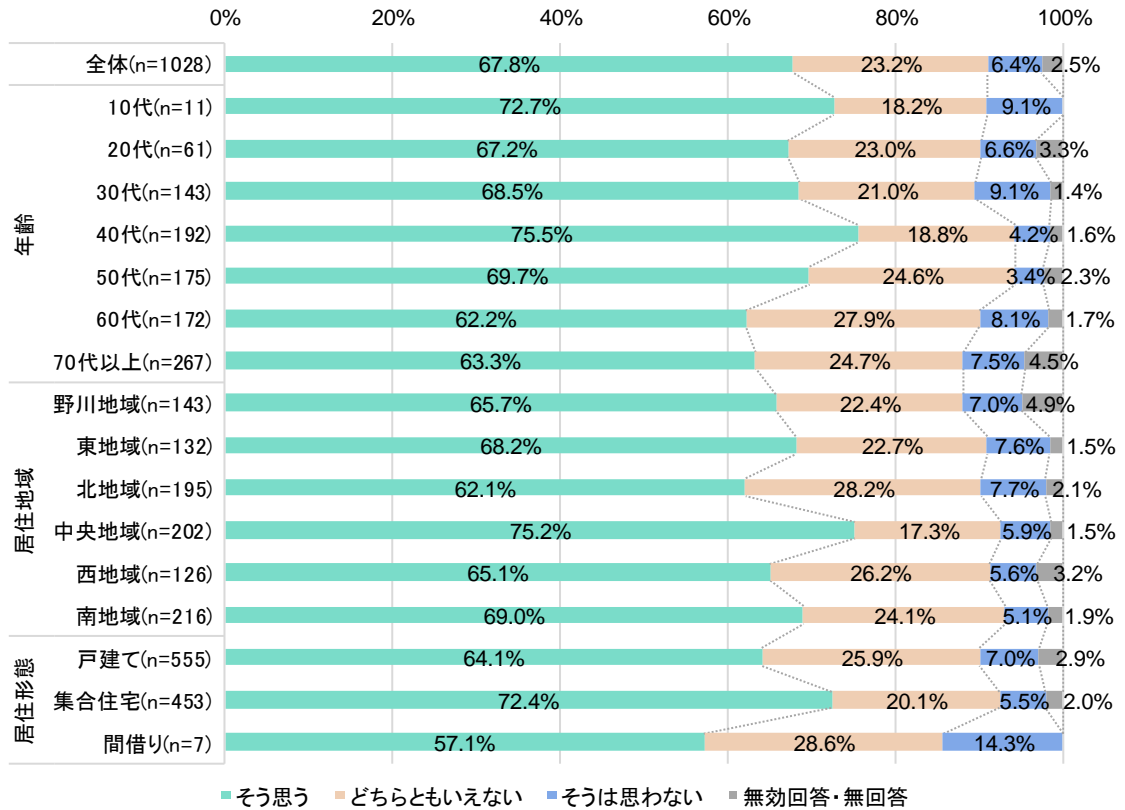
3. 古い樹木は更新していくことが望ましい



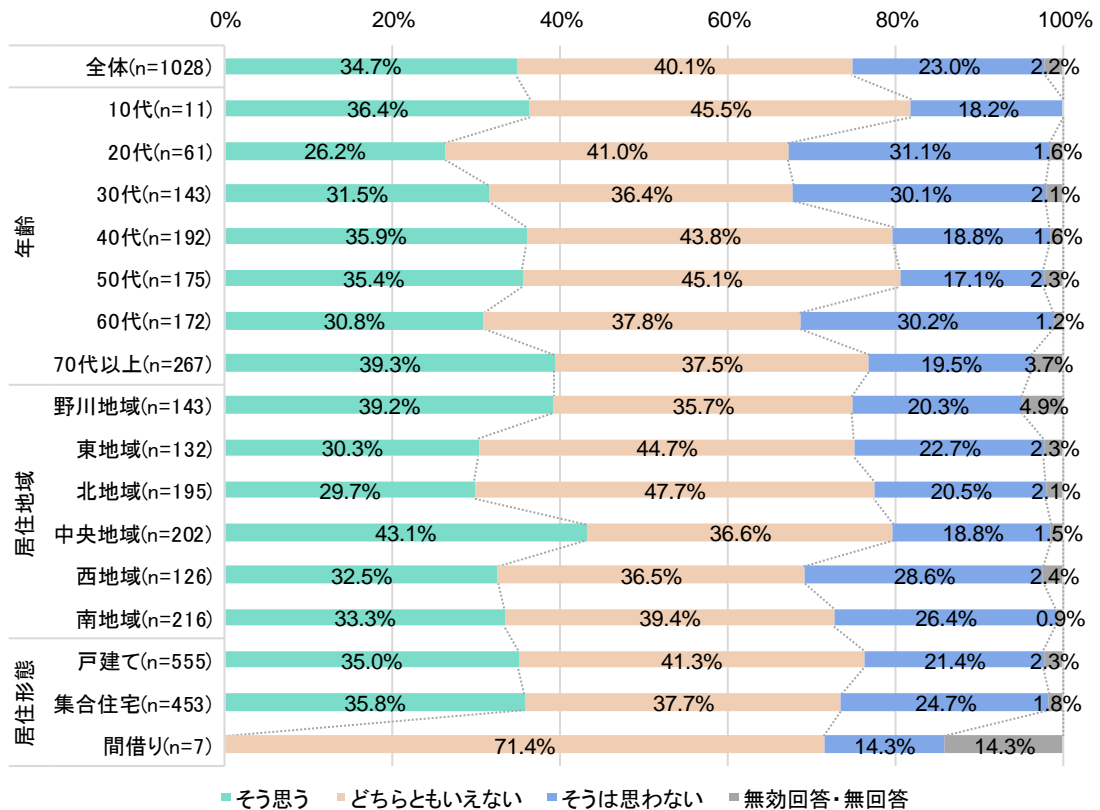
4. 過密林は間引きをしていくことが望ましい



5. 大木やシンボルツリーは伐採しない方が望ましい



6. 樹木は極力伐採しない方が望ましい



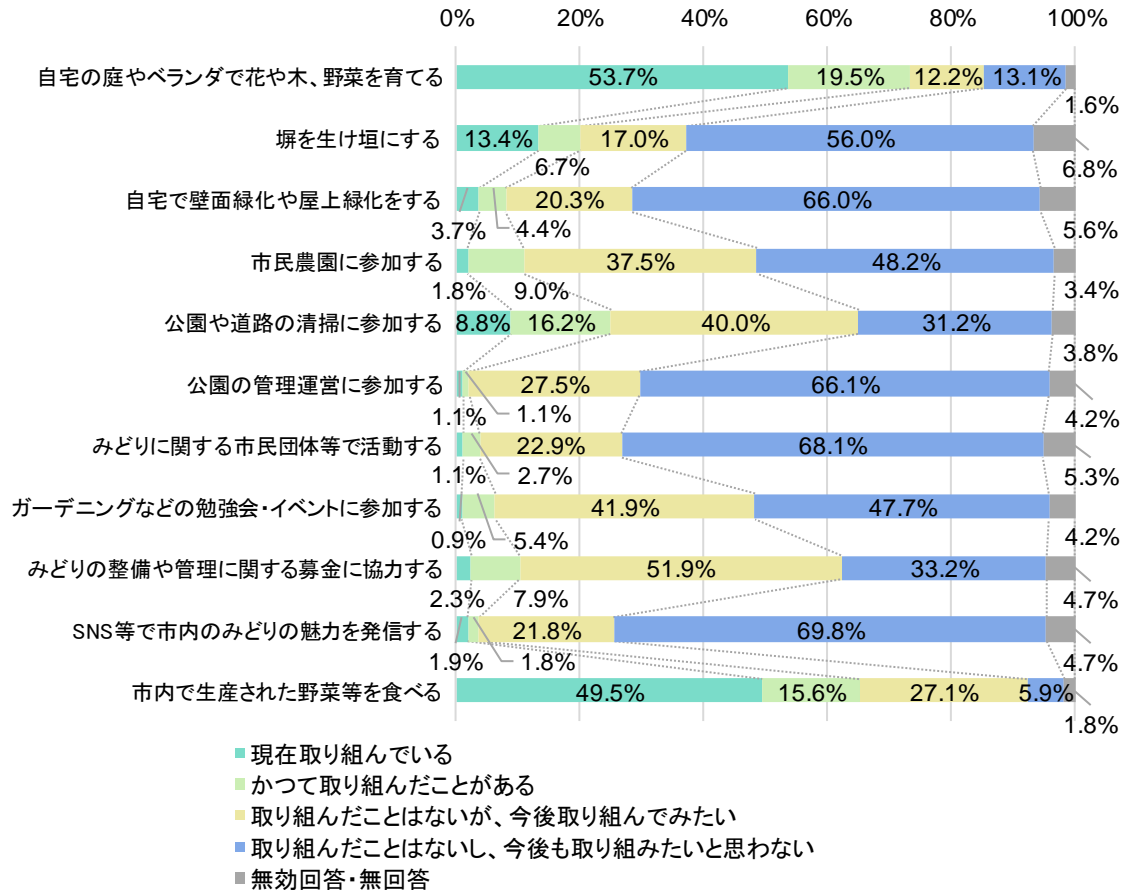
・年齢、居住地域、居住形態別に見ても、大きな傾向は全体と変わらず、特に居住形態では標本数の少ない「間借り」を除けば、ほとんど差は見られません。

II みどりとの関わりについて

問5【みどりを豊かにするための取組】

みどりの育成状況について、お聞かせください。みどりを豊かにするために「現在取り組んでいること」、「今後取り組んでみたいこと」について、下表のあてはまる数字に○をつけてください。

みどりを豊かにするための取組 (n=1,028)



その他（現在取り組んでいること）(n=153)

※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類		件数	
選択肢に関連する取組	自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる	室内で植物を育てている	4
	公園や道路の清掃に参加する	自宅周辺の清掃をしている	5
		気づいたときに身の回りの清掃をしている	2
		緑の中での自然を使った遊びの発信	1
	みどりに関する市民団体等で活動する	緑地と歴史的建築物の共存	1
		都立武蔵野公園および周辺の保全	1
		野川流域近辺における植生調査、野鳥観察	1
		公民館活動で、野菜を栽培している	1
	ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する	田んぼの時間や農作物収穫体験への参加	1
市内のグリーンアドベンチャーへの参加		1	
公園イベント（自然）に参加		1	
その他の取組	生ごみの処理	3	
	隣家等の管理	2	
	他自治体での取り組みに参加	2	
選択肢と重複		117	
取り組めない理由	加齢や持病により参加できない	8	
	その他	3	
その他（要望、感想等）		12	
計		166	

その他（かつて取り組んだことがあること）（n=96）

※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類		件数	
選択肢に関連する取組	公園や道路の清掃に参加する	自宅周辺の清掃をしたことがある	1
		みどりに関する市民団体等で活動する	街路樹や沿道沿いの花木の植栽活動 玉川上水の山桜並木の保全活動 野川の水質調査
	ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する	菜園教室への参加	2
		自然観察会への参加	1
		植栽活動	1
		子供向けの環境イベント	1
	その他の取組	植物の維持管理等	5
自治会委員等を担当している際に、みどりに関する取組をした		2	
選択肢と重複		71	
取り組めない理由	居住環境が障壁となつてできない	3	
	加齢や持病により参加できない	4	
	その他	3	
その他（要望、感想等）		3	
計		101	

※網掛けは、具体例以外のもの

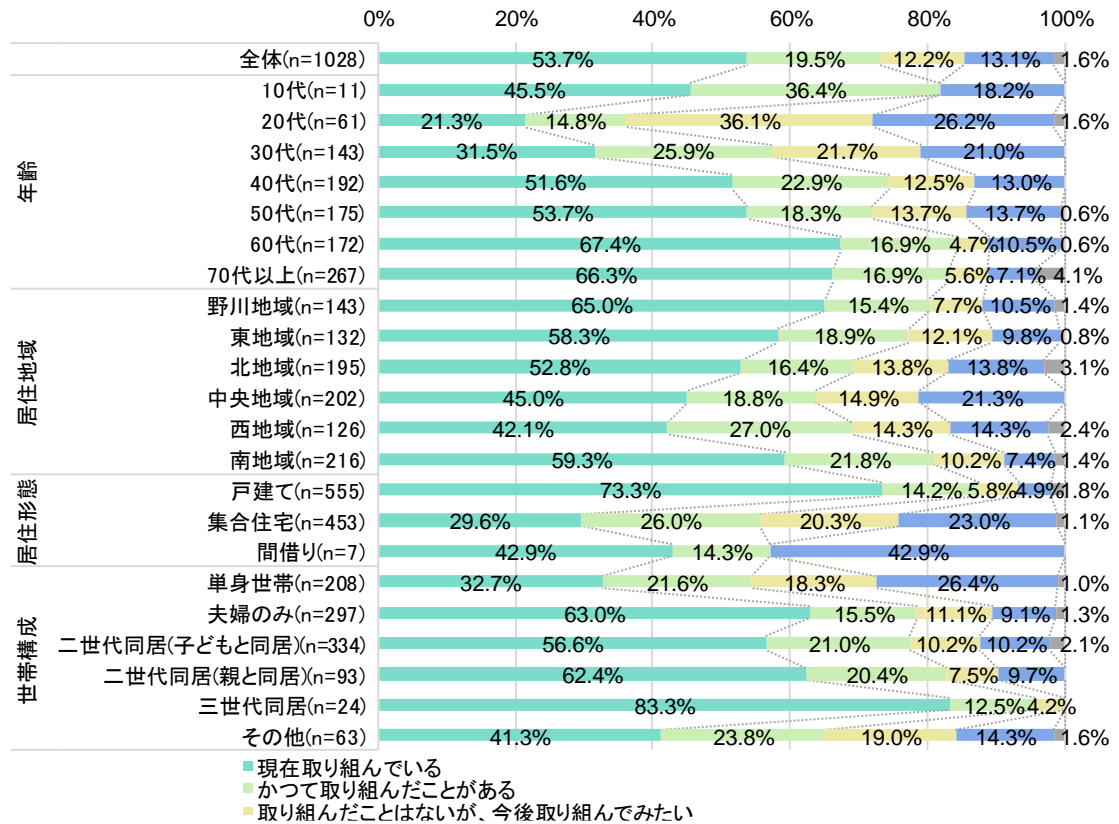
その他（取り組んだことはないが、今後取り組んでみたいこと）（n=83）

意見分類		件数	
選択肢に関連する取組	市民農園に参加する	市民農園の手伝い	1
		収穫体験やガーデニング体験	1
	公園や道路の清掃に参加する、公園の管理運営に参加する	植物の維持管理	2
		植栽活動に参加する	2
みどりに関する市民団体等で活動する	環境保全活動に参加する	1	
その他の取組	駅周辺の緑化	4	
選択肢と重複		52	
取り組めない理由	加齢や持病により参加できない	4	
	時間や資金がない	3	
	居住環境が障壁となつてできない	3	
	市の協力姿勢が感じられない	1	
	市民農園が当たらない	1	
	周囲の協力が得られない	1	
	取組を知らない	1	
その他（要望、感想等）		11	
計		88	

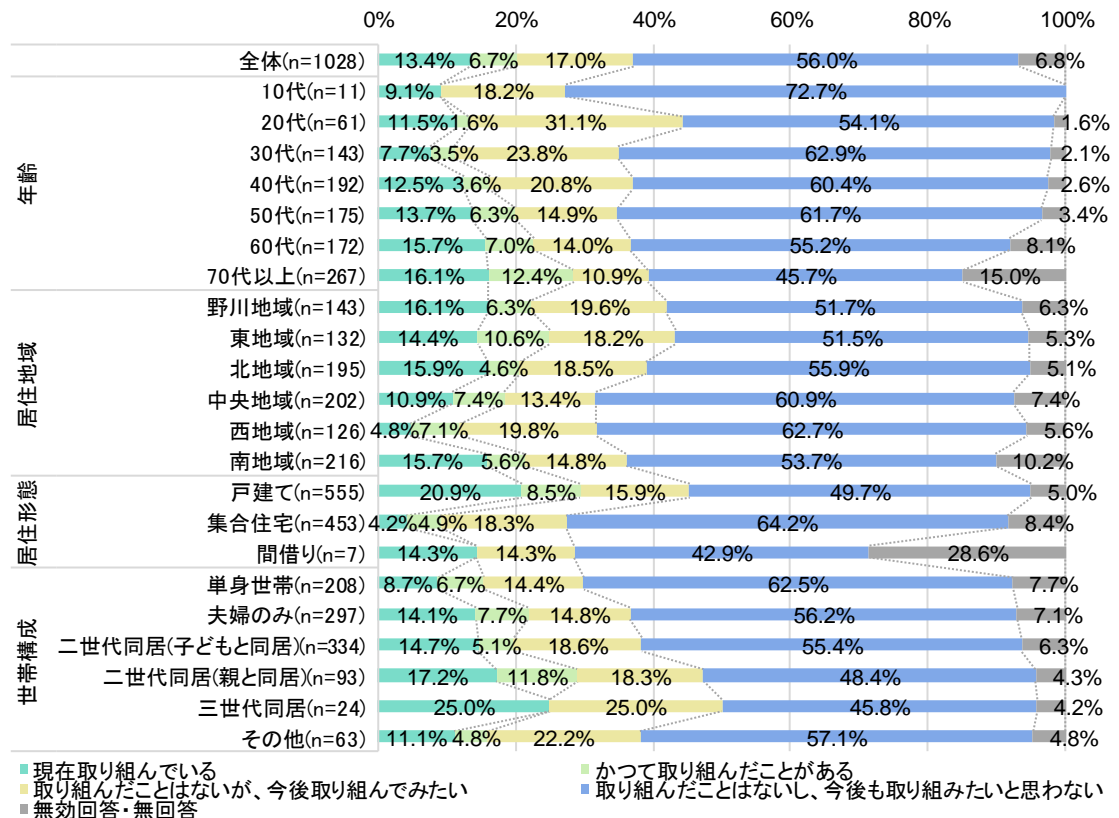
- ・「現在取り組んでいる」との回答が最も多かったのは、「自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる」の53.7%で、次いで「市内で生産された野菜等を食べる」の49.5%も比較的高い割合となっています。
- ・その他は、「現在取り組んでいる」、「かつて取り組んだことがある」は、計20%に届かないものがほとんどでした。
- ・「取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい」との意向が多かったのは、「みどりの整備や管理に関する募金に協力する」(51.9%)、「ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する」(41.9%)、「公園や道路の清掃に参加する」(40.0%)でした。
- ・一方、「取り組んだことはないし、今後も取り組みたいと思わない」との意向が多かったのは、「SNS等で市内のみどりの魅力を発信する」(69.8%)、「みどりに関する市民団体等で活動する」(68.1%)、「公園の管理運営に参加する」(66.1%)、「自宅で壁面緑化や屋上緑化をする」(66.0%)でした。

みどりを豊かにするための取組×年齢、×居住地域、×居住形態、×世帯構成

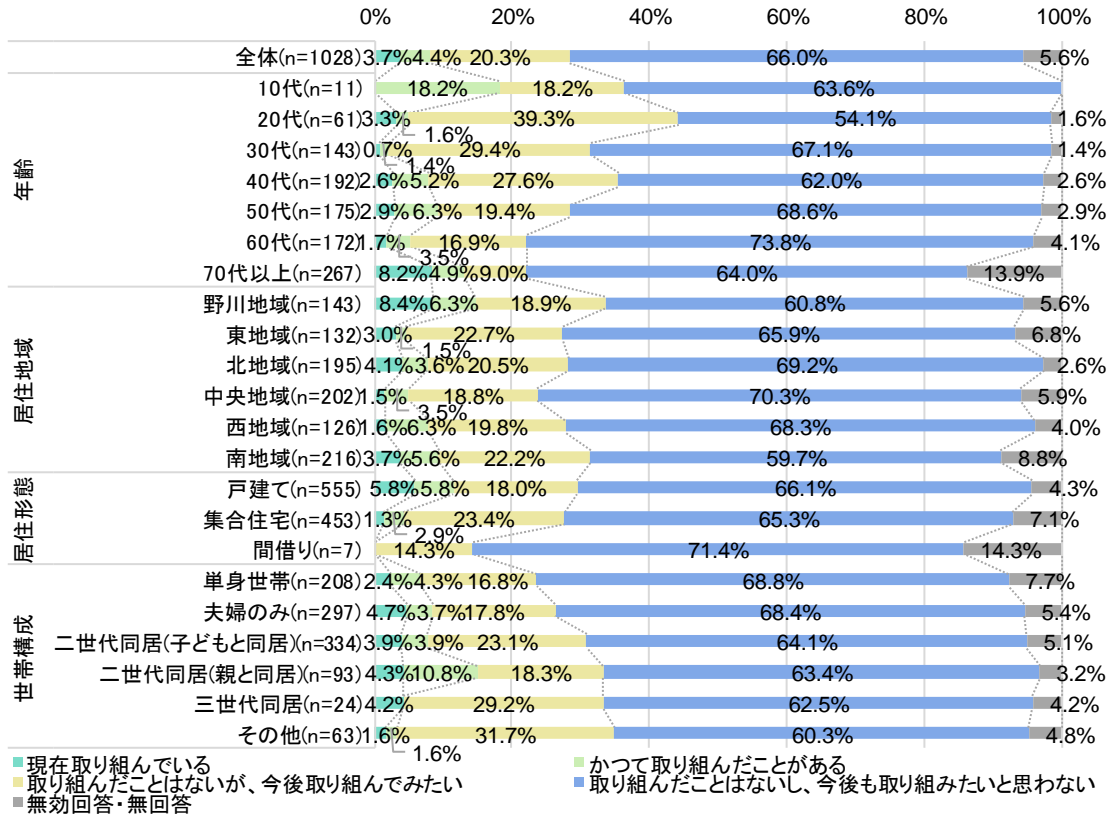
1. 自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる



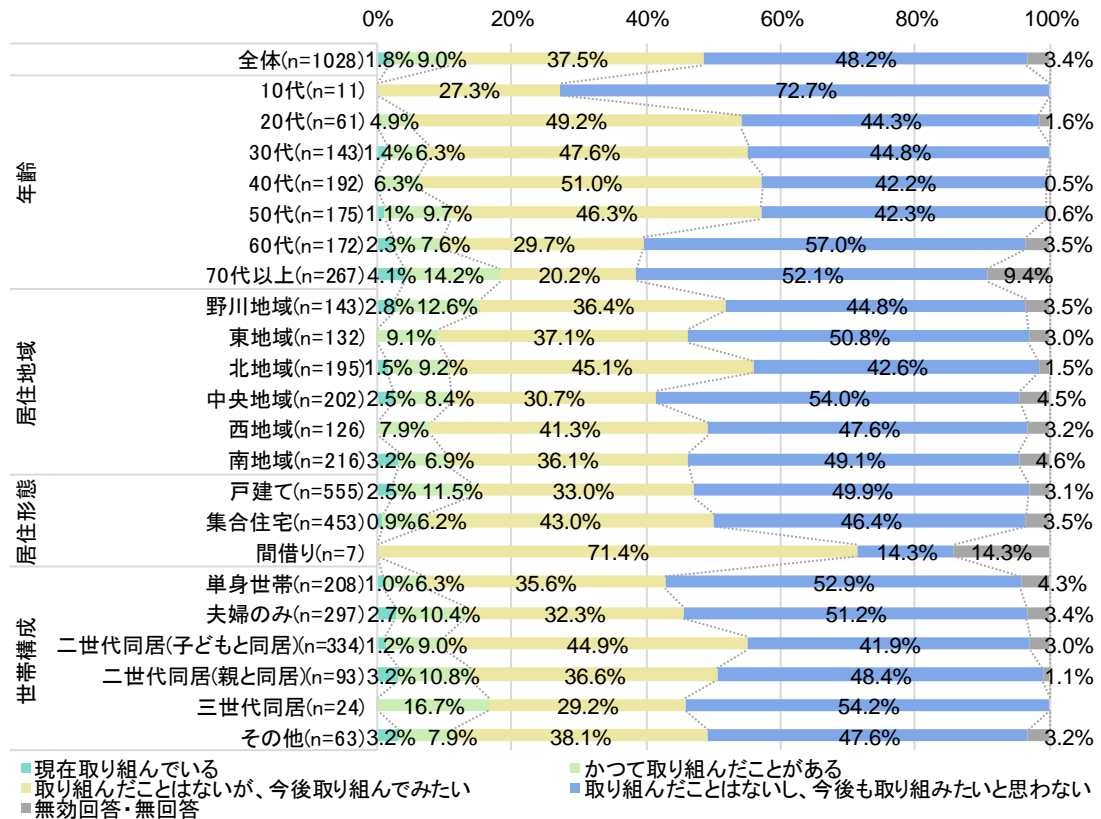
2. 塀を生け垣にする



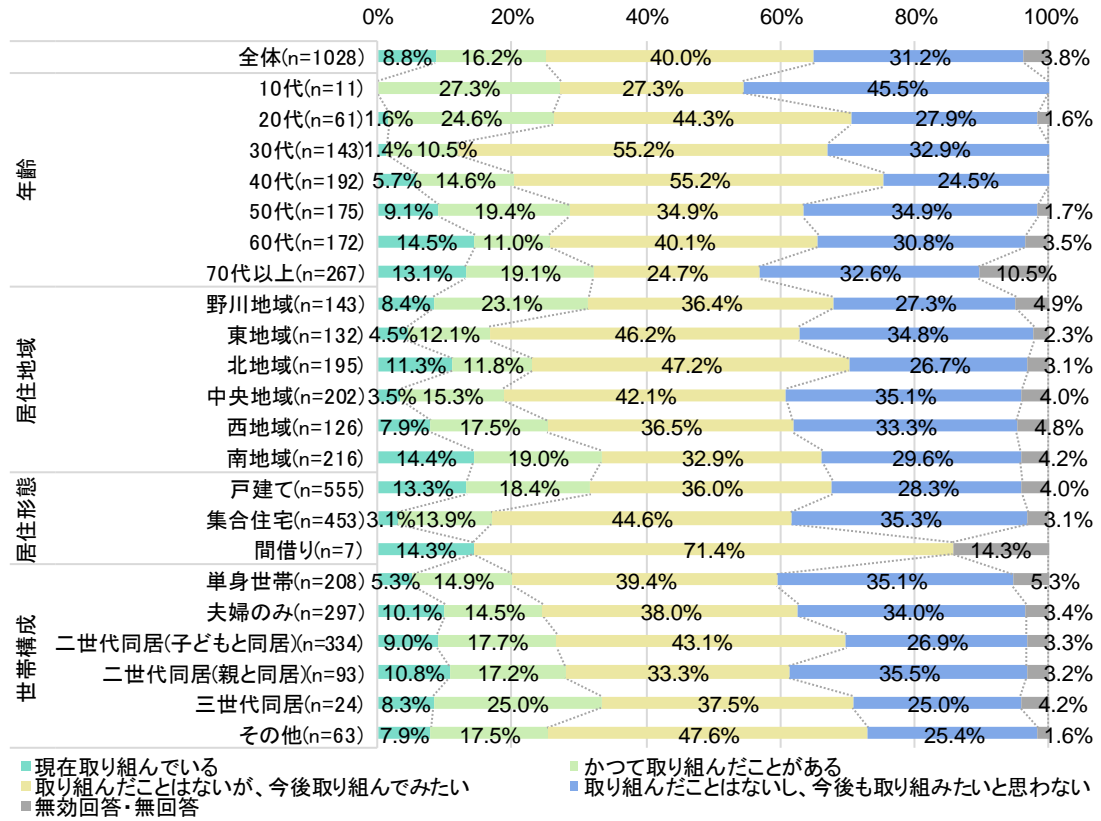
3. 自宅で壁面緑化や屋上緑化をする



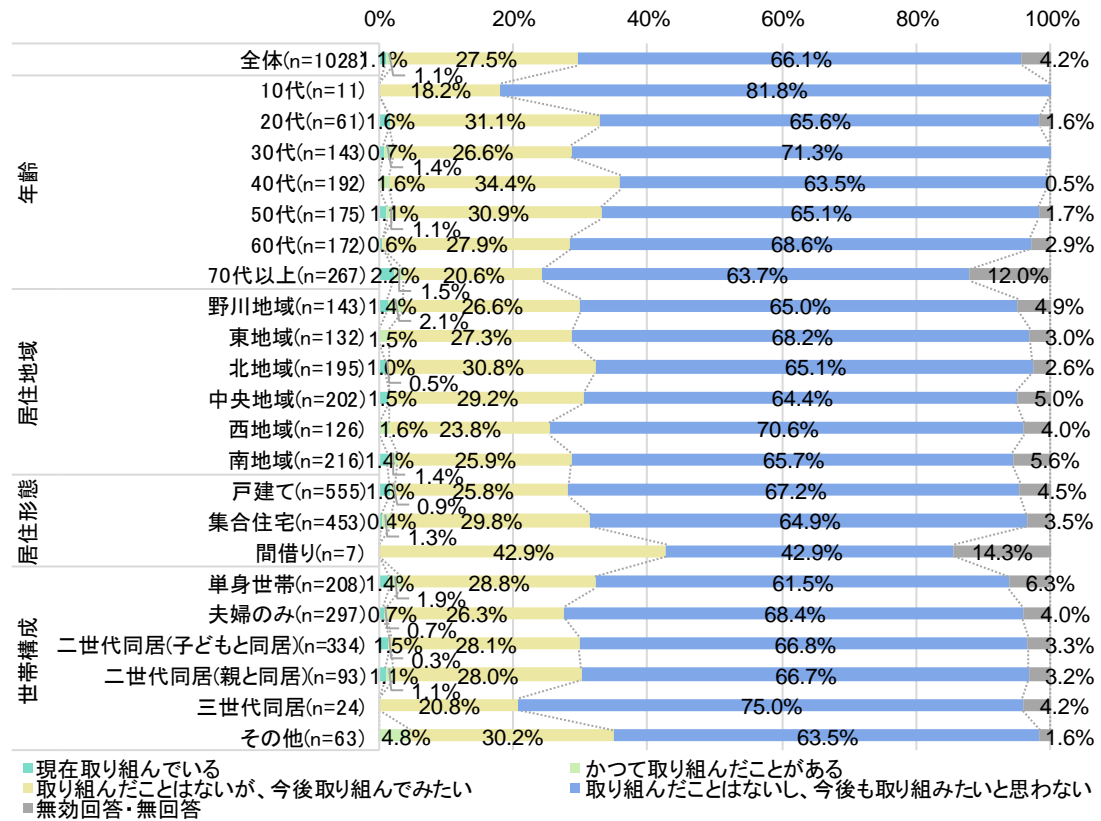
4. 市民農園に参加する



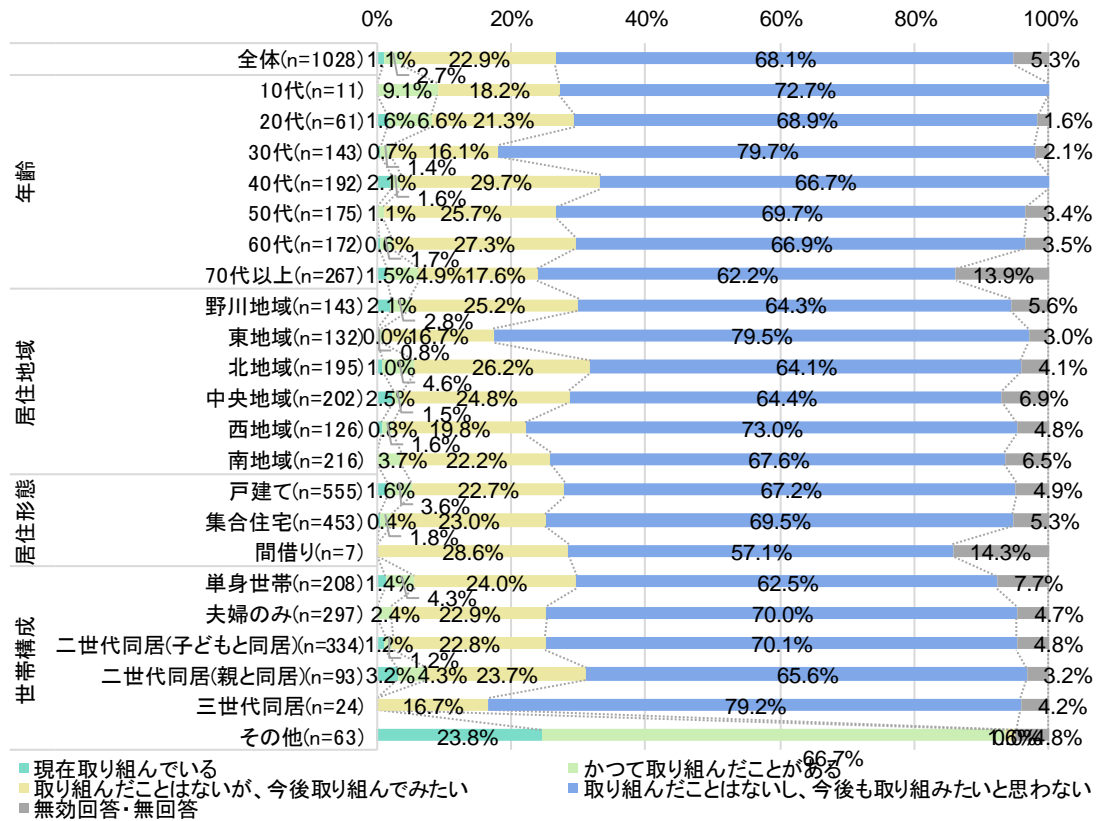
5. 公園や道路の清掃に参加する



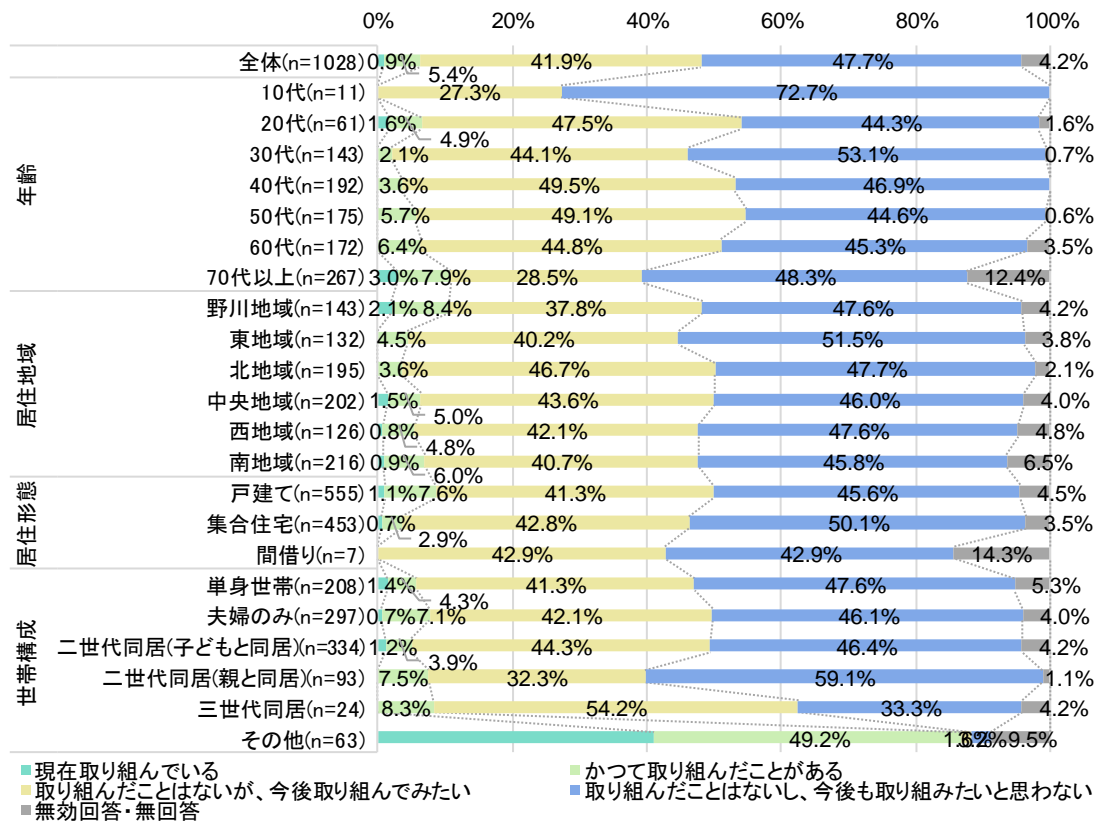
6. 公園の管理運営に参加する



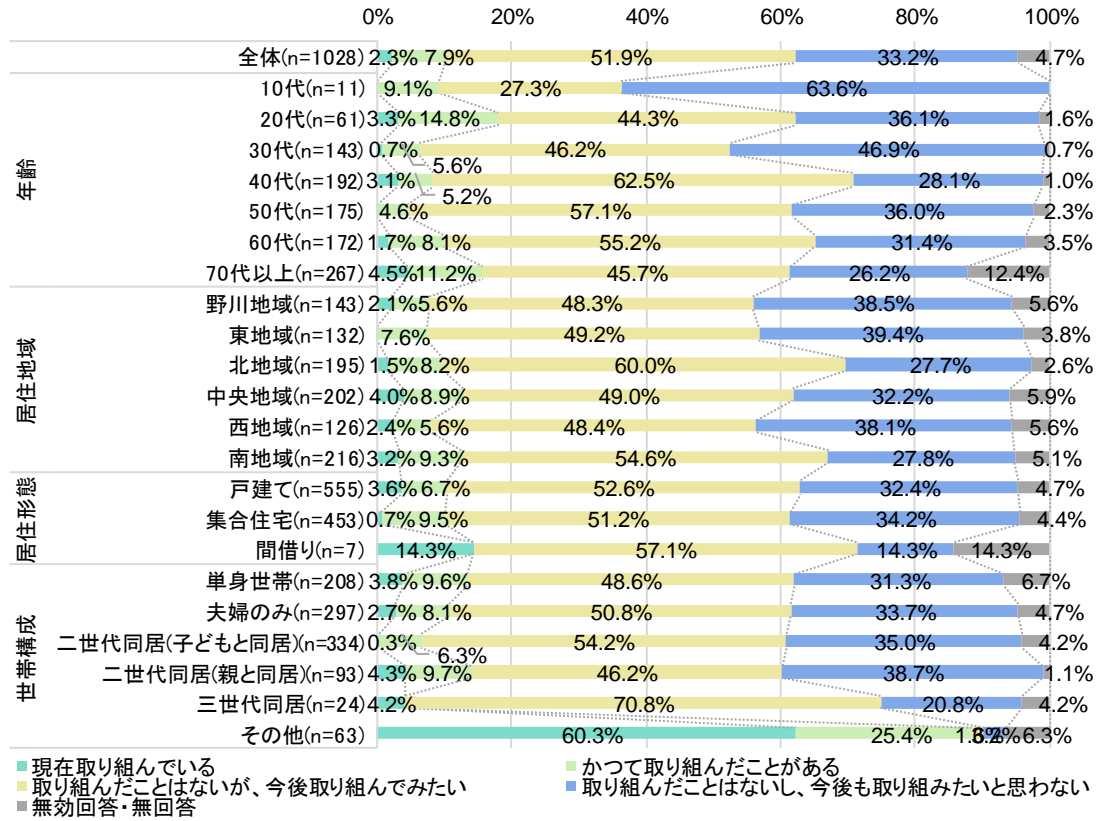
7. みどりに関する市民団体等で活動する



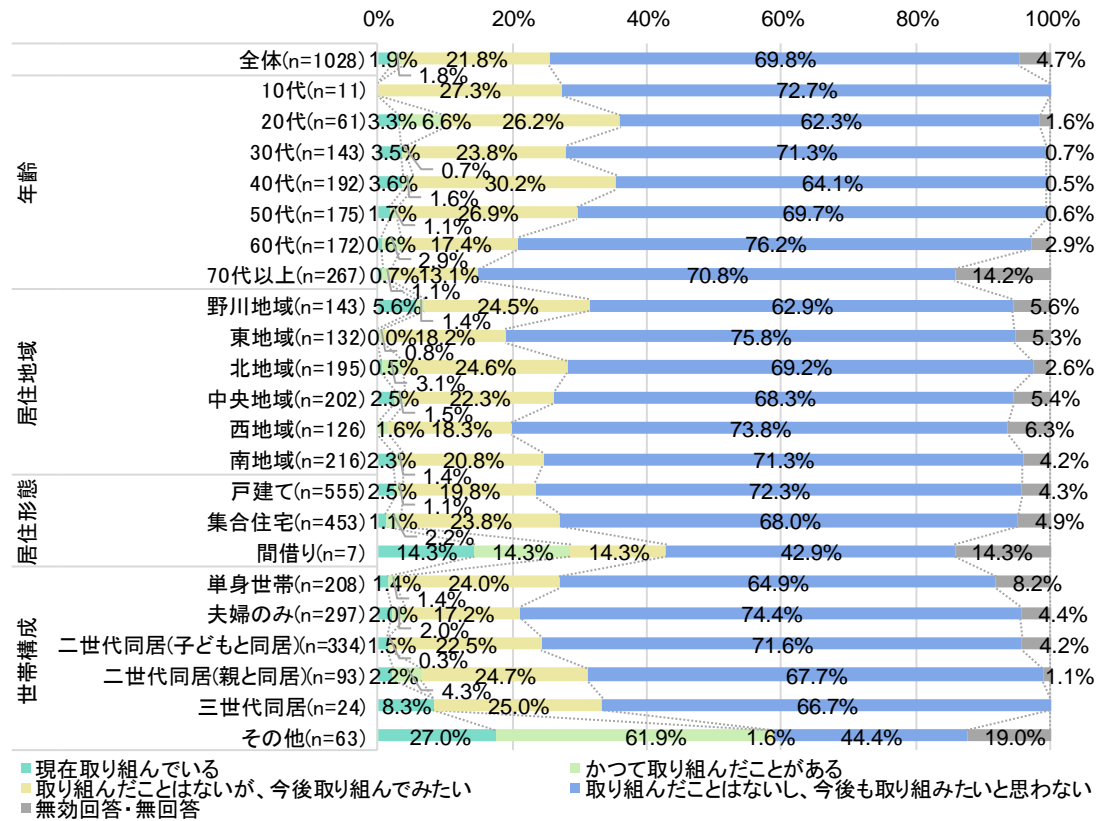
8. ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する



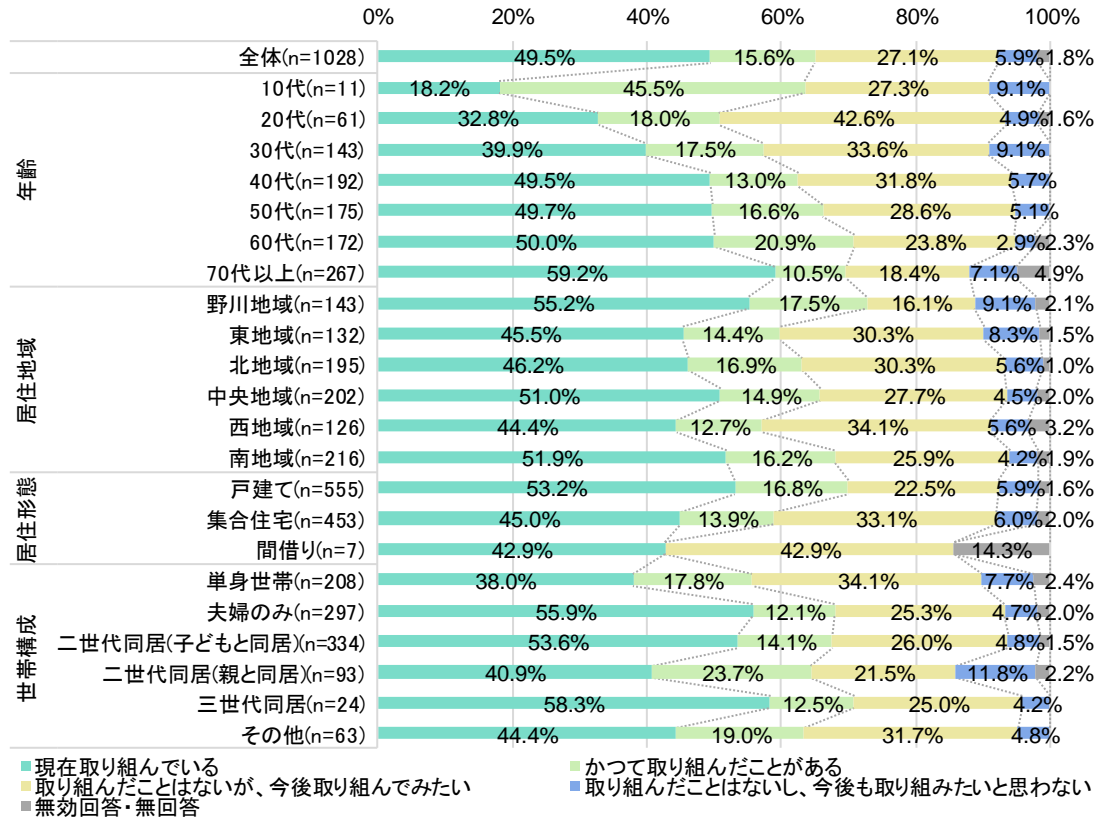
9. みどりの整備や管理に関する募金に協力する



10. SNS等で市内のみどりの魅力を発信する



11. 市内で生産された野菜等を食べる

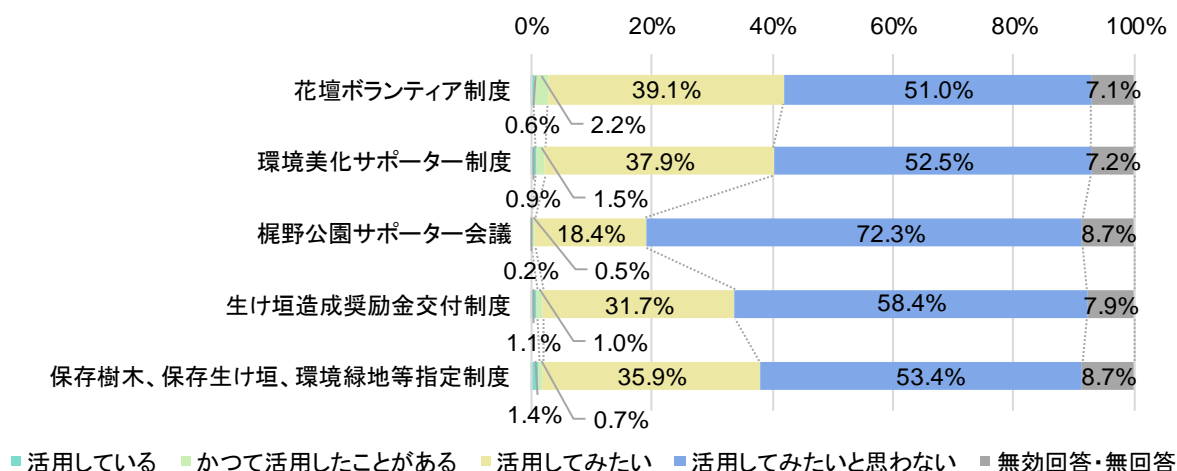


- ・年齢、居住地域、居住形態、世帯構成別に見ると、「公園の管理運営に参加する」、「みどりに関する市民団体等で活動する」、「SNS 等で市内のみどりの魅力を発信する」では、属性別の差はあまり見られず、いずれも活動への参加に消極的な結果でした。
- ・「ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する」、「みどりの整備や管理に関する募金に協力する」では、属性別の差はあまり見られず、いずれも今後の参加意向が高くなっています。
- ・その他の設問については、以下のとおり属性によって傾向に差が見られます。
- ・「自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる」では、年齢別に見ると「30代以下」、居住地域別で見ると「中央地域」、「西地域」、居住形態別に見ると「集合住宅」、世帯構成別に見ると「単身世代」で、「現在取り組んでいる」の割合が約3割に留まり、全体（約5割）と比べて大幅に低くなっています。
- ・「市民農園に参加する」では、取組状況については属性別の差はあまり見られませんが、「取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい」に着目して見ると、年齢別に見ると「20～50代」は半数前後を占めているのに対し、「60代以上」では3割を下回っています。
- ・「市内で生産された野菜等を食べる」では、年齢別に見ると「20代以下」で「現在取り組んでいる」の割合が3割以下と、全体（約5割）と比べて低いですが、「現在取り組んでいる」、「かつて取り組んだことがある」、「取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい」を足すと、すべての属性で9割前後に上り、属性間の差はほとんど見られなくなります。

問6【市民や民間団体等で緑化をする際に必要な市の取組】

みなさんにみどりを育成いただくにあたって、市では下記のような取り組み（支援）を行っています。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

市民や民間団体等で緑化をする際に必要な市の取組 (n=1,028)



その他の具体例 (n=140)

※網掛けは、具体例以外のもの

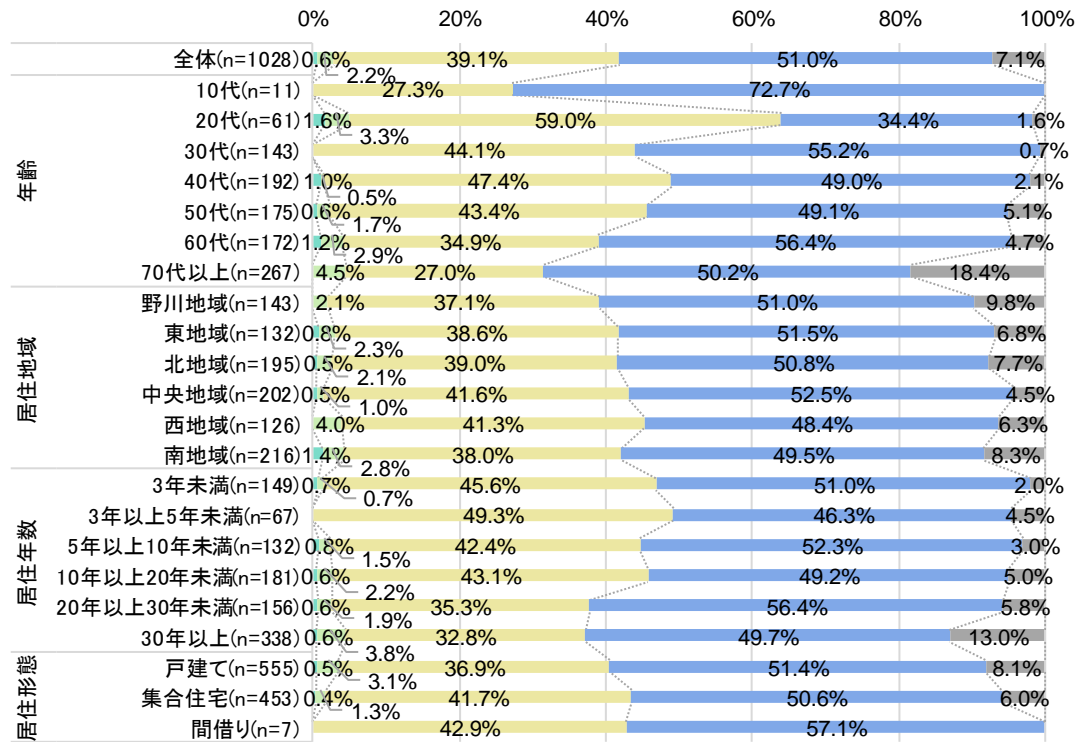
意見分類		件数	
選択肢に関連するもの	花壇ボランティア制度、環境美化サポーター制度関連	ボランティアの人材育成	2
		気軽に美化活動に参加できる仕組みづくり	2
		有償ボランティア	1
	生け垣造成奨励金交付制度	ブロック撤去への補助金	3
		生け垣用樹木苗木の提供	1
		奨励金の増額	1
その他の支援	技術指導	12	
	苗木配布・販売	9	
	普及啓発イベントの開催	5	
	剪定支援	3	
	情報提供	3	
	表彰制度	2	
	剪定への補助金	2	
	その他のアイデア	4	
活用できない理由	高齢のため参加が難しい	4	
	居住環境が障壁となっている	1	
	時間がない	1	
市事業への要望	宅地化への対策	53	
その他（要望、感想等）	近隣の緑地の維持管理に対する苦情	9	
	土の処理に困っている	2	
	その他	24	
計		146	

- ・いずれも「活用している」「かつて活用したことがある」は5%未満とごくわずかでした。
- ・「活用してみたい」との意向は、活用場所が限定される「梶野公園サポーター会議」を除いて、いずれも30%を超えています。特に「花壇ボランティア制度」（39.1%）、「環境美化サポーター制度」（37.9%）は、40%に近い回答が得られています。

市民や民間団体等で緑化をする際に必要な市の取組

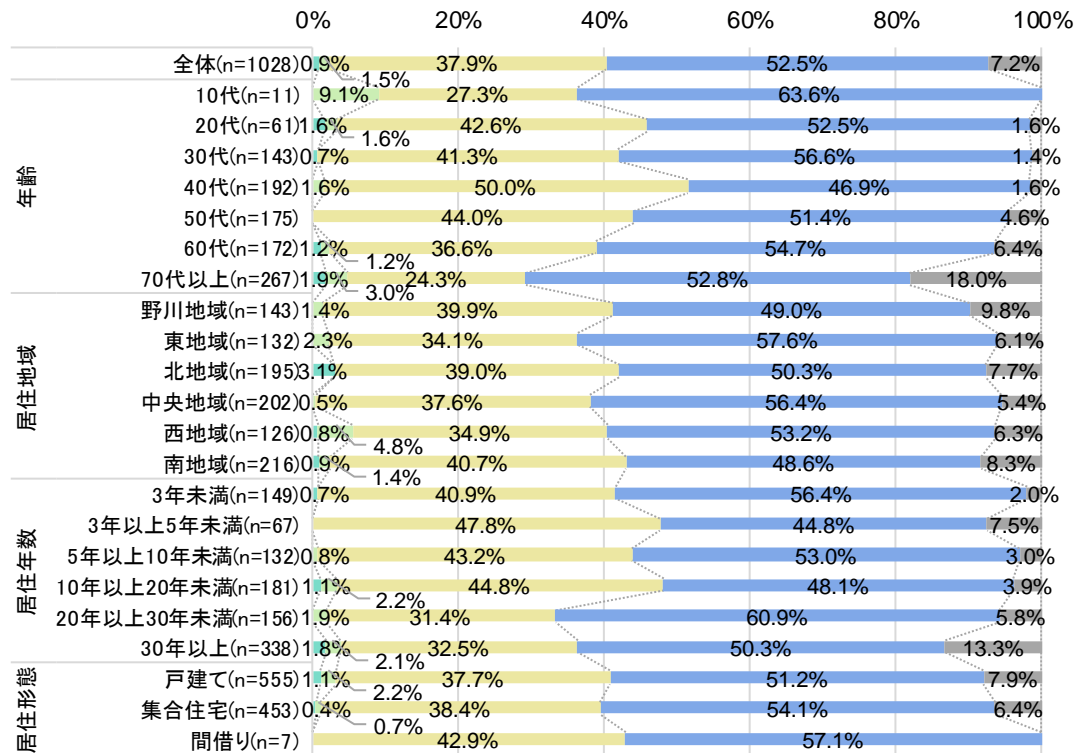
× 年齢、× 居住地域、× 居住年数、× 居住形態

1. 花壇ボランティア制度



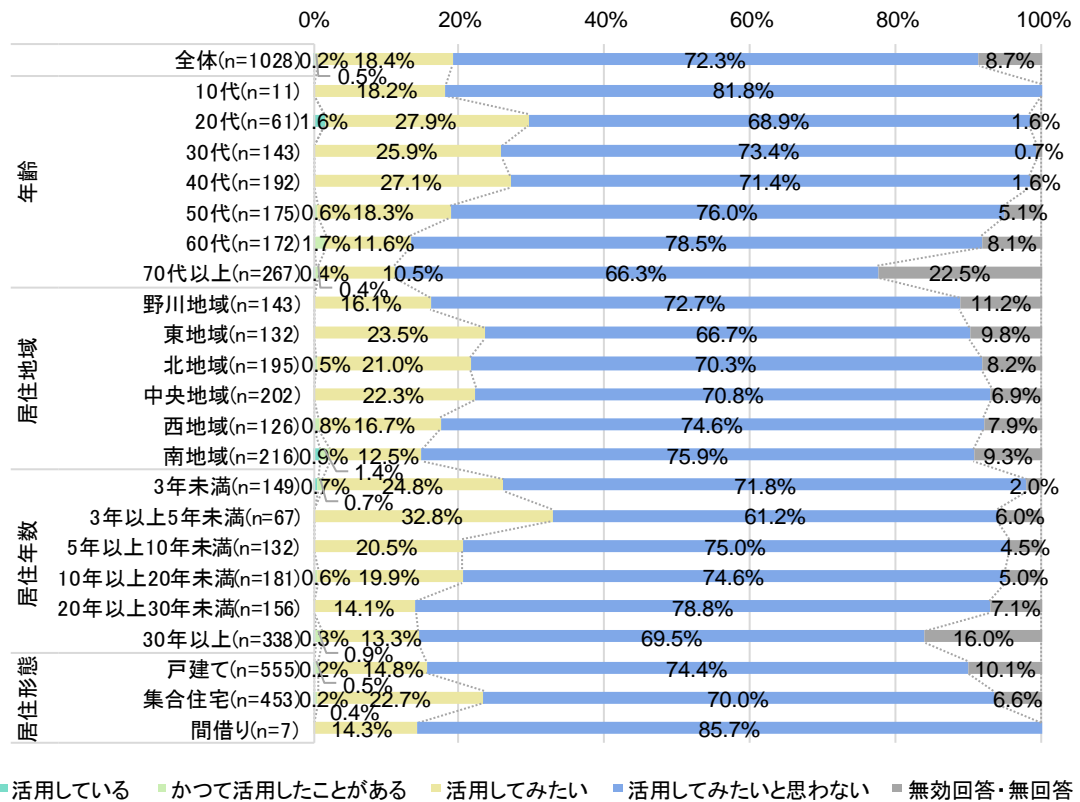
■ 活用している ■ かつて活用したことがある ■ 活用してみたい ■ 活用してみたいと思わない ■ 無効回答・無回答

2. 環境美化サポーター制度

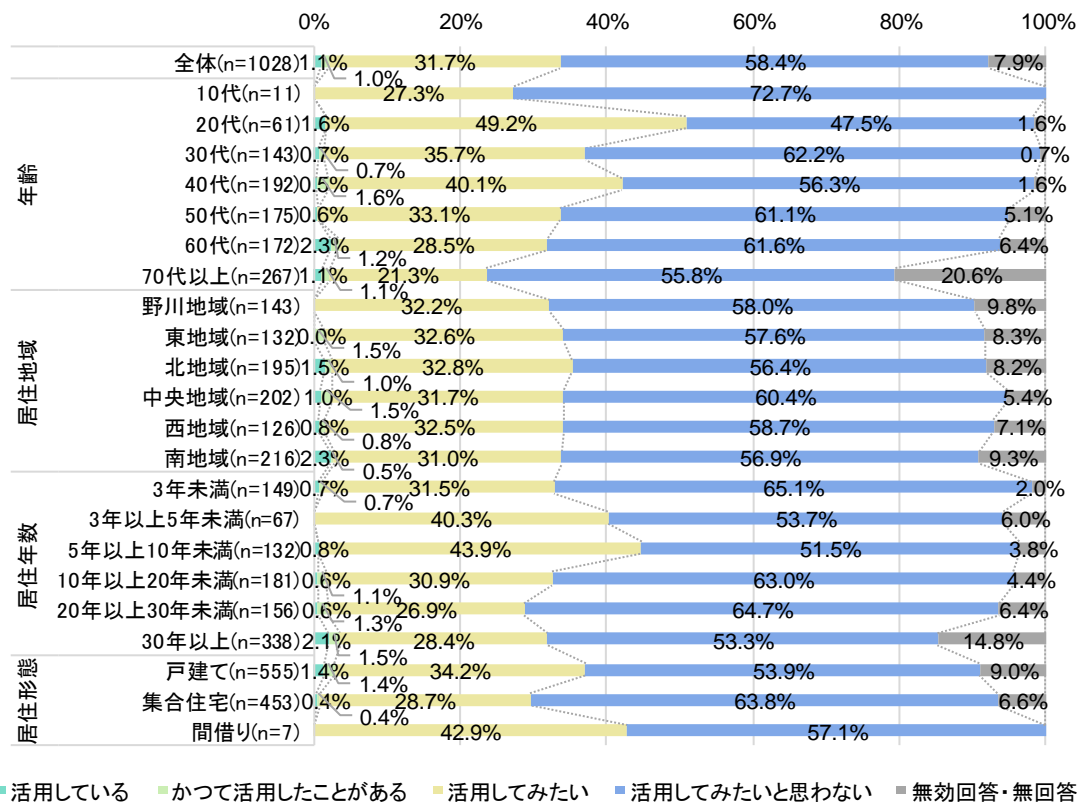


■ 活用している ■ かつて活用したことがある ■ 活用してみたい ■ 活用してみたいと思わない ■ 無効回答・無回答

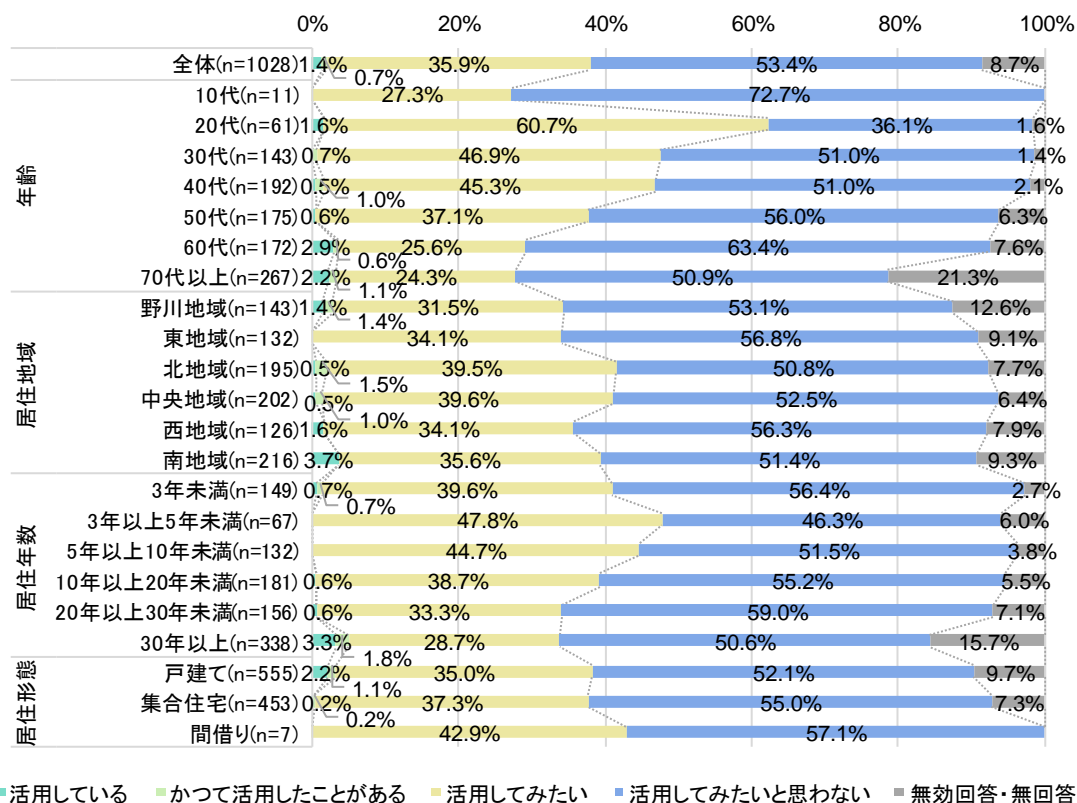
3. 梶野公園サポーター会議



4. 生け垣造成奨励金



5. 保存樹木、保存生け垣、環境緑地等指定制度



- ・年齢、居住地域、居住年数、居住形態別に見ると、いずれの設問でも年齢「70代以上」、居住年数「30年以上」は、「無効回答・無回答」が多い傾向にあります。
- ・「環境美化サポーター」は、上記の特徴の他に属性による大きな違いは見られませんが、その他の設問では以下のような傾向が見られます。
- ・「環境美化サポーター」の除く4つの制度では、年齢別に見るといずれも「20代」で「活用してみたい」の割合が最も高く、年齢が上がるに従ってその割合が下がっています。
- ・「花壇ボランティア制度」では、年齢別に見ると「20代」で「活用してみたい」が約6割と高い割合を示しています。
- ・「梶野公園サポーター会議」は、年齢別に見ると「20～40代」、居住地域別に見ると「東地域」、「北地域」、「中央地域」、居住年数別に見ると「5年未満」、居住形態別に見ると「集合住宅」で「活用してみたい」が約3割と高い割合を示しています。
- ・「生け垣造成奨励金」は、年齢別に見ると「20代」、居住年数で見ると「5年以上～10年未満」で、「活用してみたい」が5割弱と高い割合を示しています。
- ・「保存樹木、保存生け垣、環境緑地等指定制度」は、年齢別に見ると「20～40代」、居住年数別に見ると「3年以上～10年未満」で、「活用してみたい」が4割を超え、高い割合を示しています。

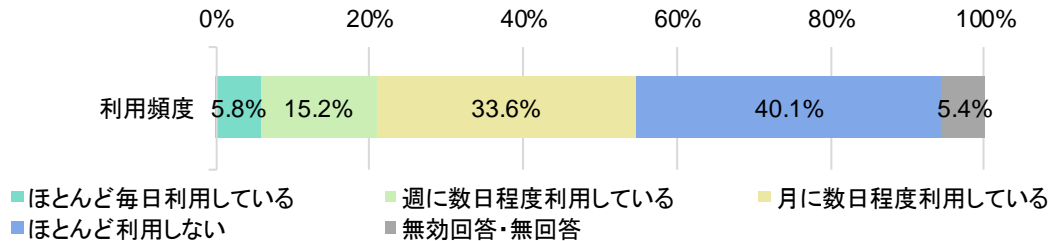
Ⅲ 身近な地域の公園について

問7【公園の利用頻度及び利用目的】

身近な地域の公園の利用頻度をお聞かせください。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

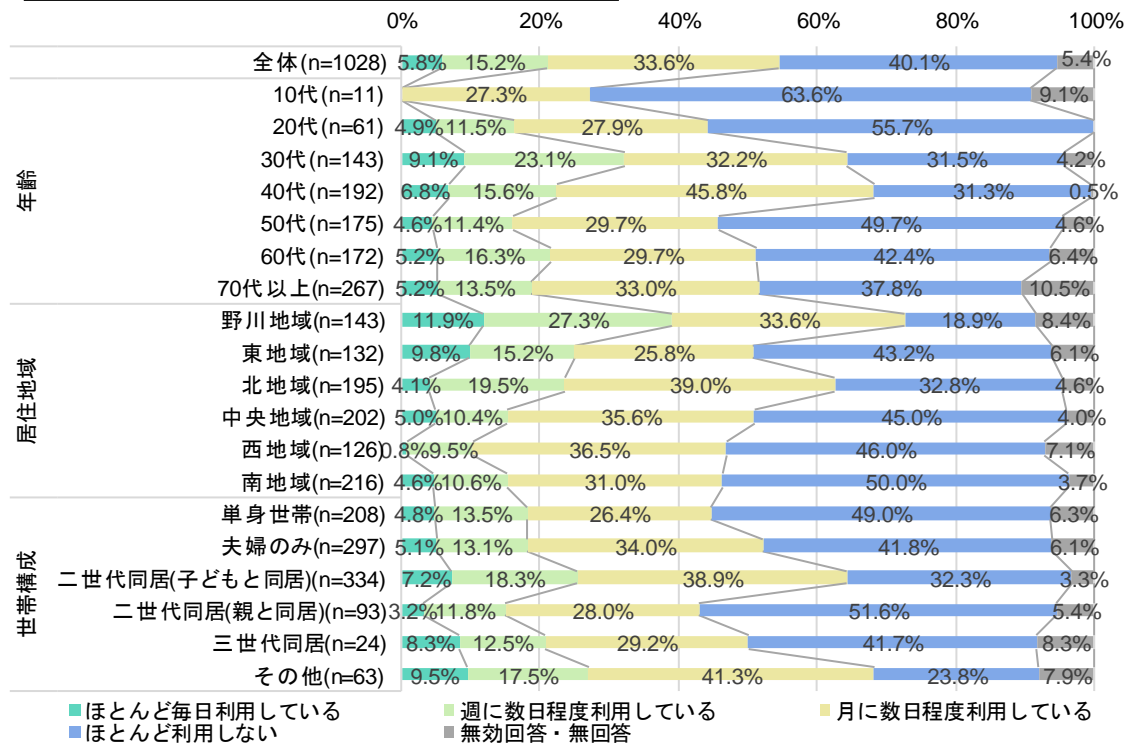
※身近な地域：自宅から徒歩15分圏内の地域を目安としてください。

公園の利用頻度 (n=1,028)



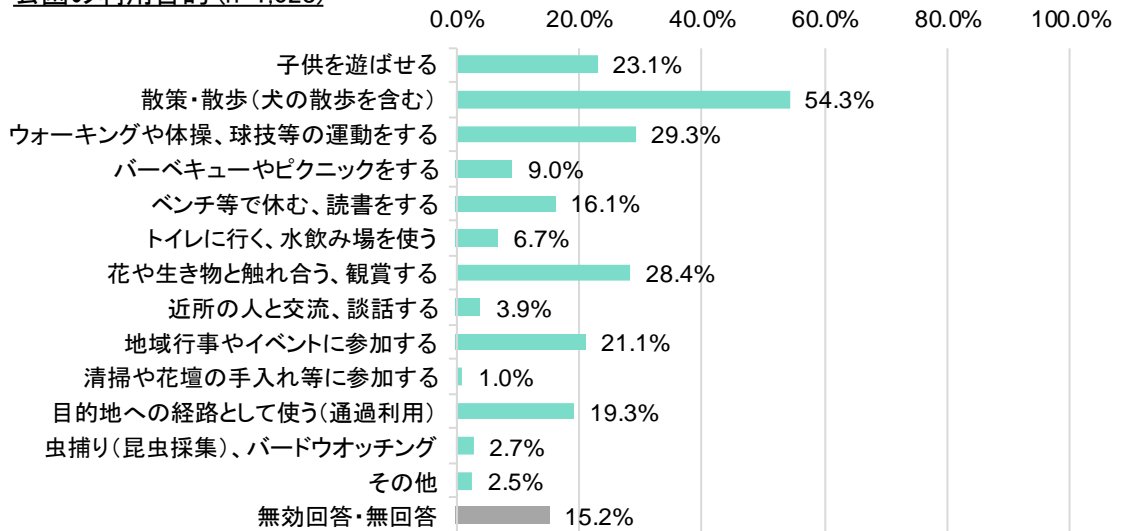
・公園の利用頻度は、「ほとんど利用しない」が40.1%を占め、「ほとんど毎日利用している」、「週に数日程度利用している」は計21.0%でした。

公園の利用頻度×年齢、×居住地域、×世帯構成



・年齢別に見ると「30代」、「40代」、居住地域別に見ると「野川地域」、「北地域」、世帯構成別に見ると、「二世世代同居(子どもと同居)」で、他の属性に比べて公園を利用している人の割合が高くなっています。

公園の利用目的 (n=1,028)



・利用目的は、「散歩・散歩(犬の散歩を含む)」が最も多く54.3%を占めています。次いで、「ウォーキングや体操、球技等の運動をする」(29.3%)、「花や生き物と触れ合う、鑑賞する」(28.4%)、「子供を遊ばせる」(23.1%)、「地域行事やイベントに参加する」(21.1%)が挙げられました。

その他の具体例 (n=30)

※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類		件数	
選択肢に関連するもの	花や生き物と触れ合う、鑑賞する	スケッチをしたり、写真を撮ったりする	2
		展示会見学	1
		食べられる植物、実などを採取する	1
選択肢と重複		15	
公園を利用しない理由	利用目的がない	5	
	公園が汚い	2	
その他	市外の公園を利用する	2	
	その他	3	
計		31	

※赤字は、各属性の1位の回答

公園の利用目的×年齢

	全体 (n=1028)	10代 (n=11)	20代 (n=61)	30代 (n=143)	40代 (n=192)	50代 (n=175)	60代 (n=172)	70代以上 (n=267)
子供を遊ばせる	23.1%	9.1%	9.8%	50.3%	47.4%	13.1%	11.6%	9.0%
散歩・散歩(犬の散歩を含む)	54.3%	45.5%	45.9%	52.4%	53.6%	60.0%	61.0%	50.2%
ウォーキングや体操、球技等の運動をする	29.3%	9.1%	27.9%	27.3%	26.0%	29.7%	35.5%	29.6%
バーベキューやピクニックをする	9.0%	18.2%	14.8%	18.2%	20.3%	6.3%	2.3%	0.7%
ベンチ等で休む、読書をする	16.1%	9.1%	27.9%	12.6%	12.5%	15.4%	12.2%	21.3%
トイレに行く、水飲み場を使う	6.7%	18.2%	4.9%	2.8%	6.3%	7.4%	8.1%	7.5%
花や生き物と触れ合う、觀賞する	28.4%	0.0%	19.7%	14.7%	22.4%	36.0%	35.5%	33.7%
近所の人と交流、談話する	3.9%	9.1%	4.9%	3.5%	3.6%	3.4%	1.2%	6.0%
地域行事やイベントに参加する	21.1%	9.1%	14.8%	22.4%	27.6%	24.0%	19.8%	16.9%
清掃や花壇の手入れ等に参加する	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	1.7%	1.1%
目的地への経路として使う(通過利用)	19.3%	18.2%	31.1%	14.7%	18.8%	26.3%	18.0%	15.7%
虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング	2.7%	0.0%	0.0%	2.8%	4.7%	1.7%	2.3%	3.0%
その他	2.5%	9.1%	1.6%	3.5%	2.1%	3.4%	3.5%	1.1%
無効回答・無回答	15.2%	18.2%	11.5%	7.0%	4.7%	10.9%	18.0%	28.1%

公園の利用目的×居住地域

	全体 (n=1028)	野川地域 (n=143)	東地域 (n=132)	北地域 (n=195)	中央地域 (n=202)	西地域 (n=126)	南地域 (n=216)
子供を遊ばせる	23.1%	22.4%	28.0%	20.0%	19.8%	23.8%	25.5%
散歩・散歩(犬の散歩を含む)	54.3%	64.3%	49.2%	55.4%	54.0%	57.1%	50.0%
ウォーキングや体操、球技等の運動をする	29.3%	32.9%	27.3%	31.8%	30.7%	32.5%	23.1%
バーベキューやピクニックをする	9.0%	11.2%	6.8%	12.3%	6.4%	11.1%	7.4%
ベンチ等で休む、読書をする	16.1%	15.4%	17.4%	14.4%	17.3%	15.9%	17.6%
トイレに行く、水飲み場を使う	6.7%	6.3%	5.3%	4.1%	5.9%	7.9%	9.7%
花や生き物と触れ合う、觀賞する	28.4%	35.7%	19.7%	34.4%	29.7%	25.4%	25.0%
近所の人と交流、談話する	3.9%	4.9%	3.0%	5.6%	2.0%	2.4%	5.1%
地域行事やイベントに参加する	21.1%	17.5%	16.7%	29.2%	23.3%	21.4%	17.1%
清掃や花壇の手入れ等に参加する	1.0%	1.4%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	2.3%
目的地への経路として使う(通過利用)	19.3%	26.6%	21.2%	14.4%	19.3%	19.8%	17.6%
虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング	2.7%	2.8%	2.3%	2.6%	2.0%	1.6%	4.2%
その他	2.5%	2.1%	3.8%	1.0%	2.5%	4.0%	2.8%
無効回答・無回答	15.2%	9.8%	19.7%	13.8%	15.3%	12.7%	16.7%

※赤字は、各属性の1位の回答

公園の利用目的×世帯構成

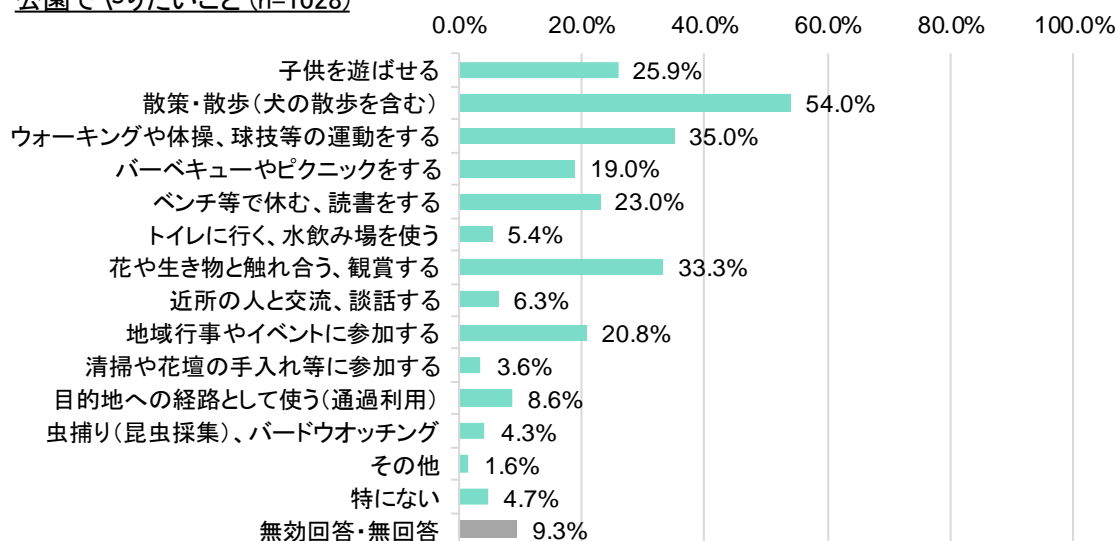
	全体 (n=1028)	単身世帯 (n=208)	夫婦のみ (n=297)	二世帯同居(子 どもと同居) (n=334)	二世帯同居(親 と同居) (n=93)	三世帯同居 (n=24)	その他 (n=63)
子供を遊ばせる	23.1%	9.1%	9.8%	44.3%	11.8%	33.3%	34.9%
散策・散歩(犬の散歩を含む)	54.3%	52.9%	59.9%	52.1%	58.1%	54.2%	41.3%
ウォーキングや体操、球技等の運動をする	29.3%	29.8%	32.3%	27.2%	33.3%	29.2%	19.0%
バーベキューやピクニックをする	9.0%	5.8%	6.4%	13.2%	5.4%	8.3%	17.5%
ベンチ等で休む、読書をする	16.1%	25.5%	16.2%	12.9%	11.8%	4.2%	15.9%
トイレに行く、水飲み場を使う	6.7%	7.7%	6.1%	5.4%	10.8%	12.5%	4.8%
花や生き物と触れ合う、鑑賞する	28.4%	30.8%	36.4%	23.4%	28.0%	25.0%	11.1%
近所の人と交流、談話する	3.9%	2.9%	3.7%	3.9%	5.4%	4.2%	6.3%
地域行事やイベントに参加する	21.1%	12.0%	18.9%	30.5%	17.2%	29.2%	14.3%
清掃や花壇の手入れ等に参加する	1.0%	0.5%	0.7%	1.8%	1.1%	0.0%	0.0%
目的地への経路として使う(通過利用)	19.3%	20.7%	19.9%	15.3%	29.0%	20.8%	20.6%
虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング	2.7%	1.9%	2.4%	3.9%	2.2%	8.3%	0.0%
その他	2.5%	2.9%	3.4%	1.5%	2.2%	4.2%	3.2%
無効回答・無回答	15.2%	20.2%	14.5%	12.3%	14.0%	4.2%	17.5%

- ・年齢別、居住地域別、世帯構成別に見ても、全ての属性で「散策・散歩(犬の散歩を含む)」が最上位となっています。
- ・居住地域別では、属性間の差がほとんど見られませんでした。年齢別、世帯構成別では以下のような傾向が見られました。
- ・年齢別では「20代」の「ベンチ等で休む、読書をする」、「目的地への経路として使う(通過利用)」、「30～40代」の「子供を遊ばせる」の割合が、他の世代と比べて高い点の特徴と言えます。
- ・また、「バーベキューやピクニックをする」は、「10～40代」で高い割合を示している一方で、「花や生き物と触れ合う、鑑賞する」は「50代以上」の方が高い割合を示す等、世代による差が見られます。
- ・世帯構成別では、「二世帯同居(子どもと同居)」、「三世帯同居」の「子供を遊ばせる」、「地域行事やイベントに参加する」、「夫婦のみ」の「花や生き物と触れ合う、鑑賞する」の割合が、他の世帯構成に比べて高い点の特徴と言えます。
- ・一方、「単身世帯」では、「地域行事やイベントに参加する」の割合が他の世帯構成に比べて低くなっています。

問8【公園でやりたいこと】

今後、身近な地域の公園でやりたいことをお聞かせください。下表の中からあてはまるものを3つ選び、回答欄に数字をご記入ください。

公園でやりたいこと (n=1028)



- ・今後、公園でやりたいことは、「散歩・散歩(犬の散歩を含む)」が最も多く54.0%を占めています。次いで、「ウォーキングや体操、球技等の運動をする」(35.0%)、「花や生き物と触れ合う、鑑賞する」(33.3%)、「子供を遊ばせる」(25.9%)と続いています。
- ・現在の公園の利用目的と比較すると、上位の傾向は概ね一致していますが、「バーベキューやピクニックをする」は、公園の利用目的としては9.0%でしたが、公園でやりたいこととしては19.0%に上り、10ポイント以上回答が多くなっています。
- ・その他の具体例は、以下に示すとおりです。

その他の具体例 (n=22)

※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類		件数
選択肢に関連するもの	地域行事やイベントに参加する	植物の育て方指導や販売イベント
その他		夏場、水遊びをする場所がほしいです。
		ポタリング
		発声練習
		災害時、滞在生活訓練
選択肢と重複		14
公園を利用しない理由	利用目的がない	2
その他		1
計		22

※赤字は、各属性の1位の回答

公園でやりたいこと×年齢

	全体 (n=1028)	10代 (n=11)	20代 (n=61)	30代 (n=143)	40代 (n=192)	50代 (n=175)	60代 (n=172)	70代以上 (n=267)
子供を遊ばせる	25.9%	0.0%	34.4%	54.5%	44.8%	14.3%	15.1%	11.2%
散歩・散歩(犬の散歩を含む)	54.0%	27.3%	41.0%	46.9%	50.0%	60.0%	65.7%	53.6%
ウォーキングや体操、球技等の運動をする	35.0%	18.2%	32.8%	35.7%	34.9%	34.3%	43.6%	30.7%
バーベキューやピクニックをする	19.0%	27.3%	37.7%	35.0%	33.3%	17.1%	6.4%	4.9%
ベンチ等で休む、読書をする	23.0%	36.4%	24.6%	18.2%	21.9%	22.9%	19.8%	27.7%
トイレに行く、水飲み場を使う	5.4%	18.2%	3.3%	4.2%	4.2%	4.0%	5.2%	7.9%
花や生き物と触れ合う、観賞する	33.3%	18.2%	23.0%	23.8%	24.5%	35.4%	38.4%	43.1%
近所の人と交流、談話する	6.3%	0.0%	11.5%	3.5%	4.7%	5.7%	4.1%	10.1%
地域行事やイベントに参加する	20.8%	18.2%	14.8%	24.5%	26.6%	24.0%	15.7%	17.6%
清掃や花壇の手入れ等に参加する	3.6%	18.2%	3.3%	1.4%	2.6%	3.4%	5.8%	3.7%
目的地への経路として使う(通過利用)	8.6%	0.0%	14.8%	2.8%	6.8%	11.4%	9.3%	9.4%
虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング	4.3%	0.0%	1.6%	2.1%	8.3%	5.7%	4.1%	2.6%
その他	1.6%	0.0%	1.6%	2.1%	2.1%	0.6%	3.5%	0.4%
特にない	4.7%	18.2%	6.6%	2.8%	5.2%	5.7%	4.7%	3.7%
無効回答・無回答	9.3%	9.1%	1.6%	4.2%	1.0%	6.9%	9.9%	20.2%

公園でやりたいこと×居住地域

	全体 (n=1028)	野川地域 (n=143)	東地域 (n=132)	北地域 (n=195)	中央地域 (n=202)	西地域 (n=126)	南地域 (n=216)
子供を遊ばせる	25.9%	21.7%	28.0%	23.6%	24.8%	30.2%	28.2%
散歩・散歩(犬の散歩を含む)	54.0%	66.4%	53.0%	55.4%	56.4%	48.4%	48.1%
ウォーキングや体操、球技等の運動をする	35.0%	36.4%	31.1%	40.0%	35.1%	34.9%	31.9%
バーベキューやピクニックをする	19.0%	20.3%	15.2%	23.6%	13.9%	23.8%	19.0%
ベンチ等で休む、読書をする	23.0%	15.4%	31.1%	23.1%	22.8%	23.8%	23.6%
トイレに行く、水飲み場を使う	5.4%	4.2%	4.5%	4.6%	5.0%	5.6%	7.9%
花や生き物と触れ合う、観賞する	33.3%	46.9%	25.8%	32.3%	31.2%	34.1%	32.9%
近所の人と交流、談話する	6.3%	5.6%	7.6%	5.1%	4.5%	7.9%	6.9%
地域行事やイベントに参加する	20.8%	12.6%	15.2%	28.2%	29.7%	21.4%	14.8%
清掃や花壇の手入れ等に参加する	3.6%	2.1%	2.3%	3.6%	4.0%	1.6%	5.6%
目的地への経路として使う(通過利用)	8.6%	9.8%	12.1%	5.1%	9.4%	7.1%	9.3%
虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング	4.3%	9.1%	4.5%	3.6%	2.0%	4.0%	4.2%
その他	1.6%	2.8%	2.3%	0.5%	0.5%	3.2%	1.4%
特にない	4.7%	3.5%	3.0%	2.6%	5.9%	7.1%	5.6%
無効回答・無回答	9.3%	7.7%	12.9%	9.2%	8.4%	5.6%	9.3%

※赤字は、各属性の1位

公園でやりたいこと×世帯構成

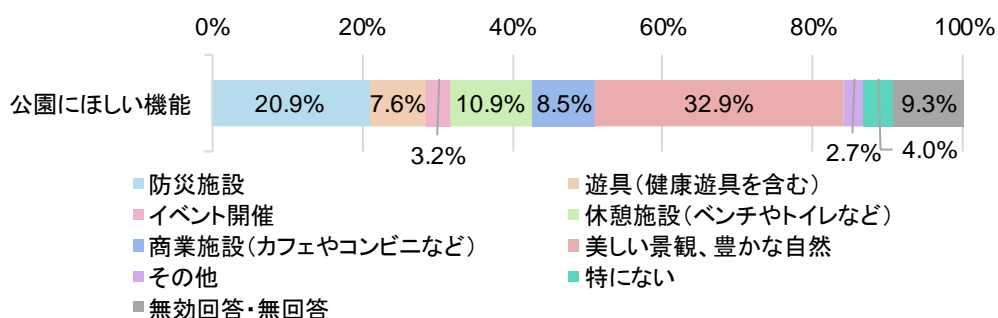
	全体 (n=1028)	単身世帯 (n=208)	夫婦のみ (n=297)	二世帯同居(子 どもと同居) (n=334)	二世帯同居(親 と同居) (n=93)	三世帯同居 (n=24)	その他 (n=63)
子供を遊ばせる	25.9%	11.5%	17.8%	43.1%	15.1%	41.7%	33.3%
散策・散歩(犬の散歩を含む)	54.0%	54.3%	58.2%	51.8%	49.5%	50.0%	54.0%
ウォーキングや体操、球技等の運動をする	35.0%	36.1%	37.0%	33.8%	34.4%	29.2%	30.2%
バーベキューやピクニックをする	19.0%	11.5%	15.8%	24.6%	21.5%	20.8%	27.0%
ベンチ等で休む、読書をする	23.0%	29.8%	23.2%	19.5%	28.0%	8.3%	17.5%
トイレに行く、水飲み場を使う	5.4%	5.8%	5.1%	5.4%	4.3%	8.3%	6.3%
花や生き物と触れ合う、鑑賞する	33.3%	32.7%	37.7%	32.3%	28.0%	45.8%	22.2%
近所の人と交流、談話する	6.3%	7.7%	7.1%	6.3%	4.3%	4.2%	3.2%
地域行事やイベントに参加する	20.8%	15.4%	19.9%	28.7%	10.8%	20.8%	15.9%
清掃や花壇の手入れ等に参加する	3.6%	2.4%	4.4%	3.9%	4.3%	0.0%	3.2%
目的地への経路として使う(通過利用)	8.6%	12.0%	8.8%	5.4%	7.5%	12.5%	12.7%
虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング	4.3%	4.8%	3.4%	3.9%	6.5%	12.5%	3.2%
その他	1.6%	1.4%	2.4%	1.2%	0.0%	4.2%	1.6%
特になし	4.7%	6.7%	3.4%	2.7%	12.9%	0.0%	4.8%
無効回答・無回答	9.3%	13.0%	9.8%	6.6%	8.6%	0.0%	9.5%

- ・居住地域別、世帯構成別に見ると、全ての属性で「散策・散歩(犬の散歩を含む)」が最上位となっていますが、年齢別で見ると、「10代」は「ベンチ等で休む、読書をする」、「30代」は「子供を遊ばせる」が最上位になっていて、世代による差が見られます。
- ・その他、年齢別、世帯構成別では、以下のような傾向が見られます。
- ・年齢別では、上記の他に「10～40代」で「バーベキューやピクニックをする」が比較的上位となっている点が特徴と言えます。
- ・世帯構成別では、「子供を遊ばせる」は「二世帯同居(子どもと同居)」と「三世帯同居」、「バーベキューやピクニックをする」は「二世帯同居(子どもと同居)」、「二世帯同居(親と同居)」、「三世帯同居」、「花や生き物と触れ合う、鑑賞する」は「三世帯同居」で他の属性と比べて割合が高い点が特徴と言えます。

問9【公園にほしい機能】

今後、身近な地域の公園に拡充してほしい機能をお聞かせください。下表の中から最もあてはまるものを1つ選び、回答欄に数字をご記入ください。

公園にほしい機能 (n=1,028)



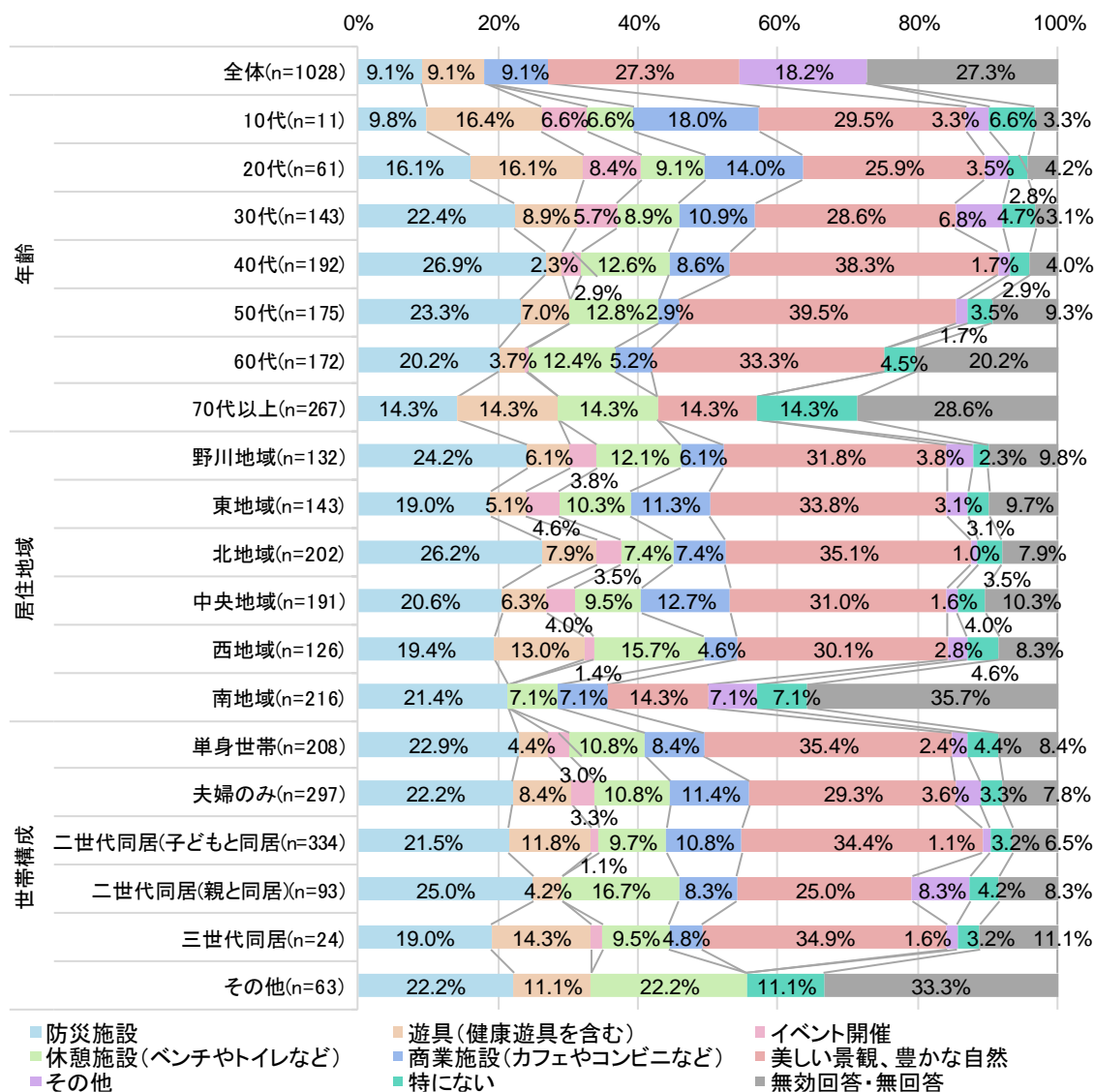
- ・公園にほしい機能として、「美しい景観、豊かな自然」が最も多く32.9%を占めています。次いで、「防災機能」が20.9%を占めています。
- ・その他は、10%前後であり、「イベント開催」は3.2%に留まっています。
- ・その他の具体例は、以下に示すとおりです。

その他の具体例 (n=42)

※網掛けは、具体例以外のもの

意見分類		件数	
選択肢に関連するもの	休憩施設(ベンチやトイレなど)	子供用のトイレやおむつ替えシート、授乳室	3
	商業施設(カフェやコンビニなど)	神代植物公園や深大寺のようなレストラン	1
		南池袋公園のようなカフェ	1
	美しい空間、豊かな自然	自然を残した公園	4
その他施設	球技ができる場		7
	火が扱える場		5
	照明		3
	ドッグラン		2
	水場		1
	時計		1
維持管理の徹底		5	
選択肢と重複		9	
		計	42

公園にほしい機能×年齢、×居住地域、×世帯構成

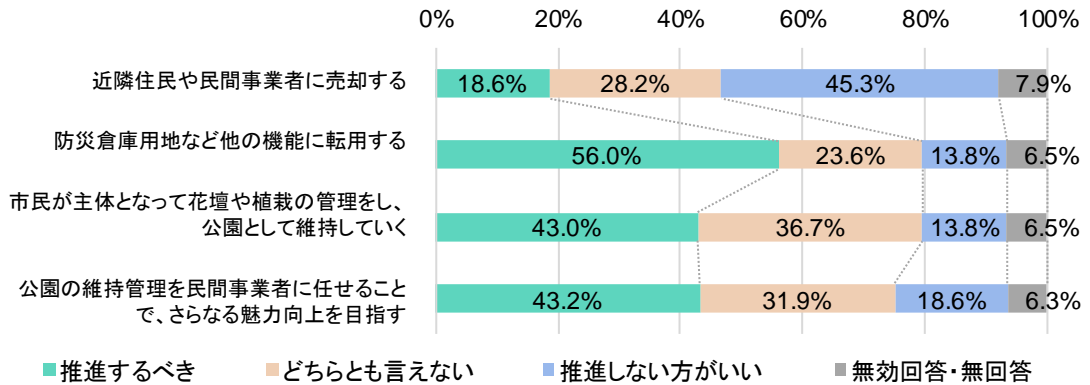


- ・年齢、居住地域、世帯構成別に見ても、全ての属性で「美しい景観、豊かな自然」が最上位となっています。
- ・年齢別に見ると、「20～30代」で「遊具（健康遊具を含む）」や「商業施設（カフェやコンビニなど）」、「50代」で「防災施設」の割合が他の属性に比べて高くなっています。
- ・居住地域別で見ると、「東地域」や「中央地域」で「防災施設」の割合が他の属性に比べて高くなっています。
- ・世帯構成別に見ると、「三世世代同居」で「防災施設」、「休憩施設（ベンチやトイレなど）」の割合が他の属性に比べて高くなっています。

問10【利用されていない公園の今後の方向性】

効率的な公園整備を推進するため、利用頻度の低い公園を整理しつつ、利用の多い公園の質の向上を図るうえで、今後必要だと思う取り組みについて、下表のあてはまる数字に○をつけてください。

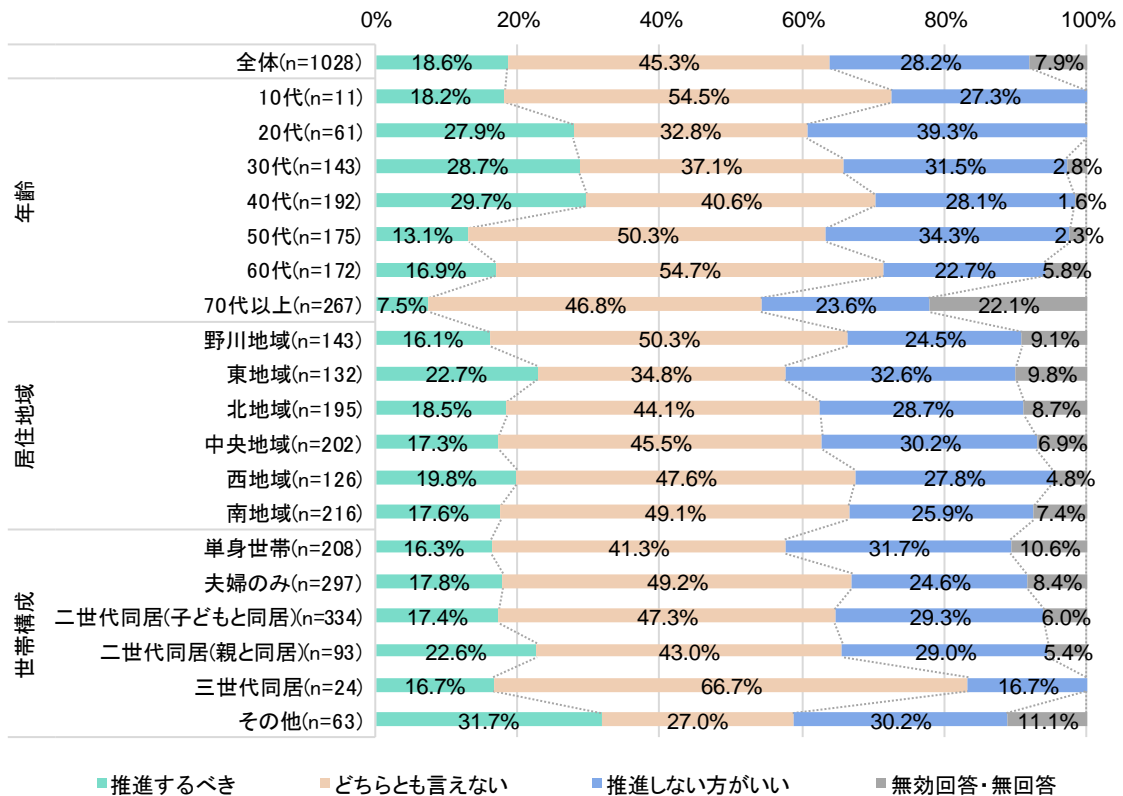
利用されていない公園の今後の方向性 (n=1028)



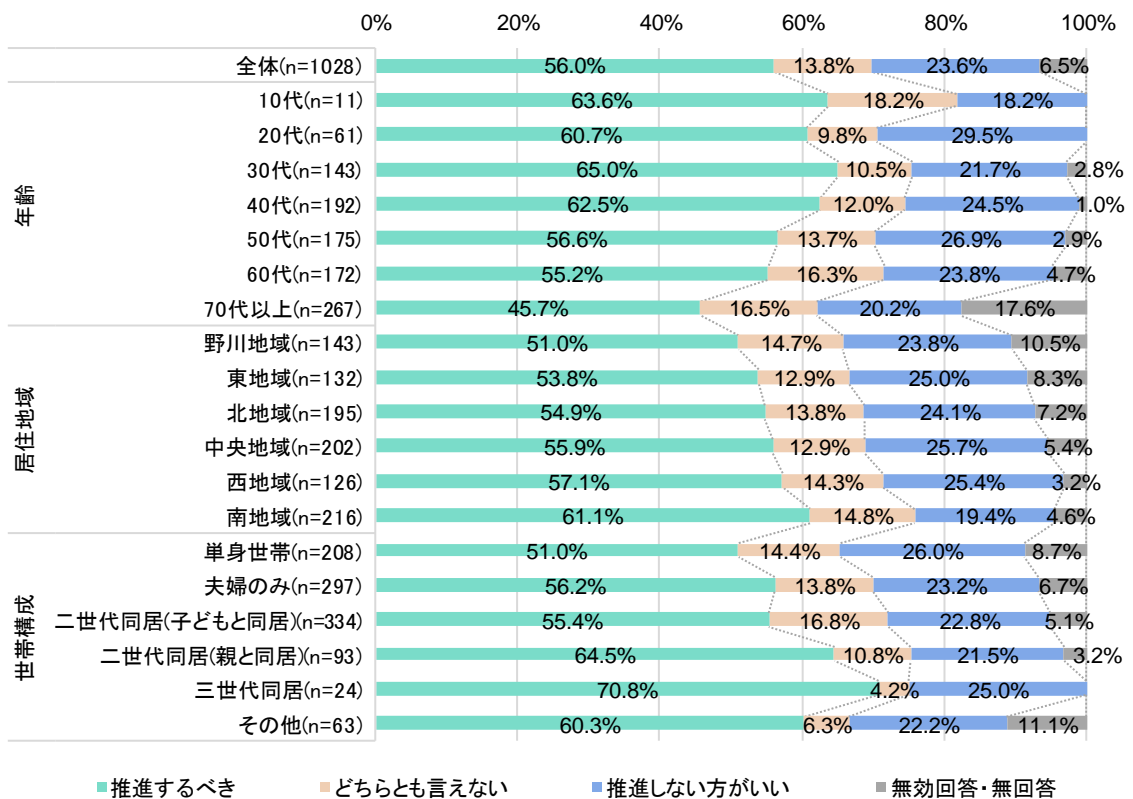
- ・利用されていない公園について、「推進すべき」との回答が最も多かったのは「防災倉庫用地など他の機能に転用する」で56.0%でした。
- ・一方、「推進しない方がいい」との回答が最も多かったのは「近隣住民や民間事業者に売却する」(45.3%)でした。

利用されていない公園の今後の方向性×年齢、×居住地域、×世帯構成

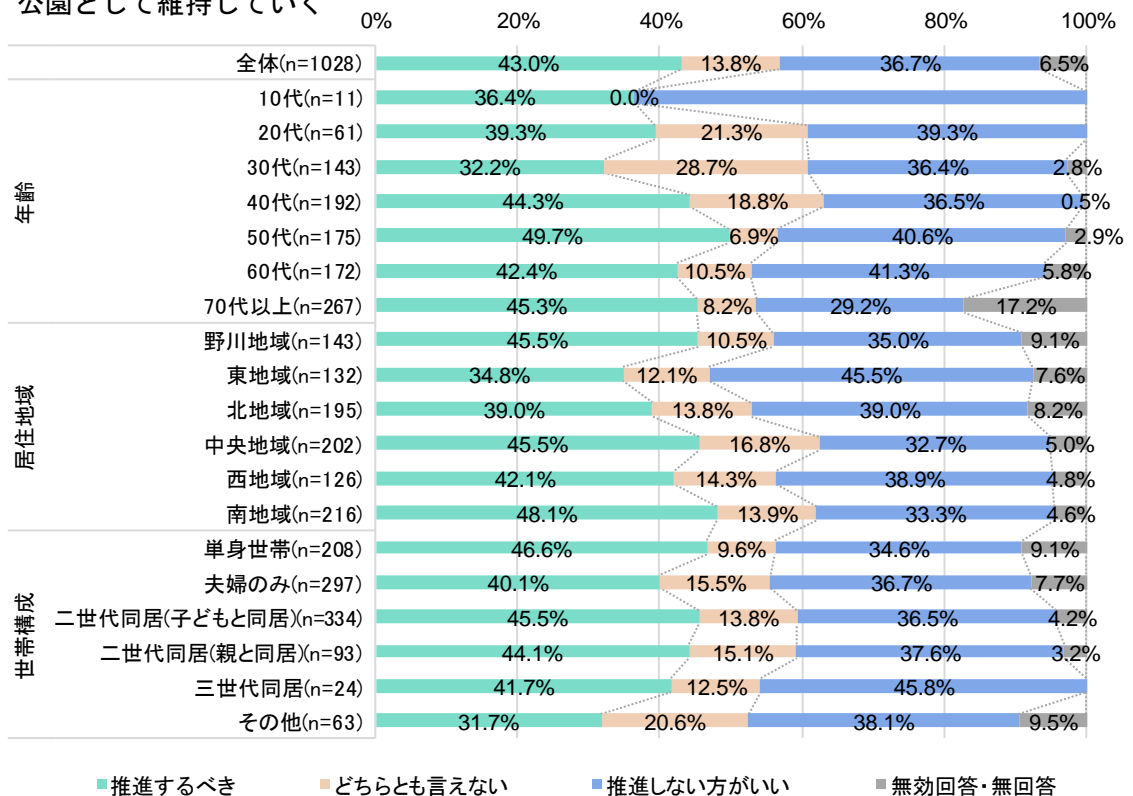
1. 近隣住民や民間事業者に売却する



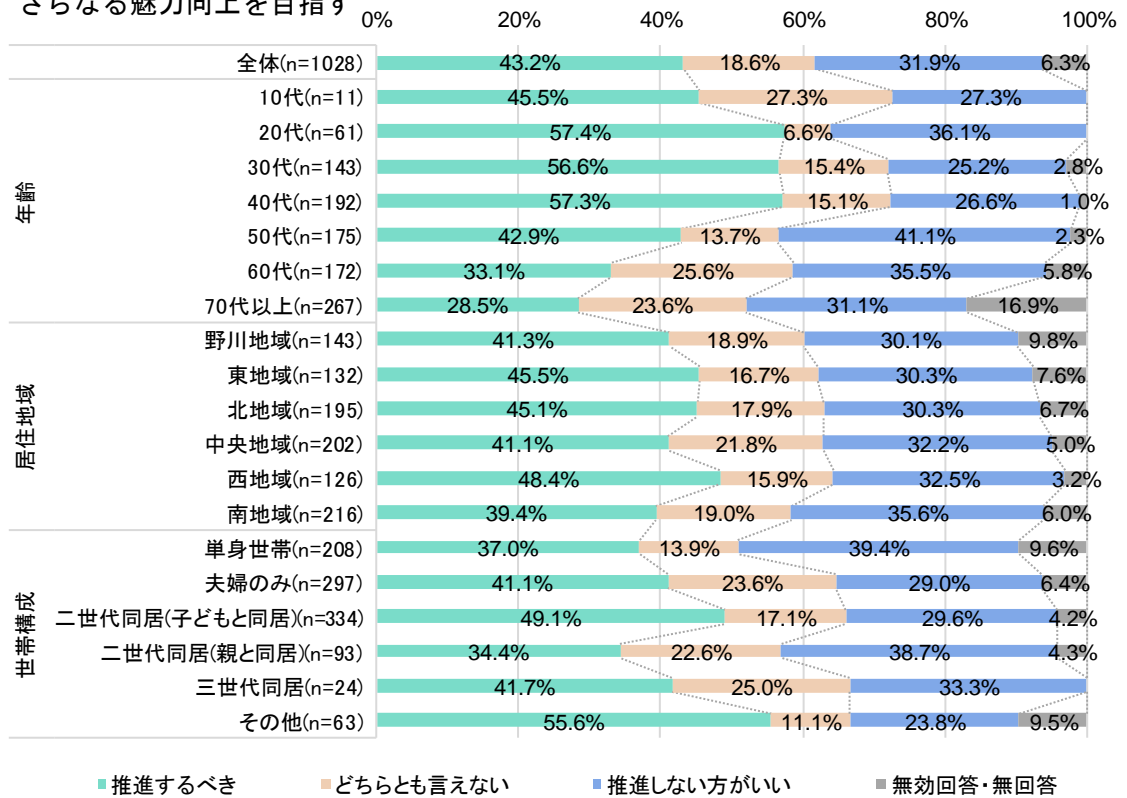
2. 防災倉庫用地など他の機能に転用する



3. 市民が主体となって花壇や植栽の管理をし、公園として維持していく



4. 公園の維持管理を民間事業者に任せることで、さらなる魅力向上を目指す



- ・「近隣住民や民間事業者に売却する」では、年齢別に見ると「20～40代」で「推進すべき」の割合が他の属性に比べて高くなっていますが、居住地域や世帯構成では属性間の差があまり見られませんでした。
- ・「防災倉庫用地など他の機能に転用する」では、年齢別に見ると「10～40代」、居住地域別に見ると「南地域」、世帯構成別に見ると「二世帯同居(親と同居)」、「三世帯同居」で「推進すべき」の割合が他の属性に比べて高くなっています。
- ・「市民が主体となって花壇や植栽の管理をし、公園として維持していく」では、年齢別で見ると「50代」、居住地域別に見ると「南地域」で「推進すべき」の割合が他の属性に比べて高くなっていますが、世帯構成では属性間の差があまり見られませんでした。
- ・「公園の維持管理を民間事業者に任せることで、さらなる魅力向上を目指す」では、年齢別に見ると「20～40代」、居住地域別に見ると「西地域」、世帯構成別で見ると「二世帯同居(子どもと同居)」で「推進すべき」の割合が他の属性に比べて高くなっています。

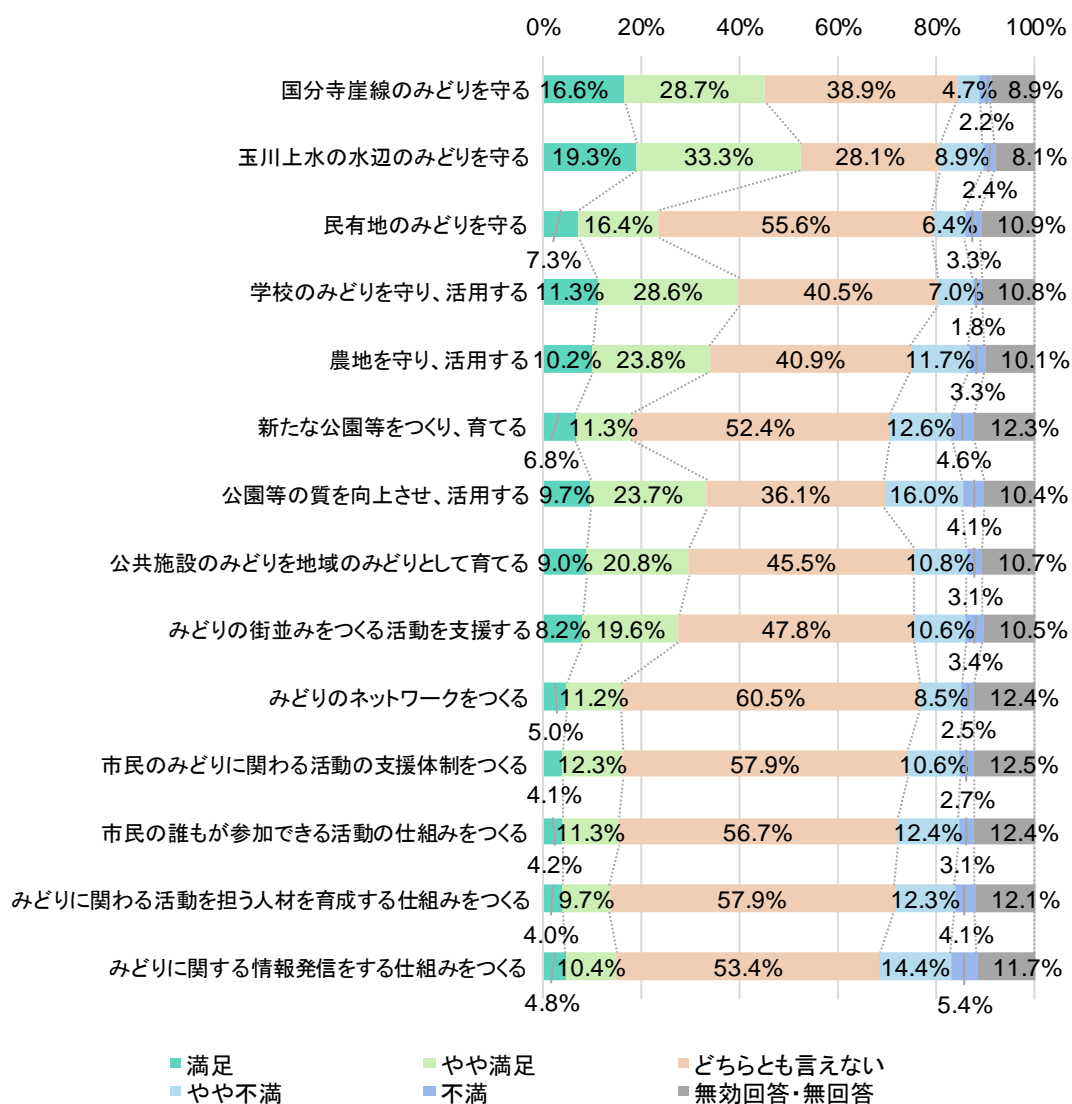
IV 小金井市のみどりに関する施策について

問 1 1 【市の施策の満足度、重要度】

市のみどりに関する基本施策の満足度および重要度をお聞かせください。下表の「満足度」のあてはまる数字に○をつけてください。

また、今後、特に重要だと思う取り組みを3つまで選び、下表の「重要度」に○をつけてください。

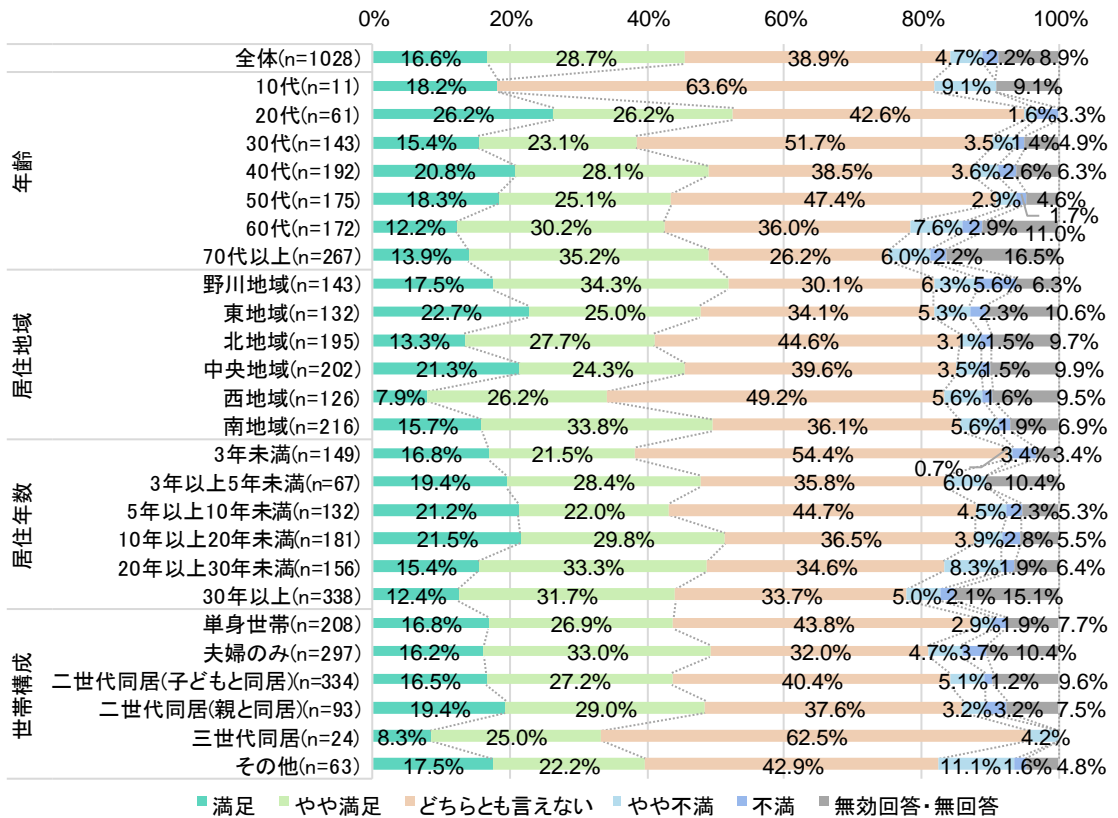
市の施策の満足度 (n=1,028)



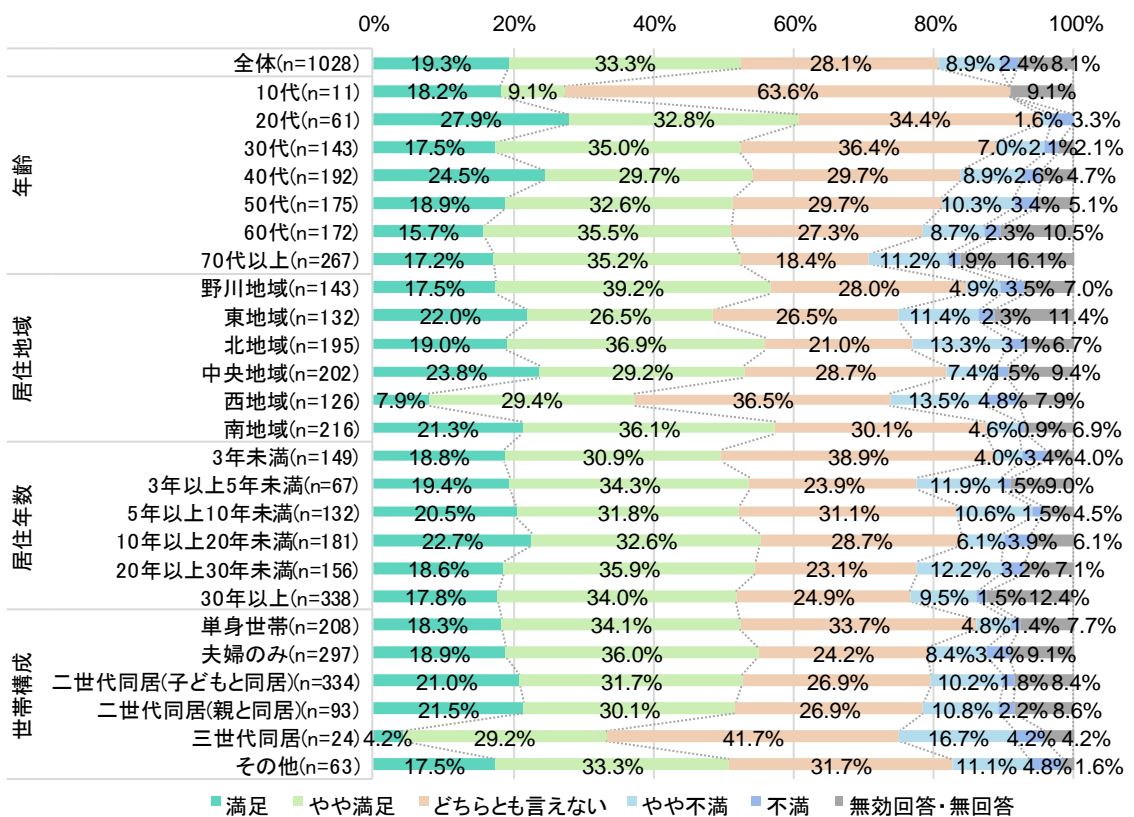
- ・多くの施策で「どちらとも言えない」との回答が目立ちます。
- ・「満足」、「やや満足」の合計が40%を超えた施策は、「国分寺崖線のみどりを守る」(45.3%)、「玉川上水のみどりを守る」(52.6%)でした。
- ・「公園等の質を向上させ、活用する」は、「満足」「やや満足」との回答が33.4%あった一方で、「やや不満」、「不満」との回答が最も多く20.1%に上っています。
- ・次いで不満度の高い施策は、「みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる」(19.8%)、「新たな公園等をつくり、育てる」(17.2%)でした。

市の施策の満足度×年齢、×居住地域、×居住年数、×世帯構成

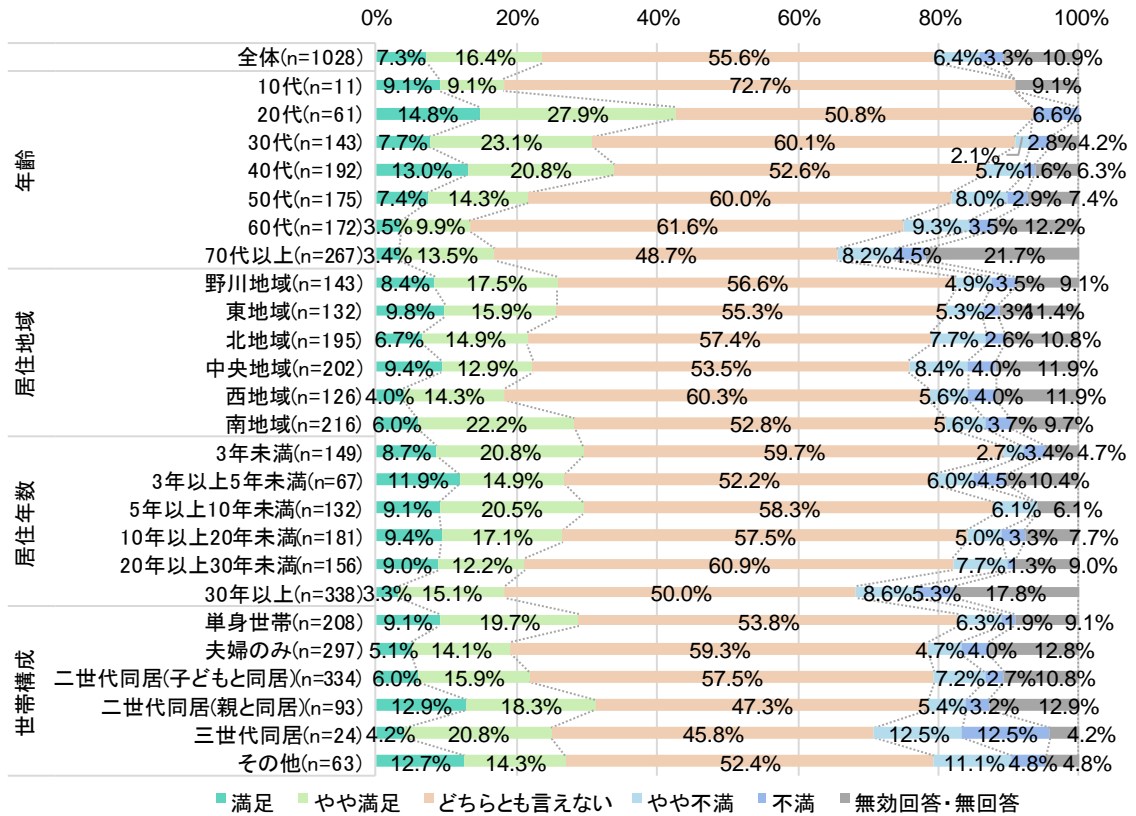
1. 国分寺崖線のみどりを守る



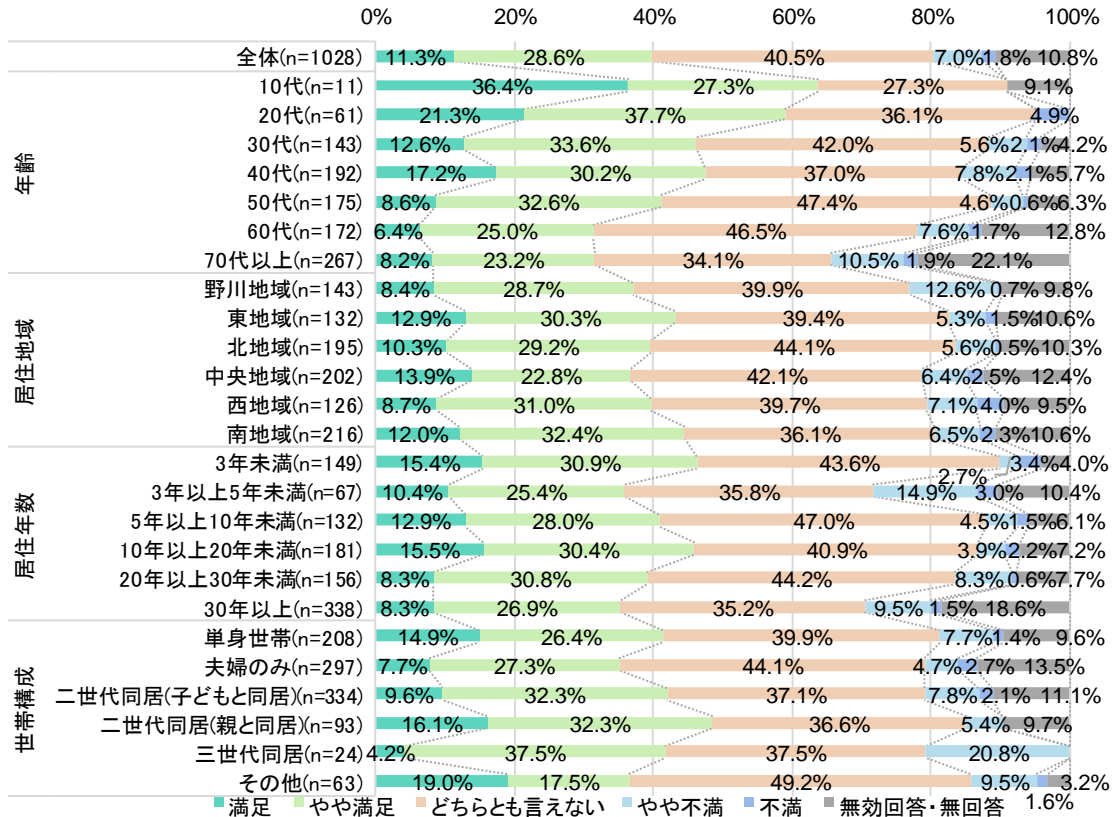
2. 玉川上水の水辺のみどりを守る



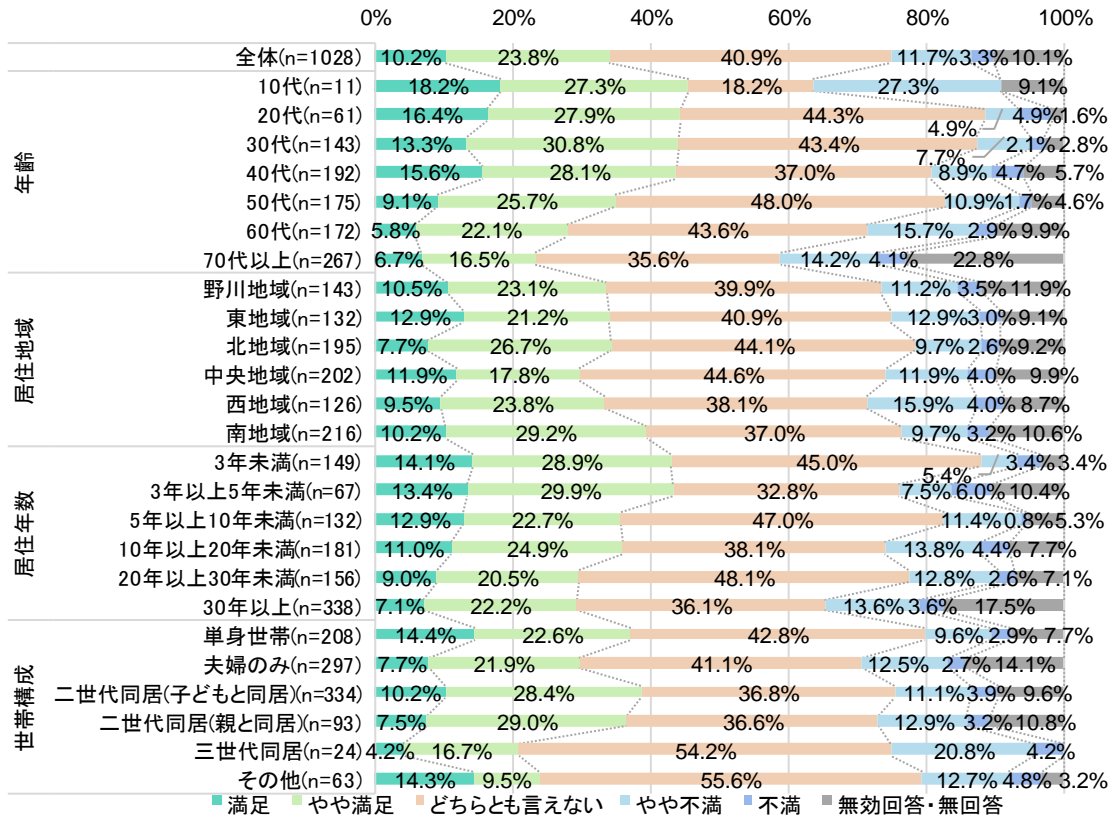
3. 民有地のみどりを守る



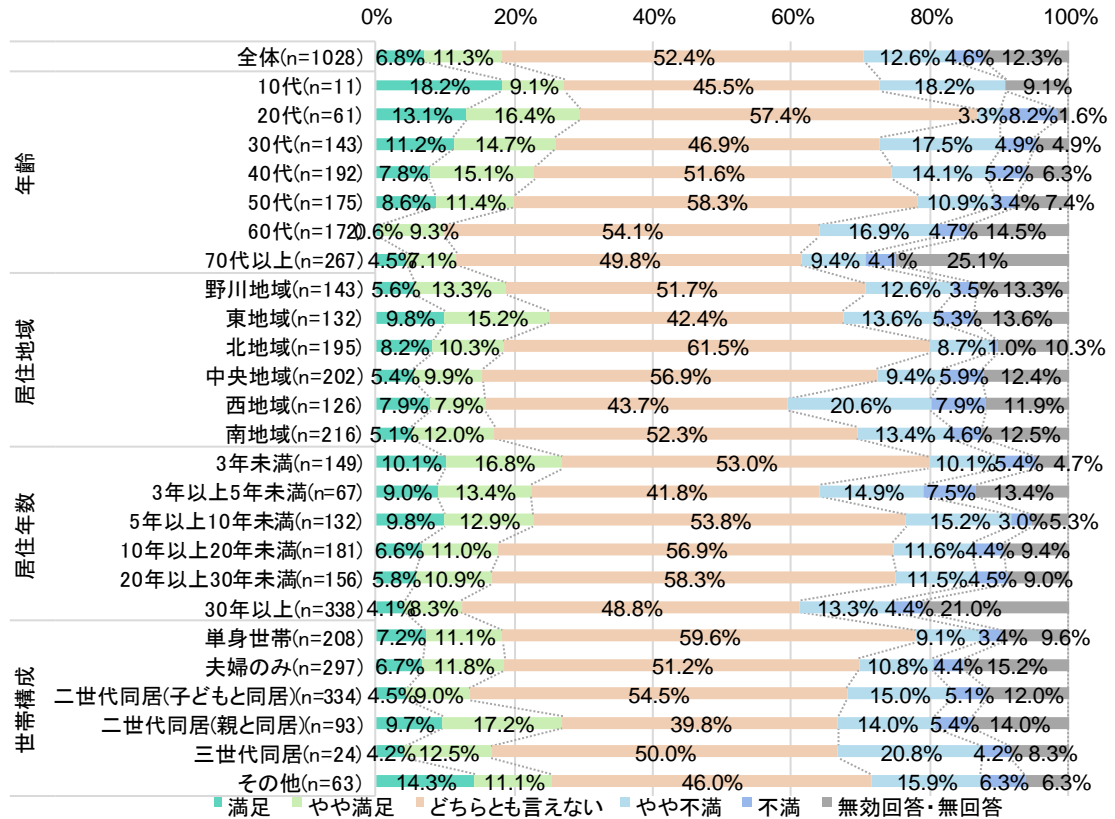
4. 学校のみどりを守り、活用する



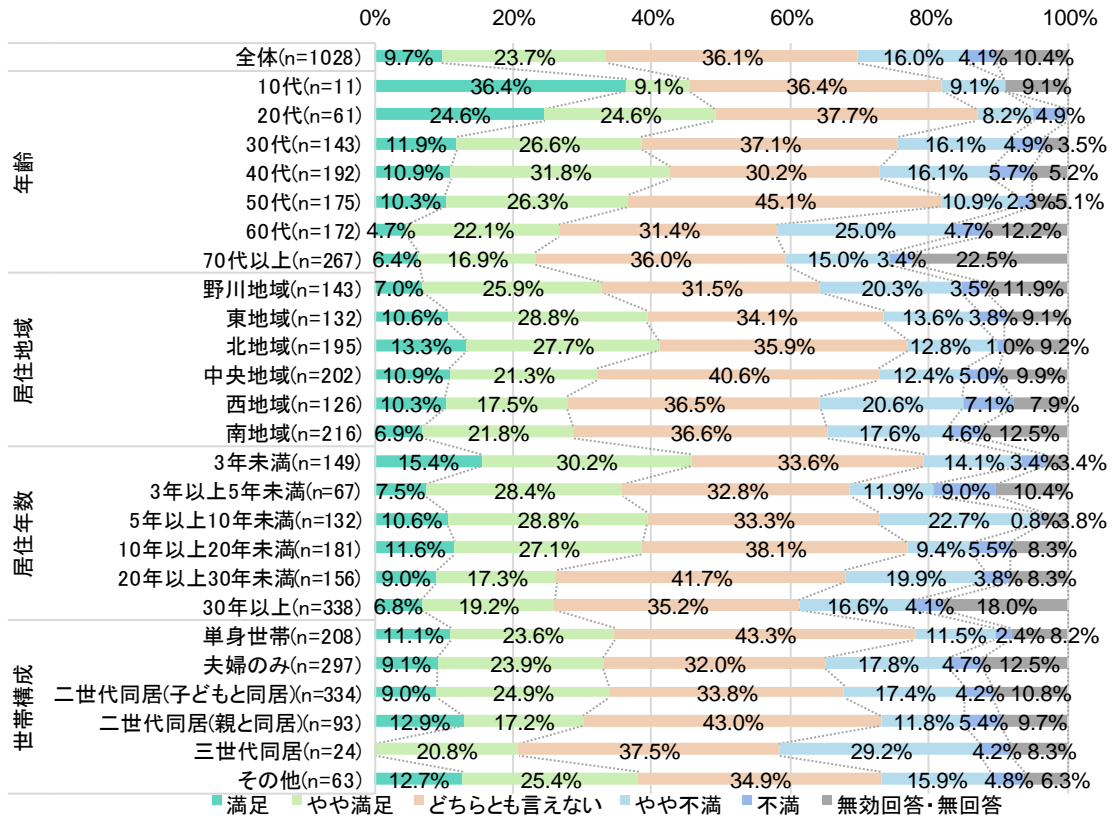
5. 農地を守り、活用する



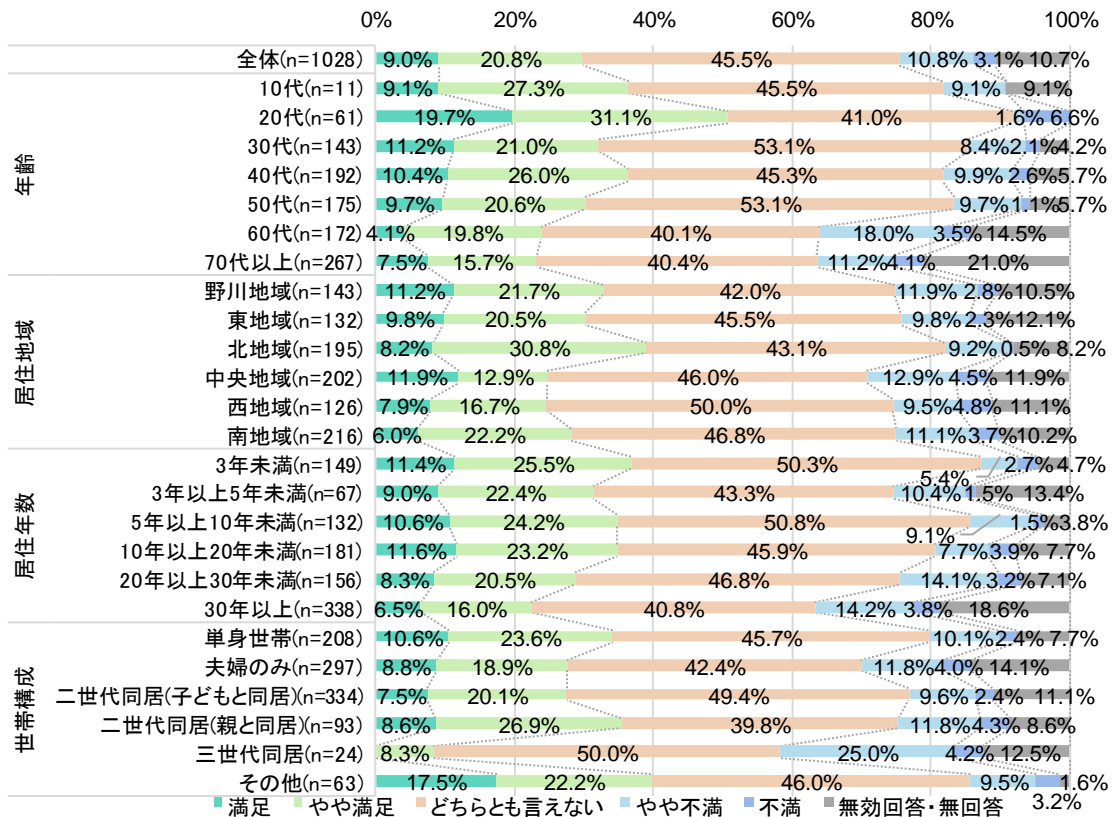
6. 新たな公園等をつくり、育てる



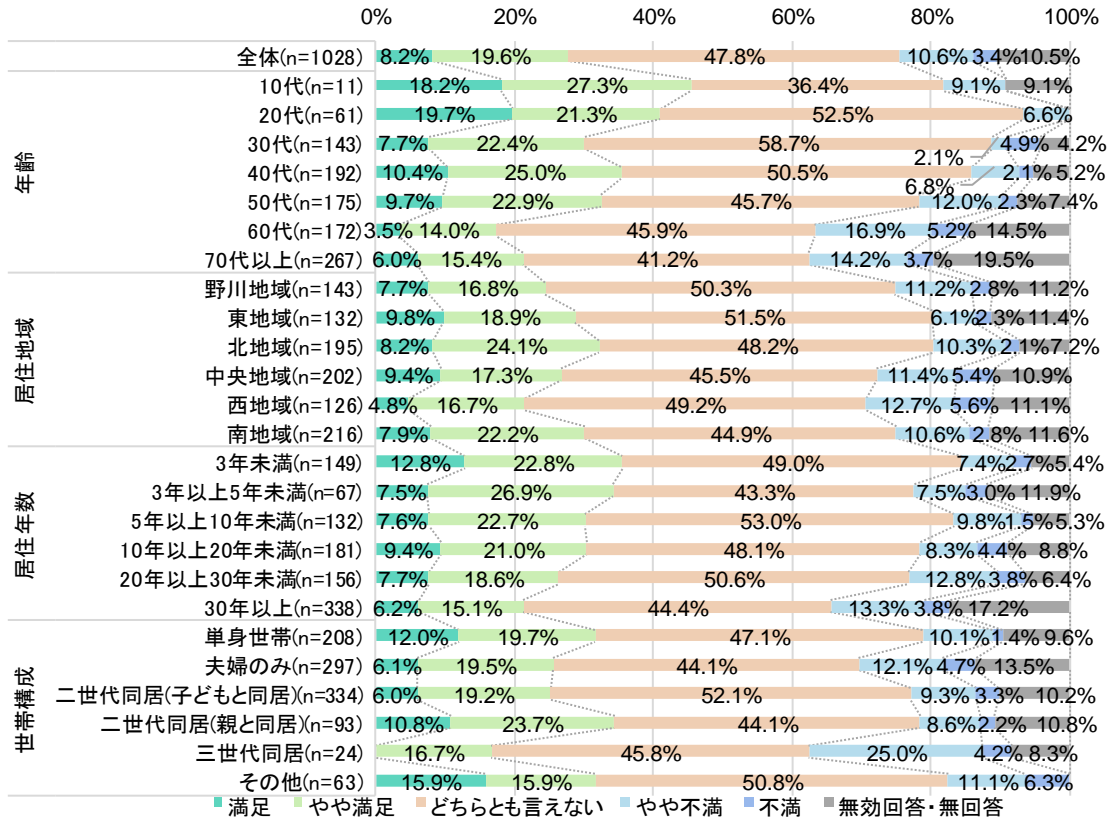
7. 公園等の質を向上させ、活用する



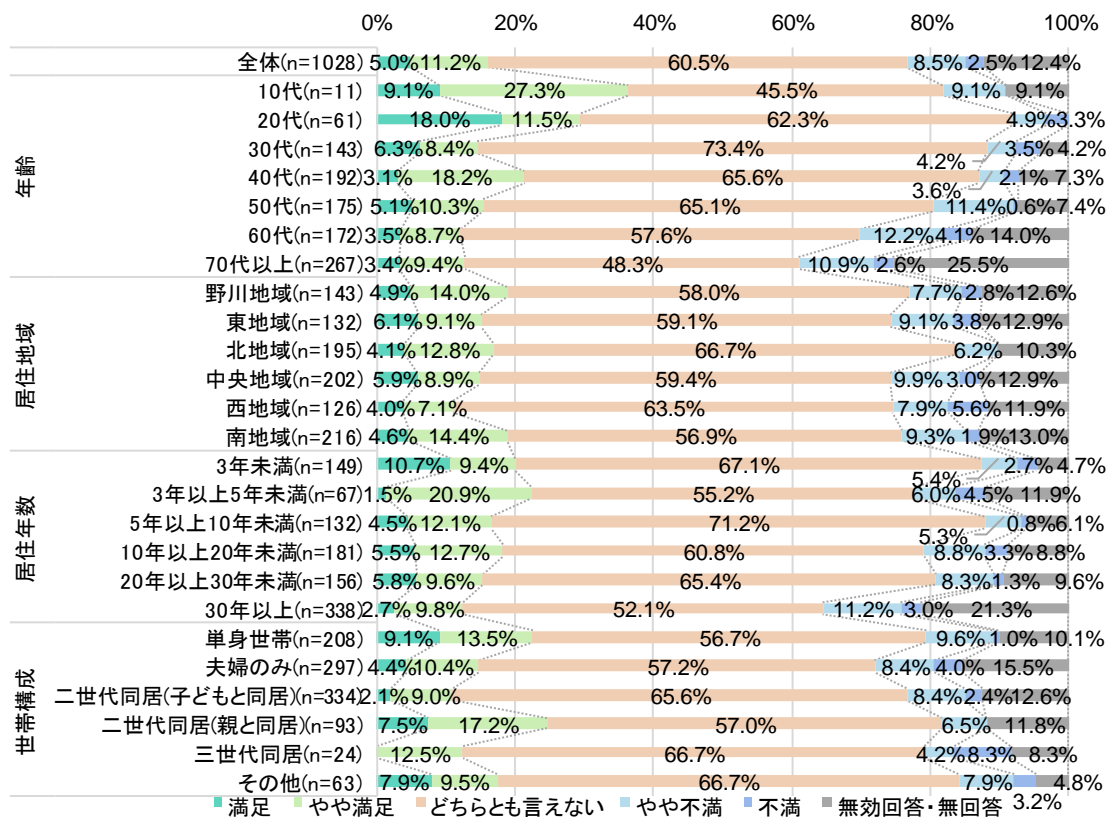
8. 公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる



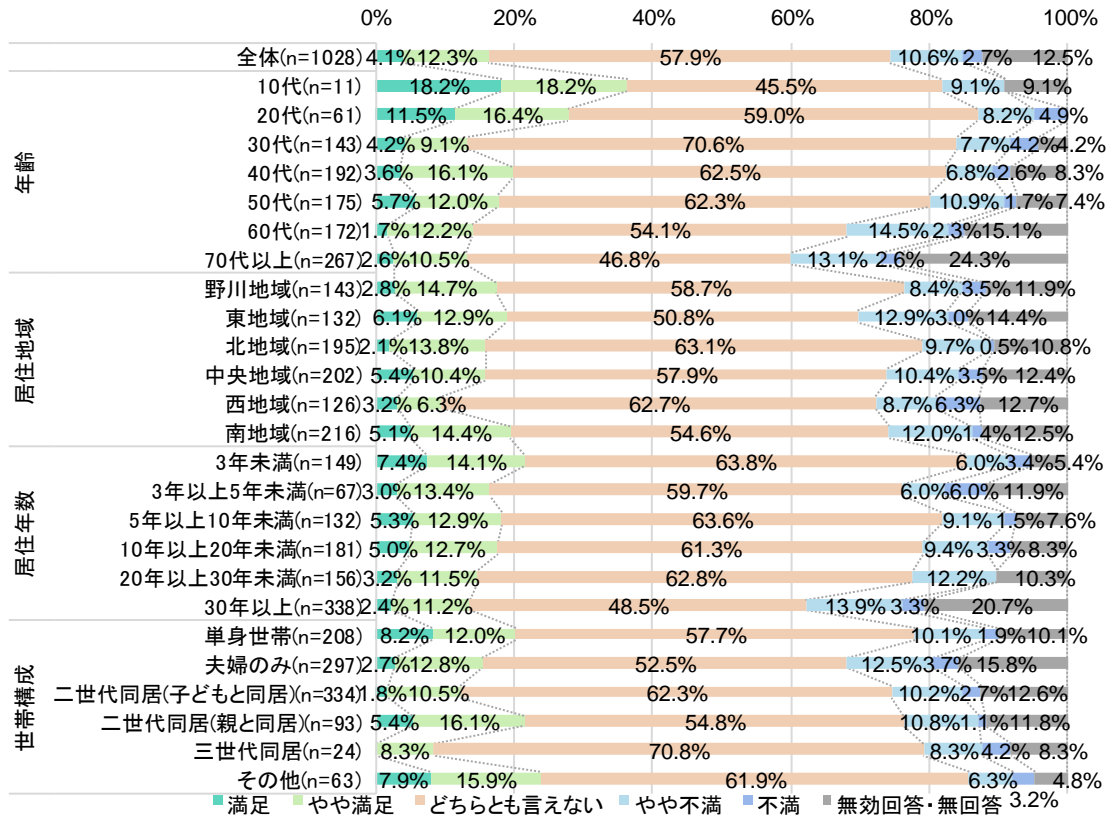
9. みどりの街並みをつくる活動を支援する



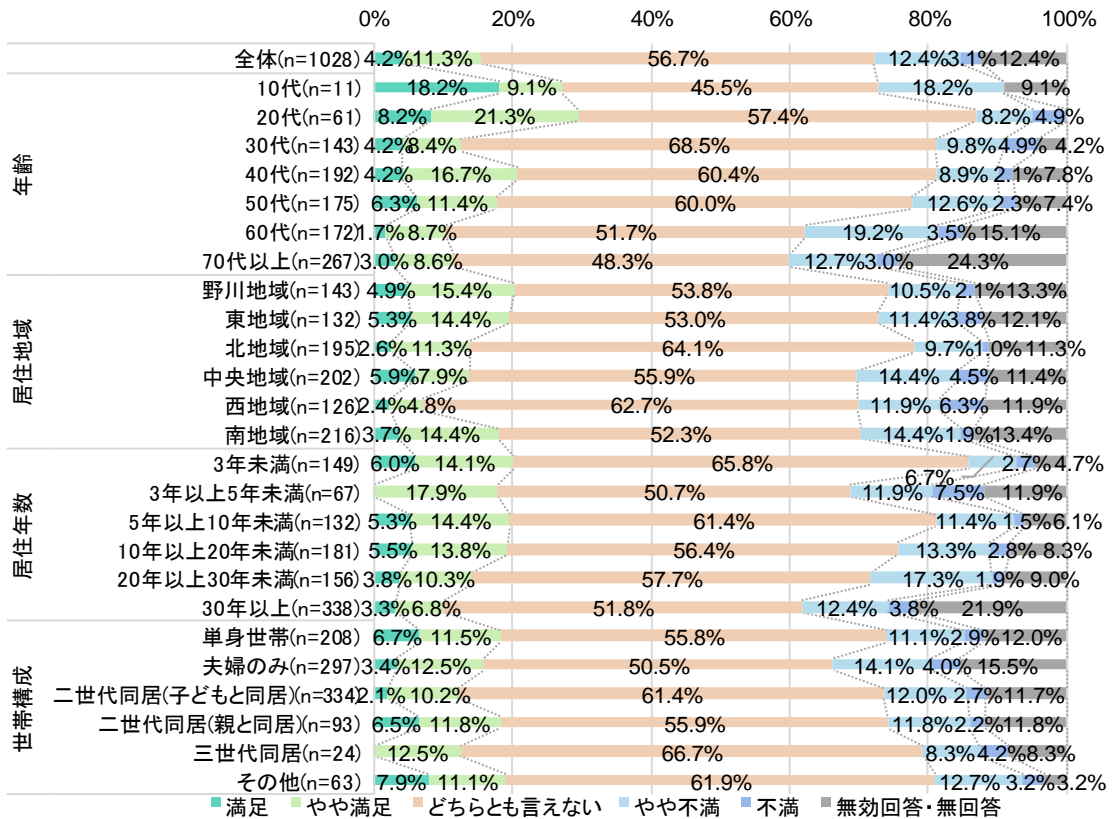
10. みどりのネットワークをつくる



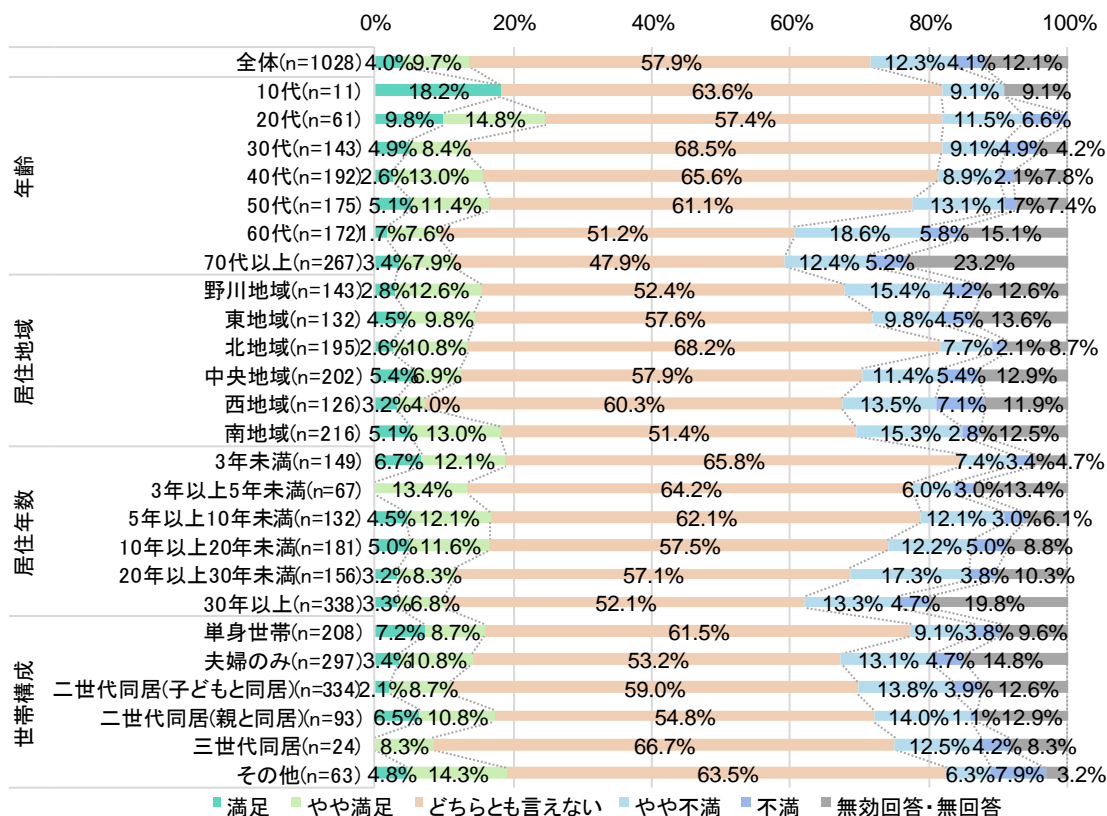
1 1. 市民のみどりに関わる活動の支援体制をつくる



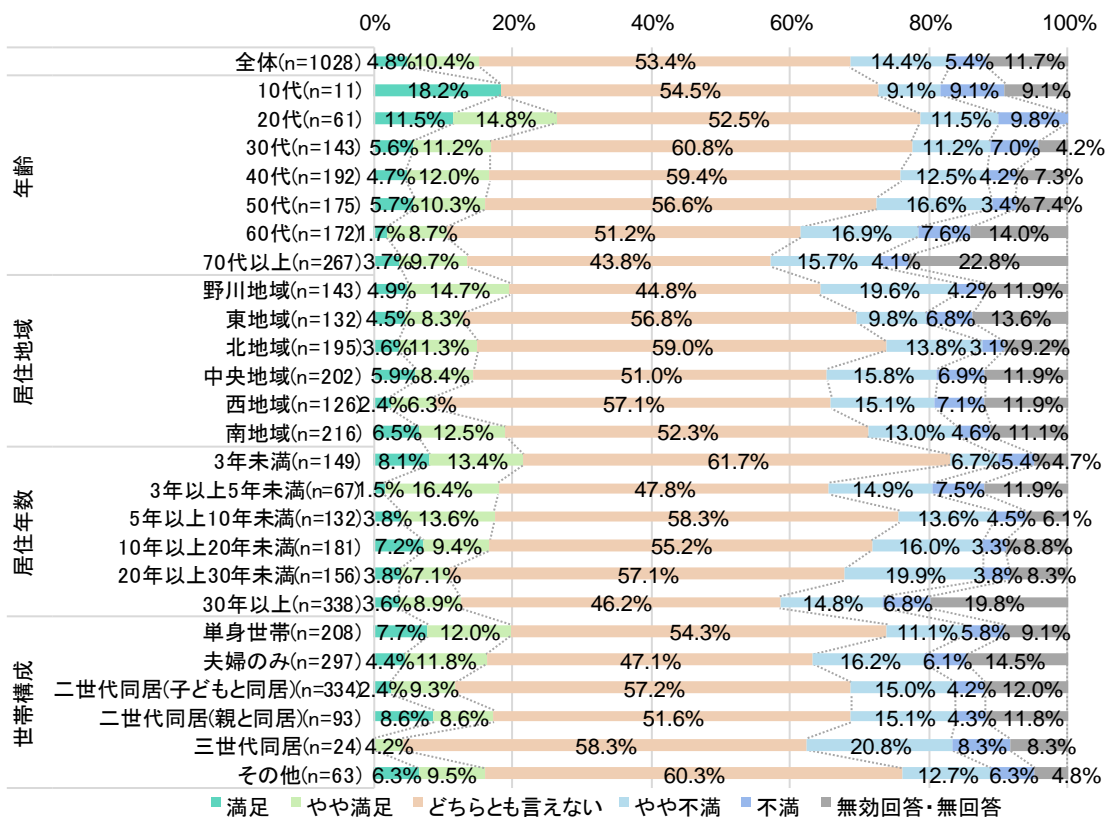
1 2. 市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる



13. みどりに関わる活動を担う人材を育成する仕組みをつくる

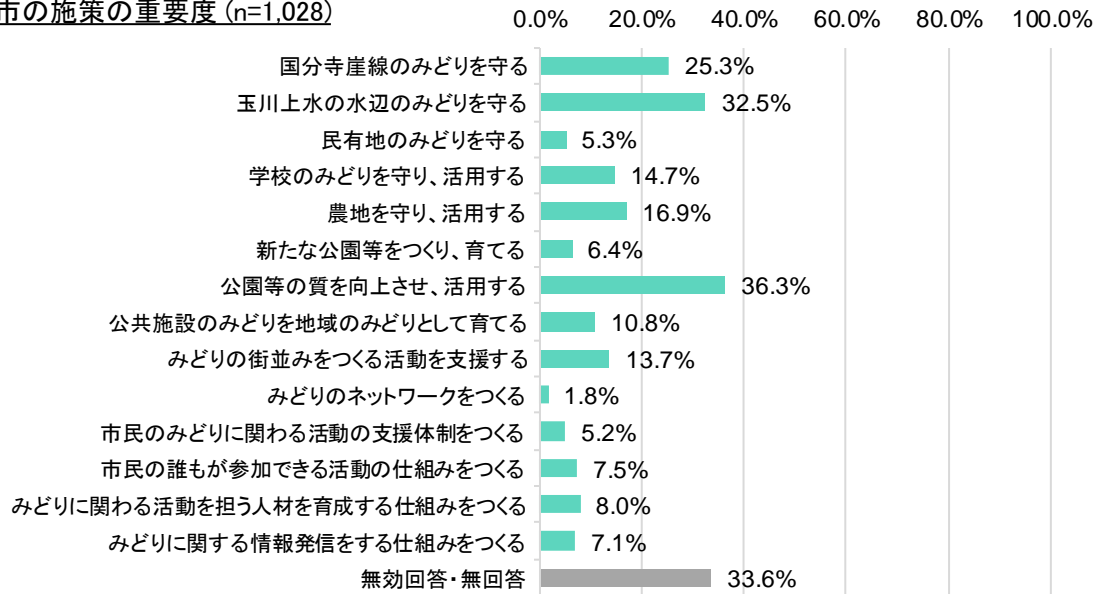


14. みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる



・年齢、居住地、居住年数、世帯構成別に見ると、いずれの設問でも年齢「10～20代」は、多くの施策で「満足」の割合が他の属性に比べて高くなっています。また、いずれの設問でも年齢「60代以上」や居住年数「30年以上」は、「無効回答・無回答」が多く、「満足」、「やや満足」が少ない傾向にあります。

市の施策の重要度 (n=1,028)



・今後特に重要だと思える施策としては、「公園等の質を向上させ、活用する」が最も多く36.3%に上っています。

・次いで、「玉川上水の水辺のみどりを守る」(32.5%)、「国分寺崖線のみどりを守る」(25.3%)が挙げられます。

・「公園等の質を向上させ、活用する」との回答が多かった一方で、「新たな公園等をつくり、育てる」は6.4%に留まっています。

市の施策の重要度×年齢

※赤字は、各属性の1位の回答

	全体 (n=1028)	10代 (n=11)	20代 (n=61)	30代 (n=143)	40代 (n=192)	50代 (n=175)	60代 (n=172)	70代以上 (n=267)
国分寺崖線のみどりを守る	25.3%	18.2%	16.4%	21.7%	24.5%	27.4%	31.4%	24.3%
玉川上水の水辺のみどりを守る	32.5%	36.4%	24.6%	28.7%	38.5%	34.9%	35.5%	28.1%
民有地のみどりを守る	5.3%	0.0%	3.3%	4.9%	4.2%	5.1%	6.4%	6.4%
学校のみどりを守り、活用する	14.7%	27.3%	26.2%	18.9%	21.4%	16.0%	9.9%	7.1%
農地を守り、活用する	16.9%	18.2%	23.0%	22.4%	19.3%	18.3%	12.2%	13.1%
新たな公園等をつくり、育てる	6.4%	9.1%	9.8%	11.2%	8.9%	4.6%	5.8%	2.6%
公園等の質を向上させ、活用する	36.3%	18.2%	47.5%	46.9%	46.9%	39.4%	35.5%	19.5%
公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる	10.8%	18.2%	13.1%	11.2%	12.0%	10.9%	13.4%	7.1%
みどりの街並みをつくる活動を支援する	13.7%	0.0%	18.0%	9.8%	11.5%	17.1%	15.1%	14.2%
みどりのネットワークをつくる	1.8%	9.1%	4.9%	1.4%	0.5%	1.1%	1.7%	2.2%
市民のみどりに関わる活動の支援体制をつくる	5.2%	9.1%	8.2%	6.3%	3.6%	5.1%	4.7%	5.2%
市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる	7.5%	0.0%	19.7%	7.7%	7.3%	5.7%	9.3%	5.2%
みどりに関わる活動を担う人材を育成する仕組みをつくる	8.0%	9.1%	9.8%	11.9%	4.7%	8.0%	7.6%	8.2%
みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる	7.1%	9.1%	16.4%	9.1%	7.8%	6.3%	8.7%	3.0%
無効回答・無回答	33.6%	36.4%	14.8%	25.2%	25.0%	32.0%	32.0%	50.2%

市の施策の重要度×居住地域

	全体 (n=1028)	野川地域 (n=143)	東地域 (n=132)	北地域 (n=195)	中央地域 (n=202)	西地域 (n=126)	南地域 (n=216)
国分寺崖線のみどりを守る	25.3%	41.3%	29.5%	14.9%	23.8%	15.1%	29.6%
玉川上水の水辺のみどりを守る	32.5%	30.8%	31.8%	37.4%	35.1%	31.0%	29.2%
民有地のみどりを守る	5.3%	5.6%	4.5%	5.6%	5.9%	3.2%	6.0%
学校のみどりを守り、活用する	14.7%	15.4%	18.2%	14.9%	14.9%	16.7%	10.6%
農地を守り、活用する	16.9%	23.1%	20.5%	15.9%	12.4%	19.0%	15.3%
新たな公園等をつくり、育てる	6.4%	6.3%	6.8%	5.6%	7.4%	7.9%	4.6%
公園等の質を向上させ、活用する	36.3%	35.0%	38.6%	35.4%	33.7%	45.2%	34.7%
公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる	10.8%	10.5%	9.8%	13.3%	10.9%	9.5%	10.6%
みどりの街並みをつくる活動を支援する	10.8%	13.3%	10.6%	13.3%	15.3%	13.5%	15.3%
みどりのネットワークをつくる	1.8%	3.5%	2.3%	0.5%	1.5%	0.0%	2.8%
市民のみどりに関わる活動の支援体制をつくる	5.2%	3.5%	3.8%	5.1%	4.5%	6.3%	7.4%
市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる	7.5%	4.9%	6.1%	8.2%	9.4%	4.0%	9.7%
みどりに関わる活動を担う人材を育成する仕組みをつくる	8.0%	7.7%	9.1%	10.8%	6.9%	4.8%	8.3%
みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる	7.1%	7.0%	8.3%	4.6%	7.4%	7.9%	7.9%
無効回答・無回答	33.6%	29.4%	33.3%	33.8%	34.7%	33.3%	33.3%

市の施策の重要度×居住年数

	全体 (n=1028)	3年未満 (n=149)	3年～5年未満 (n=67)	5年～10年未満 (n=132)	10年～20年未満 (n=181)	20年～30年未満 (n=156)	30年以上 (n=338)
国分寺崖線のみどりを守る	25.3%	16.8%	23.9%	27.3%	32.6%	30.8%	22.2%
玉川上水の水辺のみどりを守る	32.5%	29.5%	32.8%	34.1%	39.2%	39.7%	26.3%
民有地のみどりを守る	5.3%	5.4%	4.5%	4.5%	5.0%	5.1%	5.9%
学校のみどりを守り、活用する	14.7%	18.8%	19.4%	17.4%	20.4%	10.9%	9.8%
農地を守り、活用する	16.9%	18.8%	14.9%	20.5%	16.0%	18.6%	14.8%
新たな公園等をつくり、育てる	6.4%	12.8%	10.4%	6.8%	6.1%	5.8%	3.0%
公園等の質を向上させ、活用する	36.3%	51.7%	50.7%	40.2%	38.1%	38.5%	23.1%
公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる	10.8%	12.1%	6.0%	14.4%	13.8%	13.5%	7.1%
みどりの街並みをつくる活動を支援する	13.7%	13.4%	13.4%	9.8%	16.0%	13.5%	14.2%
みどりのネットワークをつくる	1.8%	2.0%	0.0%	1.5%	2.2%	1.9%	1.8%
市民のみどりに関わる活動の支援体制をつくる	5.2%	4.7%	1.5%	6.8%	3.9%	5.1%	6.2%
市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる	7.5%	12.1%	11.9%	8.3%	5.0%	6.4%	6.2%
みどりに関わる活動を担う人材を育成する仕組みをつくる	8.0%	6.0%	6.0%	9.8%	7.2%	10.9%	7.4%
みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる	7.1%	9.4%	10.4%	9.8%	7.7%	6.4%	4.1%
無効回答・無回答	33.6%	23.5%	28.4%	26.5%	25.4%	29.5%	47.9%

市の施策の重要度×世帯構成

	全体 (n=1028)	単身世帯 (n=208)	夫婦のみ (n=297)	二世帯同居(子 どもと同居) (n=334)	二世帯同居(親 と同居) (n=93)	三世帯同居 (n=24)	その他 (n=63)
国分寺崖線のみどりを守る	25.3%	23.6%	29.0%	22.8%	24.7%	25.0%	30.2%
玉川上水の水辺のみどりを守る	32.5%	29.8%	36.0%	30.2%	34.4%	25.0%	38.1%
民有地のみどりを守る	5.3%	6.7%	5.7%	3.9%	5.4%	4.2%	6.3%
学校のみどりを守り、活用する	14.7%	9.1%	11.8%	21.3%	11.8%	12.5%	19.0%
農地を守り、活用する	16.9%	17.8%	17.8%	16.2%	20.4%	12.5%	11.1%
新たな公園等をつくり、育てる	6.4%	4.8%	7.7%	5.4%	4.3%	8.3%	12.7%
公園等の質を向上させ、活用する	36.3%	32.7%	33.0%	40.7%	31.2%	20.8%	54.0%
公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる	10.8%	8.7%	12.1%	11.1%	7.5%	16.7%	14.3%
みどりの街並みをつくる活動を支援する	13.7%	13.5%	13.1%	14.4%	15.1%	8.3%	14.3%
みどりのネットワークをつくる	1.8%	3.4%	1.0%	0.9%	3.2%	4.2%	1.6%
市民のみどりに関わる活動の支援体制をつくる	5.2%	4.3%	5.4%	5.4%	5.4%	0.0%	7.9%
市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる	7.5%	11.1%	6.4%	7.2%	6.5%	4.2%	6.3%
みどりに関わる活動を担う人材を育成する仕組みをつくる	8.0%	8.2%	5.1%	9.0%	10.8%	16.7%	7.9%
みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる	7.1%	9.1%	6.7%	4.5%	7.5%	12.5%	11.1%
無効回答・無回答	33.6%	37.0%	34.7%	32.0%	33.3%	41.7%	19.0%

- ・年齢、居住地域、居住年数、世帯構成別に見ると、最も重視する施策は属性により異なる結果となりました。
 - ・年齢別に見ると「20～60代」では全体と同じく「公園等の質を向上させ、活用する」が最上位となっていますが、「60代以上」では「玉川上水の水辺のみどりを守る」が最上位となっています。
 - ・居住地域別に見ると「東地域」、「中央地域」、「西地域」、「南地域」では、全体と同じく「公園等の質を向上させ、活用する」が最上位となっていますが、「野川地域」では「国分寺崖線のみどりを守る」、「北地域」では「玉川上水の水辺のみどりを守る」が最上位となっています。
 - ・居住年数別に見ると「10年未満」は全体と同じく「公園等の質を向上させ、活用する」が最上位となっていますが、「10年以上」では「玉川上水の水辺のみどりを守る」が最上位となっています。
 - ・世帯構成別に見ると「単身世帯」、「二世帯同居（子どもと同居）」、「その他」は全体と同じく「公園等の質を向上させ、活用する」が最上位となっていますが、「夫婦のみ」、「二世帯同居（親と同居）」では、「玉川上水の水辺のみどり」が最上位となっています。
- ※上記いずれも「無効回答・無回答」を除いた場合。

◆ おわりに

「小金井市のみどりのあるべき姿」や「こんなみどりを大切にしたい」といったあなたの考えを自由にお書きください。(自由記述)

類型		件数
全般	みどりやみどりに関わる施策のあり方全般	73
	その他施策のあり方	23
保全	みどりの保全	81
	開発	63
整備	みどりの整備	73
	利用頻度の低い公園の取扱い	16
運営・維持管理	みどりの管理	72
	みどりの利活用	10
	市民活動等の支援	24
普及啓発	みどりに関する普及啓発	33
その他	その他みどりに関する感想等	33
	その他アンケートに関する感想等	5
計		506

- ・自由記述として、396名506件が寄せられました。
- ・次ページ以降に、上記の類型ごとに意見概要を掲載します。

【全般】

みどりやみどりに関わる施策のあり方全般（73件）

意見概要	件数
将来の子どもたちのためにもみどり豊かな街であってほしい	13
小金井のシンボルとなるシンボルツリーや桜並木を増やしてほしい	11
維持管理や防犯面も考慮したみどりの整備・維持をしてほしい	7
みどり豊かな住みよい街であってほしい	6
メリハリのあるみどりの配置を考えてほしい	4
身近なみどりを充実させてほしい	4
四季折々の草木や花々を楽しめるようにしてほしい	3
みどり以外の要素ともうまく連携して行ってほしい	3
水の保全も推進してほしい	3
様々な課題があるが、適切な予算配分を検討してほしい	3
専門家の意見を聞いて検討してほしい	3
スタジオジブリとのコラボレーション	2
福祉の視点を持ってみどりの整備を考えてほしい	2
温暖化に対応したまちづくりをしてほしい	2
管理されていない民有地の取扱いに課題があるのではないかと	1
国や都、周辺市町と連携してはどうか	1
統一された雰囲気があるとよい	1
小さな公園にも地域の人の笑顔があふれるみどりづくりをしてほしい	1
子どもから大人までふれあうことのできる安全なみどりづくりをしてほしい	1
自然を活かした形が良い	1
道路整備は進んでいるが、みどりの整備が不足している	1

その他施策のあり方（23件）

意見概要	件数
みどりより他の部分に予算を使うべき	6
外来生物や害虫の駆除を推進してほしい	6
道路整備を推進してほしい	4
駅前や街の開発、整備を推進してほしい	4
福祉サービスを充実してほしい	2
防災施設を拡充してほしい	1

- ・みどりのあり方にかかる意見として、「将来の子どもたちのためにもみどり豊かな街であってほしい」、「小金井のシンボルとなるシンボルツリーや桜並木を増やしてほしい」との意見が多数寄せられました。
- ・次いで、「維持管理や防犯面も考慮したみどりの整備・維持をしてほしい」、「みどり豊かな住みよい街であってほしい」といった、住環境の維持や向上といった視点の意見も比較的多く寄せられました。
- ・一方で、その他施策のあり方としては、「みどりより他の部分に予算を使うべき」、「外来生物や害虫の駆除を推進してほしい」といった意見もみられました。

【保全】

みどりの保全（８１件）

意見概要	件数
みどり(全般)を保全してほしい	23
野川の環境を保全してほしい	14
公園のみどりを保全してほしい(野川を除く)	10
国分寺崖線のみどりを保全してほしい	8
桜を保全してほしい	7
景観をつくるみどりを保全してほしい	4
大規模なみどりを保全してほしい	4
玉川上水のみどりを保全してほしい	4
古いみどりを保全してほしい	2
街路樹を保全してほしい	2
雑木林を保全してほしい	2
寺社のみどりを保全してほしい	1

開発（６３件）

意見概要	件数
みどりを守るため、都道３・４・１１線の整備に反対する	24
農地の宅地化を食い止めるべき	12
みどりを守るため、これ以上の開発は控えてほしい	8
宅地開発にかかる緑化基準の引き上げ、市による土地の買収等のしくみをつくってほしい	8
開発の進行による、みどりの減少を実感している	5
宅地の切り売りや樹木の伐採を食い止めるべき	4
過度な宅地開発をせず、適度に空地を残してほしい	2

- ・みどりの保全に関わる意見として、「みどり（全般）を保全してほしい」という意見が多数寄せられたほか、「野川の環境を保全してほしい」、「公園のみどりを保全してほしい」、「国分寺崖線のみどりを保全してほしい」、「桜を保全してほしい」といった具体的な意見も比較的多く寄せられました。
- ・開発にかかる意見としては、「みどりを守るため、都道３・４・１１線の整備に反対する」という意見が多数寄せられました。
- ・次いで、「農地の宅地化を食い止めるべき」、「みどりを守るため、これ以上の開発は控えてほしい」といった意見、さらには「宅地開発に係る緑化基準の引き上げ、市による土地の買収等のしくみを作してほしい」といった具体的な意見も比較的多く寄せられました。

【整備】

みどりの整備（73件）

意見概要	件数
公園の施設や機能を拡充してほしい	29
植栽を充実させてほしい	5
休憩施設（ベンチやトイレ等）を整備してほしい	5
遊具やリクリエーション施設を整備してほしい	4
照明設備を整備してほしい	4
より魅力ある公園づくりを目指してほしい	3
身近にもう少し大きな公園がほしい	2
公園内に商業施設を整備してほしい	2
公園内に集会所を整備してほしい	1
女性でも安心して使える公園にしてほしい	1
都立公園内の施設整備によるみどりの減少を止めるよう都に要望してほしい	1
住宅地の中にあり存在意義があるという認識も必要	1
駅前のみどりを拡充してほしい	19
街路樹や沿道沿いのみどりを拡充してほしい	14
今あるみどり(全般)を保全しつつさらに増やしてほしい	5
公共施設や教育施設のみどりを拡充してほしい	4
壁面、屋上緑化を推進してはどうか	1
プランター緑化を推進してはどうか	1

利用頻度の低い公園の取扱い（16件）

意見概要	件数
再整備して今後も公園として活用していくべき	6
こうした公園は不要	5
あり方について、地域とともに検討すべき	2
今後も何らかの形で活用していくべき	2
市民農園等に転用すべき	1

- ・みどりの整備にかかる意見としては、「公園の施設や機能を拡充してほしい」との意見が多数寄せられました。ただし、公園の新設に関する意見は「身近にもう少し大きな公園がほしい」の2件程度で、その他はいずれも既存の公園の拡充にかかる意見でした。
- ・具体的には、「植栽を充実させてほしい」、「休憩施設（ベンチやトイレ等）を整備してほしい」、「遊具やリクリエーション施設を整備してほしい」、「照明設備を整備してほしい」といった意見が比較的多く寄せられました。
- ・また、利用頻度の低い公園については、「再整備して今後も公園として活用していくべき」と「こうした公園は不要」と、いずれの意見も寄せられています。
- ・公園以外では、「駅前のみどりを拡充してほしい」、「街路樹や沿道沿いのみどりを拡充してほしい」といった意見が多数寄せられました。

【運営・維持管理】

みどりの管理（72件）

意見概要	件数
街路樹や遊歩道等の植物の管理を徹底してほしい	13
公園緑地の管理を徹底してほしい	12
みどり(全般)の管理を徹底してほしい	9
通行の妨げとなるみどりを適切に管理してほしい	5
玉川上水の樹木の伐採を控えてほしい	5
個人宅のみどりの管理について、市から指導してほしい	5
樹木の剪定や伐採は慎重に検討してほしい	4
古い民家や空き家の樹木が道路にはみ出して困っている 必要に応じて強制的な剪定も必要である	4
野川沿いの樹木の伐採は残念である	3
機能を果たしておらず、荒れ果てた生産緑地は是正すべき	3
みどり空間へのごみのポイ捨てを減らしてほしい	2
市有地や公共施設のみどりの管理を徹底してほしい	2
防犯面や日照の確保を考慮して、樹木管理をしてほしい	2
農地は不要であり、住宅、商業施設等へ転用してほしい	2
住宅のみどりは適切に管理されていると感じる	1

みどりの利活用（10件）

意見概要	件数
市内の公園をつなぐ動線・公共交通機関等を整備してほしい	2
環境楽習館を有効利用したい	1
街路樹に樹名板をつけてほしい	1
公園の利活用の幅を広げてほしい	1
公園での歌のパフォーマンスを認めてほしい	1
公園でのボール遊びを認めてほしい	1
公園でのペットの散歩を認めてほしい	1
地場産の野菜を減らさないでほしい	1
大学と連携してみどりを有効活用してはどうか	1

市民活動等の支援（24件）

意見概要	件数
市民ボランティアや市民団体の活動を推進してはどうか	11
個人向けの緑化支援制度を拡充してほしい	4
一概にみどりを増やせば良いとは言えない。生け垣助成や緑化計画のあり方等、よく検討してほしい	3
苗木や種子等の配布をしてほしい	3
市民全員で協力してみどりを保全したい	1
落ち葉清掃時への支援を考えてほしい	1
緑化活動に対する表彰制度を導入してほしい	1

- ・みどりの管理にかかる意見としては、「街路樹や遊歩道等の植物の管理を徹底してほしい」、「公園緑地の管理を徹底してほしい」といった意見が多数寄せられました。
- ・その他、個人宅（空き家含む）の植栽管理への指導を求める声も比較的多く寄せられました。
- ・みどりの利活用については、公園の利用ルール緩和を求める声はやや多く寄せられました。
- ・市民活動等の支援では、「市民ボランティアや市民団体の活動を推進してはどうか」といった意見が多数寄せられました。

【普及啓発】

みどりに関する普及啓発（33件）

意見概要	件数
みどりに関わる情報（みどりの現状、施策、市民活動、イベント等）の発信を強化してほしい	24
子どもたちへの環境学習を推進してほしい	4
絵や写真のコンテスト開催	2
市民がみどりに愛着を持てるような取組	1
誰もが参加できる仕組	1
駅周辺のみどりにイルミネーションをつける	1

【その他】

その他みどりに関する感想等（33件）

意見概要	件数
現状に満足している	10
加齢や持病により活動に参加できない	6
事業、活動へ感謝している	4
大きな木が減っている	2
交通の便良く、みどりが多い	1
かつての玉川上水には蛍が飛んでいた	1
小金井に引っ越してきた45年ほど前、親せきに「小金井はみどりが多いまち」と言われたことを今でも覚えている	1
約10年前と比べて野川はきれいになった	1
道端の植物を掃除したり、種を蒔いたりするが、時々盗まれたりして残念である	1
外だけではなく家の中のみどりも大切にしたい	1
少子化が進み、公園で遊ぶ子供が減っている	1
この先何百年も、素晴らしい小金井市でありますように	1
比較的高額な住民税を払っており、有効に活用してもらいたい	1
できる所からの自然の大事さ、継続、維持、考えたい	1
みどりが少ないと感じるが、駅前の樹木の下に腰を下すと幸せを感じる	1

その他アンケートに関する感想等（5件）

意見概要	件数
アンケートの質問が答えにくい	2
過去の計画の概要や小金井のみどりの現状を示した上で、意見を募ってはどうか	2
意見を伝える場があつてよかった	1

- ・みどりに関する普及啓発にかかる意見としては、「みどりに関わる情報（みどりの現状、施策、市民活動、イベント等）の発信を強化してほしい」といった意見が多数寄せられました。
- ・その他感想では、「現状に満足している」との意見が多かったほか、「加齢や持病により活動に参加できない」といった声も比較的多く寄せられています。

(4) 調査票

日本人向けの調査票を次頁以降に掲載します。

外国人には、日本語版の他、英語、中国語、韓国語を同封し、回答者自身で回答言語を選択できる方式としました。

小金井市のみどりに関する市民アンケート調査 ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、みどりを守り、育て、活かしていくため、平成11年に都市緑地法に基づき「小金井市緑の基本計画」を策定しました。

現計画は、平成23年3月に改訂されたもので、令和2年度で計画期間を満了することから、このたび「小金井市緑の基本計画」を改訂することといたしました。

計画の改訂に向けて、皆さまから市内のみどりに関するご意見や普段感じていることなどをお聞かせいただき、現状の把握や目指すべき将来像の参考にさせていただきたく、アンケート調査を実施いたします。

つきましては、お忙しい中、お手数をおかけしますが、目的・趣旨をご理解のうえアンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

<アンケート調査について>

※あて名のご本人がお答えください。

※このアンケート調査は、市内在住の18歳以上の方を対象として、無作為に抽出した3,000人の方をお願いしています。

※アンケート回答は統計的に処理いたします。また、**他の目的での利用や個人を特定した内容を外部に漏らすことは一切ありません。**

※ご記入いただいた回答票は、**11月28日(木)まで**に、同封されている**茶色の返信用封筒**に入れ、送付していただきますようお願いいたします。
(切手は不要です。また、**回答票のみ**ご返信ください。)

※なお、封筒の表に記してあるQRコードからWeb上でアンケートに回答いただくことも可能です。

※この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

お問合せ先：小金井市 環境部 環境政策課 緑と公園係

TEL：042-387-9860

FAX：042-383-6577



小金井市役所

小金井市のみどりに関する市民アンケート 回答票

◆ ご自身について

はじめに、あなたご自身についてお聞きします。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

性 別	1. 男性 2. 女性
年 齢	1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上
住 所	【町名】 1. 東町 2. 梶野町 3. 関野町 4. 緑町 5. 中町 6. 前原町 7. 本町 8. 桜町 9. 貴井北町 10. 貴井南町
	【丁目】 1. 1丁目 2. 2丁目 3. 3丁目 4. 4丁目 5. 5丁目 6. 6丁目 ※地域ごとの統計処理のため、丁目までの記入にご協力ください。
小金井市 居住年数	1. 3年未満 2. 3年以上5年未満 3. 5年以上10年未満 4. 10年以上20年未満 5. 20年以上30年未満 6. 30年以上
住宅の形態	1. 戸建て 2. 集合住宅（マンション、アパート等） 3. 間借り等その他（シェアハウス等）
世帯構成	1. 単身世帯 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居（子どもと同居） 4. 二世帯同居（親と同居） 5. 三世帯同居 6. その他
小金井市 緑の基本計画 について	1. 知っているし、読んだことがある 2. 存在は知っているが、読んだことはない 3. 知らない

ポイント①：「緑」と「みどり」

一般に「緑」というと、あなたは何を最初に思い浮かべますか？

樹木や草花、公園、生け垣など、様々なものが挙げられると思います。さらにこうした緑は、河川や池などの水辺とともに豊かな環境・景観を創出しています。

このアンケートでは、樹木、樹林、生け垣、草花、草地、農地に水辺、水面などを含めて「みどり」と呼び、「みどり」についてのご意見などを伺います。

<「みどり」の例>



公園のみどり



水辺のみどり



大学等のみどり



寺社のみどり



街路樹のみどり



農地のみどり

I 小金井市のみどりについて

問1【小金井らしいみどり、将来の小金井に残したいみどり】

小金井市において「小金井らしい」と感じるみどり、「将来の小金井に残したい」と思うみどりをお聞かせください。下表の中からそれぞれあてはまるものを5つまで選び、回答欄に数字をご記入ください。

なお、「将来に残したいみどり」は、現在あるみどりでも、新たに増やしたい・創りたいみどりでもかまいません。

	回答欄 (下表から5つまで選ぶ)					回答欄で「13. その他」を選んだ場合は 具体的に記入
小金井らしい みどり						()
将来の小金井に 残したいみどり						()

1. 国分寺崖線のみどり	2. 野川のみどり
3. 玉川上水のみどり	4. 公園のみどり
5. 大学など教育施設のみどり	6. 寺社や屋敷林のみどり
7. 街路樹など道路のみどり	8. 市役所や市立小中学校など公共施設のみどり
9. 商店街や駅前など商業施設のみどり	10. 生け垣・庭木・花壇など住宅のみどり
11. 市民農園など農地のみどり	12. 壁面、屋上緑化のみどり
13. その他	14. わからない・特になし

問2【みどりの量の印象】

小金井市のみどりの量について、印象をお聞かせください。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

みどりの量 の印象	1. 多い	2. やや多い	3. どちらとも 言えない	4. やや少ない	5. 少ない
--------------	-------	---------	------------------	----------	--------



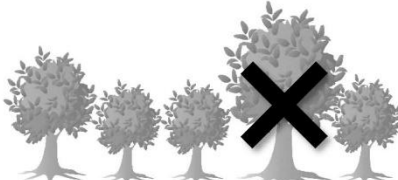
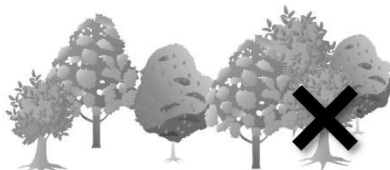


問3【みどりの質の満足度】

小金井市のみどりの質の満足度をお聞かせください。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

みどりの質 の満足度	1. 満足し ている	2. やや満足 している	3. どちらとも 言えない	4. やや不満 である	5. 不満で ある
---------------	---------------	-----------------	------------------	----------------	--------------

問4【樹木の管理方法】

樹木管理のうち伐採や剪定は、立場やお住いの環境等によって様々な意見が交わされます。樹木の管理方法に関するあなたのお考えについて、下表のあてはまる数字に○をつけてください。

樹木の管理方法	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	
<p>1. みどりは必要だが、市民の安全を守るために枯死木は優先的に伐採・除去することが望ましい。</p>		1	2	3
<p>2. みどりは必要だが、快適な住環境を維持するために敷地の境界を越す、越境樹木の剪定を行うことが望ましい。</p>		1	2	3
<p>3. みどりは必要だが、倒木等による事故を防いだり、樹木の成長を促したりするために一定の年月を経過した樹木は伐採し、新たな樹木を植え、新陳代謝を図ることが望ましい。</p>		1	2	3
<p>4. みどりは必要だが、防犯に配慮したり、害虫被害を防いだり、あるいは樹木の成長を促したりするために、密集している樹木は間引きすることが望ましい。</p>		1	2	3
<p>5. 多少の不便はあっても、保存樹木やシンボルツリーなどの大木は伐採しない方が望ましい。</p>		1	2	3
<p>6. 多少の不便はあっても、みどりの量を確保するために樹木は極力伐採しない方が望ましい。</p>		1	2	3

Ⅱ みどりとのかかわりについて

問5【みどりを豊かにするための取り組み】

みどりの育成状況について、お聞かせください。みどりを豊かにするために「現在取り組んでいること」、「今後取り組んでみたいこと」について、下表のあてはまる数字に○をつけてください。

	現在取り組んでいる	かつて取り組んだことがある	取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい	取り組んだことはないし、今後も取り組んでみたいと思わない
みどりを豊かにするための取り組み				
1. 自宅の庭やベランダで花や木、野菜を育てる	1	2	3	4
2. 塀を生け垣にする	1	2	3	4
3. 自宅で壁面緑化や屋上緑化をする	1	2	3	4
4. 市民農園に参加する	1	2	3	4
5. 公園や道路の清掃に参加する	1	2	3	4
6. 公園の管理運営に参加する	1	2	3	4
7. みどりに関する市民団体等で活動する	1	2	3	4
8. ガーデニングなどの勉強会・イベントに参加する	1	2	3	4
9. みどりの整備や管理に関する募金に協力する	1	2	3	4
10. SNS等で市内のみどりの魅力を発信する	1	2	3	4
11. 市内で生産された野菜等を食べる	1	2	3	4

その他、現在取り組んでいること、かつて取り組んだことがあること、今後取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。

	その他具体例
現在取り組んでいること	()
かつて取り組んだことがあること	()
取り組んだことはないが、今後取り組んでみたいこと	()

問6【市民や民間団体等で緑化をする際に必要な市の取り組み】

みなさんにみどりを育成いただくにあたって、市では下記のような取り組み（支援）を行っています。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

市民や民間団体への緑化に対する市の支援策	主な内容	活用している	かつて活用したことがある	活用してみたい	活用してみたいと思わない
1. 花壇ボランティア制度	市立公園内の花壇の維持管理に協力いただくボランティアへの支援として花苗や清掃道具の提供。	1	2	3	4
2. 環境美化サポーター制度	市が管理する公園や道路等のごみ収集や草刈り等に協力いただくボランティアへの支援として、ボランティア保険の加入や清掃道具の提供。	1	2	3	4
3. 梶野公園サポーター会議	梶野公園を利用するボランティア団体を束ねる組織への支援として、定期的な意見交換会の実施や補助金の交付。	1	2	3	4
4. 生け垣造成奨励金交付制度	住宅等における生け垣整備やそれに伴う既存ブロックの撤去に対する支援として、補助金の交付。	1	2	3	4
5. 保存樹木、保存生け垣、環境緑地等指定制度	貴重な樹木、生け垣、緑地等の維持管理に対する支援として、奨励金の交付。	1	2	3	4

その他、あったら良いと思う市の取り組み（支援）があれば、ご記入ください。

	その他具体例
あったら良いと思う市の取り組み（支援）	()

ここまでご回答いただきありがとうございます。
あと少し、引き続きよろしくお願ひします。



Ⅲ 身近な地域の公園について

問7【公園の利用頻度及び利用目的】

身近な地域の公園の利用頻度をお聞かせください。下表のあてはまる数字に○をつけてください。

※身近な地域：自宅から徒歩15分圏内の地域を目安としてください。

公園の利用頻度	1. ほとんど毎日利用している	2. 週に数日程度利用している	3. 月に数日程度利用している	4. ほとんど利用しない
---------	-----------------	-----------------	-----------------	--------------

公園を利用する主な目的をお聞かせください。下表の中からあてはまるものを3つまで選び、回答欄に数字をご記入ください。

	回答欄 (下表から3つ選ぶ)			回答欄で「13. その他」を選んだ場合は 具体的に記入
公園の利用目的				()
1. 子供を遊ばせる				2. 散策・散歩(犬の散歩を含む)
3. ウォーキングや体操、球技等の運動をする				4. バーベキューやピクニックをする
5. ベンチ等で休む、読書をする				6. トイレに行く、水飲み場を使う
7. 花や生き物と触れ合う、観賞する				8. 近所の人と交流、談話する
9. 地域行事やイベントに参加する				10. 清掃や花壇の手入れ等に参加する
11. 目的地への経路として使う(通過利用)				12. 虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング
13. その他				

問8【公園でやりたいこと】

今後、身近な地域の公園でやりたいことをお聞かせください。下表の中からあてはまるものを3つ選び、回答欄に数字をご記入ください。

	回答欄 (下表から3つ選ぶ)			回答欄で「13. その他」を選んだ場合は 具体的に記入
公園でやりたいこと				()
1. 子供を遊ばせる				2. 散策・散歩(犬の散歩を含む)
3. ウォーキングや体操、球技等の運動をする				4. バーベキューやピクニックをする
5. ベンチ等で休む、読書をする				6. トイレに行く、水飲み場を使う
7. 花や生き物と触れ合う、観賞する				8. 近所の人と交流、談話する
9. 地域行事やイベントに参加する				10. 清掃や花壇の手入れ等に参加する
11. 目的地への経路として使う(通過利用)				12. 虫捕り(昆虫採集)、バードウォッチング
13. その他				14. 特にない

問9【公園にほしい機能】

今後、身近な地域の公園に拡充してほしい機能をお聞かせください。下表の中から最もあてはまるものを1つ選び、回答欄に数字をご記入ください。

	回答欄 (下表から1つ選ぶ)	回答欄で「7. その他」を選んだ場合は 具体的に記入
公園に ほしい機能		()
1. 防災施設		2. 遊具(健康遊具を含む)
3. イベント開催		4. 休憩施設(ベンチやトイレなど)
5. 商業施設(カフェやコンビニなど)		6. 美しい景観、豊かな自然
7. その他		8. 特になし

問10【利用されていない公園の今後の方向性】

効率的な公園整備を推進するため、利用頻度の低い公園を整理しつつ、利用の多い公園の質の向上を図るうえで、今後必要だと思う取り組みについて、下表のあてはまる数字に○をつけてください。

	推進するべき	推進しない方がいい	どちらとも言いえない
利用頻度の低い公園を整理するための方策			
1. 近隣住民や民間事業者売却する	1	2	3
2. 防災倉庫用地など他の機能に転用する	1	2	3
3. 市民が主体となって花壇や植栽の管理をし、公園として維持していく	1	2	3
4. 公園の維持管理を民間事業者に任せることで、公園に新たな機能を付加させるなど、さらなる魅力向上を目指す	1	2	3

ポイント②：「利用頻度の低い公園」

市が管理する216の公園・緑地について、公園等の規模や配置、利用状況等の観点から分析したところ、同規模の公園が密集している、小規模で利用ニーズにあっていないといった理由で、全体の約24%にあたる52の公園・緑地が利用頻度の低い状態であることがわかりました。(「公園等整備基本方針(平成31年3月)」より)

<「利用頻度の低い公園」の例>



はなみずきの庭



前原一丁目第4子供広場

Ⅳ 小金井市のみどりに関する施策について

問 11【市の施策の満足度、重要度】

市のみどりに関する基本施策の満足度および重要度をお聞かせください。下表の「満足度」のあてはまる数字に○をつけてください。

また、今後、特に重要だと思う取り組みを3つまで選び、下表の「重要度」に○をつけてください。

小金井市のみどりに関する基本施策	満足度					重要度※3つまで○
	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	
1. 国分寺崖線のみどりを守る	1	2	3	4	5	
2. 玉川上水の水辺のみどりを守る	1	2	3	4	5	
3. 民有地のみどりを守る	1	2	3	4	5	
4. 学校のみどりを守り、活用する	1	2	3	4	5	
5. 農地を守り、活用する	1	2	3	4	5	
6. 新たな公園等をつくり、育てる	1	2	3	4	5	
7. 公園等の質を向上させ、活用する	1	2	3	4	5	
8. 公共施設のみどりを地域のみどりとして育てる	1	2	3	4	5	
9. みどりの街並みをつくる活動を支援する	1	2	3	4	5	
10. みどりのネットワークをつくる	1	2	3	4	5	
11. 市民のみどりに関わる活動の支援体制をつくる	1	2	3	4	5	
12. 市民の誰もが参加できる活動の仕組みをつくる	1	2	3	4	5	
13. みどりに関わる活動を担う人材を育成する仕組みをつくる	1	2	3	4	5	
14. みどりに関する情報発信をする仕組みをつくる	1	2	3	4	5	

◆ おわりに

「小金井市のみどりのあるべき姿」や「こんなみどりを大切にしたい」といったあなたの考えを自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
この回答用紙を同封の返信用封筒に入れ、11月28日(木)までにご投函くださいますよう、お願い致します。